

# ibi<sup>TM</sup> WebFOCUS<sup>®</sup>

## ReportCaster 利用ガイド

バージョン 9.3.0 | 2024 年 4 月

# 目次

---

|                                                                       |           |
|-----------------------------------------------------------------------|-----------|
| 目次                                                                    | 2         |
| <b>ibi WebFOCUS ReportCaster の概要</b>                                  | <b>15</b> |
| ibi WebFOCUS ReportCaster とは                                          | 15        |
| ibi WebFOCUS ReportCaster の概要                                         | 16        |
| セルフサービスインストールでのスケジュールの作成                                              | 17        |
| セルフサービスインストールでスケジュールを作成するには                                           | 17        |
| App Studio で作成した HTML ページからスケジュールを保存するには                              | 18        |
| ReportCaster の処理                                                      | 19        |
| ReportCaster によるスケジュール済みジョブの処理                                        | 20        |
| スケジュール済みジョブの実行                                                        | 22        |
| タイムゾーンの考慮事項                                                           | 23        |
| 夏時間の考慮事項                                                              | 24        |
| ReportCaster 一時ディレクトリの設定                                              | 25        |
| ReportCaster 一時ディレクトリを指定するには                                          | 25        |
| Distribution Server 機能                                                | 27        |
| Distribution Server のスタートアップ                                          | 27        |
| WebFOCUS Client とは異なるマシンにインストールされた Distribution Server の構成に関する重要な考慮事項 | 28        |
| リカバリ                                                                  | 28        |
| ジョブのリカバリ                                                              | 29        |
| スキャンバック                                                               | 30        |
| ibi WebFOCUS ReportCaster 構成ツール                                       | 31        |
| Distribution Server のフェールオーバーとワークロード分散                                | 31        |
| <b>ibi WebFOCUS ReportCaster ステータスの使用</b>                             | <b>34</b> |
| ibi WebFOCUS ReportCaster ステータスの使用                                    | 34        |
| サーバステータス                                                              | 35        |

|                                                    |    |
|----------------------------------------------------|----|
| Distribution Server ステータスの表示 .....                 | 35 |
| Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えるには .....       | 38 |
| データサーバ別のジョブキュー .....                               | 39 |
| サーバパフォーマンス .....                                   | 39 |
| Java ヒープダンプ機能の使用 .....                             | 40 |
| フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク .....      | 40 |
| サーバを再起動するには .....                                  | 41 |
| サーバを中断するには .....                                   | 42 |
| フェールオーバーサーバをスタンバイモードに設定するには .....                  | 42 |
| サーバを停止するには .....                                   | 42 |
| サーバロールを切り替えるには .....                               | 43 |
| ジョブステータス .....                                     | 43 |
| ジョブログ .....                                        | 44 |
| ReportCaster の構成 .....                             | 45 |
| 構成タブのアイコン .....                                    | 45 |
| 期限切れ ReportLibrary レポートを削除するには .....               | 48 |
| 構成タブのフォルダ .....                                    | 48 |
| 構成設定の変更 .....                                      | 49 |
| デフォルトユーザ ID の変更 .....                              | 50 |
| Distribution Server の設定 .....                      | 50 |
| ジョブステータス通知プラグインを構成するには .....                       | 60 |
| ReportCaster フェールオーバーおよびワークロード分散の構成 .....          | 61 |
| Distribution Server フェールオーバーを構成するには .....          | 62 |
| ワークロード分散を構成するには .....                              | 62 |
| Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限 ..... | 63 |
| IP アドレス制限を構成するには .....                             | 63 |
| IP アドレスを編集するには .....                               | 64 |
| IP アドレスを削除するには .....                               | 65 |
| 設定 - 全般 .....                                      | 65 |
| スケジュールタスク設定の指定 .....                               | 67 |
| スケジュールタスク設定を指定するには .....                           | 68 |
| スケジュールフォーマット設定の指定 .....                            | 69 |

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| スケジュールフォーマットを設定するには             | 69  |
| スケジュール配信方法の設定                   | 70  |
| スケジュール配信方法を設定するには               | 70  |
| Email 配信                        | 71  |
| Email 配信を構成するには                 | 78  |
| OAuth2 認証を構成するには                | 79  |
| SMTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには | 80  |
| 許可する Email ドメインおよびアドレスの確認       | 81  |
| 無効な Email アドレスおよびドメインの例         | 81  |
| 無効な Email アドレス                  | 82  |
| 無効な Email ドメイン                  | 82  |
| Email ドメインおよびアドレスの制限            | 82  |
| Email アドレスの選択ダイアログボックス          | 84  |
| Email アドレスのみのリスト                | 84  |
| Email ドメインとアドレスのリスト             | 85  |
| Email ドメインのみのリスト                | 86  |
| 通知                              | 87  |
| 通知を構成するには                       | 90  |
| FTP の設定                         | 91  |
| FTP の設定ユーザインターフェースの理解           | 91  |
| FTP 構成の詳細情報の理解                  | 93  |
| FTP 設定構成の展開                     | 98  |
| デフォルト FTP 設定構成の設定               | 100 |
| デフォルト設定構成を作成または更新するには           | 101 |
| 追加の FTP 設定構成を作成するには             | 102 |
| FTP の設定構成を編集するには                | 103 |
| FTP 設定を構成するには                   | 104 |
| SFTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには | 105 |
| FTP の設定構成を削除するには                | 106 |
| 圧縮 (ZIP) の設定                    | 107 |
| ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインの使用          | 110 |
| ZIP 設定を構成するには                   | 112 |

|                                             |     |
|---------------------------------------------|-----|
| デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには .....       | 112 |
| デフォルトスケジュール .....                           | 113 |
| ログ削除と ReportLibrary 有効期限 .....              | 114 |
| LDAP の設定 .....                              | 115 |
| データサーバの設定 .....                             | 118 |
| ReportCaster での Reporting Server の構成 .....  | 125 |
| ibi WebFOCUS Reporting Server を追加するには ..... | 125 |
| ReportLibrary の設定 .....                     | 126 |
| ReportLibrary 配信オプションの制限 .....              | 132 |
| ReportLibrary 配信オプションを制限するには .....          | 132 |
| スケジュール禁止期間の使用 .....                         | 134 |
| スケジュール禁止期間の構成 .....                         | 134 |
| スケジュール禁止期間の基本設定 .....                       | 135 |
| スケジュール禁止期間を構成するには .....                     | 137 |
| 週単位スケジュール禁止期間の構成 .....                      | 138 |
| 週単位スケジュール禁止期間の設定 .....                      | 139 |
| 週単位スケジュール禁止期間設定を構成するには .....                | 140 |
| 月単位スケジュール禁止期間の構成 .....                      | 141 |
| 月単位スケジュール禁止期間の設定 .....                      | 141 |
| 月単位スケジュール禁止期間設定を構成するには .....                | 142 |
| 1 日スケジュール禁止期間の構成 .....                      | 143 |
| 1 日スケジュール禁止期間の設定 .....                      | 143 |
| 1 日スケジュール禁止期間設定を構成するには .....                | 143 |
| 毎日スケジュール禁止期間の構成 .....                       | 144 |
| 毎日スケジュール禁止期間の設定 .....                       | 144 |
| 毎日スケジュール禁止期間設定を構成するには .....                 | 144 |
| スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を構成するには .....           | 145 |
| スケジュール禁止期間プロファイルを削除するには .....               | 147 |
| スケジュール禁止期間のインポート .....                      | 147 |
| スケジュール禁止期間インポートファイルフォーマット .....             | 149 |
| 1 日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト .....      | 149 |
| 週単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト .....      | 150 |

|                                                 |     |
|-------------------------------------------------|-----|
| 月単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト .....          | 150 |
| 毎日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト .....           | 151 |
| インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間プロファイルを追加<br>するには ..... | 151 |
| インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間を置換するには .....           | 152 |
| インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間プロファイルを削除<br>するには ..... | 154 |
| インポートファイルを使用して複数のスケジュール禁止期間を管理するに<br>は .....    | 155 |
| スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート .....                   | 156 |
| ファイルフォーマットのエクスポート .....                         | 156 |
| スケジュール禁止期間プロファイルをファイルにエクスポートするには .....          | 157 |
| 実行 ID .....                                     | 158 |
| 新しい実行 ID を作成するには .....                          | 159 |
| 実行 ID のパスワードを変更するには .....                       | 160 |
| 実行 ID を削除するには .....                             | 160 |
| グローバル更新 .....                                   | 161 |
| メールサーバをグローバル更新するには .....                        | 162 |
| FTP サーバをグローバル更新するには .....                       | 162 |
| Email アドレスをグローバル更新するには .....                    | 162 |
| Email 送信者をグローバル更新するには .....                     | 163 |
| ReportLibrary URL をグローバル更新するには .....            | 163 |
| データサーバをグローバル更新するには .....                        | 164 |
| 通知タイプをグローバル更新するには .....                         | 164 |
| 通知返信 Email アドレスをグローバル更新するには .....               | 165 |
| 通知件名をグローバル更新するには .....                          | 165 |
| 通知簡易メッセージの宛先をグローバル更新するには .....                  | 165 |
| 通知詳細メッセージの宛先をグローバル更新するには .....                  | 166 |
| 第 1 実行前プロシジャをグローバル更新するには .....                  | 166 |
| 第 2 実行前プロシジャをグローバル更新するには .....                  | 167 |
| 第 1 実行後プロシジャをグローバル更新するには .....                  | 167 |
| 第 2 実行後プロシジャをグローバル更新するには .....                  | 168 |

|                                                    |            |
|----------------------------------------------------|------------|
| ジョブログの削除 .....                                     | 168        |
| ジョブログをオンデマンドで削除するには .....                          | 168        |
| スケジュールの削除 .....                                    | 169        |
| 非アクティブまたは再実行なしのスケジュールをオンデマンドで削除する<br>には .....      | 169        |
| コマンドプロンプトインターフェースを使用したスケジュールの削除 .....              | 170        |
| 非アクティブおよび再実行なしのスケジュール削除ユーティリティを実行<br>するには .....    | 170        |
| <b>配信リストの作成と保守 .....</b>                           | <b>172</b> |
| 配信リストを作成するには .....                                 | 172        |
| 配信リストへのメンバーの追加 .....                               | 174        |
| 配信リストを編集するには .....                                 | 179        |
| 配信リストをエクスポートするには .....                             | 181        |
| 配信リストへのアクセス .....                                  | 182        |
| レポートのバースト .....                                    | 187        |
| 外部配信ファイルの作成 .....                                  | 191        |
| メンバーリストのインポートによる配信リストの作成 .....                     | 193        |
| ダイナミック配信リストの作成 .....                               | 194        |
| ibi WebFOCUS リポジトリプロシジャからのダイナミック配信リストの生<br>成 ..... | 196        |
| 複数 Email アドレスの指定 .....                             | 198        |
| <b>ReportCaster スケジュールの作成 .....</b>                | <b>201</b> |
| スケジュールツールの概要 .....                                 | 201        |
| タスク .....                                          | 202        |
| WebFOCUS レポート .....                                | 203        |
| WebFOCUS サーバプロシジャ .....                            | 216        |
| WebFOCUS スケジュール .....                              | 217        |
| FTP .....                                          | 221        |
| ファイル .....                                         | 223        |
| ファイルタスクを作成するには .....                               | 224        |
| URL .....                                          | 224        |

|                                                              |            |
|--------------------------------------------------------------|------------|
| 配信 .....                                                     | 226        |
| Email 配信 .....                                               | 227        |
| FTP 配信 .....                                                 | 235        |
| ReportLibrary 配信オプションの使用 .....                               | 242        |
| リポジトリ配信 .....                                                | 252        |
| 実行間隔 .....                                                   | 254        |
| 実行間隔オプションウィンドウ .....                                         | 255        |
| タイムゾーンの設定 .....                                              | 259        |
| 実行間隔オプションの使用 .....                                           | 260        |
| プロパティ .....                                                  | 261        |
| ログレポート .....                                                 | 262        |
| <b>スケジュールの保守 .....</b>                                       | <b>265</b> |
| スケジュールの共有 .....                                              | 265        |
| 特定のグループまたはユーザとスケジュールを共有するには .....                            | 265        |
| スケジュールにセキュリティルールを設定するには .....                                | 266        |
| スケジュールの公開 .....                                              | 269        |
| スケジュールを公開するには .....                                          | 269        |
| コンテキストメニューオプションによるスケジュールの有効化と無効化 .....                       | 270        |
| <b>スケジュールのトラッキング .....</b>                                   | <b>271</b> |
| ログレポート .....                                                 | 271        |
| コンソールによるスケジュールのトラッキング .....                                  | 271        |
| スケジュールログの使用 .....                                            | 271        |
| ログレポートでの &ECHO および -TYPE サポート .....                          | 272        |
| ジョブステータスの確認 .....                                            | 273        |
| ログレポートを表示するには .....                                          | 273        |
| ログレポート表示時の考慮事項 .....                                         | 274        |
| ibi WebFOCUS ReportCaster のパフォーマンスログによるスケジュール実行のトラッキング ..... | 275        |
| <b>ReportLibrary の使用 .....</b>                               | <b>277</b> |
| ReportLibrary の概要 .....                                      | 277        |
| ReportLibrary コンテンツの表示 .....                                 | 278        |



|                                                                 |            |
|-----------------------------------------------------------------|------------|
| ReportLibrary コンテンツの表示 .....                                    | 279        |
| ReportCaster エクスプローラからの ReportLibrary コンテンツの表示 .....            | 280        |
| ReportLibrary ウォッチリストの使用 .....                                  | 281        |
| ReportLibrary レポートの公開 .....                                     | 284        |
| ReportLibrary レポートを公開するには .....                                 | 284        |
| ReportLibrary レポートを非公開にするには .....                               | 285        |
| ReportLibrary レポートの保存 .....                                     | 285        |
| WebFOCUS ホームページで ReportLibrary レポートに名前を付けて保存する<br>には .....      | 286        |
| ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートに名前を付けて保<br>存するには ..... | 287        |
| ReportLibrary コンテンツの削除 .....                                    | 287        |
| 切り取りと貼り付けによる ReportLibrary レポートの移動 .....                        | 289        |
| ReportLibrary レポートを切り取り、貼り付けるには .....                           | 289        |
| Web ビューアレポートの表示 .....                                           | 290        |
| ReportLibrary レポートのパラメータ値の表示 .....                              | 292        |
| Web ビューアレポートの検索 .....                                           | 293        |
| Web ビューアレポートを検索するには .....                                       | 293        |
| ビューアコントロールパネルを使用した検索 .....                                      | 294        |
| ReportLibrary レポートの特定バージョンを Excel および他のドキュメント<br>で開く .....      | 296        |
| アクセスリストの作成と管理 .....                                             | 298        |
| 新しいアクセスリストを作成するには .....                                         | 298        |
| 既存のリストからアクセスリストを作成するには .....                                    | 299        |
| アクセスリストを編集するには .....                                            | 301        |
| アクセスリストへのアクセス .....                                             | 302        |
| アクセスリストを共有するには .....                                            | 302        |
| アクセスリストの公開 .....                                                | 303        |
| アクセスリストにセキュリティルールを設定するには .....                                  | 304        |
| <b>ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラ .....</b>                  | <b>307</b> |
| ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラの使用 .....                      | 307        |
| 開始ページから ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラツールにアク                 | 309        |

|                                                                       |            |
|-----------------------------------------------------------------------|------------|
| セスするには .....                                                          |            |
| WebFOCUS ホームページから ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラツールにアクセスするには ..... | 309        |
| エクスプローラのツールバー .....                                                   | 310        |
| エクスプローラのツリー .....                                                     | 312        |
| エクスプローラの項目リストパネル .....                                                | 312        |
| エクスプローラのスケジュール詳細情報 .....                                              | 312        |
| エクスプローラの配信リスト詳細情報 .....                                               | 313        |
| エクスプローラのアクセスリスト詳細情報 .....                                             | 313        |
| エクスプローラの ReportLibrary レポートおよびウォッチリストレポート詳細情報 .....                   | 314        |
| エクスプローラの項目オプション .....                                                 | 315        |
| スケジュールを開くには .....                                                     | 316        |
| スケジュールを実行するには .....                                                   | 316        |
| スケジュールを有効または無効にするには .....                                             | 317        |
| 複数のスケジュールを有効または無効にするには .....                                          | 317        |
| スケジュールを削除するには .....                                                   | 318        |
| 配信リストを開くには .....                                                      | 318        |
| 配信リストを削除するには .....                                                    | 318        |
| アクセスリストを開くには .....                                                    | 319        |
| アクセスリストを削除するには .....                                                  | 319        |
| ReportLibrary レポートをウォッチリストに登録するには .....                               | 320        |
| ReportLibrary レポートの最新バージョンを開くには .....                                 | 320        |
| ReportLibrary レポートの複数バージョンを表示するには .....                               | 321        |
| ReportLibrary レポートを削除するには .....                                       | 321        |
| ReportLibrary レポートの特定バージョンを削除するには .....                               | 322        |
| ウォッチリストレポートを開くには .....                                                | 323        |
| ウォッチリストから項目の登録を解除するには .....                                           | 323        |
| サブフォルダの検索 .....                                                       | 323        |
| <b>トレースの使用 .....</b>                                                  | <b>325</b> |
| トレースの有効化 .....                                                        | 325        |

|                                                            |            |
|------------------------------------------------------------|------------|
| Servlet トレース .....                                         | 325        |
| Servlet トレースにアクセスするには .....                                | 325        |
| Distribution Server スタートアップトレースファイル .....                  | 328        |
| スケジュールトレースおよびレポートトレース .....                                | 328        |
| 特定のジョブに関連付けられたトレースファイル .....                               | 329        |
| スケジュールトレースファイルの使用 .....                                    | 329        |
| プロシジャログファイル .....                                          | 330        |
| トレースエラーファイル .....                                          | 330        |
| スケジュールトレースファイルのクリーンアップ .....                               | 331        |
| Resource Analyzer のサポート .....                              | 331        |
| ibi WebFOCUS ReportCaster ジョブトレースファイルのダウンロード .....         | 331        |
| ibi WebFOCUS ReportCaster ジョブトレースファイルをダウンロードする<br>には ..... | 332        |
| Distribution Server 初期化トレース .....                          | 332        |
| scheduler.log .....                                        | 333        |
| ibi WebFOCUS Reporting Server のトレース .....                  | 334        |
| <b>ReportCaster レポートコーディング上のヒントとテクニック .....</b>            | <b>335</b> |
| ibi WebFOCUS プロシジャの編集 .....                                | 335        |
| アンパサンド (&) または一重引用符 (') の使用 .....                          | 335        |
| CTRAN による文字の変換 .....                                       | 336        |
| CTRAN による一重引用符 (') から二重引用符 (") への変換 .....                  | 337        |
| HTML レポートおよびドリルダウンレポート .....                               | 337        |
| ポップアップ説明表示のためのコーディング要件 .....                               | 338        |
| -HTMLFORM の使用 .....                                        | 338        |
| -HTMLFORM の使用と HTML ページでの 2 つの表形式レポートの表示 .....             | 339        |
| ReportCaster による目次レポートの配信 .....                            | 340        |
| ReportCaster による目次レポートの配信 .....                            | 341        |
| EXL2K 目次レポートの配信 .....                                      | 342        |
| データのグラフ化 .....                                             | 343        |
| ibi WebFOCUS がインストールされていない Web サーバでピアグラフを表<br>示するには .....  | 344        |
| GRAPH FILE コマンドの使用 .....                                   | 345        |

|                                                         |            |
|---------------------------------------------------------|------------|
| 円グラフを出力表示するレポートの作成 .....                                | 346        |
| グラフィメージを組み込んだ PDF レポートの配信 .....                         | 347        |
| 複数のグラフィメージを組み込んだ PDF レポートの作成 .....                      | 348        |
| FML の作成 .....                                           | 355        |
| FML リクエストでの POST コマンドの使用 .....                          | 356        |
| FML リクエストでの PICKUP コマンドの使用 .....                        | 356        |
| &&KILL_RPC フラグの使用 .....                                 | 357        |
| Excel 複合レポート .....                                      | 359        |
| 複合レポートと統合された複合レポート .....                                | 360        |
| アコーディオンレポート機能によるソートデータの表示制御 .....                       | 360        |
| アコーディオンレポートの要件 .....                                    | 361        |
| ReportCaster によるアコーディオンレポートの配信 .....                    | 361        |
| アコーディオンレポートサポート .....                                   | 362        |
| アコーディオンレポートの作成 .....                                    | 362        |
| アコーディオンレポートの作成 .....                                    | 363        |
| ibi WebFOCUS 機能の制限事項 .....                              | 363        |
| SET コマンドによる有効リンクまたはドリルダウンへのアクセス .....                   | 364        |
| ibi WebFOCUS コマンド使用時の既知の問題 .....                        | 365        |
| バーストレポートでの ibi WebFOCUS コマンドの使用 .....                   | 367        |
| バーストレポートでの総合計の自動非表示 .....                               | 367        |
| バーストレポートの列合計表示 .....                                    | 368        |
| スケジュール出力の言語指定 .....                                     | 369        |
| <b>スケジュール出力の ibi WebFOCUS ReportCaster フォーマット .....</b> | <b>370</b> |
| AHTML .....                                             | 370        |
| ALPHA .....                                             | 370        |
| APDF .....                                              | 371        |
| COM .....                                               | 371        |
| COMMA .....                                             | 372        |
| COMT .....                                              | 372        |
| DFIX .....                                              | 373        |
| DHTML .....                                             | 374        |

|                                                    |            |
|----------------------------------------------------|------------|
| DOC .....                                          | 375        |
| EXCEL .....                                        | 375        |
| EXL07 .....                                        | 376        |
| EXL07 FORMULA .....                                | 376        |
| EXL07 TEMPLATE .....                               | 377        |
| EXL2K .....                                        | 377        |
| EXL2K FORMULA .....                                | 378        |
| EXL2K PIVOT .....                                  | 379        |
| EXL2K TEMPLATE .....                               | 380        |
| EXL97 .....                                        | 380        |
| GIF .....                                          | 381        |
| HTML .....                                         | 382        |
| HTML5 .....                                        | 384        |
| JPEG .....                                         | 384        |
| PDF .....                                          | 385        |
| PNG .....                                          | 385        |
| PPT .....                                          | 386        |
| PPT TEMPLATE .....                                 | 387        |
| PPTX .....                                         | 387        |
| PPTX TEMPLATE .....                                | 388        |
| SVG .....                                          | 388        |
| TAB、TABT .....                                     | 389        |
| WK1 .....                                          | 389        |
| WP .....                                           | 390        |
| XML .....                                          | 390        |
| <b>ReportCaster の ibi WebFOCUS リポジトリテーブル .....</b> | <b>392</b> |
| ibi WebFOCUS リポジトリテーブル .....                       | 392        |
| ibi WebFOCUS ReportCaster リポジトリレポートの概要 .....       | 395        |
| <b>ibi WebFOCUS ReportCaster 変数 .....</b>          | <b>396</b> |
| ibi WebFOCUS ReportCaster 内部変数 .....               | 396        |

|                                            |            |
|--------------------------------------------|------------|
| <b>Legal and Third-Party Notices .....</b> | <b>398</b> |
|--------------------------------------------|------------|

# ibi WebFOCUS ReportCaster の概要

---

ibi™ WebFOCUS® ReportCaster は、ibi™ WebFOCUS® レポート、URL のコンテンツ、ファイルの実行および配信を一元的に管理するスケジュールおよび配信アプリケーションです。ibi WebFOCUS ReportCaster は複数の管理者による使用が可能で、組織内の情報配信の管理を集中して制御することもできます。

ReportCaster の各ツールは、Web ベースのリッチインターネットアプリケーションです。このアプリケーション機能を使用して、ReportCaster 構成の管理や、スケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ログレポート、ReportLibrary レポートの作成を行えます。各 ReportCaster ツールへのアクセスは、ibi™ WebFOCUS® のセキュリティ認可モデルにより制御されます。

## ibi WebFOCUS ReportCaster とは

ReportCaster では、レポートの実行を特定の時間や間隔でスケジュールし、Email や FTP 経由で WebFOCUS リポジトリに配信することができます。ReportLibrary または WebFOCUS リポジトリに配信するレポートは、データベースに格納され、権限を所有するユーザのみがアクセスできます。レポートは、単一のアドレスに配信することや、配信リスト、配信ファイル、動的リストを使用して受信者グループに配信することができます。

レポート全体の配信および ReportCaster バースト機能によるレポートの分割配信が可能です。レポートをバーストすると、関連するレポートセクションのみが送信されます。

ReportCaster のツールのそれぞれへのアクセスは、WebFOCUS のセキュリティ処理により制御されます。管理者は、このセキュリティモデルを使用して、ReportCaster で次の操作を実行できるユーザを制御することができます。

- 配信リストの作成および保守。
- スケジュールの作成および保守。
- ReportLibrary レポートのアクセスリストの作成および保守。
- スケジュールステータスのトレース。
- スケジュールログ情報の表示および削除。
- ReportCaster 構成の管理。

**ReportLibrary** ReportLibrary では、ReportCaster により配信されたコンテンツを格納して管理することができます。これにより、コンテンツの検索や使用をより迅速に行えるようになります。

**ReportCaster API** Java テクノロジおよび Web サービスを使用する ReportCaster API があります。

## ibi WebFOCUS ReportCaster の概要

権限を所有するユーザは、WebFOCUS ホームページから次の ReportCaster ツールにアクセスすることができます。WebFOCUS バージョン 9 では、WebFOCUS® Client セキュリティモデルにより、スケジュールツールへのアクセス許可が制御されます。ReportCaster ツールへのアクセスを制御する権限についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

- **スケジュールツール** ReportCaster のベーシックスケジュールツールおよびアドバンスドスケジュールツールは、レポートプロシジャ (FEX) の実行日時、出力フォーマット、出力の配信方法など、スケジュールのパラメータを定義します。
- **配信リスト** リポジトリに格納されるリストで、スケジュールのレポート出力が配信される際に、複数の受信者を指定することができます。
- **アクセスリスト** スケジュールの実行により ReportLibrary に配信されたレポート出力にアクセス可能なグループおよびユーザを定義したリストです。作成されたアクセスリストは、何度でも使用することができます。
- **ログレポート** ジョブが正常に実行されたかどうか、レポート出力がいつ配信されたか、レポートがどのフォーマットで送信されたか、どの配信方法で配信されたかなどの配信ジョブについての情報を表示することができます。ログレポートについての詳細は、[スケジュールのトラッキング](#)を参照してください。
- **ReportCaster エクスプローラ** エクスプローラのインターフェースを使用して、ReportCaster の特定のタイプの項目を、すべて一度に表示して確認することができます。特定の項目タイプ (スケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ReportLibrary レポート、ウォッチリストレポート) を選択すると、その項目タイプに特化した情報が表示されます。
- **ReportCaster ステータス** このコンソールからは、ReportCaster 管理ツール (サーバステータス、ジョブステータス、構成、グローバル更新) および ReportCaster スケジュール管理ツール (ジョブログ、スケジュール禁止日、実行 ID) にアクセスします。

リソースツリーには、現在の環境で使用可能なフォルダ、レポート、スケジュールがすべて表示されます。リソースツリーからコンテンツをスケジュールする場合、コンテンツの [プロ



パティ] ダイアログボックスに、スケジュールに関連するチェックボックスが 2 つ表示されます。

- **スケジュールのみ** 書き込みアクセス権限を所有していないユーザは、ReportCaster でのレポートのスケジュールのみを実行できます。
- **スケジュールを ReportLibrary のみに制限する** レポートのスケジュール配信を ReportLibrary への配信のみに制限します。

## セルフサービスインストールでのスケジュールの作成

WebFOCUS バージョン 9 のセルフサービスインストールでは、ユーザが作成したスケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ReportLibrary コンテンツは、WebFOCUS リポジトリに格納されます。WebFOCUS にログインすると、これらの項目がリソースツリーのフォルダ内に表示されます。リソースツリーの各フォルダは実フォルダで、コンテンツを格納するには、これらのフォルダを作成しておく必要があります。

作成済みのフォルダを右クリックすることで、アドバンストスケジュールツールを起動することができます。このツールを起動するには、[新規作成] オプションを選択し、[スケジュール] をクリックします。スケジュールを起動するには、レポート起動ページの [スケジュール] ボタンをクリックする方法もあります。

次の手順の目的は、セルフサービスインストールでスケジュールを作成するために、従う必要のあるステップを定義することです。

## セルフサービスインストールでスケジュールを作成するには

### 手順

1. フォルダおよびスケジュールの作成権限を所有するアカウントで WebFOCUS にログインします。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
2. 次の手順に従って、フォルダを作成します。

- a. ナビゲーションウィンドウのリソースツリーで、[ワークスペース] を右クリックします。
  - b. [新規作成]、[フォルダ] を順に選択します。
  - c. [タイトル] テキストボックスにタイトルを入力し、必要に応じて [概要] テキストボックスに概要を入力します。
3. フォルダを右クリックし、[新規作成]、[スケジュール] を順に選択します。

**注意：**コンテキストメニューに表示されるツールオプション、および作成可能なファイルタイプは、WebFOCUS Client ライセンスに応じて異なります。ReportCaster セルフサービスライセンスキーを所有している場合、コンテキストメニューから選択可能なレポート開発ツールは、テキストエディタです。この場合、.HTM ファイルタイプのみを作成できます。

**注意：**ユーザがレガシーライセンスを使用している場合、コンテキストメニューに表示されるツールオプション、および作成可能なファイルタイプは、WebFOCUS Client ライセンスに応じて異なります。Golden Key を使用している場合、コンテキストメニューのツールオプションおよび作成可能なファイルタイプのすべてを利用することができます。ReportCaster セルフサービスライセンスキーを所有している場合、コンテキストメニューから選択可能なレポート開発ツールは、テキストエディタです。この場合、.HTM ファイルタイプのみを作成できます。

アドバンストスケジュールツールが表示されます。を参照してください。

権限を所有するユーザは、フォルダからこのスケジュールツールを起動し、スケジュールを作成することができます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

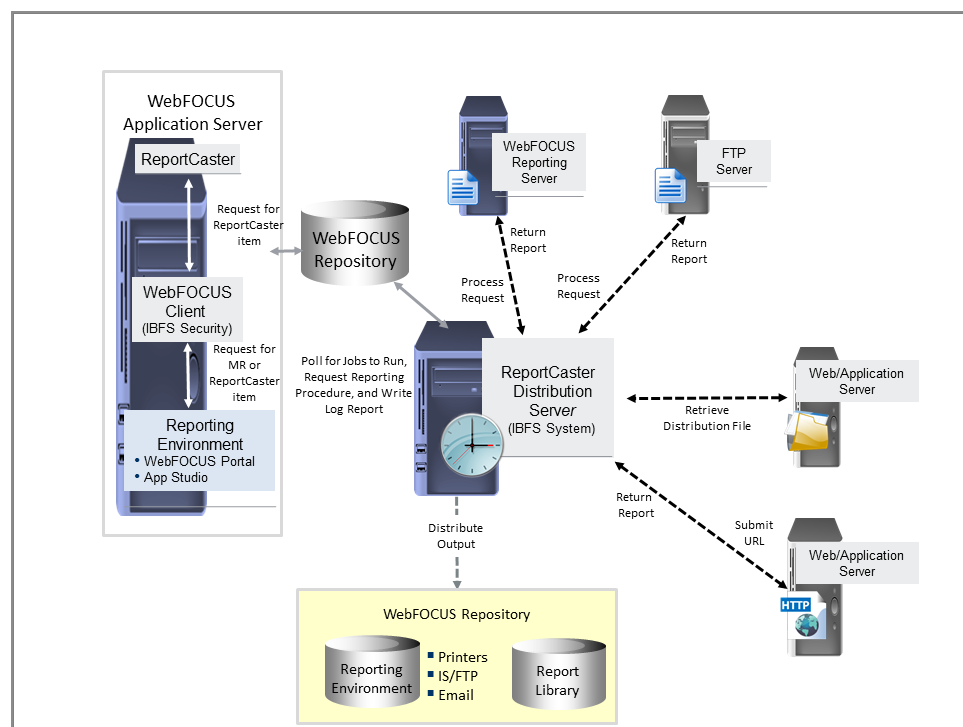
## App Studio で作成した HTML ページからスケジュールを保存するには

### 手順

1. アドバンストスケジュールツールにアクセスするか、App Studio で作成した HTML ページからスケジュールツールを起動します。
2. スケジュールの条件を定義後、[保存して閉じる] をクリックし、スケジュールの保存先フォルダを選択します。を参照してください。フォルダが存在しない場合は、[セルフサービスインストールでのスケジュールの作成](#)の手順 1 を参照してください。

# ReportCaster の処理

下図は、ReportCaster が SQL リポジトリにアクセスしてジョブのスケジュールを作成し、これを実行して配信する際の処理および ReportCaster コンポーネントを示しています。



Distribution Server は、スケジュール済みジョブの実行および配信の処理を管理する Java アプリケーションです。Distribution Server は、ibi™ WebFOCUS® Reporting Server およびそのコンポーネント (Web サーバおよび Application Server 上に常駐) と同一のプラットフォームにインストールすることも、異なるプラットフォームへインストールすることもできます。

WebFOCUS Reporting Server は、スケジュールされたリクエストを処理し、データを検索した後、Distribution Server にレポートを返します。これにより、出力が配信されます。ReportCaster では、複数の Reporting Server (ReportCaster 構成ツールで指定) と 1 つのリポジトリ (管理コンソールの [アプリケーションの設定] 下の [リポジトリ] ページで指定) がサポートされます。

ReportCaster スケジュールを作成する際、ReportCaster により設定されるスケジュールのプロパティの 1 つは、スケジュールの次回実行時間 (NEXTRUNTIME) です。Distribution Server は、NEXTRUNTIME 値が現在の時間よりも小さいスケジュールがあるかどうか、リポジトリ内を検索します。スケジュールジョブが実行されると、NEXTRUNTIME の値が更新され、スケジュールの次回実行時間に設定されます。

# ReportCaster によるスケジュール済みジョブの処理

次に、Distribution Server が実行するスケジュールを識別した後の手順について説明します。

1. Distribution Server は、スケジュール済みジョブを Distribution Server キュー上の別のスケジュールと比較して、優先順位を決定します。スケジュールを作成するときに、[優先度] パラメータに 1 から 5 までのいずれかの値を指定することができます。1 は優先度が最も高く、5 は優先度が最も低いことを示します。デフォルトの優先度の値は 3 です。Distribution Server で実行待ちする際は、スケジュール済みジョブは、優先度および時間の順でソートされます。あるスケジュールサイクル中に 1 つ以上のジョブがキューに残る場合、次のスケジュールサイクルの開始時に、キューに受信される新しいジョブを含めてこれらのジョブの優先度が再設定されます。
2. WebFOCUS Reporting Server へのセッション (スレッド) が利用可能な場合、Distribution Server は、スケジュール、パラメータ、アラート情報を WebFOCUS リポジトリから動的に取得します。ジョブディスパッチ可能な並列スレッド数は、ReportCaster 構成ツールで指定する [最大スレッド] パラメータにより制御されます。ReportCaster で構成された各 WebFOCUS Reporting Server には、それぞれ独自のスレッドが割り当てられます。また、WebFOCUS Reporting Server を使用しないジョブにスレッドを割り当てることもできます。スレッドの最大数は、これら個別のスレッド設定の合計になります。また、レポート (WebFOCUS Reporting Server プロシジャ、WebFOCUS レポート、マイレポート) は、セキュリティおよび WF Client 構成処理のためにパッケージ化されて IBFS システムに送信されます。スケジュール済みジョブは、IBFS システムから WebFOCUS Reporting Server に送信されます。
3. 各スケジュール済みジョブの実行内容は、次のとおりです。
  - **プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポート)** 取得されたレポートは、WebFOCUS Reporting Server への送信用にパッケージ化されます。ReportCaster は、WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポートのスケジュール済みジョブを送信する際に、WebFOCUS Reporting Server に送信するためのコマンドを IBFS システムに送信します。次に Resource Analyzer がこれらのコマンドを取得して、レポートの配信に使用されたリソースのモニタに使用します。Resource Analyzer は、Reporting Server に送信されたリクエスト、およびレポートの作成に使用されたリソースのトラッキングとモニタに使用される機能です。WebFOCUS Reporting Server は、プロシジャを実行してデータを取得し、レポートを作成した後、そのレポートを IBFS システムに送信します。送信されたレポートは、IBFS システムから Distribution Server に返されます。次に Distribution Server が配信情報を処理し、レポート

を配信します。GRAPH リクエストの場合、データは Distribution Server に送信され、Distribution Server がグラフィメージを作成して配信します。

**注意：**WebFOCUS 管理コンソールのユニバーサルプロファイル設定を使用して、特定のコマンドがスケジュールジョブの前に実行されるよう指定することができます。

- **URL** Distribution Server は、Web サーバに URL を送信します。URL は Web サーバで実行され、コンテンツは Distribution Server に送信された後、ReportCaster Distribution Server により配信されます。
  - **ファイル** Distribution Server は、マッピングされたドライブにアクセスしてファイルを取得し、そのファイルを配信します。
  - **FTP** Distribution Server は、FTP サーバにアクセスしてレポート出力を取得し、その出力を配信します。
  - **WebFOCUS スケジュール** ユーザが選択したオプションに基づいて、Distribution Server が、呼び出し先のスケジュールを実行待ちジョブの前に即座に実行するか、呼び出し先のスケジュールを優先度に応じてキューに追加します。
4. Distribution Server は、スケジュール出力を Email、FTP または SFTP、WebFOCUS リポジトリフォルダ内のレポート、ReportLibrary のいずれかとして配信します。また、FAX プロバイダへの Email を使用して、スケジュール出力を FAX マシンに配信することもできます。

WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS リポジトリフォルダ内のレポートでは、バーストレポート配信がサポートされており、特定の受信者にレポートの一部を送信することができます。表形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、最初の BY フィールドで決定されます。グラフ形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、2 番目の BY フィールドで決定されます。バースト値は、内部マトリックスにより自動的に決定されます。内部マトリックスは、各データベースフィールド値を保存したり、TABLE または GRAPH リクエストで参照される値を計算したりするメモリ領域です。

5. Distribution Server は、出力の配信後 (あるいは出力配信不可の場合)、ログ情報を処理し、WebFOCUS リポジトリ内のログテーブルにジョブ情報を書き込みます。

**注意：**従来はスケジュールの終了時にすべてのメッセージが一度に書き込まれていましたが、現在のバージョンではログ処理が変更され、メッセージが作成されるたびに WebFOCUS リポジトリに書き込まれます。ReportCaster ログ情報は、スケジュールの進行中にログテーブルに書き込まれます。これにより、スケジュールの進行中でもログレポートを実行して、スケジュールの進行状況を確認することができます。

ログレポートのエラー内容は赤色、警告はオレンジ色で表示されます。

6. 通知がリクエストされると、Distribution Server は、Email 通知を送信します。通知 Email を処理するメールサーバ名は、ReportCaster 構成ツールの [通知メールサーバ] 設定で指定します。この通知メールサーバを指定しない場合、Email スケジュールの配信に使用するデフォルトメールサーバが使用されます。このメールサーバは、ReportCaster 構成ツールの [メールサーバ] 設定で指定されています。

ログレポートまたは通知には、次の場合にエラー条件が発生します。

- FOC エラーメッセージが Distribution Server に返された場合。
- 配信するレポートがない場合。
- サービス (Email、FTP、SFTP、WebFOCUS レポート、リポジトリ、ReportLibrary) への通信時にエラーが発生した場合。

**ヒント：**通知および Email 配信には、異なるメールサーバを使用することをお勧めします。個別のメールサーバを使用することで、デフォルトのメールサーバに問題が生じた場合でも、通知を受信することが可能になります。

## スケジュール済みジョブの実行

この例では、Distribution Server は、スケジュール済みジョブを検索するために、BOTSCHEd テーブルを毎分ポーリングします。ただし、権限を所有するユーザは、ReportCaster 構成ツールの [読み込み間隔] 設定を使用して、Distribution Server のポーリング間隔を変更することができます。間隔には、1 から 999999 (分) までの値を指定することができます。

1. 9:01 AM にジョブをスケジュールし、開始日時にその日の 12:00 PM を、終了日時に翌日の 3:00 PM を指定したことを想定します。このジョブは、2 時間ごとに実行されるように指定されています。
2. Distribution Server は、9:02 AM に、NEXTRUNTIME 値が現在の時間である BOTSCHEd テーブルのレコードをすべて読み取ります。この例のジョブは、開始時間が 12:00 PM であるため、実行の対象にはなりません。
3. その後、Distribution Server は、BOTSCHEd テーブルを毎分ポーリングし、NEXTRUNTIME 値が現在の時間よりも小さいジョブを検索します。
4. Distribution Server は、この BOTSCHEd テーブルを 12:00 PM に読み取ります。NEXTRUNTIME 値が現在の時間に等しいため、このジョブは実行の対象になります。ジョブが Distribution Server のキューに送信されます。Distribution Server は、NEXTRUNTIME 値を 2 時間後である 2:00 PM に更新します。

5. その後、Distribution Server は、BOTSCHEDED テーブルを毎分ポーリングし、NEXTRUNTIME 値が現在の時間よりも小さいジョブを検索します。
6. Distribution Server は、この BOTSCHEDED テーブルを 2:00 PM に読み取ります。NEXTRUNTIME 値が現在の時間に等しいため、このジョブは実行の対象になります。ジョブは Distribution Server のキューに送信されます。Distribution Server は、NEXTRUNTIME 値を 4 時間後である 4:00 PM に更新します。
7. この処理が繰り返し実行されます。ジョブは、翌日の 3:00 PM まで 2 時間ごとに実行されます。最後にジョブが実行キューに送信されるのは、翌日の 2:00 PM です。

注意：その他の考慮事項については、[ReportCaster の処理](#)を参照してください。

## タイムゾーンの考慮事項

ジョブスケジュールに表示される時間はすべて、割り当てられたタイムゾーンで定義されます。スケジュール内で定義されたタイムゾーンを使用することにより、Distribution Server は、Distribution Server の配置先のタイムゾーンに関わらず、適切なローカルタイムでスケジュール配信を実行することができます。

製品のインストール時に、WebFOCUS のインストール先サーバのオペレーティングシステムに割り当てられたタイムゾーンが ReportCaster 構成に追加されます。タイムゾーンは、デフォルト設定で、すべての新しいスケジュールに表示されます。ただし、スケジュール配信コンテンツの受信者がこのタイムゾーン外に位置している場合、適切な時間にスケジュール配信コンテンツが受信されるようスケジュール時間を調整する必要があります。この調整を行うためには、デフォルトタイムゾーンを、コンテンツ受信者のタイムゾーンで置換することをお勧めします。

タイムゾーンを選択することで、配信コンテンツの受信者にとって最も都合の良いローカルタイムに配信をスケジュールすることが簡単にできます。この場合、スケジュールの時間に割り当てる値に時差を考慮する必要がありません。たとえば、ニューヨークでデフォルトタイムゾーンの東部標準時間 (EST) で仕事をしている場合、ロンドン時間の午前 9:00 にコンテンツの配信を開始するには、タイムゾーンエントリから [(UTC+00:00) ダブリン、エジンバラ、リスボン、ロンドン] を選択し、[開始時間] を 9:00 AM に設定するだけです。この機能を使用しない場合、ニューヨークでのローカルタイムを計算し、[開始時間] にこの値 (4:00 AM) を使用する必要があります。

タイムゾーンは、UTC (協定世界時) からのオフセットとして識別されます。これらのオフセットは、ローカルタイムゾーンが経度 0 度のタイムゾーンより何時間進んでいるか、遅れているかを示します。タイムゾーンのエントリは、タイムゾーンの名前または各タイムゾーン内の都市でも識別することができます。たとえば、(UTC - 5:00) は、東部時間 (米国およびカナダ) のエントリとして識別されますが、この時間帯に入る南米の都市 (ボゴタ、リマ、キ

ト) のエントリとしても識別されます。どちらのエントリも同一のオフセットを使用するため、時間値を変換する際は、両方のエントリで同一の時間数が使用されます。

ReportCaster は、Windows の設定に関わらず、夏時間を調整する Java テクノロジーを使用します。夏時間を使用しない地域では、スケジュール済みジョブは正しい時間で実行されます。ただし、夏時間の間は、一部の内部ファイルにはタイムスタンプに 1 時間追加されます。これらのファイルには、以下があります。

- Distribution Server ログおよびトレースファイル
- ログレポート内のレポート時間情報
- Servlet トレースファイルなどの、Servlet エンジン上で実行されるプログラム

## 夏時間の考慮事項

ReportCaster によるスケジュール済みジョブに対する夏時間の影響を考慮する際、夏時間への移行が 1:59:59 AM に行われることを認識することが重要です。夏時間の開始時には 3:00 AM に、夏時間の終了時には 1:00 AM に、時間が変更されます。

時間が変更されても、スケジュール間隔は変更されないことに注意してください。これは、スケジュール済みジョブは、実際の時間ではなく、経過時間に基づいて実行されるためです。

下表は、ReportCaster がスケジュールしたジョブの夏時間に関連した動作について説明します。

| 間隔                                              | 説明                               | 例                                                                              |
|-------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 指定した時間に一度だけ (または毎日、毎週、毎月、毎年) 実行するよう設定されたスケジュール。 | スケジュールは、夏時間に関わらず、指定された時間に実行されます。 | 9:15 AM に設定されたスケジュールは、9:15 AM に実行されます。                                         |
| 夏時間の開始後、標準時間で毎分または毎時間実行するように設定されたスケジュール。        | スケジュールは、1 時間繰り上がりません。            | 2 時間ごと (12:00 AM、2:00 AM、4:00 AM) に実行されるスケジュールは、<br>12:00 AM、3:00 AM、5:00 AM に |



| 間隔                                      | 説明                   | 例                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                         |                      | <p>実行されます。12:00 AM、3:00 AM、5:00 AM に実行されます。</p> <p>3:00 AM は、1:59:59 に時間が 3:00 AM に変更されるためです。</p>                                                                                   |
| 夏時間の終了後、夏時間で毎分または毎時間実行するように設定されたスケジュール。 | スケジュールは、1 時間繰り下がります。 | <p>2 時間ごと (12:00 AM、2:00 AM、4:00 AM) に実行されるスケジュールは、</p> <p>12:00 AM、3:00 AM、5:00 AM に実行されます。12:00 AM、1:00 AM、3:00 AM に実行されます。</p> <p>1:00 AM は、1:59:59 に時間が 1:00 AM に変更されるためです。</p> |

## ReportCaster 一時ディレクトリの設定

ReportCaster 一時ディレクトリは、レポートのステージングエリアです。一時ディレクトリの場所を ReportCaster ツールで構成することはできません。ただし、デフォルト設定の一時ディレクトリがレポートのステージングに十分な領域を確保できない場合、コマンドを発行することで、別の場所を指定することができます。

## ReportCaster 一時ディレクトリを指定するには

以下の手順では、新しい一時ディレクトリの場所は、Windows では D ドライブ上に作成され、UNIX/Linux では新しいディレクトリになります。

### 手順

1. 新しい一時ディレクトリとして使用するパスを新規に作成します。

#### Windows 上のパスの例

```
D:¥ReportCaster¥temp
```

#### UNIX または Linux 上のパス参照の例

```
path_to_newdir/ReportCaster/temp
```

#### このディレクトリを作成する DOS コマンド

```
D:  
mkdir ReportCaster¥temp
```

#### このディレクトリを作成する UNIX または Linux コマンド

```
cd path_to_newdir  
mkdir /ReportCaster/temp
```

2. 元の ReportCaster 一時ディレクトリを削除します。

#### Windows 上の元のデフォルトパス

```
C:¥ibi¥WebFOCUS93¥ReportCaster¥temp
```

#### UNIX または Linux 上の元のデフォルトパス

```
/home/user/ibi/WebFOCUS93/ReportCaster/temp
```

#### このディレクトリを削除する DOS コマンド

```
cd C: ¥ibi¥WebFOCUS93¥ReportCaster  
rmdir temp /s /q
```

#### このディレクトリを削除する UNIX または Linux コマンド

```
cd /home/user/ibi/WebFOCUS93/ReportCaster  
rm -r temp
```

3. 元のディレクトリの代わりに使用する「temp」という名前の仮想ディレクトリを作成

し、D ドライブ上の新しいディレクトリを指定します。

このリンクを作成する DOS コマンド

```
mklink /D C:¥ibi¥WebFOCUS93¥ReportCaster¥temp D:¥ReportCaster¥temp
```

このリンクを作成する UNIX または Linux コマンド

```
ln -s path_to_newdir/ReportCaster/temp  
/home/user/ibi/WebFOCUS93/ReportCaster/temp
```

これにより、必要な構成の変更が実行されます。

## Distribution Server 機能

権限を所有するユーザは、次の Distribution Server のアクティビティおよび機能についての説明を参照してください。

- [Distribution Server のスタートアップ](#)
- [リカバリ](#)
- [スキャンバック](#)
- [ibi WebFOCUS ReportCaster 構成ツール](#)
- [Distribution Server のフェールオーバーとワークロード分散](#)

## Distribution Server のスタートアップ

Distribution Server は、開始時に IBFS システムを呼び出して、WebFOCUS リポジトリとの通信方法に関する情報を取得します。WebFOCUS Client のインストール中に、既存の SQL データソースを指定するか、WebFOCUS により Apache Derby SQL をインストールして構成するかを選択することができます。リポジトリと通信できない場合、Distribution Server は開始されません。Distribution Server が開始されない場合は、Distribution Server スタートアップトレースファイルおよびログファイルに記録されたエラーメッセージを確認してください。

初期化に成功すると、Distribution Server は、[リカバリ] パラメータおよび [スキャンバック] パラメータに基づいて回復処理が必要なジョブを確認し、各スケジュールの NEXTRUNTIME に基づいて実行が必要なジョブを確認します。

# WebFOCUS Client とは異なるマシンにインストールされた Distribution Server の構成に関する重要な考慮事項

ReportCaster Distribution Server が WebFOCUS Client とは異なるマシンにスタンドアロンサーバとしてインストールされている場合、WebFOCUS 管理コンソールで変更された構成が ReportCaster にも反映されるよう追加の手順を手動で実行する必要があります。これは、スタンドアロン Distribution Server が、管理コンソールで更新される WebFOCUS 構成ファイルにアクセスできないためです。この手順の実行は、WebFOCUS に対して外部セキュリティを構成する場合に特に重要です。Distribution Server が WebFOCUS Client と同一のセキュリティ設定を使用していない場合に、ReportCaster ジョブが正しく実行されない可能性があります。

次の手順に従って WebFOCUS の構成に変更を加え、その変更を Web ブラウザでテストすることをお勧めします。すべての設定が正しいことを確認した後、その構成が ReportCaster にも反映されるよう次の手順を実行します。

1. `..\ibi\WebFOCUS\93\config` ディレクトリの `webfocus.cfg` ファイルおよび `install.cfg` ファイルを、スタンドアロン Distribution Server マシンの `..\ibi\WebFOCUS\93\config` ディレクトリにコピーします。
2. `..\ibi\WebFOCUS\93\client\wfc\etc` ディレクトリの `oding.cfg` ファイルを、スタンドアロン Distribution Server マシンの `..\ibi\WebFOCUS\93\client\wfc\etc` ディレクトリにコピーします。
3. `..\ibi\WebFOCUS\93\client\wfc\etc` ディレクトリの `cgivars1.wfs` ファイルを、スタンドアロン Distribution Server マシンの `..\ibi\WebFOCUS\93\client\wfc\etc` ディレクトリにコピーします。
4. Distribution Server を再起動し、スケジュール済みジョブの動作をテストします。

## リカバリ

ReportCaster 構成ツールのリカバリパラメータの目的は、Distribution Server キューに送信されたが、スケジュールの実行処理が完了しなかったジョブの回復処理を行うことです。この状況は、Distribution Server または WebFOCUS Reporting Server が停止されていた場合などに発生します。リカバリ機能を有効にするには、[ReportCaster Distribution Server の構成] インターフェースで [リカバリ] パラメータを [オン] に設定します。

スケジュールを作成し、[リカバリ] パラメータを [オン] に設定すると、BOTSCHEDED リポジトリテーブルのスケジュールの [RECOVERY] の値は、[N] に設定されます。スケジュールが実行キューに送信されると、[RECOVERY] の値は [Y] に設定されます。つまり、ジョブがキュー内に存在する状態で Distribution Server が利用不可になった場合、ReportCaster は、ReportCaster 構成ツールの [リカバリ] パラメータが [オフ] に設定されている場合でも、Distribution Server が利用可能になった時点でジョブの回復処理を実行します。ジョブが実行され、すべてのレコードが書き込まれた後、[RECOVERY] の設定は [N] に戻されます。

[リカバリ] パラメータが [オン] に設定されているために実行するジョブはすべて、一度だけ実行されます。ジョブの実行キューへの送信後、その [次回実行時間] の値は、現在の時間の後に実行される時間に変更されます。たとえば、ジョブが毎時間実行されるようスケジュールされており、Distribution Server が 4 時間利用不可となる場合、Distribution Server が利用可能になると、ジョブは一度だけ実行され、その後毎時間実行されます。

### 注意

- スキャンバックオプションは、リカバリの設定とは無関係に動作します。スキャンバックオプションについての詳細は、[スキャンバック](#)を参照してください。
- スケジュール済みジョブのみがリカバリできます。オンデマンドで送信されたジョブはリカバリできません。

## ジョブのリカバリ

スケジュール済みジョブのリカバリは、次の方法で実行されます。

1. Distribution Server は、起動時に ReportCaster の構成で [リカバリ] パラメータが [オン] に設定されていることを確認します。
2. [リカバリ] パラメータが [オン] に設定されている場合は、レコードのスケジュール情報や [次回実行時間] の値に関係なく、Distribution Server は [RECOVERY] の値が [Y] に設定されている BOTSCHEDED テーブルからレコードをすべて読み取り、それらのレコードを実行キューに送信します。
3. Distribution Server はポーリング処理を開始し、[RECOVERY] の値が [Y] に設定されているジョブをすべてキューに送信した後、実行するジョブを検索します。
4. スケジュール済みジョブが Distribution Server キューに送信された後、その [次回実行時間] の値は、現在の時間の後の次回実行時間に変更されます。

### 注意

- [リカバリ] パラメータが [オフ] に設定されている場合、Distribution Server は、BOTSCHED テーブル内の [RECOVERY] の値が [Y] に設定されているジョブすべてのこの値を [N] に変更します。これにより、すべてのジョブのリカバリは行われなくなります。
- [リカバリ] パラメータの設定が [オン] に戻されると、その時間より後の [次回実行時間] の値を持つジョブのみが有効になります。

## スキャンバック

Distribution Server が、ある期間利用不可になることが考えられます。この間、スケジュール済みジョブは実行されません。デフォルト設定では、Distribution Server が再び利用可能になった際に、次回実行時間の値が現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブの検索と実行が行われ、さらに、ジョブの次回実行時間に応じて、スケジュールが再設定されます。Distribution Server が長時間利用不可になる場合は、この動作を変更することをお勧めします。スキャンバックパラメータを使用して、特定の停止時間内に見つかったジョブのみを実行することや、実行されなかったジョブすべてを実行せずに、その次回実行時間を再設定することができます。

スキャンバックパラメータには、次の 2 つがあります。

- スキャンバックタイプ (オン、オフ、次回実行時間)
- スキャンバック間隔 (日数)

[スキャンバック間隔] は、[スキャンバックタイプ] が [オン] の場合にのみ有効になります。詳細は、[Distribution Server の設定](#)を参照してください。

[スキャンバックタイプ] パラメータは、次のように設定することができます。

- **オン** ([スキャンバック間隔] として 0 より大きい整数値を指定した場合) Distribution Server が再開した時間から数えた 24 時間間隔の時間を表します。Distribution Server は、この時間を使用してスキャンバックを実行し、次回実行時間が現在の時間よりも前のジョブを検索して実行します。

たとえば、Distribution Server が 3 日間利用不可で、スキャンバックが 2 に設定されている場合、Distribution Server は、サーバが再開する 48 時間前までに見つかったジョブのみを実行します。

有効な値は、1 から 365 までの任意の整数です。デフォルト値は、15 日間です。

- **次回実行時間** 次回実行時間の値が現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブを検索し、次回実行時間を次回スケジュールされているジョブの実行時間に再設定します。

- **オフ** スキャンバックを無効にします。Distribution Server は、デフォルトの動作を実行します。つまり、現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブを検索して実行し、スケジュールの再設定を行います。

#### 注意

- スキャンバックオプションはリカバリの設定とは無関係に動作します。リカバリオプションについての詳細は、[リカバリ](#)を参照してください。

## ibi WebFOCUS ReportCaster 構成ツール

ReportCaster 構成ツールは管理ツールの 1 つで、権限を所有するユーザはこのツールを使用して、ReportCaster の構成を定義するさまざまな設定を確認して変更することができます。たとえば、Distribution Server のポーリング間隔を変更することや、WebFOCUS Reporting Server ごとの接続数を制御する最大スレッド数を定義することができます。これらの構成設定には、ReportCaster ステータスの [構成] タブからアクセスします。

ReportCaster の構成設定についての詳細は、[ReportCaster の構成](#)を参照してください。

## Distribution Server のフェールオーバーとワークロード分散

ReportCaster では、バックアップ Distribution Server を組み込んだり、複数の Distribution Server を構成してスケジュール済みジョブの実行を共有したりできます。

- Distribution Server のフェールオーバー機能を使用して、第 1 Distribution Server が (計画的または非計画的に) 中断した場合に、ReportCaster の処理を再開するバックアップ Distribution Server を構成することができます。同期サービスは、第 1 サーバを監視して、そのサーバが稼動していることを確認します。稼動中に中断が発生すると、フェールオーバーサーバが開始され、第 1 サーバのロールを引き継ぎます。フェールオーバーサーバの設定についての詳細は、使用するプラットフォームの『ibi™ WebFOCUS® インストールガイド』の「ReportCaster インストール後の作業」を参照してください。

ReportCaster ステータスには、第 1 サーバおよびフェールオーバーサーバのモードやステータスなどの情報が表示されます。ReportCaster ステータスで、Distribution Server を中断、開始、停止することができます。

**注意：**ReportCaster 構成ツールで [リカバリ] オプションを [オン] に設定すると、Distribution Server は処理途中のスケジュール済みジョブを回復します。

- ワークロードの分散機能により、複数の Distribution Server にわたるスケジュール済みジョブを ReportCaster で配信することができます。これにより、大量の ReportCaster スケジュールを短時間で効率的に処理することができます。

複数の Distribution Server インスタンスを 1 つまたは複数のホストにインストールすることができます。一方のインスタンスをワークロードマネージャとして指定し、それ以外をワーカとして指定することができます。WebFOCUS リポジトリは、ワークロードマネージャとワーカで共有されます。

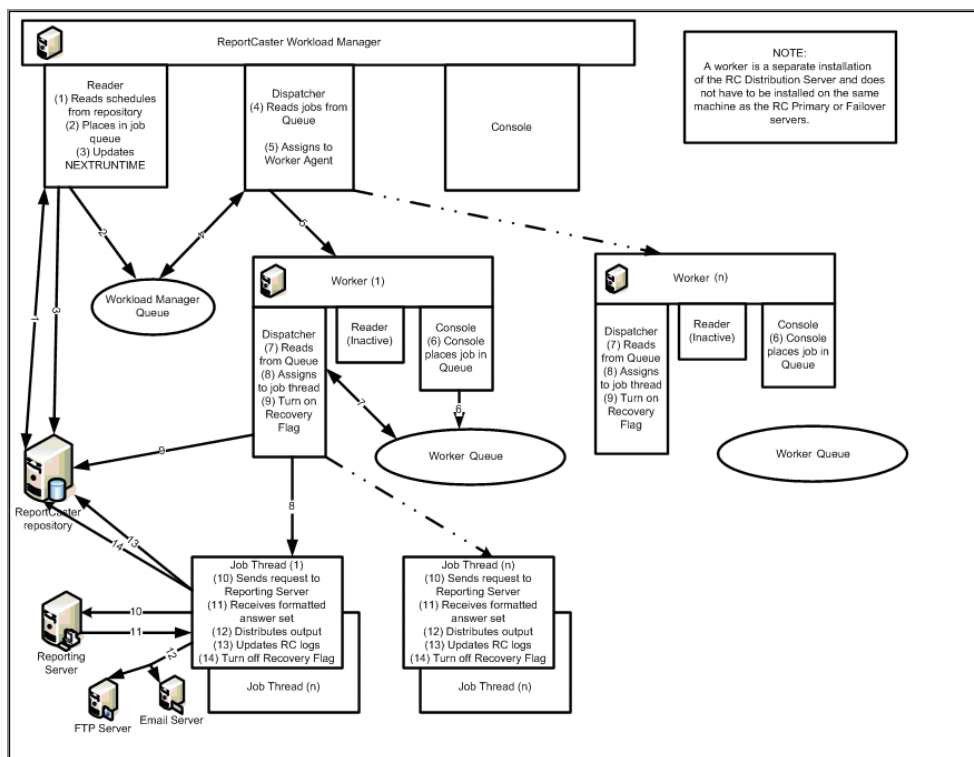
**注意：**ワークロードの分散を構成するには、ReportCaster 構成ツールの [Distribution Server] フォルダ下の設定を使用します。すべてのサーバが構成情報一式を共有します。構成が変更された場合、ワークロードマネージャにより、すべての変更が、ワーカに適用されます。

ワークロードマネージャは、WebFOCUS リポジトリをポーリングして、実行するスケジュール済みジョブを取得し、これらのジョブをキューに配置します。さらに、個々のジョブを次に使用可能なワーカに送信します。

ワーカは、ワークロードマネージャから送信されたジョブをキューに配置し、ジョブを送信して実行します。ワーカは、実行されたジョブから出力結果を配信し、ReportCaster ログファイルを更新します。

下図は、ワークロードマネージャとワーカとの間で実行される処理および関係を示しています。





Distribution Server のフェールオーバーは、第 1 Distribution Server であるワークロードマネージャに適用することができますが、ワーカーには適用できません。

ワークロードマネージャおよびワーカーは、ReportCaster ステータスの [サーバステータス] ウィンドウでモニタして管理することができます。

# ibi WebFOCUS ReportCaster ステータスの使用

---

ReportCaster ステータスからは、Distribution Server を管理するツール、およびスケジュールジョブログ、スケジュール禁止日、実行 ID を管理するツールにアクセスすることができます。

**注意：**このセクションでは、「ReportCaster ステータス」を「コンソール」と記載しています。

## ibi WebFOCUS ReportCaster ステータスの使用

コンソールからは、次のツールにアクセスすることができます。

- サーバステータス
- サーバパフォーマンス
- ジョブステータス
- ジョブログ
- 構成
- スケジュール禁止期間
- 実行 ID
- グローバル更新
- ジョブログの削除
- ReportLibrary の削除
- ウォッチリストの登録解除
- リフレッシュ

各ツールへのアクセスは、WebFOCUS Client のセキュリティ認可モデルにより制御されます。ReportCaster ツールへのアクセスを制御する権限についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

ReportCaster ステータスには、[WebFOCUS 管理] メニューから直接アクセスすることもできます。

ReportCaster ステータス には、次の場所からアクセスすることができます。

- WebFOCUS Hub で [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
- WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
- 管理コンソールで [ReportCaster] タブを選択します。

ReportCasterコンソールが開き、デフォルト設定では [サーバステータス] タブが表示されます。

コンソールの直観的なリボンが、新しいブラウザウィンドウに表示されます。を参照してください。リボンには、ユーザがアクセス権限を所有する各ツールのボタンが表示されます。

## サーバステータス

管理者は、サーバステータスツールを使用して、選択した Distribution Server を再起動、中断、停止することができます。また、このツールを使用して、複数のサーバの切り替え、トレースの表示、データのリフレッシュを行うこともできます。を参照してください。

## Distribution Server ステータスの表示

サーバステータスツールにアクセスするには、コンソールの [サーバステータス] タブを選択します。このツールでは、Distribution Server のステータスを確認することができます。ReportCaster でフェールオーバー Distribution Server またはワークロード Distribution Server を構成した場合、すべてのサーバのステータスが表示され、第 1 サーバとフェールオーバーサーバのロールの切り替えなど、基本的なフェールオーバータスクを実行することができます。また、サーバステータスツールには、ホスト名、ポート番号、ステータス、実行中および実行待ちのジョブ数など、Distribution Server の詳細が表示されます。Distribution Server 情報には、次のものがあります。

- **Distribution Server** コンソールで、サーバの識別に使用する名前です。「第 1」

は、ReportCaster 構成ツールで [第 1 Distribution Server] として設定されたサーバを表します。「フェールオーバー」は、ReportCaster 構成ツールで [第 2 Distribution Server] として設定されたサーバを表します。Distribution Server 設定、フェールオーバーの構成、ワークロード分散の構成についての詳細は、[フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク](#)を参照してください。

**注意：**Distribution Server がメールサーバとの SMTP 接続を試行する場合、メールサーバとの接続は、5 分後にタイムアウトします。

- **ホスト、ポート** Distribution Server のインストール先のホスト名とポート番号です。

- **モード** Distribution Server の状態および機能です。次のオプションがあります。

**マネージャ** マネージャとして動作する Distribution Server は、オンデマンドジョブのリクエストをモニタするとともに、スケジュールジョブのリポジトリをポーリングします。マネージャは、スケジュールジョブおよびオンデマンドジョブを、ワーカとして動作する Distribution Server に送信します。マネージャがジョブを実行することはありません。マネージャは、ワーカ上で実行中のジョブをモニタし、Client および ReportCaster API との間でジョブのステータス情報を通信します。

**ワーカ** ワーカとして動作する Distribution Server は、マネージャからジョブを受信して実行します。ワーカは、Client と通信してリポジトリに格納されているプロシジャを取得し、WebFOCUS Reporting Server と通信してスケジュールジョブプロシジャを実行します。また、ワーカは、HTTP リクエストを送信したり、ファイルシステムや FTP サーバと通信して配信用のファイルを取得したりします。ワーカは、WebFOCUS Reporting Server から返された結果 (HTTP リクエストまたはファイルリクエスト) を、スケジュールで指定された方法 (Email、FTP、リポジトリ、ReportLibrary) で配信します。また、ワーカは、ジョブ情報が記録された ReportCaster ログを更新したり、スケジュールの次回実行時間を更新したりします。

- **フルファンクション** Distribution Server が実行中で、機能していることを示します。ReportCaster で第 2 Distribution Server が構成されている場合、このモードは、そのサーバが第 1 Distribution Server として機能していることを示します。
- **フェールオーバー** ReportCaster でフェールオーバー Distribution Server を構成した場合は、このサーバがフェールオーバー Distribution Server として機能していることを示します。詳細は、[フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク](#)を参照してください。
- **停止中** Distribution Server が停止していることを示します。
- **実行中** 現在実行中のスケジュール済みジョブおよびオンデマンドジョブの数です。
- **待機中** ジョブキュー内のスケジュール済みジョブおよびオンデマンドジョブの数で

す。

- **サービス** Distribution Server で現在実行中のサービスです。次のオプションがあります。
  - **キャッシュクリーナ** Distribution Server は、このサービスを使用して、IBFS キャッシュのリフレッシュを実行します。キャッシュのリフレッシュを実行する頻度は、管理コンソールの IBI\_Repository\_Sync\_Interval 設定で制御します。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
  - **コンソール** Distribution Server は、このサービスを使用して、ReportCaster アプリケーションまたは API からの情報を受信します。
  - **ディスパッチャ** Distribution Server は、このサービスを使用して、スケジュール済みジョブを実行します。  
 注意：サーバ構成によっては、[サーバステータス] ウィンドウに 1 つまたは複数の追加ディスパッチャが表示される場合があります。
  - **フェールオーバーモニター/同期** 第 2 Distribution Server は、このサービスを使用して、第 1 サーバへの切り替えが必要かどうかを確認します。第 1 Distribution Server および第 2 Distribution Server は、このフェールオーバー/同期サービスを使用して、それぞれのステータスをモニタします。
  - **リーダー** Distribution Server は、このサービスを使用して、リポジトリのポーリングを実行します。
- **ステータス** Distribution Server で現在実行中のサービスのステータスです。次のオプションがあります。
  - **準備完了** サービスが利用可能であることを示します。
  - **スタンバイ中** サービスがスタンバイ中であることを示します。
  - **中断** サービスが中断していることを示します。
  - **リスナモード** コンソールサービスがリスナモードになっていることを示します。
  - **ポーリング** リーダサービスが有効になっていることを示します。
  - **モニタ中** リポジトリモニタが有効になっていることを示します。
  - **待機中** 実行キューに送信されたジョブが WebFOCUS Reporting Server 接続を待機している際に表示されます。この待機状態は、複数タスクのスケジュールが開始され、1 つ目のタスクで WebFOCUS Reporting Server に接続できるが、2 つ目のタスクで Reporting Server 接続が可能になっていない場合に発生します。

[サーバステータス] インターフェースでは、次のタスクを実行することができます。

- **リフレッシュ** 最新情報を取得し、それに基づいて Distribution Server ステータスを更新します。
- **切り替え** このオプションは、フェールオーバー Distribution Server が構成されている場合にのみ利用可能です。現在のサーバロールを変更し、第 1 サーバをフェールオーバーサーバに、フェールオーバーサーバを第 1 サーバにします。
- **再起動** Distribution Server と Application Server を再起動します。
- **中断** フェールオーバー Distribution Server が構成されているかどうかに関係なく、このオプションは常に利用可能になっています。Distribution Server サービスは中断されますが、サーバが停止することはありません。サーバを中断すると、[中断] ボタンは [再開] に変わります。
- **停止** Distribution Server を完全に停止します。

**注意：**このオプションを使用して Distribution Server を停止した場合、Distribution Server がインストールされているマシンで Distribution Server を再起動する必要があります。Distribution Server をリモートで再起動することはできません。
- **トレースの表示** scheduler.log、main.trc、reader.trc、console.trc、dispatcher.trc ファイルのトレース情報を表示することができます。また、Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えることもできます。詳細は、[サーバステータス](#)を参照してください。

**注意：**この機能を使用すると、Distribution Server トレースが、ジョブトレースとは別にトラッキングされます。Distribution Server トレースを確認するためにジョブトレースをオンにする必要はありません。
- **ヘルプ** サーバステータスのオンラインヘルプを開きます。

## Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えるには

### 手順

1. ReportCaster ステータスで、[サーバステータス] をクリックします。
2. Distribution Server のリストからサーバを選択します。
3. リボンの [サーバログ] ボタンの下向き矢印をクリックします。
4. [サーバトレースオン] を選択して、Distribution Server トレースを有効にします。

Distribution Server トレースを無効にするには、上記の手順 1 から 3 を実行し、[サーバトレースオフ] を選択します。

## データサーバ別のジョブキュー

Distribution Server では、WebFOCUS Reporting Server ごとに個別のジョブキューが使用され、WebFOCUS Reporting Server を必要としないタスクにも別のキューが使用されます。を参照してください。そのため、WebFOCUS Reporting Server ごとに少なくとも 1 つのジョブスレッドが常に存在するほか、サーバに関連しないジョブにも少なくとも 1 つのスレッドが存在します。利用可能なすべてのジョブスレッドを、特定の WebFOCUS Reporting Server に関連するジョブに限定して使用することはできません。

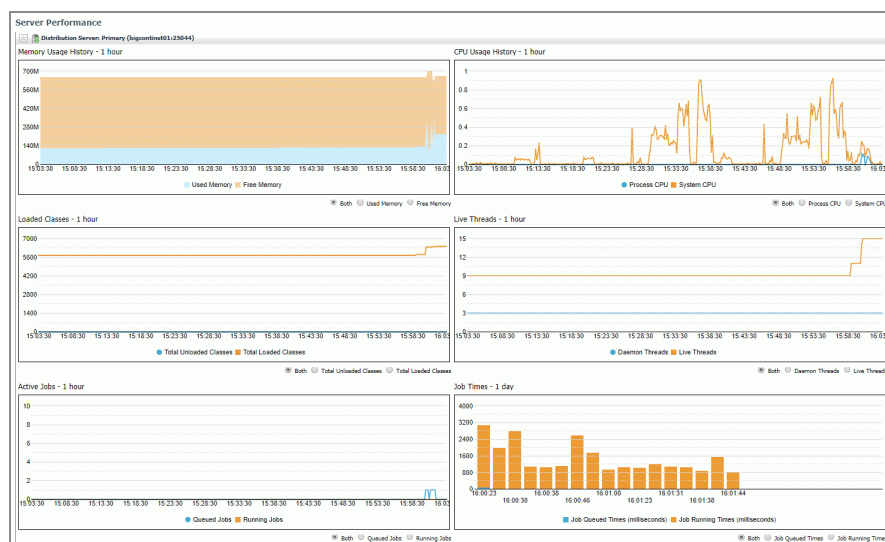
**注意：**この機能は、バージョン 8.0 SP02 以降で 사용할 수 있습니다。

各 WebFOCUS Reporting Server に割り当てられたジョブスレッド数は、それぞれの WebFOCUS Reporting Server で利用可能な接続の合計数に等しくなります。[最大スレッド] 設定には、各 WebFOCUS Reporting Server のスレッド合計数に、残りのタスクに割り当てられたスレッド数を加えた数になります。

## サーバパフォーマンス

[サーバパフォーマンス] タブには、選択した Distribution Server の 1 時間メモリ使用履歴、1 時間アクティブジョブ、1 時間 CPU 使用履歴のそれぞれがグラフとして表示されます。また、アクティブジョブの 1 日履歴も表示されます。

下図は、[サーバパフォーマンス] タブの例を示しています。



## Java ヒープダンプ機能の使用

ヒープダンプ機能を使用して、ReportCaster ステータスから直接 Java ヒープダンプファイルを生成することができます。これにより、特定タイプのソフトウェアの問題に関するトラブルシューティング処理が簡素化されます。

[サーバパフォーマンス] ボタンをクリックすると、[ヒープダンプ] ボタンが表示されます。[ヒープダンプ] ボタンのドロップダウンリストからは、新規ヒープダンプファイルの作成または過去のすべてのヒープダンプファイルの削除のオプションが選択できます。

ヒープダンプファイルを作成すると、ログファイルが作成され、ヒープダンプファイルがユーザの WebFOCUS ソフトウェアのディレクトリに保存されたことが示されます。このログファイルを開くには、ReportCaster ステータスリボンの [ジョブログ] ボタンをクリックします。[ジョブログ] ウィンドウで、[system] フォルダをクリックすると、[Java Heap Dump] ログフォルダが表示されます。

## フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク

ReportCaster でフェールオーバー Distribution Server を構成した場合、[サーバステータス] ウィンドウには、第 1 Distribution Server と第 2 Distribution Server の両方のステータスが表示されます。



第 1 Distribution Server は、フルファンクションモードで実行されています。コンソールサービスは ReportCaster からの情報の受信を待機し、リーダサービスはリポジトリをポーリングしています。また、ディスパッチャサービスは ReportCaster ジョブの実行待ち状態にあります。第 2 Distribution Server は、フェールオーバーモードで実行され、第 1 Distribution Server をモニタしています。フェールオーバーサービスは、第 1 サーバがアクティブ状態を継続しているかをモニタし、アクティブでない場合は、フェールオーバーサーバに第 1 サーバの役割を引き継ぐよう指示します。フェールオーバー Distribution Server が構成されている場合、第 1 Distribution Server を選択すると、[中断] オプションが選択可能になります。このオプションを選択すると、第 1 サーバのサービスが待機状態になります。

[サーバステータス] インターフェースで実行可能なフェールオーバータスクおよび各タスクの手順は次のとおりです。

- フルファンクションまたはフェールオーバー Distribution Server を再起動する。
- フルファンクション Distribution Server を中断する。
- フルファンクションまたはフェールオーバー Distribution Server を停止する。
- フェールオーバー Distribution Server をスタンバイモードにする。
- サーバロールを切り替えて、フェールオーバー Distribution Server をフルファンクション Distribution Server (またはその逆) にする。詳細は、[フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク](#)を参照してください。

## サーバを再起動するには

### 手順

1. 実行中のサーバを選択します。
2. ツールバーの [サーバの管理] グループの [再起動] をクリックして、サーバを再起動します。  
サーバの再起動を確認するウィンドウが開きます。
3. [はい] をクリックします。

## サーバを中断するには

### 手順

1. フルファンクションモードのサーバを選択します。
2. ツールバーの [サーバの管理] グループで [中断] をクリックします。  
サーバの中断を確認するウィンドウが開きます。
3. [はい] をクリックします。

## フェールオーバーサーバをスタンバイモードに設定するには

注意：この手順を実行するには、複数のサーバが構成され、いずれかのサーバがフェールオーバーモードである必要があります。

### 手順

1. フェールオーバーモードのサーバを選択します。
2. ツールバーの [サーバの管理] グループで [スタンバイ] をクリックします。  
フェールオーバーサーバをスタンバイモードに設定することを確認するウィンドウが開きます。
3. [はい] をクリックします。

## サーバを停止するには

### 手順

1. 実行中のサーバを選択し、[停止] をクリックします。  
サーバの停止を確認するウィンドウが開きます。
2. [はい] をクリックします。

# サーバロールを切り替えるには

## 手順

1. フルファンクションモードのサーバを選択します。
2. ツールバーの [中断] をクリックします。  
サーバの中断を確認するウィンドウが開きます。
3. [はい] をクリックします。
4. ツールバーの [サーバの管理] グループで [切り替え] をクリックします。  
サーバロールの切り替えを確認するウィンドウが開きます。
5. [はい] をクリックします。
6. [リフレッシュ] をクリックして、サーバステータスを更新します。  
**注意：**切り替えが完了するまで 1 分程度を要する場合があります。

# ジョブステータス

スケジュールのトラッキングを行うには、ジョブのステータスを確認する方法もあります。スケジュールステータスは、Distribution Server で実行待ち中の、スケジュール済みジョブリストを提供します。ステータス情報には、スケジュール ID、スケジュールの開始時間、ジョブのステータスなどがあります。

スケジュール情報には、次のものがあります。

- **ジョブ ID** ジョブに割り当てられた ID です。
- **スケジュール ID** ジョブをスケジュールする際に、ReportCaster が生成してジョブに割り当てて一意のキーです。
- **説明** スケジュールを作成する際に入力された説明です。
- **優先度** スケジュールの優先度です。1 は優先度が最も高く、5 は優先度が最も低いことを示します。
- **開始時間** スケジュールの実行が開始された時間です。
- **オーナー** スケジュールのオーナーのユーザ名です。
- **ステータス** スケジュール済みジョブのステータスです。次のいずれかの値が格納され

ます。

- **実行中** スケジュール済みジョブは、現在実行中です。
- **待機中** スケジュール済みジョブは、リクエストを実行するためのスレッドを待機中です。
- **サーバ名** ジョブの送信先 WebFOCUS Reporting Server です。
- **ディスパッチャ名** ジョブを送信した Distribution Server のディスパッチャです。
- **フルパス** WebFOCUS リポジトリ内のスケジュールのフルパスです。

## ジョブログ

[ジョブログ] タブでは、ユーザ自身が実行したジョブのログを表示したり、権限を所有している場合は他のユーザが実行したジョブのログを表示したりできます。[ジョブログ] タブでは、ログおよびトレース情報を表示する以外に、トレースファイルのダウンロード、ジョブログを開く、ジョブログの削除、ジョブログのリフレッシュ、ジョブログに関連するヘルプの表示も行えます。また、日単位やオンデマンドで実行されたログ削除ジョブ、スケジュール削除ジョブおよび ReportLibrary 有効期限ジョブに関するログおよびトレース情報を表示することもできます。ログ削除ジョブ、スケジュール削除ジョブおよび ReportLibrary 有効期限ジョブに関するログには、[system] フォルダからアクセスすることができます。その他のジョブのログには、各ジョブが属するユーザのフォルダからアクセスすることができます。

**注意：**[ジョブログ] タブでは複数選択機能がサポートされるため、複数のファイルを同時に開いたり、削除したりできます。

ジョブログ情報には、次のものがあります。

- **ジョブ ID** ジョブに割り当てられた ID です。
- **開始時間** スケジュールが実行された時間です。
- **継続期間 (秒)** ジョブを完了するまでの所要時間です。
- **ジョブステータス** ジョブの処理が完了した際のステータスです。
  - **成功** スケジュール済みジョブの処理中に、エラーは発生しませんでした。
  - **エラー** スケジュール済みジョブの処理中に、1 件以上のエラーが発生しました。レポートの生成や配信は行われませんでした。
  - **警告** スケジュール済みジョブの処理中に、1 件以上の警告が発生しました。レポートは生成され、配信されました。

ReportCaster ジョブのトレースファイルのダウンロードについての詳細は、[スケジュールトレースおよびレポートトレース](#)を参照してください。

## ReportCaster の構成

管理者は、構成ツールを使用して、Distribution Server、Servlet (WebFOCUS Web アプリケーションに展開) インターフェースおよびツールの表示と管理を行えます。管理者が変更可能なオプションには、[Distribution Server]、[設定 - 全般]、[Email 配信]、[通知] などがあります。

**注意：**構成設定を変更した場合は、このイベントが管理コンソールの監査ログファイルに記録されます。構成イベントは、デフォルト設定で記録されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

## 構成タブのアイコン

管理者は、ReportCaster ステータスリボンの [構成] タブに表示される一連のアイコンを使用して、次のタスクを実行することができます。

**注意：**ReportCaster ステータスリボンの [構成] をクリックすると、リボンの左端に [構成の管理] グループが表示されます。[サーバステータス]、[サーバパフォーマンス]、[ジョブステータス]、[ジョブログ]、[スケジュール禁止期間]、[実行 ID] オプションのいずれかをクリックすると、選択したオプションに応じて、このグループの名前および機能が変わります。これらのオプションはすべて、リボンの [表示] グループに表示されます。

### • 構成の管理グループ

- **保存** 構成設定に加えた変更を保存します。この場合、保存を確認するメッセージが表示されます。構成設定に加えた変更を有効にするには、変更を保存する必要があります。詳細は、[構成設定の変更](#)を参照してください。
- **新規作成** 新しい WebFOCUS Reporting Server 接続を作成します。このオプションは、[データサーバ] フォルダで作業中にのみ有効になります。
- **削除** ReportCaster の構成から WebFOCUS Reporting Server を削除します。この場合、削除を確認するメッセージが表示されます。このオプションは、[データサーバ] フォルダで作業中にのみ有効になります。
- **テスト** 選択したサーバまたはリポジトリとの接続をテストします。このオプションは、[データサーバ] フォルダまたは [LDAP の設定] フォルダで作業してい

る場合にのみアクティブになります。指定したサーバに接続する際、ユーザ ID とパスワードの入力が要求される場合があります。その後、テストの結果を示すメッセージが表示されます。

- **再起動** Distribution Server および ReportCaster を再起動し、Distribution Server の構成に加えた変更を有効にします。詳細は、[構成設定の変更](#)を参照してください。
- **構成ファイル** ReportCaster 構成ファイルを表示およびダウンロードするオプションが選択できます。矢印をクリックして、次のファイルにアクセスします。
  - **dserver.xml** 現在の ReportCaster 構成設定のレコードが格納されています。
  - **sendmodes.xml** MIME 出力ファイルフォーマットに関する情報が格納されています。
  - **rc\_preference.xml** ユーザインターフェースの各種オプションの表示に関する情報が格納されています。

上記のファイルオプションのいずれかを選択すると、ブラウザウィンドウにファイル情報が表示されます。[構成ファイルのダウンロード] を選択して、すべてのファイルを単一の ZIP ファイルとしてダウンロードすることもできます。

## • ツールグループ

- **グローバル更新** 権限を所有するユーザは、スケジュールおよび配信リストに格納される値をグローバルに更新することができます。[グローバル更新] インターフェースで更新可能な設定には、次のものがあります。
  - メールサーバ
  - FTP サーバ
  - Email アドレス
  - Email 送信者
  - ReportLibrary URL
  - データサーバ
  - 通知タイプ
  - 通知返信 Email アドレス
  - 通知件名
  - 通知簡易メッセージの宛先

- 通知詳細メッセージの宛先
- 第 1 実行前プロシジャ
- 第 2 実行前プロシジャ
- 第 1 実行後プロシジャ
- 第 2 実行後プロシジャ

詳細は、[グローバル更新](#)を参照してください。

- **ジョブログの削除** ログをオンデマンドで削除することができます。また、削除する過去のジョブログの日数を指定することもできます。たとえば、前月のジョブログを削除するには、デフォルト値の 30 日を使用します。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。詳細は、[ジョブログをオンデマンドで削除するには](#)を参照してください。
- **ReportLibrary の削除** 期限切れの ReportLibrary レポートをオンデマンドで削除することができます。デフォルト設定の [期限切れ ReportLibrary レポートの削除] オプションを選択することも、[削除する過去の ReportLibrary レポート (期間)] オプションを選択し、指定した日付より前のレポートをすべて削除することもできます。ドロップダウンリストのカレンダーから日付を選択するか、特定の日付を直接入力します。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。詳細は、[期限切れ ReportLibrary レポートを削除するには](#)を参照してください。
- **スケジュールの削除** [スケジュールの削除] 機能では、すべての非アクティブスケジュールまたは再実行なしのスケジュールを、オンデマンドで削除することができます。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。詳細は、[スケジュールの削除](#)を参照してください。
- **ウォッチリストの登録解除** 権限を所有するユーザは、ReportLibrary ウォッチリストに登録されている任意のユーザの通知をキャンセルすることができます。
- **アクショングループ**
  - **リフレッシュ** 最後に保存した構成設定を反映する設定です。
- **ヘルプ** オンラインヘルプファイルを表示します。このオプションは、ReportCaster 構成ツールに ReportCaster Web アプリケーションからアクセスした場合にのみ使用することができます。ただし、このインターフェースに Windows の [プログラム] メニューからアクセスした場合や、WebFOCUS インストールディレクトリ下の bin ディレクトリの editit.bat または editit UNIX スクリプトファイルを実行してアクセスした

場合は、このオプションを利用することはできません。

## 期限切れ ReportLibrary レポートを削除するには

### 手順

1. ReportCaster ステータスの [ツール] グループで、[ReportLibrary の削除] をクリックします。  
[ReportLibrary レポートの削除] ダイアログボックスが表示されます。
2. デフォルト値の [期限切れ ReportLibrary レポートの削除] を受容するか、[削除する過去の ReportLibrary レポート] を選択し、ドロップダウンリストのカレンダーコントロールを使用して日付を指定します。
3. [トレースオプション] 下で、デフォルト値の [デフォルトトレース] を受容するか、[トレースなし] または [トレースオン] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

## 構成タブのフォルダ

[構成] タブでは、次のフォルダからさまざまな構成設定にアクセスすることができます。

- **Distribution Server** Distribution Server を定義、構成します。また、このフォルダには、バックアップとして機能するフェールオーバー Distribution Server の定義や、ワークロードを共有する複数の Distribution Server を構成するための設定も用意されています。このフォルダ下には [その他の設定] フォルダもあります。これらの設定についての詳細は、[Distribution Server の設定](#)を参照してください。
- **設定 - 全般** ユーザがスケジュールを作成する際に使用可能にする、配信フォーマット、配信方法を指定します。このフォルダでは、スケジュール禁止期間を設定することもできます。これらの設定についての詳細は、[設定 - 全般](#)を参照してください。
- **Email 配信** デフォルトメールホスト、メールホストへの配信試行回数、セキュリティ情報など、Email 設定を構成します。これらの設定についての詳細は、[Email 配信](#)を参照してください。



- **通知** 通知メールホスト、デフォルト通知タイプなど、通知設定を構成します。これらの設定についての詳細は、[通知](#)を参照してください。
- **FTP の設定** デフォルトの FTP ホスト、ユーザ ID、セキュリティプラグインを指定します。また、サーバにセキュア SFTP 接続が必要かどうかを指定したり、認証方法を指定したりできます。
- **圧縮 (ZIP) の設定** 圧縮 (ZIP) ファイルの作成および命名方法を構成するための設定があります。これらの設定についての詳細は、[圧縮 \(ZIP\) の設定](#)を参照してください。
- **デフォルトスケジュール** ReportCaster スケジュールのデフォルト終了日時を定義します。これらの設定についての詳細は、[デフォルトスケジュール](#)を参照してください。
- **ログ削除と ReportLibrary 有効期限** ログファイルを自動的に削除する時間と期限を指定します。これらの設定についての詳細は、[ログ削除と ReportLibrary 有効期限](#)を参照してください。
- **LDAP の設定** ReportCaster セルフサービスユーザの認証および認可を、WebFOCUS リポジトリに対してではなく、LDAP データソースに対して実行されるよう構成します。また、LDAP データソースから Email アドレス情報を取得するよう ReportCaster を構成することもできます。これらの設定についての詳細は、[LDAP の設定](#)を参照してください。
- **データサーバ** 複数の Reporting Server (クラスタサーバを含む) を構成します。これらの設定についての詳細は、[データサーバの設定](#)を参照してください。
- **ReportLibrary** ReportLibrary の設定を指定します。たとえば、ReportLibrary コンテンツアクセスのデフォルト URL や、ReportLibrary に格納されたファイルの圧縮の有無を設定します。このフォルダ下には、[その他の ReportLibrary 設定] および [ウォッチリストの設定] フォルダもあります。これらの設定についての詳細は、[ReportLibrary の設定](#)を参照してください。

## 構成設定の変更

ReportCaster Distribution Server の構成設定への変更を有効にするには、変更を保存してから、Distribution Server および ReportCaster Web アプリケーションを再起動する必要があります。構成に加えた変更を保存するには、次の手順を実行します。

1. [構成] フォルダ下でいずれかの構成設定を変更した後、[構成] タブの [構成の管理] グループで [保存] アイコンをクリックします。  
保存を確認するウィンドウが開きます。

2. [OK] をクリックします。

確認メッセージのウィンドウが表示されます。保存した変更を有効にするには、Distribution Server および ReportCaster Web アプリケーションを再起動する必要があります。

3. [OK] をクリックします。

4. [構成の管理] グループの [再起動] アイコンをクリックします。

実行中のジョブをすべて停止して再起動することを確認するウィンドウが開きます。

5. [はい] をクリックします。

**注意：**フェールオーバーまたはワークロード Distribution Server が構成されている場合、すべての Distribution Server が開始されます。

6. 現在ログイン中のすべてのユーザに対して、現在のセッションを再起動して新しい構成情報を有効にするよう通知します。ユーザセッションには ReportCaster 構成に関連する情報がキャッシュされるため、ユーザインターフェースを再起動して、更新された構成情報を取得する必要があります。

## デフォルトユーザ ID の変更

[構成] タブのフォルダには、デフォルトユーザ ID およびパスワードを変更するオプションが用意されているものがあります。デフォルトユーザ ID の設定を変更するには、設定フィールド

右側の  アイコンをクリックします。これにより、[ユーザ] ダイアログボックスが開いて、新しいユーザ ID およびパスワードを入力することができます。変更の完了後、[OK] をクリックして [ユーザ] ダイアログボックスに戻ります。変更を有効にするには、変更を保存してから Distribution Server を再起動する必要があります。

## Distribution Server の設定

[Distribution Server] フォルダには、Distribution Server を定義、構成する設定があります。また、バックアップとして機能する第 2 フェールオーバー Distribution Server を定義することや、ワークロードを共有する複数の Distribution Server を構成することもできます。リボンの [サーバステータス] オプションを使用して、Distribution Server の再起動、配信の中断と停止、サーバの切り替え、データのリフレッシュを実行することができます。詳細は、[サーバステータス](#) および [ReportCaster フェールオーバーおよびワークロード分散の構成](#)を参照してください。

[Distribution Server] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

| 設定                                                                                                                                                    | オプションまたは必須/デフォルト値                             | 説明と有効値                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>第 1 Distribution Server セクション</b>                                                                                                                  |                                               |                                                                                     |
| ホスト                                                                                                                                                   | 必須                                            | 第 1 Distribution Server のホスト名です。                                                    |
| ポート                                                                                                                                                   | 必須                                            | 第 1 Distribution Server のポート番号です。                                                   |
| <b>第 2 Distribution Server</b><br>第 2 フェールオーバー Distribution Server のホスト名およびポート番号を表示します。[第 2 Distribution Server] テキストボックス右横のアイコンをクリックして、次の設定にアクセスします。 |                                               |                                                                                     |
| 有効                                                                                                                                                    | フェールオーバーサーバで必須です。<br><br>デフォルト設定では、有効ではありません。 | Distribution Server のフェールオーバー機能を有効または無効にします。                                        |
| ホスト                                                                                                                                                   | フェールオーバーを有効にする場合は必須です。                        | フェールオーバー Distribution Server のホスト名です。                                               |
| ポート                                                                                                                                                   | フェールオーバーを有効にする場合は必須です。                        | フェールオーバー Distribution Server のポート番号です。                                              |
| フェールオーバー間隔                                                                                                                                            | フェールオーバーを有効にする場合は必須です。<br><br>デフォルト値は 1 です。   | フェールオーバー Distribution Server が、第 1 Distribution Server が稼働中であるかどうかを確認する頻度 (分単位) です。 |

| 設定                                                                                                            | オプションまたは必須/デフォルト値                                        | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 サーバと第 2 サーバの同期にリポジトリを使用                                                                                   | デフォルト設定では選択されていません。                                      | <p><b>選択済み</b> 第 1 サーバと第 2 サーバは、WebFOCUS リポジトリ内のサーバステータスレコードを読み取り、更新するという方法で互いのサーバステータスをモニタします。</p> <p><b>未選択</b> 第 1 サーバと第 2 サーバは、ネットワーク経由で互いに通信します。サーバ間のネットワーク通信が切断され、第 2 サーバが第 1 サーバから応答を受信できない場合は、第 1 サーバがフルファンクションモードで稼動中でも、第 2 サーバ自体がフルファンクションモードに変更されます。</p> |
| <p><b>ワークロードの分散</b></p> <p>ワークロードの分散を有効にするかどうかを指定します。[ワークロードの分散] テキストボックス右のアイコンを選択すると、次の設定にアクセスすることができます。</p> |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 追加                                                                                                            | 必須 (新規エントリの追加)                                           | ワークロード分散に使用する別のサーバを追加することができます。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 削除                                                                                                            | オプション                                                    | ワークロード分散サーバを削除することができます。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 有効                                                                                                            | <p>必須 (ワークロードの分散を有効にする場合)</p> <p>デフォルト設定では、有効ではありません</p> | 複数の Distribution Server 間で ReportCaster ジョブを分散させるかどうかを指定します。                                                                                                                                                                                                        |

| 設定                                                                                                                                                                                           | オプションまたは必須/デフォルト値                              | 説明と有効値                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                              | せん。                                            |                                                                                                                                  |
| ワーカ名                                                                                                                                                                                         | 必須 (ワークロードの分散を有効にする場合)                         | ワーカ Distribution Server を識別する名前です。                                                                                               |
| ワーカ Distribution Server ホスト                                                                                                                                                                  | 必須 (ワークロードの分散を有効にする場合)                         | ワーカ Distribution Server のホスト名です。                                                                                                 |
| ワーカ Distribution Server ポート                                                                                                                                                                  | 必須 (ワークロードの分散を有効にする場合)<br><br>デフォルト値は 8200 です。 | ワーカ Distribution Server のポート番号です。                                                                                                |
| 制限する IP アドレス                                                                                                                                                                                 | オプション                                          | Distribution Server へのアクセスを 1 つまたは複数の IP アドレスに制限します。詳細は、 <a href="#">Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限</a> を参照してください。 |
| <b>最大スレッド</b><br><br>ReportCaster Distribution Server がスケジュール済みジョブの処理に使用できる同時接続 (スレッド) の数を制御します。デフォルト値は 3 です。この設定は、管理コンソールで構成することもできます。最大スレッド数としては、使用中のハードウェアおよびメモリでサポートされる任意の値を指定することができます。 |                                                |                                                                                                                                  |
| サーバ名                                                                                                                                                                                         | 必須 (1 つまたは複数のサーバが構成されている場合)                    | サーバの名前を表示します。                                                                                                                    |
| スレッド数 (接続)                                                                                                                                                                                   | 必須。デフォルト値                                      | 各サーバの同時接続数 (スレッ                                                                                                                  |

| 設定                                                                                    | オプションまたは必須/デフォルト値    | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数)                                                                                    | は 3 です。              | ド数) を表示します。                                                                                                                                                                                                                                      |
| その他のタスク                                                                               |                      | サーバベース以外のタスクです。                                                                                                                                                                                                                                  |
| [読み込み間隔]、[リカバリ]、[配信レポートが存在しない場合の処理]、[スケジュール禁止期間ジョブ停止処理]、[タスクあたりの最大データサーバメッセージ数] オプション |                      |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 読み込み間隔                                                                                | 必須<br>デフォルト値は 1 分です。 | <p>スケジュール済みジョブを確認する ReportCaster Distribution Server のポーリング間隔 (分) です。</p> <p>受容可能な値は、1 から 999999 の正の整数です。負の数および 0 (ゼロ) は許可されません。</p> <p><b>注意：</b>この設定は、管理コンソールで構成することもできます。</p>                                                                 |
| リカバリ                                                                                  | デフォルト値は [オフ] です。     | <p><b>オン</b> ReportCaster Distribution Server は、スタートアップ中に、スケジュール済みのジョブのうち、処理され完了していないものの回復処理を行います。</p> <p><b>オフ (デフォルト値)</b> ReportCaster Distribution Server は、スタートアップ中にスケジュール済みジョブの回復処理を行いません。</p> <p><b>注意：</b>この設定は、管理コンソールで構成することもできます。</p> |

| 設定                | オプションまたは必須/デフォルト値       | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   |                         | す。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 配信レポートが存在しない場合の処理 | 必須<br>デフォルト値は、[エラー] です。 | <p>配信するレポートが存在しない場合に WebFOCUS Reporting Server から送信される通知をエラーまたは警告のどちらかに指定します。この指定は、グローバルに設定されるため、すべてのスケジュールに影響します。利用可能な値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>エラー</b> 配信レポートが存在しない場合の通知をエラーとして区分し、ReportCaster ログレポートに赤色のメッセージを書き込みます。スケジュールの通知オプションが [エラー] に設定されている場合、通知が送信されます。</li> <li>• <b>警告</b> 配信レポートが存在しない場合の通知を警告として区分し、ReportCaster ログレポートにオレンジ色の情報メッセージを書き込みます。スケジュールの通知オプションが [警告] に設定されている場合、エラー通知は送信されません。</li> </ul> <p>これらの設定は、バーストレポートで特定のバースト値に配</p> |

| 設定                    | オプションまたは必須/デフォルト値                  | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       |                                    | <p>信レポートが存在しない場合のメッセージにも適用されます。</p> <p>複数のタスクで構成されたスケジュールでは、配信レポートが存在しない場合の通知がすべてのタスクで生成される場合に限り、この設定が適用されます。このスケジュールのいずれかのタスクでレポートが生成された場合は、この設定はログメッセージまたは通知に影響しません。</p>                                                                                                                  |
| スケジュール禁止期間ジョブ停止処理     | <p>必須</p> <p>デフォルト値は、[エラー] です。</p> | <p>スケジュール済みレポートの配信が、スケジュール禁止期間の設定により停止されている場合、このオプションを使用してエラー通知を Email で送信するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>エラー</b> エラー通知を指定した Email 受信者に送信します。</li> <li>• <b>警告</b> エラー通知を指定した Email 受信者に送信しません。</li> </ul> <p>詳細は、<a href="#">スケジュール禁止期間の使用</a>を参照してください。</p> |
| タスクあたりの最大データサーバメッセージ数 | <p>必須</p> <p>デフォルト値は 1000 です。</p>  | <p>データサーバから送信され、ReportCaster ログファイルに記述されるタスクのメッセージの数を制御します。</p>                                                                                                                                                                                                                             |



| 設定                  | オプションまたは必須/デフォルト値        | 説明と有効値                                                                                                                                                                          |
|---------------------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>スキャンバックセクション</b> |                          |                                                                                                                                                                                 |
| スキャンバックタイプ          | 必須<br>デフォルト値は [オン] です。   | 利用可能な値には、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• オン</li> <li>• オフ</li> <li>• 次回実行時間</li> </ul>                                                                      |
| スキャンバック間隔           | デフォルト値は 15 (24 時間単位) です。 | Distribution Server が一定期間使用不可の場合に、実行されていないジョブを Distribution Server がスキャンして実行する 24 時間間隔の値です。この時間間隔は、Distribution Server の再起動時点をゼロとして計算されます。<br><br>注意：この設定は、管理コンソールで構成することもできます。 |

| 設定                | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                      |
|-------------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>その他の設定フォルダ</b> |                   |                                                                                                                                                                             |
| このサーバには SSL 接続が必要 | オプション             | このチェックをオンにすると、ReportCaster アプリケーションと ReportCaster Distribution Server 間の通信が暗号化されます。セキュア通信を有効にし、変更を保存した後、ReportCaster アプリケーションと ReportCaster Distribution Server を手動で再起動する必要 |

| 設定                      | オプションまたは<br>必須/デフォルト値                         | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         |                                               | があります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| Trusted サーバ証明書<br>の貼り付け | 必須 ([このサーバ<br>には SSL 接続が必要]<br>のチェックをオンにした場合) | <p>デフォルトの SSL 証明書は、インストールプロセス中に提供されます。必要に応じてデフォルトの証明書をユーザ独自の証明書に置き換えて、セキュア接続を有効にすることもできます。</p> <p>これを実行するには、CA からのサーバの署名証明書または自己署名証明書を Distribution Server のキーストアにインポート後、キーストアから SSL 証明書をエクスポートする必要があります。</p> <p>SSL 証明書をエクスポート後、この証明書をこのテキストボックスに貼り付け、構成の変更を保存し、ReportCaster アプリケーションおよび ReportCaster Distribution Server を手動で再起動する必要があります。</p> |
| トレースを削除する<br>までの日数      | オプション。デ<br>フォルト値は 10<br>です。                   | 指定した日数が経過した trc、log、temp ディレクトリ内のファイルおよびフォルダは、Distribution Server により自動的に削除されます。これは、日単位のジョブログの削除および期限切れ ReportLibrary バージョンの削除と同時に実行されます。                                                                                                                                                                                                        |
| スケジュールジョ<br>ブトレース       | オプション。デ<br>フォルト値は [オ                          | Distribution Server トレースを有効にします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| 設定                              | オプションまたは<br>必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                 | フ] です。                | <ul style="list-style-type: none"> <li>• オフ トレースは無効です。</li> <li>• スケジュール スケジュールジョブの処理情報です。</li> <li>• スケジュールとレポート<br/>配信 Distribution Server<br/>にスケジュールジョブ処理<br/>情報およびレポート出力が<br/>返されます。</li> </ul>                                                |
| ジョブステータス<br>通知プラグイン             | オプション。                | ReportCaster ジョブステータス通知インターフェースを実装して、スケジュール済みジョブの開始または終了時に、Distribution Server にアクションの実行を指示する (例、Web サービスまたはその他のリスナに通知) カスタム Java クラス名です。詳細は、 <a href="#">ジョブステータス通知プラグインを構成するには</a> を参照してください。                                                     |
| Resource Analyzer の指標<br>情報を含める | オプション。                | <p>この機能を使用すると、Reporting Server から Resource Analyzer DBMS 統計が収集され、スケジュールログに表示されます。</p> <p><b>注意：</b> WebFOCUS Reporting Server で Resource Analyzer が構成されていない場合、この機能は動作しません。</p> <p>このチェックをオンにすると、ReportCaster ログに、Resource Analyzer DBMS 情報が含まれた</p> |

| 設定           | オプションまたは<br>必須/デフォルト値                | 説明と有効値                                                                                                                                                                                        |
|--------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              |                                      | メッセージが表示されます。このチェックをオフにすると、メッセージは表示されません。                                                                                                                                                     |
| リポジトリ接続を保持する | 必須<br><br>このオプションは、デフォルト設定で選択されています。 | <b>選択済み</b> データベースの接続が、スケジュールの実行 (アドレス帳情報の取得やログファイルへの情報の書き込みを含む) を通じて有効なままになります。<br><br><b>未選択</b> データベースの接続が、スケジュールの実行前に切断されます。スケジュールの実行後、新しい接続が確立され、[アドレス帳] 情報の取得や、ログファイルへの情報の書き込みが可能になります。 |

## ジョブステータス通知プラグインを構成するには

### 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[Distribution Server] フォルダを展開し、[その他の設定] フォルダをクリックします。

4. 前述の表を参照し、Distribution Server の各テキストボックスに値を入力します。
5. [ジョブステータス通知プラグイン] テキストボックスに、ジョブリスナインターフェースを実装するプログラムの名前を入力します。
6. [保存] をクリックします。  
指定したプログラムがスケジュールの開始時と終了時に呼び出され、このプログラムで設定されたカスタムアクションが実行されます。詳細は、Java マニュアルの `ibi.broker.scheduler.plugin` パッケージを参照してください。

## ReportCaster フェールオーバーおよびワークロード分散の構成

Distribution Server フェールオーバー機能を使用して、第 1 Distribution Server が (計画的または非計画的に) 中断した場合に、ReportCaster の処理を再開する第 2 Distribution Server を構成することができます。第 1 Distribution Server は常にモニタされ、サーバが稼動していることが確認されます。稼動中に中断が発生すると、フェールオーバー Distribution Server が開始され、第 1 サーバの役割を引き継ぎます。

ワークロードの分散機能を使用すると、ReportCaster がスケジュール済みジョブを複数の Distribution Server に配信できるようになります。これにより、大量の ReportCaster スケジュールを短時間で効率的に処理することができます。複数の Distribution Server インスタンスは、1 つまたは複数のホストにインストールすることができます。1 つのインスタンスがワークロードマネージャとして指定され、その他のインスタンスはワーカとして指定されます。WebFOCUS リポジトリは、ワークロードマネージャとワーカで共有されます。ワークロードの分散は、ReportCaster 構成ツールを使用して設定します。すべてのサーバは 1 つの構成情報を共有し、構成に変更が加えられると、ワークロードマネージャがその変更をワーカに配信します。

ReportCaster のアプリケーションでは、フェールオーバーおよびワークロード分散の一方または両方の機能を構成することができます。次の手順では、両方の機能の構成方法を説明していますが、これらの機能の一方のみを構成する場合は、指示に従ってその機能に関連する手順のみを実行します。

# Distribution Server フェールオーバーを構成するには

Distribution Server フェールオーバーを構成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。  
ReportCaster ステータスが開きます。
2. [構成] タブをクリックします。
3. 左側ウィンドウで [Distribution Server] フォルダをクリックします。
4. [第 2 Distribution Server] テキストボックス右側のボタンをクリックします。  
[第 2 Distribution Server] ダイアログボックスが開きます。を参照してください。
5. [有効] のチェックをオンにします。
6. 第 2 Distribution Server のホスト名、ポート番号、フェールオーバー間隔を入力します。
7. 必要に応じて、[第 1 サーバと第 2 サーバの同期にリポジトリを使用] のチェックをオンにします。
8. [OK] をクリックします。
9. 保存を要求された場合、[保存] をクリックし、続いて [OK] をクリックします。
10. 指定したホストおよびそのホストに指定したポート番号に Distribution Server をインストールします。

# ワークロード分散を構成するには

## 手順

1. ReportCaster ステータスを開き、上部ウィンドウで [構成] をクリックします。
2. 左側ウィンドウで [Distribution Server] フォルダをクリックします。

3. [ワークロードの分散] テキストボックス右側のボタンをクリックします。  
[ワークロードの分散] ダイアログボックスが開きます。を参照してください。
4. [有効] のチェックをオンにします。
5. [追加] をクリックします。
6. ワーカ名、ワーカ Distribution Server ホスト、ワーカ Distribution Server ポートを入力します。  
追加するワーカ Distribution Server インスタンスごとに上記の手順を繰り返します。
7. [OK] をクリックします。
8. 保存を要求された場合、[保存] をクリックし、続いて [OK] をクリックします。
9. 指定したホストおよびそのホストに指定したポート番号のそれぞれに Distribution Server をインストールします。

## Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限

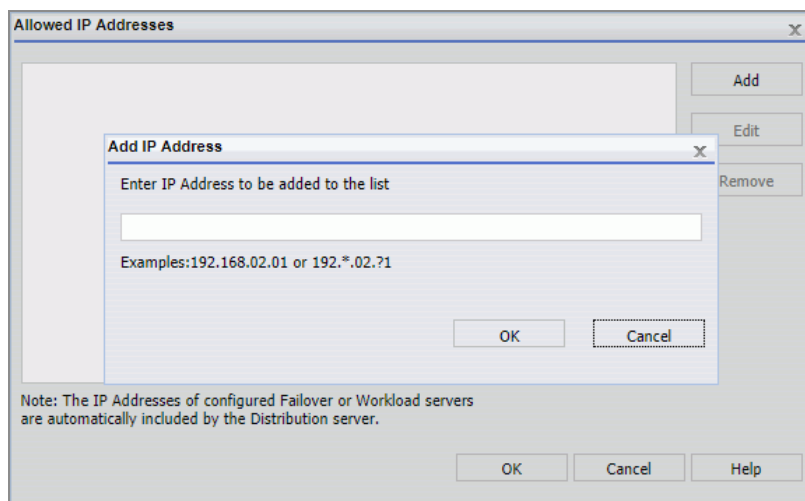
Distribution Server へのアクセス許可を、事前に選択した IP アドレスに制限することで、サーバに対するサービス拒否 (DoS) 攻撃を回避することができます。DoS 攻撃は、悪意のあるサイバー攻撃の 1 つで、複数の IP アドレスから送信するリクエストでサーバに過剰な負荷をかけ、サーバにアクセスする正規の IP アドレスを妨害する手法です。ReportCaster ステータスの [制限する IP アドレス] オプションを使用して、ネットワークのセキュリティを強化することができます。[制限する IP アドレス] テキストボックスに 1 つまたは複数の IP アドレスを入力すると、Distribution Server は指定されたアドレスからの TCP/IP リクエストのみを受容します。この設定のデフォルト値は空白です。

## IP アドレス制限を構成するには

### 手順

1. ReportCaster ステータスを起動します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。

3. [構成] ウィンドウで、[Distribution Server] をクリックします。  
[第 1 Distribution Server] オプションが表示されます。
4. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。  
[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。
5. [追加] をクリックします。  
下図のように、[IP アドレスの追加] ダイアログボックスが開きます。



6. IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。入力した IP アドレスが、[許可する IP アドレス] リストに追加されます。
7. IP アドレスをさらに追加する場合は、手順 5 から 6 を繰り返します。
8. [OK] をクリックして [許可する IP アドレス] リストを保存し、ReportCaster ステータスに戻ります。
9. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。
10. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

## IP アドレスを編集するには

### 手順

1. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。



[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。

2. 変更を加える IP アドレスを選択し、[編集] をクリックします。

[IP アドレス の編集] ダイアログボックスが開きます。

3. IP アドレスを変更し、[OK] をクリックします。
4. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。
5. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

## IP アドレスを削除するには

### 手順

1. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。  
[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。
2. 削除する IP アドレスを選択し、[削除] をクリックします。  
選択した IP アドレスが削除されます。
3. [OK] をクリックします。
4. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。
5. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

## 設定 - 全般

[構成] タブの [設定 - 全般] フォルダには、ユーザが使用可能なスケジュールタスク、配信フォーマット、配信方法を指定するための設定が格納されています。

[設定 - 全般] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

| 設定                          | オプションまたは必須/デフォルト値                             | 説明と有効値                                                                                                                                             |
|-----------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループスケジュール禁止期間の有効化          | 必須<br><br>このオプションは、デフォルト設定で選択されています。          | すべてのユーザを対象として定義するグローバル設定のほかに、グループレベルでのスケジュール禁止期間の定義を許可するかどうかを指定します。定義済みのグループスケジュール禁止期間を表示するには、このオプションを選択する必要があります。                                 |
| 次回実行時間をスケジュール禁止期間終了後の日付に設定  | オプション。デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。            | このオプションを選択すると、スケジュール禁止期間の実行でキャンセルされたスケジュール配信の繰り返し実行が、翌日の同じ時間に実行されます。詳細は、スケジュール禁止期間終了後のスケジュール実行日付の制御を参照してください。                                      |
| パラメータ化されたスケジュールの設定に従来の動作を使用 | オプション。<br><br>デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。    | スケジュール設定での変数の使用方法を従来の動作に戻します。このオプションを選択すると、Email の [件名] でのみ変数を使用できます。変数の値は、スケジュールとともに ReportCaster パラメータテーブルに格納された値に設定されます。ランタイム値は使用されません。         |
| スケジュールタスク                   | オプション。<br><br>デフォルト設定では、すべてのタスクタイプが有効になっています。 | ユーザによる使用を可能にするタスクタイプを指定します。すべてのアドバンストスケジュールのデフォルトスケジュールタスクは、WebFOCUS レポートです。アドバンストスケジュールツールでタスクを作成する場合、[新規作成] ボタンをクリックすると、選択したデフォルトタスクのダイアログボックスが表 |

| 設定       | オプションまたは必須/デフォルト値                         | 説明と有効値                                               |
|----------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------|
|          |                                           | 示されます。詳細は、 <a href="#">スケジュールタスク設定の指定</a> を参照してください。 |
| 配信フォーマット | オプション。<br>デフォルト設定では、すべてのフォーマットが有効になっています。 | ユーザによる使用を可能にするレポートとグラフのフォーマットを指定します。                 |
| 配信方法     | オプション。<br>デフォルト設定では、すべての配信方法が有効になっています。   | ユーザによる使用を可能にする配信方法を指定します。                            |

## スケジュールタスク設定の指定

[設定 - 全般] フォルダの [スケジュールタスク] の設定により、権限を所有するユーザは、ユーザおよびグループが利用できるタスクタイプを指定することができます。

デフォルト設定では、すべてのタスクタイプが有効 (選択) になっています。少なくとも 1 つのタスクタイプが選択されている必要があります。

### 注意：

- ユーザが特定のタスクでスケジュールを作成した後、この構成設定でそのタスクの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。
- ReportLibrary 配信のスケジュールでレポートのバーストを設定した後、バーストから非バーストに変更することはできません。同様に、非バーストからバーストに変更することもできません。この制限は、各 ReportLibrary 項目にバージョン番号が関連付

けられるためです。バースト設定を変更可能にすると、バージョン番号を 1 に再設定する必要があります。

## スケジュールタスク設定を指定するには

### 手順

1. [設定 - 全般] フォルダで、[スケジュールタスク] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。  
[ReportCaster - スケジュールタスク] ダイアログボックスが開きます。
2. 特定のタスクタイプを有効または無効にするには、次のオプションのチェックをオンまたはオフにします。
  - WebFOCUS レポート
  - WebFOCUS サーバプロシジャ
  - ファイル
  - URL
  - FTP
  - WebFOCUS スケジュール
3. 必要に応じて、アドバンススケジュールツールのデフォルトスケジュールタスクを選択します。デフォルト設定では、[WebFOCUS レポート] が選択されています。
4. ReportCaster Distribution Server による、選択解除したタスクタイプのスケジュール済みジョブの実行が必要ない場合は、[選択したタスクのスケジュールだけ実行] のチェックをオンにします。
5. [スケジュールタスク] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をクリックします。  
変更が保存され、[スケジュールタスク] ダイアログボックスが閉じます。
6. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および WebFOCUS Web アプリケーションを再起動する必要があります。

# スケジュールフォーマット設定の指定

[設定 - 全般] フォルダの [配信フォーマット] の設定により、ユーザが使用可能なレポートとグラフのフォーマットを指定することができます。

この設定は、WebFOCUS (リポジトリ) プロシジャにのみ適用されます。デフォルト設定では、すべてのレポートおよびグラフフォーマットが有効 (選択) になっています。少なくとも 1 つのレポートまたはグラフフォーマットが選択されている必要があります。

**注意：**ユーザが特定のフォーマットでスケジュールを作成した後、この構成設定でそのフォーマットの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。

## スケジュールフォーマットを設定するには

### 手順

1. [設定 - 全般] フォルダで、[配信フォーマット] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。  
[ReportCaster - レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
2. ドロップダウンリストを使用して、[スタイルフォーマット]、[スペシャルフォーマット]、[スタイルなしフォーマット]、または [グラフィイメージ] を選択することができます。デフォルト設定の [スタイルフォーマット] をそのまま使用することもできます。  
デフォルト設定では、スタイルフォーマットは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。
3. スタイルフォーマットを有効または無効にするには、各フォーマットのチェックをオンまたはオフにします。
4. スタイルなしフォーマットを有効または無効にするには、ドロップダウンリストから [スタイルなしフォーマット] を選択します。スタイルなしフォーマットは、WebFOCUS スタイルシートコマンドを使用するスタイルをサポートしないフォーマットです。デフォルト設定では、スタイルなしフォーマットは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。
5. グラフィイメージを有効または無効にするには、ドロップダウンリストから [グラフィイメージ] を選択します。デフォルト設定では、グラフィイメージは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。
6. [レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をク

リックします。

変更が保存され、[レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスが閉じます。

7. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および ReportCaster を再起動する必要があります。

## スケジュール配信方法の設定

権限を所有するユーザは、[設定 - 全般] フォルダの [配信方法] 設定で、ユーザやグループがスケジュールの作成時に使用可能な配信方法を指定することができます。特定の配信方法でスケジュールが作成された後、その配信方法の選択を解除し、[選択した配信方法のスケジュールだけ実行] のチェックをオンにした場合、そのスケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、配信方法が構成されていないことが示されます。また、1つのスケジュールに複数の配信方法が指定されている場合、[構成] タブの [設定 - 全般] フォルダの [配信方法] 設定で、これらの配信方法のいずれかのチェックをオフにすると、そのスケジュールが実行されなくなります。

デフォルト設定では、すべての配信方法が有効 (選択) になっています。

**注意：**少なくとも1つの配信方法が選択されている必要があります。

[リポジトリ] オプションは、この製品コンポーネントが使用可能な場合にのみ表示されます。リポジトリは、WebFOCUS Client とともにインストールされる製品コンポーネント (オプション) です。

## スケジュール配信方法を設定するには

### 手順

1. [設定 - 全般] フォルダで、[配信方法] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。

[ReportCaster - スケジュール配信方法] ダイアログボックスが開きます。

2. 配信方法を有効または無効にするには、各フォーマットのチェックをオンまたはオフにします。

**注意：**少なくとも1つの配信方法を選択する必要があります。

3. 必要に応じて、[選択した配信方法のスケジュールだけ実行] のチェックをオンにすることで、実行するスケジュールを、この設定で選択された配信方法に限定することがで

きます。

4. [スケジュール配信方法] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をクリックします。

変更が保存され、[スケジュール配信方法] ダイアログボックスが閉じます。

5. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および ReportCaster Web アプリケーションを再起動する必要があります。

## Email 配信

[構成] タブの [Email 配信] フォルダには、デフォルト Email 設定、Email 再試行オプション、Email セキュリティなどの設定が格納されています。

[Email 配信] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

| 設定           | オプションまたは必須/デフォルト値        | 説明と有効値                                                                                                                                                                                         |
|--------------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 埋め込みレポート配信   | 必須<br>デフォルト値は [許可する] です。 | <p>スケジュールツールで、Email 本文としてレポートを送信する Email 配信方法を有効にするかどうかを指定します。</p> <p><b>注意：</b>ユーザがこのオプションを使用してスケジュールを作成した後、この構成設定でそのオプションの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。</p> |
| Email のパケット化 | 必須<br>デフォルト値は [はい] です。   | <p>タスクの出力およびバーストコンテンツの Email での配信方法を制御します。</p> <p>有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>いいえ</b> バースト値またはタ</li> </ul>                                                  |

| 設定                   | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      |                   | <p>スク出力のそれぞれを、別の Email で配信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>はい</b> 複数のバースト値や複数のタスクによる出力は、複数のファイルが添付された 1 通の Email として配信されます。</li> <li>• <b>バースト</b> 配信リストのバースト値ごとに、指定したアドレスへの個別の Email が生成されます。スケジュールのタスク数によっては、Email に 1 つまたは複数のファイルが添付される場合があります。</li> </ul>                                                                    |
| 許可する Email ドメインとアドレス | デフォルト値は [オフ] です。  | <p>配信で使用可能な Email ドメインおよびアドレスを格納します。</p> <p>[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにすると、ユーザの Email アドレスおよびドメインの入力が、リストに保存された許可アドレスおよびドメインに制限されます。詳細は、<a href="#">許可する Email ドメインおよびアドレスの確認</a>を参照してください。</p> <p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保存済みのベーシックスケジュール、アドバンスドスケジュール、配信リスト、配信ファイル、ダイナミック配信リストの Email アドレスを編集する前に、このリストが変</li> </ul> |



| 設定                                 | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                    |                   | <p>更された場合、新しい Email アドレスおよびドメインが現在有効かどうかシステムによって確認されます。無効な Email アドレスまたはドメインを入力すると、保存する前にこの Email アドレスまたはドメインを変更するよう要求されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 配信用のファイルに Email アドレスを格納している場合、ファイル内の有効なドメインはスケジュールの実行時に確認されます。配信が制限された Email アドレスがファイル内に存在する場合、そのアドレスには配信されず、ログファイルにエラーメッセージが書き込まれます。</li> </ul> |
| Email 配信をスケジュールオーナーの Email アドレスに制限 | オプション。            | <p>Email 配信をスケジュールオーナーの Email アドレスに制限する場合は、このチェックをオンにします。</p> <p><b>注意：</b>セキュリティセンターでスケジュールオーナーの Email アドレスが指定されていない場合、スケジュールを保存することはできません。</p>                                                                                                                                                                          |
| 配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する             | オプション。            | <p>配信レポートをパスワード保護の ZIP ファイルに変換する場合は、このチェックをオンにします。パスワードは、配信ファイルまたはダイ</p>                                                                                                                                                                                                                                                  |

| 設定             | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                |                   | <p>ナミック配信リストで提供するか、ZIP 暗号化プラグイン経由で提供することができます。パスワードが作成されていない場合、レポートは配信されません。Distribution Server は、このルールをすべてのスケジュールに強制的に適用します。これには、このチェックをオンにする前に作成されたスケジュールも含まれます。</p> <p><b>注意：</b>このチェックをオンにすると、[埋め込みレポート配信] が無効になります。[埋め込みレポート配信] を有効にすると、[配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する] のチェックがオフになります。</p> <p>また、[配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する] のチェックをオンにした場合、ベーシックおよびアドバンススケジュールツールで作成するスケジュールの [配信] タブで、[ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックがデフォルト設定でオンになります。</p> |
| 添付メッセージのカスタマイズ | オプション。            | カスタムメッセージの指定を可能にします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| デフォルト添付メッセージ   | 必須                | <p>Email 配信で使用するデフォルトメッセージを指定します。ここで指定したメッセージがベーシックスケジュールツールに表示されます。</p> <p><b>注意：</b>デフォルトメッセージをカス</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

| 設定                       | オプションまたは必須/デフォルト値              | 説明と有効値                                                                                                                                |
|--------------------------|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                          |                                | タマイズした場合、指定した新しいメッセージが新規スケジュールのデフォルトメッセージになります。                                                                                       |
| <b>メールサーバのデフォルトセクション</b> |                                |                                                                                                                                       |
| メールサーバ                   | 必須                             | Email スケジュールの配信に使用するデフォルトのメールサーバ名です。<br><br>メールホストのポートを、「hostname:port」の形式で指定することもできます。ポートを指定しない、または指定したポートが存在しない場合は、デフォルトポートが使用されます。 |
| このサーバには SSL 接続が必要        | オプション。                         | 指定したメールサーバが SSL を使用する場合は、このチェックをオンにします。                                                                                               |
| このサーバには TLS 接続が必要        | オプション。                         | 指定したメールサーバが TLS を使用する場合は、このチェックをオンにします。                                                                                               |
| このサーバには 認証情報が必要          | オプション。                         | 指定したメールサーバでユーザ ID とパスワードによる認証が必要な場合は、このチェックをオンにします。パスワード認証と OAuth2 認証を切り替えることもできます。                                                   |
| SMTP ユーザ ID/パスワード        | メールホストで SMTP 認可を使用している場合は必須です。 | メールホストとの接続に使用するユーザ ID とパスワードです。<br><br><b>注意：</b> SMTP 認証は、Email スケジュール配信および ReportLibrary                                            |

| 設定                         | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                            | デフォルト値は設定されていません。 | 通知 Email でのみサポートされます。                                                                                                                                                                                                              |
| SMTP セキュリティプラグイン           | オプション。            | <p>ReportCaster の SMTP セキュリティインターフェースを実装して、SMTP サーバとの接続に必要なユーザ ID とパスワードを動的に取得するカスタム Java クラス名です。詳細は、<a href="#">Email 配信を構成するには</a>を参照してください。</p> <p><b>注意：</b>SMTP 認証は、Email スケジュール配信および ReportLibrary 通知 Email でのみサポートされます。</p> |
| <b>Email 返信のデフォルトセクション</b> |                   |                                                                                                                                                                                                                                    |
| Email 送信者                  | オプション。            | [Email 送信者] テキストボックスのデフォルト値です。任意の値を使用することができます。                                                                                                                                                                                    |
| Email 返信アドレス               | オプション。            | <p>Email スケジュールを作成する際のデフォルト Email 返信アドレスです。</p> <p><b>注意：</b>[Email 返信アドレス] を指定しない場合、WebFOCUS にログイン済みのユーザの Email アドレスが、ベーシックおよびアドバンスドスケジュールツールで使用するデフォルト返信アドレスになります。ReportCaster は、WebFOCUS セキュリティシステムからユーザの Email アドレスを取得します。</p> |

| 設定                    | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Email 再試行セクション</b> |                   |                                                                                                                                                                                                                |
| Email 再試行             | デフォルト値は 1 です。     | <p>レポート出力を配信する際に Distribution Server がメールサーバとの接続を試みる回数です。</p> <p>Distribution Server が最初の試行でメールサーバに接続できなかった場合、[Email 再試行間隔] で指定した時間が経過した後、再度接続を試みます。接続を試行するたびにログファイルにメッセージが書き込まれます。</p> <p>有効値は 0 から 9 です。</p> |
| Email 再試行間隔 (秒)       | デフォルト値は 60 秒です。   | <p>Distribution Server が次の接続の再試行まで待機する時間です。</p> <p>有効値は 1 から 999 です。</p>                                                                                                                                       |
| <b>Email 再接続セクション</b> |                   |                                                                                                                                                                                                                |
| SMTP サーバが切断された場合再接続する | デフォルト値は [はい] です。  | <p>この値が [はい] に設定されている場合、Distribution Server は、SMTP サーバへの再接続を 3 回試行し、Email 送信を再開します。再接続試行が 3 回とも失敗した場合、Distribution Server は処理を停止し、エラーメッセージがログに書き込まれます。</p> <p>この値が [いいえ] に設定されている場合、再接続は試行されません。</p>           |
| 接続あたりのメッセージ数          | デフォルト値は 0 です。     | <p>この値が 0 (ゼロ) に設定されている場合、1 回の接続で送信可能なメッ</p>                                                                                                                                                                   |

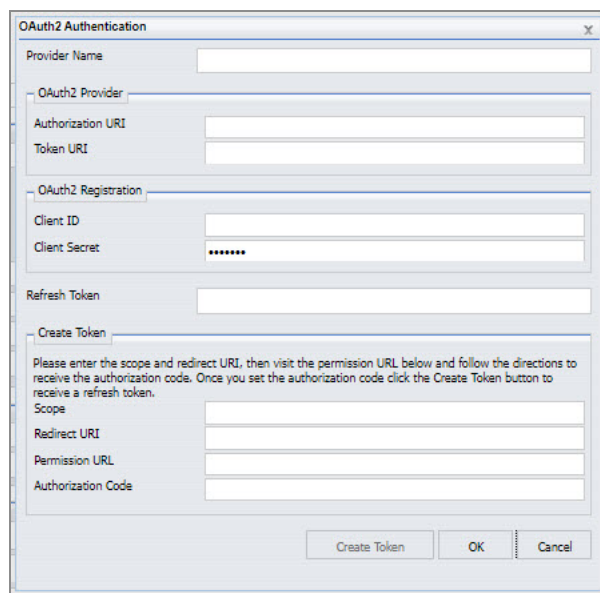
| 設定 | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                            |
|----|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                   | <p>ページ数に上限はありません。</p> <p>この設定が 0 (ゼロ) 以外の数値に設定されている場合、Distribution Server は、ここで指定した数の Email メッセージを1回の接続で送信することができます。送信できなかった Email は、新しい接続で送信することができます。必要に応じて何度でも接続することができます。</p> |

## Email 配信を構成するには

### 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。  
**注意：**権限を所有するユーザは、管理コンソールから ReportCaster 構成ツールにアクセスすることもできます。
3. 左側ウィンドウで、[Email 配信] フォルダを選択します。
4. Email 配信の各テキストボックスに値を入力します。次のことが可能です。
  - 現在の Email 設定を変更します。詳細は、前述の表を参照してください。
  - スケジュール作成時のデフォルト値を設定する場合は、その値を入力します。
5. メールサーバに認証情報、SSL、TLS が必要な場合は、それぞれ該当する項目のチェックをオンにし、認証情報を入力します。デフォルトの実装を使用する場合は、[SFTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには](#)を参照してください。
6. [保存] をクリックします。

## OAuth2 認証を構成するには



1. [OAuth2 認証] 構成アイコンを選択します。  
[OAuth2 認証] ウィンドウが開きます。
2. [プロバイダ名] テキストボックスに、プロバイダ名を入力します。
3. [認可 URI]、[トークン URI]、[クライアント ID]、[クライアントシークレット] テキストボックスに、それぞれの値を入力します。
4. [範囲] テキストボックスで、OAuth2 認証の範囲を設定します。
5. [リダイレクト URL] テキストボックスに、リダイレクト URL を入力します。
6. 上記の設定が完了すると、[アクセス許可 URL] テキストボックスに値が自動的に入力されます。
7. [アクセス許可 URL] で指定した URL をブラウザで開き、指示に従って認証コードを取得します。
8. [認証コード] テキストボックスに、手順 7 で取得した認証コードを入力します。
9. [トークンの作成] ボタンを選択し、リフレッシュトークンを生成します。
10. [OK] をクリックし、構成を保存します。

# SMTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには

**注意：**WebFOCUS バージョン 9 では、SMTP セキュリティプラグインのデフォルト実装で提供される機能は、スケジュールツールのメールサーバオプションを使用して、スケジュール内で有効にすることができます。

## 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[Email 配信] フォルダを選択します。
4. [SMTP セキュリティプラグイン] テキストボックスに次の値を入力します。

```
ibi.broker.scheduler.plugin.DefaultSMTPSecurityExit
```

5. [保存] をクリックします。
6. 次のフォーマットを使用して、「smtp\_security\_exit.txt」というファイルを作成します。

```
HOSTNAME, AUTHORIZATION REQUIRED(Y,N),USERNAME,PASSWORD,SSL(Y,N),TLS  
(Y,N)
```

7. smtp\_security\_exit.txt ファイルを、...¥ReportCaster¥cfg ディレクトリにコピーします。
8. Distribution Server を再起動します。

## 結果

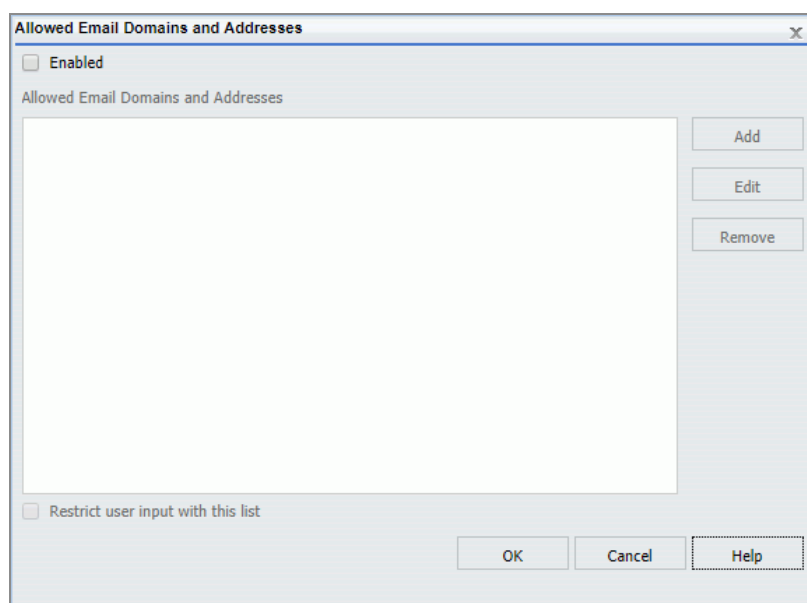
smtp\_security\_exit.txt ファイルにメールサーバ (ホスト名) が存在し、AUTHORIZATION REQUIRED フラグが Y に設定されている場合、メールサーバの認証には、ファイル内のユーザ名とパスワードが使用されます。SSL フラグが Y に設定されている場合、SSL が使用されます。TLS フラグが Y に設定されている場合、TLS が使用されます。



# 許可する Email ドメインおよびアドレスの確認

Email でレポートを送信する場合、ユーザの Email ドメインおよびアドレスの選択を定義済みのリストに制限することができます。

下図は、このオプションが利用可能な ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスを示しています。



[有効] のチェックをオンにすると、Email 配信が、有効な Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。このリストが有効な場合、ユーザがこのリストに存在しない Email アドレスを入力すると、ReportCaster ジョブは保存されません。

[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにすると、ユーザはこのリストで選択した Email ドメインとアドレスのみ使用することができ、他のユーザに対する Email 配信制限のレイヤを追加することができます。

**注意：**[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにするためには、[有効] のチェックをオンにする必要があります。

## 無効な Email アドレスおよびドメインの例

この例では、管理者が次の Email アドレスと Email ドメインを [許可する Email ドメインとアドレス] リストに追加した場合を想定します。

- john@ibi.com
- roger@ibi.com
- @gmail.com
- @yahoo.com

これらをリストに追加することで、有効なユーザ入力と無効なユーザ入力が定義されます。

## 無効な Email アドレス

たとえば、john@ibi.com がこのリストに追加されているため、ユーザが大文字の「J」を使用して、「John@ibi.com」と入力した場合も、この Email アドレスは有効になります。これは、[許可する Email ドメインとアドレス] の機能が、大文字と小文字を区別しないためです。

一方、ユーザが、リストに追加された 2 つの Email アドレスを組み合わせ、「johnroger@ibi.com」と入力した場合、この Email アドレスは無効になります。これは、この特定の Email アドレスがリストに追加されていないためです。

## 無効な Email ドメイン

ドメインアドレスの入力では、ユーザが、Email ドメインの「@gmail.com」を使用した任意の Email アドレスを入力した場合、アドレスは有効になります。これは、「@gmail.com」はリストに追加されたドメインに該当するためです。

一方、ユーザが、Email ドメインの「@outlook.com」を使用した任意の Email アドレスを入力した場合、アドレスは無効になります。これは、「@outlook.com」はリストに追加されたドメインに該当しないためです。

## Email ドメインおよびアドレスの制限

次の場合、制限が適用されます。

- ベーシックおよびアドバンススケジュールツールでの Email 配信オプションの編集  
下図は、ベーシックおよびアドバンススケジュールツールでの Email 配信オプショ

ンを示しています。[入力はこのリストに制限する] のチェックをオンにした場合、[選択]、[送信者]、[返信アドレス] テキストボックスをクリックして、Email アドレスを選択したり、入力したりできます。

- ベーシックおよびアドバンススケジュールツールでの通知 Email オプションの編集

下図は、ベーシックおよびアドバンススケジュールツールでの通知 Email オプションを示しています。[入力はこのリストに制限する] のチェックをオンにした場合、[返信アドレス]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] テキストボックスをクリックして、Email アドレスを選択したり、入力したりできます。

- 配信リストへの新規メンバーの追加

下図は、配信リストの [新規メンバーの追加] ダイアログボックスを示しています。[入力はこのリストに制限する] のチェックをオンにした場合、[Email アドレス] テキストボックス横の [...] (参照) ボタンをクリックして、Email アドレスを選択したり、入力したりできます。

次のファイルタイプにも制限が適用されます。

- **配信ファイル** 外部配信ファイルをインポートした場合、このファイルの Email リストは、[許可する Email ドメインとアドレス] リストと照合されます。
- **ダイナミック配信リスト** ダイナミック配信リストを作成した場合、このリストに使用するために選択された Email アドレスは、[許可する Email ドメインとアドレス] リストと照合されます。

## Email アドレスの選択ダイアログボックス

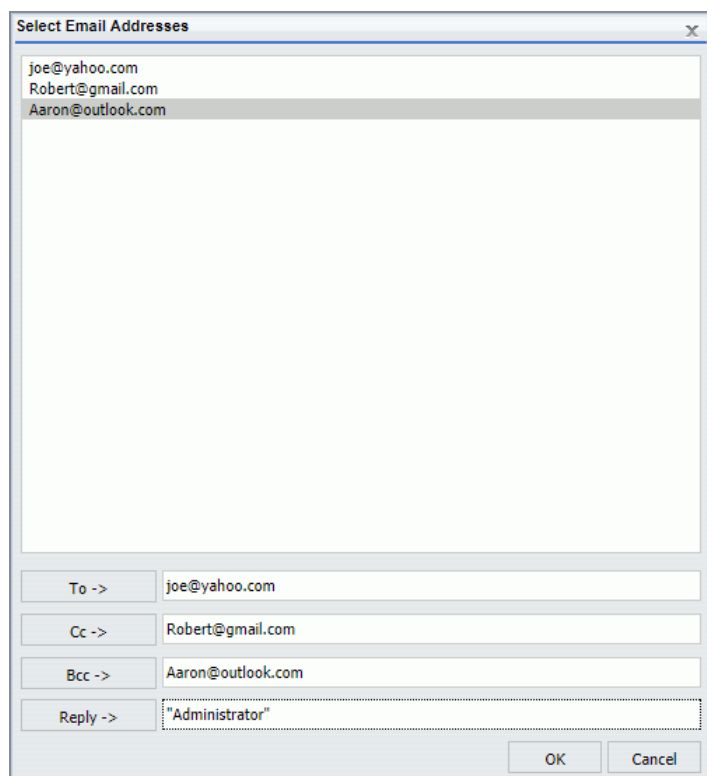
[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにした場合、[選択]、[送信者]、[返信アドレス]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先]、または [...] (参照) ボタンをクリックすると、3 つのダイアログボックスのいずれかが表示されます。表示されるダイアログボックスは、[許可する Email ドメインとアドレス] リスト内の Email ドメインおよびアドレス情報のタイプによって異なります。

### 注意：

- [選択]、[送信者]、[返信アドレス]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] テキストボックスには、複数の Email アドレスを入力することができます。
- [Email アドレスの選択] ダイアログボックスの Email アドレスの選択を取り消すには、Ctrl キーを押しながら Email アドレスを選択します。

## Email アドレスのみのリスト

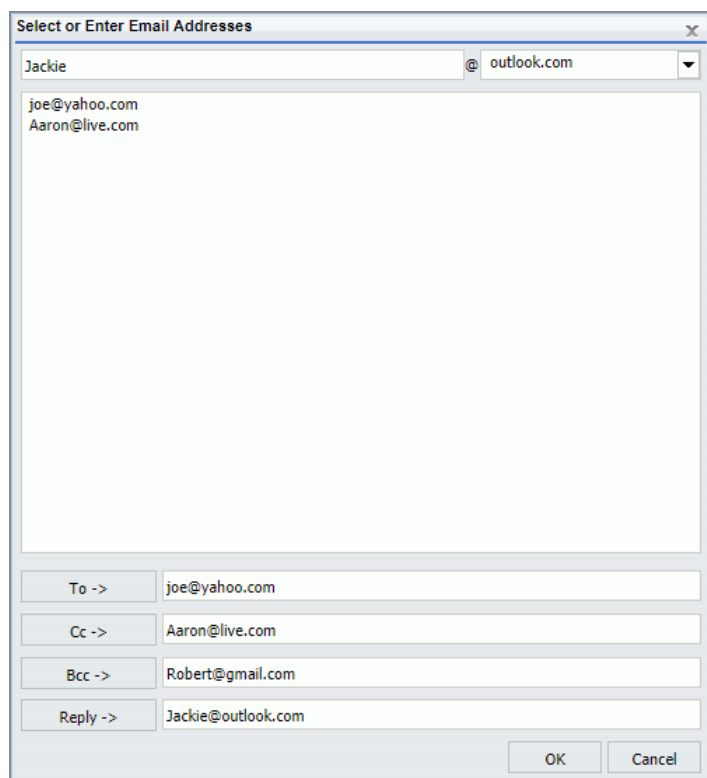
[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email アドレスのみが含まれる場合、下図のように、[Email アドレスの選択] ダイアログボックスを使用して、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] テキストボックスで Email アドレスを選択することができます。



Email アドレスの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

## Email ドメインとアドレスのリスト

[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email ドメインとアドレスの両方が含まれる場合、[Email アドレスを選択または入力] ダイアログボックスで、Email アドレスのリストから選択することができます。このダイアログボックスでは、下図のように、特定のドメインの Email アドレスを作成することもできます。



Email アドレスの選択または Email アドレスの入力とドメインの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

## Email ドメインのみのリスト

[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email ドメインのみのが含まれる場合、下図のように、入力ダイアログボックスで Email ドメインを選択し、Email アドレスの名前を入力することができます。

Enter Email Addresses

Jackie

@ gmail.com

Select an email domain and enter the name of the email address

gmail.com

live.com

outlook.com

yahoo.com

To ->

joe@outlook.com

Cc ->

Aaron@live.com

Bcc ->

Robert@yahoo.com

Reply ->

Jackie@gmail.com

OK

Cancel

Email アドレスの入力およびドメインの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

# 通知

[構成] タブの [通知] フォルダには、デフォルト通知設定が格納されています。

| 設定            | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                      |
|---------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 通知のデフォルトセクション |                   |                                                                             |
| 通知メールサーバ      | オプション。            | 通知 Email を配信するメールサーバ名です。何も指定しない場合、ReportCaster は通知メールサーバとしてメールホストの設定を使用します。 |

| 設定         | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            |                   | <p><b>ヒント：</b>通知および Email 配信には、異なるメールサーバを使用することをお勧めします。異なるサーバを使用することにより、メールホストに問題が生じても通知が配信されるためです。個別のメールサーバを利用すると、デフォルトのメールサーバに問題が生じた場合、通知されます。</p> <p>通知メールホストのポートを、「hostname:port」の形式で指定することもできます。ポートを指定しない、または指定したポートが存在しない場合は、デフォルトポートが使用されます。</p>                                                                                     |
| デフォルト通知タイプ | デフォルト値は [なし] です。  | <p>スケジュールステータスの通知を、指定済みの Email アドレスに送信するかどうかを指定します。利用可能な値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>なし</b> これがデフォルト値です。スケジュールステータスの通知が送信されることはありません。</li> <li>• <b>エラー時</b> スケジュールジョブの実行中にエラーが発生した場合、指定したユーザに通知が送信されます。通常は、[エラー時] 通知オプションの使用をお勧めします。</li> <li>• <b>常に通知</b> スケジュールが実行されるたびに指定したユーザに通知が送信されます。</li> </ul> |



| 設定           | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              |                   | 注意：この設定は、管理コンソールで構成することもできます。                                                                                                                                                                                                                                               |
| 簡易通知のみを有効にする | オプション。            | <p>スケジュールオプションとして [詳細通知] を使用可能にするかどうかを制御します。このチェックをオンにした場合、ユーザがレポートをスケジュールする際に、[簡易通知] オプションのみが選択可能になります。[詳細通知] オプションは選択不可になります。</p> <p>注意：詳細通知が無効になると、メッセージがログに表示されます。詳細通知が無効になる前にスケジュールが作成された場合、そのスケジュールの実行時に簡易通知が送信され、スケジュールログに警告メッセージが表示されます。</p>                        |
| システム通知を有効にする | オプション。            | <p>フェールオーバーイベントが発生した場合、Distribution Server がフェールオーバーモードからフルファンクションモードに変更された場合、または Distribution Server が停止した場合に、指定された管理者に通知を送信するかどうかを制御します。</p> <p>このオプションを選択した場合、この構成を保存する前に [システム通知] セクションの各テキストボックスに値を入力する必要があります。</p> <p>Distribution Server がフェールオーバーからフルファンクションモード</p> |

| 設定                 | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                    |                   | <p>に変更されると、Email 本文は次のように表示されます。</p> <p>&lt;Host&gt;:&lt;Port&gt; Distribution Server はフェールオーバーモードからフルファンクションモードに切り替えられました。</p> <p>Distribution Server が停止すると、Email 本文は次のように表示されます。</p> <p>&lt;Host&gt;:&lt;Port&gt; Distribution Server を停止します。</p> |
| <b>システム通知セクション</b> |                   |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 管理 Email アドレス      | 必須                | システム通知の送信先となるデフォルト管理 Email アドレスを入力します。この値は必須です。                                                                                                                                                                                                      |
| 送信者                | オプション。            | システム通知の送信元となるデフォルト Email アドレスを入力します。この値は必須ではありません。                                                                                                                                                                                                   |
| 返信 Email アドレス      | 必須                | Email 受信者の返信先となるデフォルト返信 Email アドレスを入力します。この値は必須です。                                                                                                                                                                                                   |
| Email 件名           | オプション。            | デフォルトの Email 件名を入力します。この値は必須ではありません。                                                                                                                                                                                                                 |

## 通知を構成するには

### 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。  
**注意：**権限を所有するユーザは、管理コンソールから ReportCaster 構成ツールにアクセスすることもできます。
3. 左側ウィンドウで、[通知] フォルダを選択します。
4. 通知の各テキストボックスに値を入力します。次のことが可能です。
  - 現在の通知設定を変更します。詳細は、前述の表を参照してください。
  - スケジュール作成時のデフォルト値を設定する場合は、その値を入力します。
5. [保存] をクリックします。

## FTP の設定

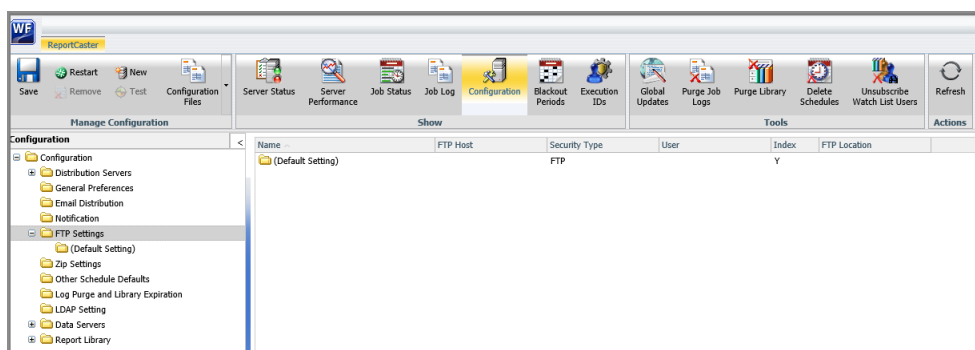
[構成] タブの [FTP の設定] フォルダには、FTP サーバにリンクされた配信ディレクトリノードをターゲットとする、ReportCaster の FTP 配信スケジュールおよびリポジトリ配信スケジュールで使用可能な FTP サーバ構成のリストが格納されています。FTP の設定には、FTP サーバの名前およびネットワークパスを示す詳細情報も含まれます。また、FTP サーバへのアクセスが可能なユーザ名、およびサーバ接続セキュリティの設定についての詳細も含まれます。

定義済み FTP の設定構成は、ベーシックおよびアドバンスド配信スケジュールで使うことができます。また、配信するスケジュール済みレポートコンテンツを FTP サーバに転送するために設定された配信ディレクトリノードに割り当てすることもできます。

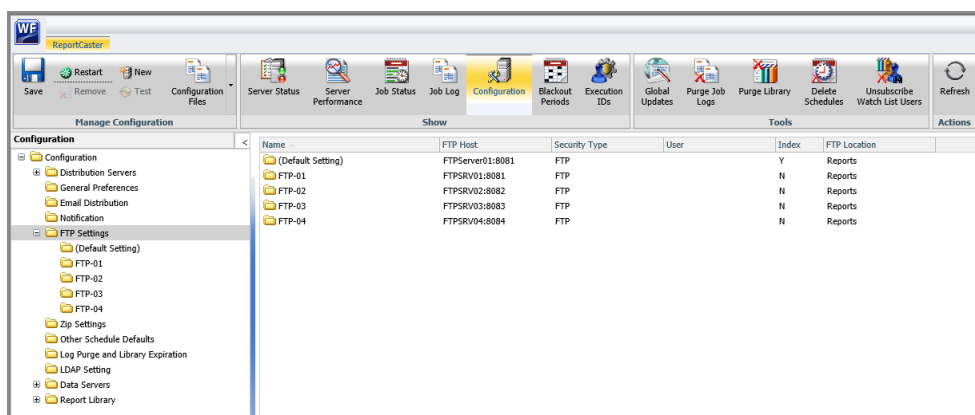
スケジュール済み ReportCaster 出力を FTP サーバに転送することで、組織は負担の少ない FTP プロトコルによる高速で効率的なファイル転送処理を利用することができ、ファイル転送時にユーザ ID およびパスワード保護されたセキュリティを維持することもできます。

## FTP の設定ユーザインターフェースの理解

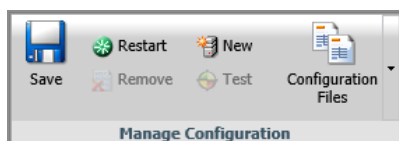
FTP サーバ構成が定義されていない場合、下図のように、[FTP の設定] フォルダには [(デフォルト設定)] という単一フォルダのみが格納されています。



ReportCaster は、レポート出力を複数の FTP サーバに転送することができますが、ユーザ定義の FTP 設定構成が作成されている場合、管理者は、ベーシックおよびアドバンススケジュールツールで使用するデフォルトサーバとしてこれらの中から 1 つを指定する必要があります。組織で単一の FTP サーバを使用し、FTP サーバの選択を定義済み FTP 設定に制限している場合、この FTP の設定構成のみが必要です。追加の FTP サーバ構成が定義されると、下図のように、[FTP の設定] フォルダ下に個別のフォルダが表示されます。他の FTP サーバ構成を追加することはできますが、デフォルト構成は常に [(デフォルト設定)] フォルダで定義されます。



下図のように、[構成の管理] グループの [構成] タブのオプションを使用して、FTP の設定構成フォルダを作成、更新、削除することができます。



- **新規作成** [FTP の設定] ダイアログボックスが開き、新しい FTP の設定構成を定義するオプションが表示されます。
- **保存** 新しい FTP の設定構成および更新された FTP の設定構成を保存します。
- **削除** FTP の設定構成を削除します。

- **再起動** FTP の設定構成を変更するたびに、Distribution Server を自動的に停止、再起動することで、各変更の登録を完了します。
- **テスト** 選択したサーバまたはリポジトリとの接続をテストします。このオプションは、FTP の構成には関係しません。
- **構成ファイル** ReportCaster 構成ファイルを表示およびダウンロードするオプションが選択できます。このオプションは、FTP の構成には関係しません。

なお、FTP の設定構成の変更後、これらの変更を ReportCaster の [構成] タブで確認するためには、ReportCaster および WebFOCUS を終了し、WebFOCUS Application Server を停止、再起動する必要があります。

[構成の管理] グループの各オプションは状況依存型であるため、各オプションのアクションが関係する場合のみ選択可能になります。たとえば、左側ウィンドウで FTP サーバフォルダをクリックすると、既存の FTP の設定構成に対応するアクションとして、[削除]、[再起動]、[保存] のオプションがすべてフルカラーで表示され、利用可能になります。

## FTP 構成の詳細情報の理解

左側ウィンドウで、各 FTP の設定フォルダをクリックすると、右側ウィンドウにこの FTP 設定構成の詳細情報が表示されます。

FTP の設定構成では、FTP プロトコルを使用してファイルの送受信が可能な FTP クライアントを備えたサーバの名前およびパスを定義します。構成には、このサーバの FTP クライアントへのアクセスに必要なユーザ ID とパスワード、および必要なセキュリティプロトコルも含まれます。

下表は、[FTP の設定] フォルダで指定可能な構成設定の一覧および説明です。

| 設定 | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                   |
|----|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前 | 必須                | <p>構成ツリーで、この FTP 設定構成を識別するフォルダの名前です。</p> <p>この値は、ReportCaster 内でのみ表示されます。実際の FTP サーバ名を使用することも、サーバ構成を</p> |

| 設定               | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                  |                   | 一意に識別する別の値を使用することもできます。<br><br>FTP の設定構成には、それぞれ一意の名前を指定する必要があります。                                                                                                                                                        |
| FTP ホスト          | 必須                | FTP スケジュールを作成する際の FTP サーバ名です。<br><br>デフォルト以外のポート番号を指定する場合は、「hostname:port」の形式を使用します。                                                                                                                                     |
| FTP パス           | オプション             | FTP スケジュールを作成する際の FTP パス (ディレクトリ) です。                                                                                                                                                                                    |
| ユーザ              | 必須                | FTP ファイル転送の実行権限を所有するユーザの ID およびパスワードです。<br><br>ユーザの設定にアクセスするには、[ユーザ] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。表示される [ユーザ] ダイアログボックスで、ユーザ名とパスワードを入力することができます。<br><br><b>注意：</b> このテキストボックスに割り当てる名前とパスワードは、この構成で識別される FTP サーバでも定義する必要があります。 |
| SFTP セキュリティプラグイン | オプション             | ReportCaster SFTP セキュリティインターフェースを実装して、セキュア FTP サーバとの接続に必要なパブリックキーの値を動的に取得するカスタム Java クラス名です。                                                                                                                             |

| 設定                           | オプションまたは必須/デフォルト値                                                                      | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バーストレポートの配信時にインデックスファイルを作成する | 必須<br><br>このオプションは、デフォルト設定で選択されています。                                                   | このオプションで、バーストレポートの FTP 配信で、スケジュール実行時にインデックスファイルを作成するかどうかを指定します。                                                                                                                                                                           |
| <b>FTP サーバ情報</b>             |                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                           |
| このサーバには FTP が必要              | このオプションは、デフォルト設定で選択されています。<br><br><b>注意：</b> [FTP サーバ情報] セクションのオプションの 1 つを選択する必要があります。 | このオプションを選択すると、スケジュールツールのデフォルト設定で FTP を使用するオプションが有効になります。<br><br>このオプションを選択した場合、追加のセキュリティ構成は必要ありません。                                                                                                                                       |
| このサーバには TLS/SSL (FTPS) が必要   | オプション<br><br><b>注意：</b> [FTP サーバ情報] セクションのオプションの 1 つを選択する必要があります。                      | このオプションを選択すると、FTPS が FTP 配信スケジュールツールのデフォルト値になり、スケジュールツールを使用するたびにこのオプションを選択する必要がなくなります。<br><br>このデフォルト値を上書きする必要がある場合は、FTP サーバ配信のスケジュールを作成する際に、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで [FTPS] のチェックをオフにすることができます。<br><br>このオプションをオフにすると、FTPS はデフォルト値ではなくなり |

| 設定                       | オプションまたは必須/デフォルト値                                             | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                          |                                                               | ますが、FTP サーバ配信のスケジュールを作成する際に、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで再度選択することは可能です。                                                                                                                                                                                                                                        |
| このサーバには SFTP が必要         | オプション<br><b>注意：</b> [FTP サーバ情報] セクションのオプションの 1 つを選択する必要があります。 | <p>このオプションを選択すると、SFTP が FTP 配信のデフォルト値になり、スケジュールツールを使用するたびにこのオプションを選択する必要がなくなります。</p> <p>このデフォルト値を上書きする必要がある場合は、FTP サーバ配信のスケジュールを作成する際に、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで [SFTP] のチェックをオフにすることができます。</p> <p>このオプションをオフにすると、SFTP はデフォルト値ではなくなりますが、FTP サーバ配信のスケジュールを作成する際に、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで再度選択することは可能です。</p> |
| <b>その他のチェックボックス</b>      |                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない | オプション                                                         | このチェックがオンの場合、ベーシックおよびアドバンスド FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスで、[FTP サーバ名] テキストボックスの選択可能な範囲が、定義済み FTP のリストに制限されます。ユーザは、このダイアログボックスに直接値を入力して、各スケジュールに FTP サーバ                                                                                                                                             |



| 設定                      | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         |                   | <p>の設定構成を割り当てることはできません。</p> <p>このチェックがオフの場合、ベーシックおよびアドバンスド FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスで、[FTP サーバ名] テキストボックスに値 (カスタム FTP) が表示され、ユーザは、このダイアログボックスに直接値を入力して、各スケジュールに FTP サーバの設定構成を割り当てることができます。複数の FTP 設定構成が作成されている場合、定義済み FTP 設定のリストが [FTP サーバ名] テキストボックスで使用可能となり、ユーザは、これらの設定から選択することも、スケジュールに独自の FTP 設定構成を入力することもできます。</p> <p><b>注意：</b>このチェックボックスは、[[デフォルト設定]] ページにのみ表示されます。</p> |
| スケジュール<br>FTP リストに表示しない | オプション             | <p>このチェックボックスの値は、[スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] チェックボックスが [[デフォルト設定]] ページでオンになっている場合にのみ関連します。</p> <p>このチェックがオンの場合、この FTP 設定構成は、FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスの [FTP サーバ名] リストに表示されません。また、WebFOCUS</p>                                                                                                                                                                                   |

| 設定 | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                   | <p>管理コンソールで定義された配信ディレクトリノードで利用可能な FTP サーバのリストにも表示されません。</p> <p>このチェックがオフの場合、この FTP 設定構成が、FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスの [FTP サーバ名] リストに表示されます。また、WebFOCUS 管理コンソールで定義された配信ディレクトリノードで利用可能な FTP サーバのリストにも表示されます。</p> <p><b>注意：</b>このチェックボックスは、追加の FTP 設定構成ページにのみ表示されます。[(デフォルト設定)] ページには表示されません。</p> |

## FTP 設定構成の展開

FTP の設定構成は、FTP またはリポジトリ配信方法を使用するベーシックスケジュールおよびアドバンススケジュールで使用されます。組織は、利用可能な FTP サーバの選択範囲を定義済み構成のリストに制限することも、各 FTP 配信スケジュール用に作成したより広範囲の FTP サーバを選択対象にすることもできます。これは、[(デフォルト設定)] ページに表示される [スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックのオンとオフを切り替えることで実行できます。

このチェックがオンの場合、FTP 配信で利用可能な FTP 設定構成の範囲は、[FTP の設定] フォルダで定義された一連の定義済み FTP 設定に制限されます。ユーザは、各 FTP スケジュールに新しい FTP 設定構成を定義することはできません。

このチェックがオフの場合、各ユーザは、定義済み FTP 設定構成を選択することも、デフォルト設定で表示されるオプション (カスタム FTP) を受容し、各 FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスで新しい FTP 設定構成を定義することもできます。これら 2 つのオプションは、相互排他的な関係です。

配信ディレクトリノードを使用するリポジトリ配信で利用可能な FTP 設定の範囲は、定義済み FTP 設定のリストに常に制限されます。ユーザは、各配信ディレクトリで FTP 設定構成を作成することはできません。

1 つまたは複数の追加の FTP 設定構成が利用可能な場合、管理コンソールの [配信ディレクトリ] 下の [ネットワークパス] ページに [タイプ] オプションが表示されます。管理者は、定義済み FTP 設定構成のいずれかにマッピング可能な配信ディレクトリノードを作成することができます。

ただし、追加の FTP 設定構成が利用できない場合は、管理コンソールの [ネットワークパス] ページに [タイプ] オプションが表示されず、ユーザは、定義済み FTP 設定構成にマッピング可能な配信ディレクトリノードを作成することができません。

[(デフォルト設定)] ページに表示される FTP 構成は、実際の IBFS ノードではありません。そのため、このページに構成が表示されていても、[ネットワークパス] ページに [タイプ] オプションは表示されません。配信ディレクトリで、[(デフォルト設定)] ページに割り当てられた FTP 構成を使用するためには、追加の FTP 設定構成としてこの構成のコピーを作成する必要があります。これにより、ベーシックスケジュールおよびアドバンススケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスの定義済み FTP 構成のリストに追加の FTP 設定構成が表示されます。

各 FTP 配信用に FTP 設定構成を作成可能にする機能は、新しい FTP サーバを利用可能にし、FTP 配信スケジュールを設定する権限をユーザに与えます。その一方で、この機能により FTP サーバ接続の作成と管理も許可されるため、一元管理または監視という利点が失われます。そのため、利用可能な FTP 設定構成リストに対するフルコントロールを維持するためには、管理者が、[スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオンにし、FTP 設定構成を [構成] ページのリストに制限することをお勧めします。

定義済み FTP 設定構成の作成および展開には複数段階の処理が含まれ、次の手順で実行されます。

1. 定義済み FTP 設定構成で利用可能な FTP サーバクライアントを特定し、パス、ユーザ ID、パスワード、セキュリティプロトコル、FTP、FTPS、SFTP に関する詳細情報を特定します。
2. [(デフォルト設定)] ページで、デフォルト設定の FTP 配信で使用可能な FTP 設定構成を作成します。
3. FTP スケジュールで、ユーザ独自の FTP 設定構成の作成を回避するには、[(デフォルト設定)] ページで [スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオンにします。
4. FTP スケジュールで、ユーザ独自の FTP 設定構成の作成を許可するには、[(デフォルト設定)] ページで [スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオフにします。

5. 追加の FTP サーバクライアントごとに FTP 設定構成を作成します。
6. FTP 配信スケジュールを作成し、これに定義済み FTP 設定構成を割り当てます。
7. WebFOCUS 管理コンソールの [配信ディレクトリ] 下で配信ディレクトリノードを作成し、これに定義済み FTP 設定構成を割り当てます。
8. リポジトリ配信スケジュールを作成し、定義済み FTP 設定構成をターゲットとする配信ディレクトリをこれに割り当てます。
9. 定義済み FTP 構成設定を使用する FTP およびリポジトリ配信スケジュールをテストし、必要に応じて調整します。

## デフォルト FTP 設定構成の設定

[(デフォルト設定)] の構成では、ユーザが新しい FTP 配信スケジュールを作成したり、定義済み FTP 設定構成のリストから選択したりするたびにデフォルト設定で使用する FTP サーバを指定します。組織で定義済み FTP 設定構成が使用される場合、この FTP 設定構成を最初に作成する必要があります。この設定構成は、定義済み FTP 設定構成が使用される限り、利用可能にしておく必要があります。

このデフォルト設定は、他の FTP 設定構成で上書きすることができます。この場合、FTP 配信スケジュールを作成または実行する際に、[FTP 配信] ダイアログボックスの [FTP サーバ名] テキストボックスで選択します。ただし、この構成は実際の IBFS システムノードを定義しないため、WebFOCUS 管理コンソールの配信ディレクトリノードに割り当て可能な FTP 設定構成のリストには表示されず、リポジトリ配信スケジュールに使用することはできません。

デフォルト FTP 設定構成を作成または更新するには、[(デフォルト設定)] 構成ページに新しい値を直接入力するか、新しい値を選択します。[(デフォルト設定)] フォルダ内に存在する FTP 構成が、デフォルト構成として自動的に特定されます。このほかに、この構成をデフォルト構成として特定するためのチェックボックスまたは機能は、FTP 設定構成ページに表示されません。FTP 設定構成の詳細情報を更新したり、別のサーバの詳細情報で置換したりする必要がある場合は、このページの既存の構成の値を新しい値で直接上書きする必要があります。

# デフォルト設定構成を作成または更新するには

[(デフォルト設定)] フォルダで定義された FTP 設定構成が、デフォルト FTP 設定構成として自動的に指定されます。次の手順および [(デフォルト設定)] フォルダをクリックすると表示されるページを使用して、このデフォルト構成を作成または更新します。

## 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。  
または  
WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。  
または  
レガシーホームページで、[ツール]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. 左側ウィンドウで [FTP の設定] フォルダを展開し、[(デフォルト設定)] フォルダをクリックします。
4. 右側ウィンドウで FTP の設定を構成します。
5. 次の手順を実行し、ベーシックおよびアドバンスド FTP スケジュールで利用可能な FTP 設定構成の範囲を構成します。
  - a. 利用可能な FTP 設定構成の範囲を定義済み構成のリストに制限するには、[スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオンにします。
  - b. 定義済み構成リストのほかにユーザ独自の FTP 設定構成の作成を許可するには、[スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオフにします。
6. 構成の完了後、リボンの [構成の管理] グループで、[保存] を選択します。
7. 「ReportCaster 構成への変更を保存しますか」というメッセージで、[OK] をクリックします。
8. これらの変更を有効にするため、Distribution Server の再起動を指示するメッセージで、[OK] をクリックします。

9. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。
10. ReportCaster を閉じ、WebFOCUS からログアウトします。
11. WebFOCUS Application Server を停止し、再起動します。
12. WebFOCUS に再度ログインし、手順 1 から 4 の説明に従って ReportCaster を再度開き、変更を確認します。

## 追加の FTP 設定構成を作成するには

次の手順に従って、[FTP の設定] ダイアログボックスを使用して追加の FTP 設定構成を作成します。この機能を使用して作成する FTP 設定構成は、FTP 配信スケジュールおよび配信ディレクトリノードで使用することができます。

### 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。  
または  
WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。  
または  
レガシーホームページで、[ツール]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[FTP の設定] フォルダを選択します。
4. リボンの [構成の管理] グループで [新規作成] をクリックし、[FTP の設定] ダイアログボックスを開きます。
5. [ReportCaster の構成](#)の説明に従って、FTP の設定を構成します。
6. 構成の完了後、リボンの [構成の管理] グループで、[保存] を選択します。
7. 「ReportCaster 構成への変更を保存しますか」というメッセージで、[OK] をクリックします。
8. これらの変更を有効にするため、Distribution Server の再起動を指示するメッセージで、[OK] をクリックします。
9. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

10. ReportCaster を閉じ、WebFOCUS からログアウトします。
11. WebFOCUS Application Server を停止し、再起動します。
12. WebFOCUS に再度ログインし、手順 1 から 4 の説明に従って ReportCaster を再度開き、変更を確認します。

## FTP の設定構成を編集するには

### 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。  
または  
WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。  
または  
レガシーホームページで、[ツール]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. 左側ウィンドウで [FTP の設定] フォルダを展開し、更新するフォルダをクリックします。
4. 右側ウィンドウで FTP の設定を構成します。
5. 編集の完了後、リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、設定を保存します。
6. 「ReportCaster 構成への変更を保存しますか」というメッセージで、[OK] をクリックします。
7. これらの変更を有効にするため、Distribution Server の再起動を指示するメッセージで、[OK] をクリックします。
8. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。
9. ReportCaster を閉じ、WebFOCUS からログアウトします。
10. WebFOCUS Application Server を停止し、再起動します。

11. WebFOCUS に再度ログインし、手順 1 から 4 の説明に従って ReportCaster を再度開き、変更を確認します。

## FTP 設定を構成するには

### 手順

1. [FTP の設定] ダイアログボックスまたは [FTP の設定] ページで、FTP 設定の各テキストボックスに値を入力します。次のガイドラインを参考にしてください。
  - **名前** この FTP サーバ構成のフォルダを識別する一意の名前を入力します。この名前は FTP スケジュールの作成時には使用されません。一意の名前を指定する必要があります。
  - **FTP ホスト** この接続のターゲットとなる FTP サーバの名前を入力します。FTP スケジュールの作成時にこの名前が使用されます。
  - **FTP パス** この接続のターゲットとなる FTP サーバのディレクトリ名を入力します。この名前は FTP スケジュールの作成時には使用されません。
  - **ユーザ** この FTP サーバへのファイル転送を実行するユーザ ID およびパスワードを入力します。
  - **SFTP セキュリティプラグイン** SFTP サーバで暗号化キーを必要とする場合は、SFTP セキュリティプラグインを使用して値を提供することができます。このプラグインを使用するには、SFTP セキュリティインターフェースを実装して、セキュア FTP サーバとの接続に必要なパブリックキーの値を動的に取得するカスタム Java クラス名を入力します。デフォルトの実装を使用する場合は、[SMTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには](#)を参照してください。
2. FTP スケジュールでの使用時に、この FTP サーバがインデックスファイルを生成する必要がある場合は、[バーストレポートの配信時にインデックスファイルを作成する] のチェックをオンにします。
3. [FTP サーバ情報] セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **このサーバには FTP が必要** これがデフォルト値です。FTP サーバが SFTP または FTPS を必要としない場合は、この選択を受容します。
  - **このサーバには TLS/SSL (FTPS) が必要** FTP サーバに FTPS が必要な場合は、このオプションを選択し、FTPS サーバ接続に関連する特性である [セキュリティモード]、[プロトコル]、[データ接続セキュリティ] の設定を選択します。



- **このサーバには SFTP が必要** FTP サーバに SFTP が必要な場合は、このオプションを選択し、サーバに必要な認証タイプを選択します。

## SFTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには

### 手順

1. ReportCaster ステータスのリボンの [表示] グループで、[構成] を選択します。
2. 左側ウィンドウで [FTP の設定] フォルダを展開し、SFTP セキュリティプラグインが必要な FTP の設定構成フォルダを選択します。  
右側ウィンドウに [FTP の設定] および選択した構成の値が表示されます。
3. [SFTP セキュリティプラグイン] テキストボックスに、SFTP セキュリティプラグインプログラムの名前を入力します。デフォルトのプログラム名は次のとおりです。

```
ibi.broker.scheduler.plugin.DefaultSFTPSecurityExit
```

4. リボンの [構成の管理] グループで、[保存] を選択します。
5. 変更の保存を確認するメッセージで、[OK] をクリックします。
6. Distribution Server の再起動と、Web アプリケーションの再ロードを指示するメッセージで、[OK] をクリックします。  
**注意：**この手順では、後で Web アプリケーションの再ロードと Distribution Server の再起動を実行します。
7. WebFOCUS Application Server を停止します。
8. テキストエディタを開き、sftp\_private\_key.txt というファイルを作成します。
9. ssh-keygen ツールを使用して、暗号化されたプライベートキーを生成します。  
ssh-keygen ツールについての詳細は、以下の OpenBSD オンラインドキュメントを参照してください。  
<http://man.openbsd.org/OpenBSD-current/man1/ssh-keygen.1#NAME>
10. ssh-keygen ツールで生成したプライベートキーテキストをコピーし、sftp\_private\_key.txt に貼り付けます。

11. ファイルシステムで、...ibi¥WebFOCUSnn¥ReportCaster¥cfg ディレクトリに移動します。この場合の *nn* は、使用する WebFOCUS ソフトウェアのバージョン番号です。  
UNIX 環境を使用する場合、正確なファイルパスは、../ReportCaster/cfg です。
12. sftp\_private\_key.txt ファイルを、cfg ディレクトリに保存します。  
下図は、cfg ディレクトリに保存された sftp\_private\_key.txt ファイルを示しています。

| Name             | Date modified      | Type          | Size  |
|------------------|--------------------|---------------|-------|
| dsKeystore.jks   | 3/8/2018 5:13 PM   | JKS File      | 3 KB  |
| log4j            | 3/8/2018 5:16 PM   | XML Document  | 3 KB  |
| log4j_stop       | 3/8/2018 5:16 PM   | XML Document  | 2 KB  |
| log4jUtil        | 3/8/2018 5:16 PM   | XML Document  | 2 KB  |
| rametrics        | 3/8/2018 5:16 PM   | FEX File      | 1 KB  |
| Readme           | 3/8/2018 5:16 PM   | Text Document | 1 KB  |
| zipencrypt       | 3/8/2018 5:16 PM   | Text Document | 1 KB  |
| log4j2           | 5/13/2018 10:39 PM | XML Document  | 10 KB |
| log4j2_stop      | 5/13/2018 10:39 PM | XML Document  | 2 KB  |
| log4j2_util      | 5/13/2018 10:39 PM | XML Document  | 2 KB  |
| sftp_private_key | 6/1/2018 3:54 PM   | Text Document | 1 KB  |

13. WebFOCUS Application Server を再起動します。
14. WebFOCUS に再度ログインし、ReportCaster ステータスを開きます。
15. Distribution Server を再起動するには、ReportCaster ステータスのリボンの [構成の管理] グループで [再起動] を選択します。  
デフォルト SFTP プラグインが使用されている場合、Distribution Server は、SFTP 認証を使用する FTP サーバでのスケジュール配信に、sftp\_private\_key.txt ファイルのプライベートキーを使用して SFTP サーバへの認証を試行します。

## FTP の設定構成を削除するには

### 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。

または

WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。

または

- レガシーホームページで、[ツール]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
  3. 左側ウィンドウで [FTP の設定] フォルダを展開し、削除するフォルダをクリックします。
  4. リボンの [構成の管理] グループで、[削除] を選択します。
  5. 「ReportCaster 構成への変更を保存しますか」というメッセージで、[OK] をクリックします。
  6. これらの変更を有効にするため、Distribution Server の再起動を指示するメッセージで、[OK] をクリックします。
  7. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。
  8. ReportCaster を閉じ、WebFOCUS からログアウトします。
  9. WebFOCUS Application Server を停止し、再起動します。
  10. WebFOCUS に再度ログインし、手順 1 から 4 の説明に従って ReportCaster を再度開き、変更を確認します。
- 左側ウィンドウの [FTP の設定] フォルダから、この FTP フォルダが削除されます。

## 圧縮 (ZIP) の設定

[構成] タブの [圧縮 (ZIP) の設定] フォルダには、配信 ZIP ファイルの拡張子、配信に使用する ZIP 暗号化方法、ZIP 暗号化パスワードプラグインを定義するための設定が格納されています。

[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

| 設定                       | オプションまたは必須/デフォルト値           | 説明と有効値                                                                   |
|--------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 指定されていない場合、拡張子 zip を追加する | 必須<br>このオプションは、デフォルト設定で選択され | Email または FTP で配信されたスケジュールに入力した ZIP ファイル名に、自動的に .zip 拡張子を追加するかどうかを制御します。 |

| 設定                      | オプションまたは必須/デフォルト値                             | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         | ています。                                         | <p>入力したファイル名の拡張子として .zip を自動的に追加するには、このオプションを選択します。</p> <p>ユーザが入力したとおりのファイル名を使用して、.zip を追加しない場合は、このオプションを選択しません。</p>                                                                                                                                                                                                                                             |
| Email 配信 ZIP ファイルの最小サイズ | 必須<br>デフォルトサイズはキロバイト (KB) で、0 (ゼロ) に設定されています。 | [MB]、[KB] のいずれかを選択し、上下の矢印を使用してファイルサイズをカスタマイズします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ZIP 暗号化パスワードプラグイン       | 必須<br>デフォルト値は [なし] です。                        | <p>ZIP ファイル形式で配信するスケジュール出力のパスワード保護と暗号化を有効にするグローバル設定です。この設定は、Distribution Server によるパスワードの取得方法を制御します。圧縮ファイルは、AES 256 で暗号化されます。詳細は、<a href="#">デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには</a>を参照してください。</p> <p>利用可能な値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>なし</b> 保護された圧縮ファイルパスワードの取得に、プラグインを使用しません。</li> </ul> <p>[なし] に設定すると、圧縮ファイルの暗号化パスワード機能を</p> |

| 設定                 | オプションまたは必須/デフォルト値                          | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                    |                                            | <p>使用する際に、プラグインを使用する代わりに、ダイナミック配信リストまたは配信ファイルにパスワードを埋め込むことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>デフォルト</b> 指定されたデフォルトのプラグインを使用して、ZIP 暗号化パスワードを取得します。</li> <li>• <b>カスタム</b> [ZIP 暗号化パスワードプラグイン名] で指定したカスタムプラグインを使用します。</li> </ul> |
| ZIP 暗号化パスワードプラグイン名 | [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] を [カスタム] に設定する場合、必須です。 | パスワードの取得に使用するカスタムプラグイン名を入力します。このプラグインは、Distribution Server から呼び出し可能な状態にしておく必要があります。                                                                                                                                                               |
| ZIP エンコード          | オプション。                                     | <p>ReportCaster Distribution Server プラットフォームのデフォルト以外のエンコードを指定します。指定するエンコードは、Distribution Server 上にインストールされた WinZip または他の ZIP ユーティリティで使用されているエンコードに一致する必要があります。</p> <p><b>注意：</b>この設定は、管理コンソールで構成することもできます。</p>                                    |
| 最大同時圧縮数            | オプション                                      | Distribution Server が同時に実行す                                                                                                                                                                                                                       |

| 設定                                           | オプションまたは必須/デフォルト値  | 説明と有効値                                                                                                                             |
|----------------------------------------------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                              | デフォルト値は 0 (ゼロ) です。 | る圧縮処理の総数です。実行中ジョブに圧縮処理が多数存在する場合 (例、送信前の出力の圧縮)、Distribution Server で利用可能なリソースすべてが圧縮処理によって消費される可能性があります。この状況を回避するには、この値を小さくします。      |
| スケジュールで FTP アーカイブファイル名が指定されていない場合、配信ファイル名を使用 | オプション。             | このチェックボックスをオンにすると、配信方法として FTP を使用するスケジュールを作成し、アーカイブファイルをブランクにした場合に、Distribution Server は、配信するアーカイブファイル名として FTP 配信リストに存在する名前を使用します。 |

## ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインの使用

ReportCaster が提供するデフォルトプラグインを使用して、暗号化パスワードを、スケジュールレポートが格納される WebFOCUS リポジトリフォルダと関連付けることができます。デフォルトプラグインは、WebFOCUS リポジトリの [ワークスペース] フォルダパスに格納されるレポートのパスワード保護にのみ使用可能です。ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインのカスタマイズについての詳細は、[デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには](#)を参照してください。

プラグインはスケジュールの実行時にパスワードを Distribution Server に送信し、そこで出力が暗号化されて圧縮されます。デフォルトプラグインを使用するには、[ZIP 暗号化パスワードプラグイン] を [デフォルト] に設定します。デフォルトプラグインは、パスワードファイル zipencrypt.txt を参照し、ワークスペースとパスワードを検索します。インストール中、このファイルはブランクの状態で、...¥ReportCaster¥cfg ディレクトリに格納されます。

このファイルのパスワードステートメントは、次のフォーマットで記述します。

```
domain, domainhref, password,$
```

## 説明

### DomainHREF

WebFOCUS リポジトリフォルダへのリンクを含む HTML ページの参照 (例、`untitled/untitled.htm`) です。

### password

関連付けられたワークスペースのコンテンツを表示するためのパスワードです。

**注意：**ReportCaster ログには、暗号化が使用されたことが示されます。

デフォルトプラグインを使用する際は、次のガイドラインに従います。

- `zipencrypt.txt` ファイルは、...¥ReportCaster¥cfg ディレクトリに格納されている必要があります。
- `zipencrypt.txt` ファイルには、ReportCaster リポジトリレポートの ReportCaster リポジトリフォルダを記述しておく必要があります。

**注意：**ZIP 暗号化パスワードプラグインを使用するには WebFOCUS リポジトリフォルダが必要なため、WebFOCUS リポジトリレポート以外のタスクを入力した場合、そのタスクの出力配信に失敗します

- `zipencrypt.txt` ファイルの WebFOCUS リポジトリフォルダのエントリが、パスワードなしで含まれている場合、出力は暗号化されません。その際、圧縮されるかどうかは、スケジュール作成時に選択した ZIP オプションで決定されます。
- WebFOCUS リポジトリフォルダとパスワードの両方がパスワードファイルに含まれている場合は、スケジュール作成時に選択した ZIP オプションに関わらず、出力は圧縮されます。

`zipencrypt.txt` パスワードファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. Distribution Server の bin ディレクトリから、「`decdpwds`」という復号化ユーティリティを実行します。

**注意：**`decdpwds` ユーティリティを実行すると、...ibi¥WebFOCUS9x¥ReportCaster¥log ディレクトリに「`decdpwds.log`」というログファイルが作成されます。

2. ワークスペースの追加やパスワード変更など、必要な追加や編集を加えます。
3. 「`encdpwds`」という暗号化ユーティリティを実行し、ファイルを暗号化します。

**注意：**encdpwds ユーティリティを実行すると、...ibi¥WebFOCUS¥ReportCaster¥log ディレクトリに「encdpwds.log」というログファイルが作成されます。

## ZIP 設定を構成するには

### 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。  
**注意：**権限を所有するユーザは、管理コンソールから ReportCaster 構成ツールにアクセスすることもできます。
3. 左側ウィンドウで、[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダを選択します。
4. 前述の表を参照し、[圧縮 (ZIP) の設定] の各テキストボックスに値を入力します。
5. 圧縮した出力を暗号化し、パスワードを保護する場合は、ZIP 暗号化パスワードプラグインを使用することができます。ユーザ独自のプログラムを使用してパスワードを提供するには、ドロップダウンリストから [カスタム] を選択し、[ZIP 暗号化パスワードプラグイン名] テキストボックスにプログラム名を入力します。デフォルト値を使用するには、[デフォルト] を選択します。詳細は、[デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには](#)を参照してください。
6. [保存] をクリックします。

## デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには

### 手順

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。



3. 左側ウィンドウで、[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダを選択します。
4. [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] ドロップダウンリストから [デフォルト] を選択します。  
デフォルト実装を使用するには、埋め込み Email を無効にする必要があります。  
[OK] をクリックすると、埋め込み Email が自動的に無効になります。
5. [保存] をクリックします。
6. ...¥ReportCaster¥cfg ディレクトリに、zipencrypt.txt ファイルを作成します。このファイルに、ZIP 暗号化パスワードプラグインで使用するパスワードを格納します。  
このファイルの構造は次のとおりです。

```
Domain, domainhref, Password,$
```

1 列目は「Domain」という語句、2 列目はスケジュールするレポートが格納されたフォルダ名、3 列目はパスワードです。

**注意：**このプラグインを構成した場合は、WebFOCUS プロシジャのみをスケジュールすることができます。パスワードが見つかった場合、出力が暗号化されます。パスワードが見つからない場合、出力は圧縮されますが、暗号化はされません。

7. Distribution Server を再起動します。

## デフォルトスケジュール

[構成] タブの [デフォルトスケジュール] フォルダには、スケジュール終了日およびスケジュール終了時間の設定が格納されています。

**注意：**タイムゾーンによっては、デフォルトのスケジュール終了日が 2100 年 1 月 1 日に設定される場合があります。

下表は、[デフォルトスケジュール] フォルダで指定可能な構成設定の一覧および説明です。

| 設定        | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                           |
|-----------|-------------------|----------------------------------|
| スケジュール終了日 | 必須                | ドロップダウンリストをクリックすると、カレンダーが有効になり、ス |

| 設定         | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                           |
|------------|-------------------|------------------------------------------------------------------|
|            |                   | ケジュールの終了日を指定することができます。                                           |
| スケジュール終了時間 | 必須                | スケジュールの時間を直接入力することができます。また、上下の矢印を使用して、スケジュールの終了時間を割り当てすることもできます。 |

## ログ削除と ReportLibrary 有効期限

[構成] タブの [ログ削除と ReportLibrary 有効期限] フォルダには、ログファイルの削除、ログ削除の期限、ログ削除時間の設定が格納されています。

[ログ削除と ReportLibrary 有効期限] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

| 設定                             | オプションまたは必須/デフォルト値                     | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Distribution Server の開始時にログを削除 | オプション。<br>デフォルト設定では、このチェックはオフになっています。 | <p>このチェックをオンにすると、[ログ削除の期限] 設定で以前に定義されていた日数は、Distribution Server がコマンドプロンプトから再起動される際に、自動的に削除されます。</p> <p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• サーバの再起動と同じ日に作成されたログは、この操作により削除されません。</li> <li>• このオプションは、ReportCaster コンソールから実行されるサーバの再起動には適用されません。</li> </ul> |

| 設定                                             | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>このオプションによって有効化される削除操作は、[ログ削除時間] 設定によってスケジュールされるログ削除とは無関係です。</li> </ul>                           |
| <b>ログ削除と ReportLibrary 期限切れの日単位スケジュールセクション</b> |                   |                                                                                                                                         |
| ログ削除の期限 (日数)                                   | オプション。            | <p>設定した日数を超過したログレポートを自動的に削除します。ログ削除の日単位スケジュールを無効にするには、[ログ削除の期限 (日数)] の値を 0 (ゼロ) に設定します。</p> <p><b>注意：</b>この設定は、管理コンソールで構成することもできます。</p> |
| ログ削除時間                                         | オプション。            | <p>ログ削除の開始時間です。</p> <p><b>注意：</b>この設定は、管理コンソールで構成することもできます。</p>                                                                         |

## LDAP の設定

ReportCaster を LDAP データソースから Email 情報を取得するよう構成することができます。LDAP は、Email 情報の管理機能であり、Windows プラットフォームの Active Directory をはじめとする主要なメールサーバベンダーにより採用されています。

[構成] タブの [LDAP の設定] フォルダには、LDAP サーバとの接続とセキュリティを定義する設定、および LDAP Email の設定が格納されています。

[LDAP の設定] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

| 設定               | オプションまたは必須/デフォルト値            | 説明と有効値                                                                                                         |
|------------------|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>設定 - 全般</b>   |                              |                                                                                                                |
| Active Directory | デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。 | LDAP で Active Directory テクノロジを使用する場合は、このオプションを選択します。<br><br>LDAP でその他のテクノロジを使用する場合は、このオプションを選択しません。            |
| セキュア接続 (SSL)     | デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。 | LDAP サーバとの通信に SSL (セキュアソケットレイヤ) を使用するかどうかを指定します。                                                               |
| LDAP ホスト         | デフォルト値は設定されていません。            | LDAP ディレクトリサーバのホスト名または IP アドレスです。                                                                              |
| LDAP ポート         | デフォルト値は 389 です。              | ディレクトリサーバのリスナポート番号です。                                                                                          |
| LDAP サーチベース      | デフォルト値は設定されていません。            | LDAP の検索フィルタです。LDAP 検索では [サーチベース] 下のサブツリーのみが利用可能です (例、dc=ibi, dc=com)。                                         |
| サーチタイムアウト        | デフォルト値は 120 です。              | ReportCaster が LDAP データソースを検索するときのタイムアウトまでの時間を秒単位で指定します。                                                       |
| セキュリティプリンシパル     | デフォルト値は設定されていません。            | ユーザ認証に使用するサービスアカウントです。ディレクトリ内のユーザ情報を検索するには、ユーザに適切なアクセス権が必要です。<br><br>このオプション右側のアイコンを選択して [ユーザ] ダイアログボックスを開き、ユー |

| 設定                    | オプションまたは必須/デフォルト値             | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       |                               | ザ名とパスワードを入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>LDAP Email の設定</b> |                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| Email LDAP 有効         | デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。  | ReportCaster による LDAP データソースの Email アドレス情報検索を有効にするかどうかを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| Email マッピング           | デフォルト値は [mail] です。            | Email 項目の属性タイプです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| Email ユーザフィルタ         | デフォルト値は選択した LDAP タイプにより異なります。 | <p>検索する Email 項目のフィルタです。以下はその例です。</p> <pre>(&amp; (mailnickname=*) (  (&amp;(objectCategory=person) (objectClass=user)(!(homeMDB=*)) (!(msExchHomeServerName=*)) (&amp;(objectCategory=person) (objectClass=user)( (homeMDB=*) (msExchHomeServerName=*)) (&amp;(objectCategory=person) (objectClass=contact)) (objectCategory=group) (objectCategory=publicFolder))))</pre> |
| 名マッピング                | デフォルト値は [givenName] です。       | 名 (ファーストネーム) 項目の属性です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 姓マッピング                | デフォルト値は [sn] です。              | 姓 (ラストネーム) 項目の属性です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

# データサーバの設定

[構成] タブの [データサーバ] フォルダには、ReportCaster に関連する Reporting Server の構成設定が格納されています。このフォルダの構成設定を使用して、ReportCaster で複数の Reporting Server を構成することもできます。

**注意：**データサーバの接続情報は、WebFOCUS Client に格納されます。ReportCaster には格納されません。ReportCaster は、Distribution Server とともにインストールされている WebFOCUS Client を介してスケジュール済みプロシジャを実行します。ReportCaster ジョブが WebFOCUS Client で実行される際は、代替デフォルトサーバが使用されます (代替デフォルトサーバが定義されている場合)。代替デフォルトサーバの構成についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

[データサーバ] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

| 設定                   | オプションまたは必須/デフォルト値           | 説明と有効値                                                                                                          |
|----------------------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>データサーバフォルダの設定</b> |                             |                                                                                                                 |
| グラフエージェント            | デフォルト値は 1 です。               | グラフの処理を最適化します。パフォーマンスを考慮して、通常は、各同時グラフレポートのグラフエージェントの値を 1 に設定する構成をお勧めします。ただし、最適なグラフエージェントの値は、ユーザの内部テストにより決定されます。 |
| グラフ Servlet URL      | オプション。<br>デフォルト値は設定されていません。 | デフォルトのグラフサーバの設定を上書きし、グラフィメージファイルが Application Server 上で作成されることを構成します。<br><br>次の値を入力します。                         |

| 設定 | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                   | <div data-bbox="1045 331 1411 518" style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border: 1px solid #add8e6;"> <pre>http:// hostname/context_ root /IBIGraphServlet</pre> </div> <p>説明</p> <p><b>hostname</b></p> <p>WebFOCUS Client がインストールされている Application Server のホスト名です。</p> <p><b>context_root</b></p> <p>Application Server に展開した WebFOCUS Web アプリケーションのコンテキストルートです。この値はサイトにより異なります。デフォルト値は ibi_apps です。</p> <p>この設定は、WebFOCUS Reporting Server および WebFOCUS プロシジャで使用することができます。</p> <p>この設定は、Web サーバのセキュリティがオンの場合は使用しないでください。Web サーバのセキュリティには、基本認証、IWA、SSL、サードパーティセキュリティ製品 (SiteMinder など) がありま</p> |

| 設定                | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   |                   | <p>す。これらの認証が有効になっている場合、Web サーバセキュリティの設定により、WebFOCUS でグラフを作成できなくなる可能性があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| Excel Servlet URL | オプション。            | <p>EXCEL 2007 ファイル (.xlsx) を構成するファイルコンポーネントの圧縮に使用する Application Server を次のように指定します。</p> <pre>&amp;URL_ PROTOCOL:// servername / alias /IBIEXCELSERVURL</pre> <p><b>説明</b></p> <p><b>URL_Protocol</b></p> <p>HTTP を表します。</p> <p><b>servername</b></p> <p>WebFOCUS Client がインストールされている Application Server の名前です。</p> <p><b>alias</b></p> <p>WebFOCUS アプリケーションのコンテキストルートです。デフォルト値は ibi_apps です。</p> |



| 設定                  | オプションまたは必須/デフォルト値                                   | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                     |                                                     | この設定は、WebFOCUS Reporting Server プロシジャおよび WebFOCUS プロシジャで 사용할 수 있습니다. 이 설정은, Web 서버의 보안이 온인 경우에는 사용하지 않습니다. Web 서버의 보안에는, 기본 인증, IWA, SSL, 서드 파티 보안 제품 (SiteMinder など) があります. 이러한 인증이 유효인 경우, Web 서버 보안의 설정에 따라, WebFOCUS Excel 2007/2010 파일을 생성할 수 없는 가능성이 있습니다. |
| FOCEXURL/FOCHTMLURL | デフォルト値は次のとおりです。<br><div>http://localhost:8080</div> | FOCEXURL/FOCHTMLURL のホスト名およびポート番号を含む完全修飾 URL 指定します。SSL セキュリティで実行中の場合は、https を使用するよう URL を更新します。                                                                                                                                                                  |
| <b>データサーバの個別設定</b>  |                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 名前                  | 必須                                                  | 選択したデータサーバの名前です。<br><br><b>注意：</b> データサーバ名の大文字と小文字は区別されま                                                                                                                                                                                                         |

| 設定                                          | オプションまたは必須/デフォルト値                    | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                             |                                      | す。WebFOCUS Client ではデータサーバは大文字で定義されるため、ReportCaster でもデータサーバを大文字で定義する必要があります。                                                                                                                                                                     |
| デフォルト                                       | 必須                                   | このオプションは、デフォルト設定で選択されています。                                                                                                                                                                                                                        |
| スケジュール済みプロセスに<br>FOCEXURL/FOCHTMLURL<br>を設定 | 必須                                   | この設定は、デフォルト設定で選択されています。この設定のチェックをオフにした場合、Distribution Server は、スケジュール済みプロセスに対して FOCEXURL および FOCHTMLURL の値を設定しません。そのため、この設定のチェックをオフにした場合、edasprof.prf ファイルで FOCEXURL または FOCHTMLURL がすでに設定されている場合は、その設定が引き続き有効になります (スケジュール済みプロセスで値が上書きされていない場合)。 |
| <b>セキュリティセクション</b>                          |                                      |                                                                                                                                                                                                                                                   |
| セキュリティタイプ                                   | デフォルトの設定では、このオプションは [ユーザ] に設定されています。 | <b>静的</b> 有効な実行 ID とパスワードは、[ユーザ] 設定で指定します。スケジュールの作成時に、実行 ID と                                                                                                                                                                                     |

| 設定  | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |                   | <p>パスワードを指定することはできません。</p> <p><b>ユーザ</b> スケジュールの作成時に、有効な実行 ID とパスワードを指定する必要があります。</p> <p><b>共有</b> スケジュールの作成時に、ユーザ ID とパスワードが、実行 ID とパスワードとして内部で割り当てられます。</p> <p><b>注意：</b>実際のパスワードは WebFOCUS リポジトリに格納されないため、WebFOCUS Reporting Server への接続にパスワードを必要としない場合にのみ [共有] を使用することができます。</p> <p><b>Trusted</b> 実行 ID はスケジュールのオーナーで、スケジュールの実行時に WebFOCUS Reporting Server にパスワードは送信されません。</p> <p><b>注意：</b>[Trusted] オプションを選択する場合、Trusted 接続を受容するよう、Reporting Server を構成しておく必要があります。</p> |
| ユーザ | [セキュリティタイプ] が [静  | デフォルトの実行 ID およ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

| 設定              | オプションまたは必須/デフォルト値            | 説明と有効値                                                                                                                            |
|-----------------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | 的] に設定されている場合に必須です。          | <p>びパスワードです。</p> <p>この ID とパスワードにアクセスするには、[ユーザ] テキストボックス右側のアイコンを選択します。表示される [ユーザ] ダイアログボックスで、ユーザ名とパスワードを入力することができます。</p>          |
| <b>グラフセクション</b> |                              |                                                                                                                                   |
| グラフエンジン         | 必須。値は [GRAPH53] です。          | サーバサイドグラフで使用するグラフエンジンを制御します。デフォルト設定では、[GRAPH53] が指定されています。                                                                        |
| Headless        | デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。 | WebFOCUS Reporting Server 上にグラフィックスカードが存在するかを決定します。グラフィックスカードがサーバ上に存在しない場合は、このオプションを選択します。グラフィックスカードがサーバ上に存在する場合は、このオプションを選択しません。 |
| 最大接続数 (スレッド数)   | 必須<br>デフォルトの接続数は 3 です。       | WebFOCUS Reporting Server で利用可能な接続の最大数です。最大スレッド数としては、使用中のハードウェアおよびメモリでサ                                                           |

| 設定 | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                  |
|----|-------------------|-------------------------|
|    |                   | ポートされる任意の値を指定することができます。 |

## ReportCaster での Reporting Server の構成

ReportCaster 構成ツールの [データサーバ] フォルダを使用して、ReportCaster で複数の Reporting Server を構成することができます。デフォルトサーバ「EDASERVE」の値は、インストールプログラムにより自動的に入力されますが、追加の Reporting Server はすべて構成ファイルに直接追加する必要があります。

**注意：**Client でデフォルトの WebFOCUS Reporting Server が変更された場合、その変更は、[IBFS キャッシュクリーナ] サービスで指定された期間が経過するまで、または Distribution Server が再起動されるまで有効になりません。Distribution Server が別のマシンにインストールされ、Client のコピーが存在する場合、デフォルトの WebFOCUS Reporting Server が変更されると、その変更は、Distribution Server と同一マシンにインストールされている Client に同一の変更を加えるまで有効になりません。

## ibi WebFOCUS Reporting Server を追加するには

### 手順

1. [構成] タブの左側パネルで [データサーバ] フォルダを選択し、リボンの [構成の管理] グループで [新規作成] をクリックします。

**注意：**デフォルトデータサーバ名は、SERVER、SERVER 2、SERVER 3 などです。

2. [利用可能なデータサーバ] ダイアログボックスで、1 つまたは複数のデータサーバを選択し、[OK] をクリックします。必要に応じて、[すべて選択] のチェックをオンにすることもできます。

3. 左側パネルの [データサーバ] フォルダまたは右側パネルのサーバリストで、新しいサーバノードをダブルクリックします。

右側パネルに、選択したサーバのデフォルトプロパティが表示されます。を参照してください。

4. 該当する設定に値を入力します。

[名前] テキストボックスで、ReportCaster 構成に追加するサーバの名前が、WebFOCUS Client サーバ接続の構成で指定されたサーバの NODE 設定に一致することを確認します。WebFOCUS サーバ接続を確認するには、管理コンソールの [構成] タブで [Reporting Server] を選択します。

必要に応じて [セキュリティタイプ] および [最大接続数] 設定の値を変更するか、デフォルト値を受容します。

また、追加するデータサーバを新規スケジュール作成時のデフォルトデータサーバにする設定、スケジュール済みジョブ実行時に FOCURL/FOCHTMLURL 設定が自動的に追加されないようにする設定、およびデータサーバにグラフィックスカードがないことを示す設定 (Headless) もあります。

5. 変更を ReportCaster で有効にするため、[構成] タブのツールバーで、[保存]、[再起動] を選択します。

## 結果

**注意：**サーバ名を変更すると、既存のジョブはすべて実行することができなくなるため、WebFOCUS Reporting Server 名の変更はお勧めしません。

# ReportLibrary の設定

[構成] タブの [ReportLibrary] フォルダには、ReportLibrary 配信の設定が格納されています。[ReportLibrary] フォルダ下には、[その他の ReportLibrary 設定] および [ウォッチリストの設定] フォルダもあります。[その他の ReportLibrary 設定] フォルダで ReportLibrary アクセスオプションを指定したり、[ウォッチリストの設定] フォルダで ReportLibrary ウォッチリストオプションを設定したりできます。

[ReportLibrary] フォルダには、次の構成設定が格納されています。また、ReportLibrary のバージョン期限切れ処理は、[ログ削除と ReportLibrary 有効期限] フォルダの [ログ削除時間] で指定した時間の 1 時間後に実行されます。

| 設定                                   | オプションまたは必須/デフォルト値                                                                                                                                                                                                                                                         | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ReportLibrary フォルダの設定</b>         |                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ReportLibrary 配信オプション                | 必須                                                                                                                                                                                                                                                                        | ReportLibrary にスケジュール出力を配信する際に、ReportCaster に表示される ReportLibrary のアクセスオプションまたは Email オプションを非表示にすることができます。                                                                                                                                                                                                                                    |
| Email 通知のデフォルト ReportLibrary URL     | <p>必須</p> <p>Distribution Server のインストール時に構成されます。</p> <p>デフォルト値は、<br/> <a href="http://hostname:port/ibi_apps/library/libreport.jsp">http://hostname:port/ibi_apps/library/libreport.jsp</a> です (hostname は Web アプリケーションのホスト名)。ポート番号は、値が 8080 (デフォルト値) 以外の場合にのみ指定します。</p> | <p>Email 通知に含まれる URL により、ReportLibrary の特定のコンテンツにアクセスすることができます。</p> <p>この値は、配信方法として [ReportLibrary] を選択し、さらに [ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] オプションを選択した場合に、ベーシックスケジュールツールおよびアドバンスドスケジュールツールの [配信] タブの [ReportLibrary URL] の値として使用されます。</p> <p><b>注意：</b> [ReportLibrary URL] をブランクにしておくと、レポート ID およびバースト値が Email 通知とともに送信されることはありません。</p> |
| Email 通知にデフォルト ReportLibrary URL を使用 | 必須                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p><b>選択済み</b> Distribution Server は、通知を送信する際に、ReportCaster 構成ファイルで指定された URL を常に使用します。</p> <p><b>未選択</b> Distribution Server は、通知を送信する際に、ReportCaster 構成ファイルで指定された URL を自動的に使用しません。スケジュールで指定された URL が使用されます。</p>                                                                                                                             |

| 設定                                | オプションまたは必須/デフォルト値              | 説明と有効値                                                                                                                              |
|-----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                   |                                | <p><b>注意：</b> ReportLibrary に配信された URL タスクの出力に JavaScript が含まれていると、ReportLibrary Email 通知からレポートを開いた際にスクリプトエラーが発生する場合があります。</p>      |
| 通知 Email とともにレポートの ID とバージョンを送信する | 必須                             | <p><b>選択済み</b> 配信 Email 通知とともに、レポート ID とバースト値が送信されます。</p> <p><b>未選択</b> 配信 Email 通知では、レポート ID とバースト値は送信されません。</p>                   |
| スケジュールのデフォルト圧縮オプションを選択            | デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。   | <p><b>選択済み</b> ReportCaster は、ReportLibrary に格納されるファイルを圧縮します。</p> <p><b>未選択</b> ReportCaster は、ReportLibrary に格納されるファイルを圧縮しません。</p> |
| <b>その他の ReportLibrary 設定フォルダ</b>  |                                |                                                                                                                                     |
| <b>ReportLibrary 有効期限セクション</b>    |                                |                                                                                                                                     |
| バージョン                             | デフォルト設定で選択されています。              | <p>ReportLibrary には、指定したバージョン数の最新の出力が保存されます。最大で 9999 までの数値を指定することができます。</p> <p>上下矢印を使用してバージョン数を選択します。</p>                           |
| 日                                 | オプション。<br>ReportLibrary 有効期限のデ | 指定された日数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。最大                                                                                             |



| 設定     | オプションまたは必須/デフォルト値                                               | 説明と有効値                                                                                                                     |
|--------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | フォルトオプションは [バージョン] です。                                          | <p>で 9999 までの数値を指定することができます。</p> <p>上下矢印を使用して日数を選択します。</p>                                                                 |
| 週      | <p>オプション。</p> <p>ReportLibrary 有効期限のデフォルトオプションは [バージョン] です。</p> | <p>指定された週数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。最大で 9999 までの数値を指定することができます。</p> <p>上下矢印を使用して週の数を選択します。</p>                         |
| 月      | <p>オプション。</p> <p>ReportLibrary 有効期限のデフォルトオプションは [バージョン] です。</p> | <p>指定された月数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。最大で 9999 までの数値を指定することができます。</p> <p>上下矢印を使用して月数を選択します。</p>                          |
| 年      | <p>オプション。</p> <p>ReportLibrary 有効期限のデフォルトオプションは [バージョン] です。</p> | <p>指定された年数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。最大で 9999 までの数値を指定することができます。</p> <p>上下矢印を使用して年数を選択します。</p>                          |
| 期限切れなし | オプション。                                                          | <p>[期限切れなし] オプションは、デフォルト設定で有効になっています。このオプションを無効にするには、[有効] のチェックをオフにします。</p> <p>この設定は、ReportLibrary 配信オプションを使用してレポートをスケ</p> |

| 設定                                      | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                         |                   | ジュールする際に、[期限切れなし] オプションを選択可能にするかどうかを制御します。                                                                                                                        |
| <b>ReportLibrary アクセスオプションセクション</b>     |                   |                                                                                                                                                                   |
| プライベート<br>(オーナーのみアクセス可)                 | オプション。            | スケジュールのオーナーのみが ReportLibrary レポートにアクセスできます。これがデフォルト値です。                                                                                                           |
| 公開済み<br>(WebFOCUS セキュリティポリシーによるアクセス許可)  | オプション。            | ReportLibrary レポートの格納先フォルダで表示権限を所有するすべてのユーザが ReportLibrary レポートにアクセスできます。<br>ReportLibrary レポートの格納先フォルダが公開済みフォルダであり、スケジュールのオーナーがそのフォルダ内のコンテンツの公開権限を所有している必要があります。 |
| 共有 ([共有コンテンツ] フォルダに表示)                  | オプション。            | ReportLibrary レポートの格納先フォルダで表示権限を所有するすべてのユーザが ReportLibrary レポートにアクセスできます。レポートは、[共有コンテンツ] フォルダ下に表示されます。                                                            |
| 高度な共有 (アクセスリストの設定により [共有コンテンツ] フォルダに表示) | オプション。            | アクセスリストで定義されたグループまたはユーザ、およびスケジュールのオーナーのみが ReportLibrary レポートにアクセスできます。レポートは、[共有コンテンツ] フォルダ下に表示されます。                                                               |
| <b>ウォッチリストの設定フォルダ</b>                   |                   |                                                                                                                                                                   |

| 設定                                 | オプションまたは必須/デフォルト値                       | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ReportLibrary<br>ウォッチリスト<br>を有効にする | デフォルト設定で、この<br>チェックはオンになっていま<br>す。      | <p><b>有効</b> ユーザがリポジトリ内の<br/>ReportLibrary レポートを右クリッ<br/>クすると、[ウォッチリストに登録]<br/>オプションが表示され、その<br/>ReportLibrary レポートに登録する<br/>ことができます。</p> <p><b>無効</b> ユーザがリポジトリ内の<br/>ReportLibrary レポートを右クリッ<br/>クした際に、[ウォッチリストに登録]<br/>オプションは表示されません。</p> |
| 送信者                                | オプション。                                  | ウォッチリストの Email 通知を送信<br>するユーザ名、部署名、グループ名<br>などです。この通知は、ウォッチリ<br>ストの新しいバージョンのレポート<br>プロシジャ (FEX) が、ReportLibrary<br>に送信されたことを受信者に通知し<br>ます。通知には、レポートジョブの<br>説明およびレポートプロシジャ (FEX)<br>へのリンクが含まれます。                                              |
| Email メッセー<br>ジ                    | オプション。                                  | ウォッチリスト Email 通知の本文の<br>メッセージです。                                                                                                                                                                                                             |
| Email 返信アド<br>レス                   | オプション。                                  | ウォッチリスト Email 通知からの返<br>信が配信される Email アドレスで<br>す。                                                                                                                                                                                            |
| Email 件名                           | オプション。                                  | ウォッチリスト Email 通知の件名に<br>表示されるテキストです。                                                                                                                                                                                                         |
| 通知モード                              | オプション。<br><br>デフォルト値は [ウォッチリ<br>スト] です。 | レポートプロシジャ (FEX) が<br>ReportLibrary に保存されてウォッ<br>チリストに登録されたときに、Email<br>通知を送信するようレポートスケ                                                                                                                                                       |

| 設定 | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                   | <p>ジュールが設定されている場合は、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ウォッチリスト</b> ウォッチリスト通知 Email のみ配信されます。</li> <li>• <b>ウォッチリストと ReportLibrary</b> ウォッチリストと ReportLibrary の両方の通知 Email が配信されます。</li> <li>• <b>Email 通知なし</b> ウォッチリストの Email 通知は送信されません。</li> </ul> |

## ReportLibrary 配信オプションの制限

[ReportLibrary 配信オプション] を使用して、ユーザがベーシックスケジュールツールおよびアドバンススケジュールツールで ReportLibrary 配信のスケジュールを作成する際に、使用可能な ReportLibrary アクセスオプションおよび Email オプションを制限することができます。

## ReportLibrary 配信オプションを制限するには

### 手順

1. ReportCaster ステータスの [構成] タブで、[ReportLibrary] フォルダを選択します。
2. [ReportLibrary 配信オプション] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。  
[ReportLibrary 配信オプション] ダイアログボックスが開きます。

次の ReportLibrary 配信オプションが選択可能です。

**アクセス** スケジュールツールの [アクセスオプション] リストに表示するオプションを指定します。次のオプションがあります。

- **オーナー (プライベート)** このオプションを選択すると、スケジュールツールに [プライベート (オーナーのみアクセス可)] オプションが表示されます。
- **共有 (Everyone)** このオプションを選択すると、スケジュールツールに [共有 ([共有コンテンツ] フォルダに表示)] オプションが表示されます。
- **アクセスリスト (高度な共有)** このオプションを選択すると、スケジュールツールに [高度な共有 (アクセスリストの設定により [共有コンテンツ] フォルダに表示)] オプションが表示されます。
- **公開済み** このオプションを選択すると、スケジュールツールに [公開済み (WebFOCUS セキュリティポリシーによるアクセス許可)] オプションが表示されます。

**注意：**権限を所有するユーザは、リソースツリーで ReportLibrary 項目を右クリックし、[共有する] または [公開] を選択することで、項目のステータスを [共有] または [公開済み] に変更することができます。最初に ReportLibrary 項目が [プライベート] ステータスで作成された後、リソースツリーから項目のステータスを [共有] または [公開済み] に変更した場合、スケジュールのアクセスオプションで指定された [プライベート] はスケジュール実行時には適用されません。この状況が発生するのは、複数バージョンの ReportLibrary 項目を反復的に作成するスケジュールで、変更後のステータスが反映されるようアクセスオプションが更新されていない場合のみです。ReportLibrary 項目は [共有] または [公開済み] ステータスのまま保持され、この問題を示す警告メッセージがスケジュールログに表示されます。

**Email** スケジュールツールで Email 通知オプションの [ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] オプションを選択可能にするかどうかを指定します。次のオプションがあります。

- **共有 (Everyone)** 選択不可。
- **公開済み** 選択不可。

**注意：**各 Email オプションは、それぞれに対応するアクセスオプションを選択した場合にのみ選択可能になります。

3. [OK] をクリックして変更を保存し、[ReportLibrary 配信オプション] ダイアログボックスを閉じます。変更を保存しない場合は、[キャンセル] をクリックし、ダイアログボックスを閉じることもできます。

## スケジュール禁止期間の使用

スケジュール禁止期間は、スケジュールの実行およびスケジュール実行の設定が禁止されている日付および時間です。スケジュール禁止期間ツールへのアクセス権限を所有するユーザは、スケジュール禁止期間を表示、定義、更新、インポート、エクスポート、削除することができます。

スケジュール禁止期間を表示するには、コンソールの [表示] グループで [スケジュール禁止期間] をクリックします。[スケジュール禁止期間] インターフェースが開き、左側ウィンドウにカレンダーが表示されます。右側ウィンドウには、ユーザが管理権限を所有するスケジュール禁止日のリストが表示されます。

スケジュール禁止期間の管理権限を所有するユーザは、スケジュール禁止期間の追加および削除、既存スケジュール禁止期間の説明の置換、外部ファイルで定義されたスケジュール禁止期間情報のインポート、既存スケジュール禁止期間情報のファイルへのエクスポートを行います。ReportCaster の [スケジュール禁止期間] インターフェースでは、次の機能を使用してこれらのタスクを実行することができます。

- [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックス - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [新規作成] または [編集] ボタンをクリックしてアクセスします。
- [スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックス - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [インポート] ボタンをクリックしてアクセスします。
- [スケジュール禁止期間のエクスポート] - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [エクスポート] ボタンをクリックしてアクセスします。

カレンダー上部の矢印を使用して、月または年を変更することができます。使用可能日または禁止日の日付のみが表示されます。左側ウィンドウ右上の矢印をクリックして、左側ウィンドウの表示と非表示を切り替えることができます。

## スケジュール禁止期間の構成

すべてのタイプのスケジュール禁止期間プロファイルでは、同一の基本設定 ([グループ]、[名前]、[説明]、[詳細]、[スケジュール禁止時間]) が使用されます。この基本設定下に、さまざまなスケジュール要件に適合する 4 タイプのスケジュール禁止期間があります。次のタイプがあります。

- **週単位** 指定した週および曜日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。
- **月単位** 指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

- **1 日** 指定した日付にスケジュール禁止期間を一度だけ設定します。
- **毎日** 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

これらのプロファイルを使い分けてスケジュール禁止期間を作成し、定期的に繰り返し実行するレポート配信スケジュールに組み込んだり、レポート配信の中断が必要な日をスケジュール禁止日に設定したりすることができます。

## スケジュール禁止期間の基本設定

[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスには、スケジュールを禁止する時期と頻度を定義する設定があります。このダイアログボックスで設定可能な頻度オプションは、[週単位]、[月単位]、[1 日]、[毎日] の 4 タイプです。

下表は、スケジュール禁止日付時間プロファイルの設定を示しています。

| 設定   | オプションまたは必須/デフォルト値                                                                                                         | 説明と有効値                                                                      |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| グループ | グループ名 (グローバル)。                                                                                                            | グループ名を表示します (グローバル)。                                                        |
| 名前   | オプション<br>デフォルト設定で、「スケジュール禁止 - [現在の日付] [現在の時間]」が表示されます。<br><br>以下はその例です。たとえば、「スケジュール禁止 - 2015 年 7 月 26 日 午前 10:27」と表示されます。 | スケジュール禁止日付時間プロファイルを表す名前です。<br><br>[名前] テキストボックス内をクリックして、デフォルト名を変更することができます。 |
| 説明   | オプション                                                                                                                     | スケジュール禁止日付時間プロファイルの説明です。                                                    |
| 詳細   | プロファイルの作成後に割り当てられます。                                                                                                      | スケジュール禁止期間の時期および頻度に関する詳細情報です。                                               |

| 設定                    | オプションまたは必須/デフォルト値                    | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       |                                      | <p>この情報は、[週]、[曜日]、[月]、[日]、[スケジュール禁止時間] 設定で選択した内容の説明です。</p> <p>この詳細情報は、プロファイルの保存後に自動的に作成され、プロファイルの変更後に自動的に更新されます。この詳細情報を直接作成、編集、削除することはできません。</p>                                                                                        |
| [スケジュール禁止時間] チェックボックス | デフォルト設定では、このチェックはオフです。               | <p><b>チェックオン</b> スケジュール禁止期間の対象を、[開始 (時間)] および [終了 (時間)] テキストボックスで指定した時間帯に限定します。</p> <p><b>チェックオフ</b> スケジュール禁止期間の対象を終日 (丸 1 日) にします。</p> <p><b>注意：</b>プロファイルの設定を [1 日] から別の頻度オプションに変更し、スケジュール禁止期間の対象を終日に設定する場合は、このチェックをオフにする必要があります。</p> |
| 開始 (時間)               | オプション。デフォルト設定で、現在の時刻 (時間と分) が表示されます。 | <p>スケジュール禁止期間を開始する時刻です。</p> <p>この値は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにした場合にのみ関係します。</p>                                                                                                                                                             |
| 終了 (時間)               | オプション。デフォルト設                         | スケジュール禁止期間を終了                                                                                                                                                                                                                           |



| 設定 | オプションまたは必須/デフォルト値                  | 説明と有効値                                                                                                                                                                                              |
|----|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 定で、現在時刻 (時間と分) の 2 時間後の時刻が表示されます。  | <p>する時刻です。</p> <p>この値は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにした場合にのみ関係します。</p>                                                                                                                                      |
| 頻度 | 必須。デフォルト設定では、[週単位] オプションが選択されています。 | <p><b>週単位</b> 指定した週および曜日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。</p> <p><b>月単位</b> 指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。</p> <p><b>1 日</b> 指定した日付にスケジュール禁止期間を一度だけ設定します。</p> <p><b>毎日</b> 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。</p> |

## スケジュール禁止期間を構成するには

スケジュール禁止期間を構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[新規作成] をクリックします。  
[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスが開きます。を参照してください。
2. [名前] テキストボックスで、スケジュール禁止期間プロファイルに割り当てられるデフォルト名を受容するか、別の名前を入力します。
3. [説明] テキストボックスに、スケジュール禁止期間プロファイルの説明を入力します。
4. このスケジュール禁止期間の対象を終日にする場合は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオフにし、手順 7 へ進みます。

5. このスケジュール禁止期間の対象を 1 日の特定の時間帯にする場合は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにし、スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を指定します。

詳細は、[スケジュール禁止期間の使用](#)を参照してください。

6. 次の頻度オプションのいずれかを選択します。

- **週単位** スケジュール禁止期間の頻度を設定します。詳細は、[スケジュール禁止期間の使用](#)を参照してください。
- **月単位** スケジュール禁止期間の頻度を設定します。詳細は、[スケジュール禁止期間の使用](#)を参照してください。
- **1 日** スケジュール禁止期間の日付を選択します。詳細は、[スケジュール禁止期間の使用](#)を参照してください。
- **毎日** 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を設定します。詳細は、[スケジュール禁止期間の使用](#)を参照してください。

7. 構成を確認します。

- 日付と時間の構成が要件を満たしていない場合、[OK] ボタンをクリックすることはできません (クリック不可)。頻度オプションの選択を変更して構成を調整し、プロファイルを再設定します。
- 構成が要件を満たしている場合、[OK] ボタンがクリック可能になり、選択した設定の詳細情報が [詳細] テキストボックスに表示されます。

8. 構成の完了後、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止期間] インターフェースの右側ウィンドウにスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが表示され、左側ウィンドウのカレンダーに新しいスケジュール禁止日がハイライト表示されます。

## 週単位スケジュール禁止期間の構成

[週単位] の構成では、スケジュール禁止期間を特定の週および曜日に繰り返し設定します。この構成は、指定した曜日の日付に関係なく、毎週のスケジュールの一部として繰り返し設定する場合に適しています。

「週単位」という名前から「週 1 回のみ」のスケジュール禁止を連想しますが、この構成では週 1 回に限定されず、スケジュールを禁止する頻度を柔軟に設定することができます。

この構成では、次の項目を指定することができます。

- 曜日 (複数可) - スケジュールを禁止する曜日です。
- 週 (複数可) - スケジュールを禁止する週です。
- 月 (複数可) - スケジュールを禁止する月です。

この柔軟な構成では、スケジュール禁止期間を毎週の同一曜日に設定するだけでなく、週に2日以上以上の頻度で禁止期間にすることもできます。また、この構成では、月の特定の週 (複数可) をスケジュール禁止期間の対象外にすることも、年の特定の月 (複数可) を対象外にすることもできます。

## 週単位スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [週単位] オプションを選択した場合、指定した週、曜日、月に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

| 設定                                 | オプションまたは必須/デフォルト値   | 説明と有効値                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オン<br>[週] チェック<br>ボックス (左側の<br>列)  | 必須 (この列で少なくとも1つを選択) | <p>一連の週番号がチェックボックスで表示されます。週のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその週に設定されます。たとえば、[第 1]、[第 2] 週を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の週を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての週が自動的に選択され、スケジュール禁止期間がすべての週に設定されます。</p> |
| オン<br>[曜日] チェック<br>ボックス (右側の<br>列) | 必須 (この列で少なくとも1つを選択) | <p>一連の曜日がチェックボックスで表示されます。曜日のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその曜日に設定されます。たとえば、[月曜]、[火曜]を選択します。</p>                                                                                                       |

| 設定           | オプションまたは必須/デフォルト値        | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                |
|--------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              |                          | <p>1 つまたは複数の曜日を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての曜日が自動的に選択され、スケジュール禁止期間がすべての曜日に設定されます。</p>                                                                                                 |
| [月] チェックボックス | 必須 (このグループで少なくとも 1 つを選択) | <p>一連の月がチェックボックスで表示されます。月のいずれかを選択すると、週単位のスケジュール禁止期間がその月に設定されます。たとえば、[1 月]、[2 月] を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の月を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての月が自動的に選択され、スケジュール禁止期間が毎月の特定の週および曜日に設定されます。</p> |

## 週単位スケジュール禁止期間設定を構成するには

週単位スケジュール禁止期間設定を構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[週単位] を選択します。  
ダイアログボックスに、週単位のスケジュール禁止期間を構成するためのチェック

ボックスが表示されます。を参照してください。

**注意：**[OK] ボタンをクリック可能にしてプロファイルを保存するには、少なくとも 1 つの週、曜日、月を選択する必要があります。

2. スケジュール禁止期間を設定する週のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての週を一括選択します。
3. スケジュール禁止期間を設定する曜日のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての曜日を一括選択します。
4. スケジュール禁止期間を設定する月のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての月を一括選択します。

## 月単位スケジュール禁止期間の構成

[月単位] の構成では、指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。この構成では、指定した日の曜日に関係なく、月の同一日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

「月単位」という名前から「月 1 回のみ」のスケジュール禁止を連想しますが、この構成では月 1 回に限定されず、スケジュールを禁止する頻度を柔軟に設定することができます。また、このスケジュール禁止期間を終日に設定することも、1 日の特定の時間帯に設定することもできます。

この構成では、次の項目を指定することができます。

- 日 (複数可) - スケジュールを禁止する日です。
- 月 (複数可) - スケジュールを禁止する月です。

この柔軟な構成では、スケジュール禁止期間を毎月の同一日に設定するだけでなく、月に 2 日以上頻度で禁止期間を設定することもできます。また、特定の月をスケジュール禁止期間の対象外にすることもできます。

## 月単位スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [月単位] オプションを選択した場合、指定した日および月に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

| 設定           | オプションまたは必須/デフォルト値 | 説明と有効値                                                                                                                                                                                                   |
|--------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [日] チェックボックス | 必須                | <p>一連の日番号がチェックボックスで表示されます。日のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその日に設定されます。たとえば、[1 日]、[2 日]、[3 日] を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の日を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての日が自動的に選択され、選択した月のすべての日にスケジュール禁止期間が設定されます。</p> |
| [月] チェックボックス | 必須                | <p>一連の月がチェックボックスで表示されます。月のいずれかを選択すると、このスケジュール禁止期間がその月に設定されます。たとえば、[1 月]、[2 月] を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の月を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての月が自動的に選択され、スケジュール禁止期間が毎月の特定の日に設定されます。</p>           |

## 月単位スケジュール禁止期間設定を構成するには

月単位スケジュール禁止期間設定を構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[月単位] を選択します。  
[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスに、月単位のスケジュール禁止期間を構成するためのチェックボックスが表示されます。を参照してください。  
**注意：**少なくとも 1 つの日および月のチェックをオンにする必要があります。この要件を満たさない限り、[OK] ボタンがクリック可能にならず、プロファイルを保存することができません。
2. スケジュール禁止期間を設定する日のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての日を一括選択します。
3. スケジュール禁止期間を設定する月のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての月を一括選択します。

## 1 日スケジュール禁止期間の構成

[1 日] の構成では、指定した日付にスケジュール禁止期間を 1 日だけ設定します。また、このスケジュール禁止期間を終日に設定することも、1 日の特定の時間帯に設定することもできます。

## 1 日スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [1 日] オプションを選択した場合、スケジュール禁止期間カレンダーのコピーが表示され、指定した日付に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

## 1 日スケジュール禁止期間設定を構成するには

### 手順

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[1 日] を選択します。  
ダイアログボックスに表示されるカレンダーの日付は、現在の日付に自動的に設定さ

れます。

2. 月を変更するには一重矢印をクリックし、年を変更するには二重矢印をクリックします。
3. 1 日スケジュール禁止期間に設定する年月を特定した後、スケジュール禁止日にする日付をクリックします。

カレンダーで新しい日付がハイライト表示されます。

## 毎日スケジュール禁止期間の構成

[毎日] の構成では、スケジュール禁止期間を毎日に設定します。[毎日] スケジュール禁止期間の設定によりレポートのスケジュール実行が妨害されないよう、禁止期間を特定の時間帯に限定する必要があります。

## 毎日スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [毎日] オプションを選択した場合、[開始] および [終了] テキストボックスのみが表示され、毎日の特定の時間帯にスケジュール禁止期間を設定することができます。それ以外のオプションは関係しません。

## 毎日スケジュール禁止期間設定を構成するには

### 手順

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[毎日] を選択します。  
[スケジュール禁止時間] のチェックが自動的にオンになり、開始時間と終了時間の選択を指示するメッセージが表示されます。  
開始時間は現在時間に自動的に設定され、終了時間は開始時間の 2 時間後に自動的に設定されます。
2. 開始時間と終了時間の値を変更する場合は、[スケジュール禁止期間の使用](#)を参照して



ください。

## スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を構成するには

[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

### 手順

1. 開始時間の時間要素を変更するには、[開始] テキストボックスの時間セクションをクリックします。
  - a. 上下の矢印をクリックして、時間単位で値を増減します。
  - b. このセクションに時間を直接入力することもできますが、入力範囲が 12 時間である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、12 時間形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「44」と入力すると「8」になります。
$$(44 - (12 \times 3)) = (44 - 36) = 8$$
  - c. 開始時間が終了時間より前になるように入力します。
2. 開始時間の分要素を変更するには、[開始] テキストボックスの分セクションをクリックします。
  - a. 上下の矢印をクリックして、分単位で値を増減します。
  - b. このセクションに分を直接入力することもできますが、入力範囲が 60 分である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、60 分形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「88」と入力すると「28」になります。
$$(88 - 60 = 28)$$
  - c. 開始時間が終了時間より前になるように入力します。
3. 開始時間の午前と午後を切り替えるには、[開始] テキストボックスの午前/午後セクションをクリックします。
  - a. 上向き矢印をクリックして、午前を午後に変更します。
  - b. 下向き矢印をクリックして、午後を午前に変更します。
  - c. このセクションに「午前」または「午後」を直接入力することもできます。
4. 終了時間の時間要素を変更するには、[終了] テキストボックスの時間セクションをクリックします。

- a. 上下の矢印をクリックして、時間単位で値を増減します。
  - b. このセクションに時間を直接入力することもできますが、入力範囲が 12 時間である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、12 時間形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「44」と入力すると「8」になります。  
 $(44 - (12 \times 3)) = (44 - 36) = 8$
  - c. 終了時間が開始時間より後になるように入力します。
5. 終了時間の分要素を変更するには、[終了] テキストボックスの分セクションをクリックします。
  - a. 上下の矢印をクリックして、分単位で値を増減します。
  - b. このセクションに分を直接入力することもできますが、入力範囲が 60 分である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、60 分形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「88」と入力すると「28」になります。  
 $(88 - 60 = 28)$
  - c. 終了時間が開始時間より後になるように入力します。
6. 終了時間の午前と午後を切り替えるには、[終了] テキストボックスの午前/午後セクションをクリックします。
  - a. 上向き矢印をクリックして、午前を午後に変更します。
  - b. 下向き矢印をクリックして、午後を午前に変更します。
  - c. このセクションに「午前」または「午後」を直接入力することもできます。

**重要：**[開始] および [終了] テキストボックスの [時間]、[分]、[午前/午後] セクションを左右に移動するには、キーボードの左矢印キーおよび右矢印キーを使用します。

これらのセクションを Tab キーで移動しようとする、[開始] および [終了] テキストボックスのセクション間を左右に移動する代わりに、下方向に移動して次のオプションが選択されます。

たとえば、Tab キーを使用して [開始] テキストボックスの時間セクションから移動しようとする、[開始] テキストボックスの分セクションではなく、[終了] テキストボックスの時間セクションに移動します。右へ移動するには、キーボードの右矢印キーを使用します。

同様に、Shift+Tab キーを使用すると、[開始] または [終了] テキストボックス内の 1 つ前のセクションに戻るのではなく、1 つ前のオプションに移動します。左へ移動するには、キーボードの左矢印キーを使用します。

# スケジュール禁止期間プロファイルを削除するには

## 手順

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルの割り当て先グループのフォルダをクリックします。
2. 右側ウィンドウで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルのエントリをクリックします。
3. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[削除] をクリックします。
4. 確認メッセージで [はい] をクリックします。

削除したエントリが右側ウィンドウから除外され、そのエントリに割り当てられていた日付のハイライト表示が左側ウィンドウのスケジュール禁止期間カレンダーから消去されます。

## スケジュール禁止期間のインポート

スケジュール禁止期間の [インポート] 機能を使用して、スケジュール禁止期間の管理タスクを一括処理することができます。このツールでは、正しくフォーマットされたインポートファイルを使用して次のことを行えます。

- 新しいスケジュール禁止期間プロファイルを作成する。
- スケジュール禁止期間プロファイルを削除する。
- スケジュール禁止期間情報を置換する。
- インポートファイルで指定された操作を実行する。

インポートソースファイルには、スケジュール禁止期間プロファイルに関する次の情報を記述します。

- **日付** スケジュール禁止期間プロファイルを有効にする日付です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルを作成する場合は、この日付を省略することができます。
- **開始時間** スケジュール禁止期間を有効にする時間 (HH:MM:SS) です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルの場合を除き、この値は必要に応じて指定します。

- **終了時間** スケジュール禁止期間を無効にする時間 (HH:MM:SS) です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルの場合を除き、この値は必要に応じて指定します。
- **説明** スケジュール禁止期間プロファイルの説明です。
- **名前** スケジュール禁止期間プロファイルに割り当てて一意の名前です。

**注意：**[週単位] および [月単位] スケジュール禁止期間プロファイルの場合、これらのエントリの前に追加コードを記述します。詳細は、[スケジュール禁止期間の使用](#)を参照してください。

ReportCaster がインポートソースファイルの情報をどのように処理するかは、インポート機能の実行時に選択したタスクに基づいて決定されます。

次のタスクがあります。

- **追加** - インポートファイルのレコードからスケジュール禁止期間プロファイルを作成します。
- **削除** - インポートファイルのレコードの日付および追加情報と、既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付および追加情報を比較し、インポートファイルのレコードに一致するプロファイルを削除します。
- **置換** - インポートファイルのレコードの日付情報と、既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付情報を比較し、名前および説明の情報をプロファイルに追加します。
- **ファイル内の実行オプションを使用** - インポートファイルに記述されたコマンドと、これらのコマンドの影響を受けるスケジュール禁止期間プロファイルのエントリに基づいて、追加、削除、置換を実行します。

運用上の変更により (例、月、四半期、年に一度のスケジュール変更)、レポート実行のスケジュールを全面的に見直す場合、これらのタスクを一括処理することで、スケジュール禁止期間プロファイルを手動で作成、更新、削除する手間を簡素化することができます。

たとえば、次の年のレポート実行のスケジュールに休日を組み込む場合、すべての休日の日付と名前を記述したファイルを用意します。スケジュール禁止期間のインポート機能を使用して、そのファイルをインポートし、1年間の休日スケジュール禁止日を1回の処理で設定することができます。インポート機能を使用しない場合、次の年の休日ごとに [1 日] スケジュール禁止期間プロファイルを作成する必要があります。

# スケジュール禁止期間インポートファイルフォーマット

インポートファイルフォーマットでは、スケジュール禁止期間レコードの各エントリに同一の基本構造が使用されますが、プロファイルタイプごとに若干の相違点があります。この相違点に基づいて、エントリの詳細情報から作成されるスケジュール禁止期間プロファイルのタイプが識別されます。

## 1 日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[1 日] スケジュール禁止期間プロファイルは、各プロファイルの情報をそれぞれ別の行に記述した Flat File からインポートすることができます。各行は、次のレイアウトに準拠する必要があります。

以下はその例です。

```
#Schedule Blackout Date Extract created 161004 102629 by admin
#for date range:(All)
#Dates Extracted from Group: administrators
##BLACKOUT DATE: yyyyMMdd/HH:mm:ss|HH:mm:ss description|name
##BLACKOUT TIME: /HH:mm:ss|HH:mm:ss description|name
##BLACKOUT PATTERN:
[101000000000/000000000000000000000000000000000000000001]/HH:mm:ss|HH:mm:ss
description|name
##BLACKOUT PATTERN: [101000000000/00001:0001000]/HH:mm:ss|HH:mm:ss
description|name
[000001000000/01000:0000100]/11:44:00|15:44:00 Administrators February 4,
2016|Blackout-Feb 4 2016 11:25 AM
```

- 日付には YYYYMMDD フォーマットを使用します。
- 時間には HH:MM:SS フォーマットを使用します。
- スケジュール禁止時間が終日の場合は、時間要素を省略することができます。

[週単位]、[月単位]、[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルでは、このフォーマットと若干異なるフォーマットが使用されます。



は、選択された月および日を示します。「1」は、月または曜日が選択されていることを示します。「0」は、月または曜日が選択されていないことを示します。

## 毎日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルは、各プロファイルの情報をそれぞれ別の行に記述した Flat File からインポートすることができます。各行は、次のレイアウトに準拠する必要があります。

```
/[Start Hour]|[End Hour] [Description]|[Name]
```

以下はその例です。

```
/21:04:00|23:04:00 Every Day Blackout between 3:00 PM and Midnight|Daily  
Afternoon Blackout
```

この情報で [毎日] スケジュール禁止期間のエントリであることを識別します。この情報には、エントリの説明および名前も含まれています。

## インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間プロファイルを追加するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを追加する方法では、インポートファイルの情報から新しいスケジュール禁止期間プロファイルが作成されます。そのため、インポートファイルには、インポート機能で ReportCaster に追加するスケジュール禁止期間プロファイルすべてのレコードを記述する必要があります。

### 手順

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、スケジュール禁止期間プロファイルをインポートするグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

**注意：**このダイアログボックスを Internet Explorer で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [追加] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスが開き、インポートファイルの各エントリに基づいて、新しいスケジュール禁止期間プロファイルの詳細が表示されます。を参照してください。

5. [追加] をクリックして、[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスの新しいスケジュール禁止期間プロファイルをスケジュール禁止日カレンダーおよびグループエントリに追加します。

スケジュール禁止期間が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。を参照してください。

6. [OK] をクリックします。

[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、インポートしたスケジュール禁止期間プロファイルの日付がスケジュール禁止日カレンダーでハイライト表示され、右側ウィンドウに新しいスケジュール禁止期間プロファイルが表示されます。を参照してください。

## インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間を置換するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを置換する方法では、プロファイルの名前および説明の更新情報が追加されます。指定したプロファイルをインポート処理で正しく更新するには、更新する既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付に一致する日付レコードをインポートファイルに含める必要があります。



## 手順

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、スケジュール禁止期間プロファイルをインポートするグループを選択します。

2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。を参照してください。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

**注意：**このダイアログボックスを Internet Explorer で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [置換] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、既存のスケジュール禁止期間プロファイルに追加される、インポートファイルの各エントリの詳細が表示されます。

5. [置換] をクリックして、[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスに表示された新しい情報を、指定されたスケジュール禁止期間プロファイルに追加します。

スケジュール禁止期間が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。を参照してください。

6. [OK] をクリックします。

更新されたスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが右側ウィンドウに表示されます。

# インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間プロファイルを削除するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを削除すると、そのプロファイルが除外されます。指定したプロファイルをインポート機能で正しく削除するには、削除する既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付に一致する日付レコードをインポートファイルに含める必要があります。

## 手順

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルが存在するグループを選択します。

2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。を参照してください。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

**注意：**このダイアログボックスを Internet Explorer で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [削除] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、既存のスケジュール禁止期間プロファイルに一致する、インポートファイルの各エントリの詳細が表示されます。

5. [削除] をクリックして、[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスに表示されたスケジュール禁止期間プロファイルを削除します。

スケジュール禁止日が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。

この機能でスケジュール禁止期間プロファイルが削除されると、[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウでカレンダーのスケジュール禁止日のハイライト表示が消去され、右側ウィンドウでスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが除外されます。を参照してください。

## インポートファイルを使用して複数のスケジュール禁止期間を管理するには

[ファイル内の実行オプションを使用] オプションを使用して、複数のスケジュール禁止期間プロファイルを追加、削除、または置換するインポートプロセスを単一処理で実行することができます。そのため、インポートファイルには、必要なコマンドをすべて記述し、続いてインポート処理で追加、削除、または置換するスケジュール禁止期間プロファイルのエントリを記述する必要があります。

### 手順

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、スケジュール禁止期間プロファイルを管理するグループを選択します。

2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

**注意：**このダイアログボックスを Internet Explorer で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [ファイル内の実行オプションを使用] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、インポートファイルの各エントリの詳細、および更新される情報についての注記が表示されます。

5. [OK] をクリックします。

6. 「スケジュール禁止日がインポートされました」というメッセージで、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウのカレンダーで、インポートしたスケジュール禁止期間の日付がハイライト表示されます。新しいスケジュール禁止期間プロファイルおよび更新されたプロファイルのエントリが右側ウィンドウに表示されます。インポート処理でプロファイルが削除された場合、カレンダーでその日付のハイライト表示が消去され、エントリも除外されます。

**注意：** ファイルを直接インポートする方法でスケジュール禁止期間プロファイルを更新した場合、[編集] コマンドは使用不可になります。これらのプロファイルを更新するには、[インポート] 機能の [置換] オプションを使用する必要があります。

## スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート

ReportCaster ステータスから既存のスケジュール禁止期間プロファイル情報をテキストファイル (.txt) にエクスポートすることができます。

ファイルを直接エクスポートすることで、複数のスケジュール禁止期間に関する情報をテキストファイルに移動する時間が節約されます。また、エクスポートしたファイルをスケジュール禁止日カレンダーのバックアップとして保持したり、外部システムにインポートするソースファイルとして使用し、レポート作成や監査に活用したりすることも可能です。

たとえば、次の 6 か月間のスケジュール禁止日に関するバックアップコピーが必要な場合、エクスポート機能を使用して、その 6 か月間を対象としたスケジュール禁止期間すべての日付、名前、説明をテキストファイルに移動することができます。これらのプロファイルが必要になった際にバックアップファイルから基本情報を再現すると、レポートスケジュールの再作成に要する時間が短縮されます。

## ファイルフォーマットのエクスポート

ファイルの [インポート] および [エクスポート] 機能では、レイアウトおよびフォーマットに関して同一の規則が適用されます。エクスポートファイルに含まれる追加情報として、エクスポートの対象として選択した日付範囲、およびファイル内のエントリのフォーマットを表すテンプレートがあります。を参照してください。

各エントリタイプのレイアウトについての詳細は、[スケジュール禁止期間の使用](#)を参照してください。

# スケジュール禁止期間プロファイルをファイルにエクスポートするには

スケジュール禁止期間プロファイルをファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。

## 手順

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、スケジュール禁止期間プロファイルをエクスポートするグループを選択します。

2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[エクスポート] をクリックします。

[スケジュール禁止期間のエクスポート] ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスの上部に、スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート元となるグループ名が表示されます。を参照してください。

3. [単一日付の範囲オプション] で次のいずれかを選択します。

- [すべて] を選択して、現在保存されているスケジュール禁止期間プロファイルをすべてエクスポートします。
- [日付範囲] を選択して、指定した日付範囲に該当するスケジュール禁止期間プロファイルのみをエクスポートします。

[日付範囲] を選択した場合、[開始日] および [終了日] を入力または選択します。日付を選択するには、テキストボックス横の下向き矢印をクリックします。カレンダーから日付を選択することができます。

4. [OK] をクリックします。

5. ファイルを開くには、ブラウザから提示される [開く] ボタンをクリックします。

ウィンドウが開き、エクスポートしたプロファイルの内容が表示されます。を参照してください。

ファイルを保存し、ウィンドウを閉じるには、[ファイル] メニューのコマンドを使用します。

6. エクスポートファイルの自動ダウンロードを受容するには、[保存] ボタンをクリックします (Google Chrome では、新規ファイル名が表示されたページを閉じるのみ)。

ダウンロードしたファイルは、後からユーザのコンピュータの [ダウンロード] フォルダから開くことができます。また、ファイルの名前を変更したり、アーカイブ目的で

ファイルを別のフォルダにコピーしたりすることも可能です。

7. ファイルの名前を変更し、別のフォルダに保存するには、[開く] または [プログラムで開く] をクリックしてファイルを開き、[名前を付けて保存] コマンドを使用します。
8. [名前を付けて保存] ダイアログボックスで、ファイルの保存先フォルダに移動し、名前を変更した上で [保存] をクリックします。

ダウンロード時に空白の Web ページが開いた場合は、ファイルの保存後にその Web ページも閉じます。

**注意：**デフォルトのエクスポートファイル名は、*rcbextract\_GroupName\_YYMMDD\_HHMMSS.txt* です。ここで、GroupName は禁止日のエクスポート元のグループ名、YYMMDD および HHMMSS はファイルが作成された日付 (年、月、日) および時間 (時、分、秒) をそれぞれ表します。

## 実行 ID

実行 ID は、スケジュールタスクを実行するために WebFOCUS Reporting Server、FTP サーバ、または Web サーバに接続する際に使用される有効なユーザ ID です。実行 ID をサーバで作成、変更、削除した場合、実行 ID の認証情報を格納するリポジトリテーブルでもその実行 ID を作成、変更、削除する必要があります。同様に、実行 ID のパスワードをサーバで変更した場合、リポジトリテーブルでも実行 ID のパスワードを変更する必要があります。実行認証情報がトラステッド (Trusted) の場合、パスワードの変更は必要ありません。

### 注意

- スケジュールの作成時および既存スケジュールのタスクの編集時に実行 ID の入力が必要される場合、その実行 ID のパスワードが検証されます。スケジュールのタスクを編集し、スケジュールツールを閉じた後、パスワードに誤りがあると、そのスケジュールの実行に失敗します。この失敗は、スケジュールジョブログに記録されます。
- 実行 ID およびパスワードは、変更管理ユーティリティを使用してインポートすることも、エクスポートすることもできません。新しい実行 ID およびパスワードは、選択したシステムで作成する必要があります。
- FTP ユーザのパスワード変更は、その FTP サーバとスケジュールオーナーのユーザ ID を使用するスケジュールすべてに適用されます。

実行 ID のリストを表示するには、ReportCaster ステータスで [実行 ID] タブをクリックします。

このタブでは、次のことを行えます。

- 新しい実行 ID の作成。

- 既存の実行 ID のプロパティの表示。
- 実行 ID の削除。
- 実行 ID のリストのリフレッシュ。

**注意：**実行 ID を作成、変更、削除すると、リポジトリテーブルが更新され、これらの実行 ID が、指定したサーバとの間で同期化されます。ただし、サーバ上のユーザ ID の認証情報は変更されません。

## 新しい実行 ID を作成するには

新しい実行 ID を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. [実行 ID] タブのリソースツリーで、実行 ID を作成するユーザフォルダを選択するか、[ユーザ] フォルダを選択します。[ユーザ] フォルダを選択すると、実行 ID エディタで特定のユーザを選択することができます。
2. リボンの [実行 ID の管理] グループで、[新規作成] をクリックします。  
実行 ID エディタが開きます。
3. 次のパラメータを指定します。
  - a. **オーナーリスト** 実行 ID のオーナーとなるユーザを選択します。  
**注意：**ユーザフォルダのいずれかを選択して [新規作成] をクリックした場合、このオプションは無効になり、選択したユーザ名がオーナーとして表示されます。
  - b. **実行 ID** 有効な実行 ID を入力します。
  - c. **サーバタイプ** ドロップダウンリストからサーバのタイプを選択します。  
[WebFOCUS Reporting Server]、[FTP]、[WEB] から選択します。
  - d. **サーバ名** [サーバ名] ドロップダウンリストから、認証情報を関連付ける WebFOCUS Reporting Server の名前を選択するか、FTP サーバまたは Web サーバの名前を入力します。  
**注意：**[サーバ名] には、ReportCaster の構成で定義されている Reporting Server が表示されます。
  - e. **パスワード** ユーザ ID のパスワードです。このパスワード入力は、指定したサーバに新しいパスワードを作成するのではなく、実行 ID 情報が格納されるリポジトリテーブルに既存のパスワードを入力する操作です。

- f. **パスワードの確認** パスワードを再入力します。
- 4. 実行 ID をリポジトリテーブルに作成するには [OK] を、リクエストを取り消すには [キャンセル] をクリックします。

## 実行 ID のパスワードを変更するには

実行 ID のパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 実行 ID のリストから、プロパティを変更する実行 ID を選択します (例、admin)。
2. 右側のウィンドウで実行 ID をダブルクリックするか、[編集] をクリックします。  
実行 ID エディタが開きます。
3. 次の情報を指定します。
  - a. **パスワード** 実行 ID のパスワードを入力します。このパスワードは、[サーバ名] テキストボックスに表示されるサーバのユーザ ID のパスワードと同一である必要があります。
  - b. **パスワードの確認** パスワードを再入力します。  
ReportCaster を使用してパスワードを変更しても、指定したサーバのパスワードは変更されません。
4. [OK] をクリックし、リポジトリテーブル内の実行 ID またはパスワードを変更します。  
値が変更されたことを確認するメッセージが表示されます。

## 実行 ID を削除するには

実行 ID を削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 削除する実行 ID を選択します。
2. [削除] をクリックします。選択した実行 ID の削除を確認するメッセージが表示されます。



3. [OK] をクリックします。

## 結果

実行 ID が削除された後、特定のサーバにあるスケジュール済みのジョブでこの実行 ID が必要なものは、有効な実行 ID にスケジュールが変更されない限り実行されません。削除された実行 ID を指定する単一スケジュールの実行認証情報を変更する場合、ReportCaster により、削除された実行 ID を指定するすべてのスケジュールに変更が適用されます。

# グローバル更新

権限を所有するユーザは、スケジュールおよび配信リストに格納される値をグローバルに更新することができます。[グローバル更新] インターフェースで更新可能な設定には、次のものがあります。

- メールサーバ
- FTP サーバ
- Email アドレス
- Email 送信者
- ReportLibrary URL
- データサーバ
- 通知タイプ
- 通知返信 Email アドレス
- 通知件名
- 通知簡易メッセージの宛先
- 通知詳細メッセージの宛先
- 第 1 実行前プロシジャ
- 第 2 実行前プロシジャ
- 第 1 実行後プロシジャ
- 第 2 実行後プロシジャ

グローバル更新は、管理コンソールの globalUpdates ログファイルに記録されます。グローバル更新は、デフォルト設定で記録されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

## メールサーバをグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [メールサーバ] (デフォルト) を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存のメールサーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しいメールサーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用するメールサーバを新しい値に更新します。

## FTP サーバをグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [FTP サーバ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の FTP サーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい FTP サーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する FTP サーバを新しい値に更新します。

## Email アドレスをグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [Email ア

ドレス] を選択します。

2. [古い値] テキストボックスに、既存の Email アドレスを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい Email アドレスを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する Email アドレスを新しい値に更新します。

## Email 送信者をグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [Email 送信者] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の Email 送信者を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい Email 送信者を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する Email 送信者を新しい値に更新します。

## ReportLibrary URL をグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [ReportLibrary URL] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の ReportLibrary URL を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい ReportLibrary URL を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する ReportLibrary URL を新しい値に更新します。

# データサーバをグローバル更新するには

## 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [データサーバ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存のデータサーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しいデータサーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用するデータサーバを新しい値に更新します。

# 通知タイプをグローバル更新するには

## 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知タイプ] を選択します。  
[通知タイプ] には、次のオプションがあります。
  - **なし** ReportCaster からスケジュールステータスの通知が送信されることはありません。これがデフォルト値です。
  - **常に通知** スケジュールを実行するたびに、通知を送信します。
  - **エラー時** スケジュールの実行時にエラーが発生したときにのみ、通知を送信します。
2. [古い値] ドロップダウンリストから、既存の値を選択します。
3. [新しい値] ドロップダウンリストから、新しい値を選択します。  
[古い値] ドロップダウンリストから [なし] を選択した場合、追加のテキストボックスとして [返信 Email アドレス]、[件名]、[通知簡易メッセージの宛先]、[通知詳細メッセージの宛先] が表示されます。各テキストボックスに、必要な値を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知タイプを新しい値に更新します。

## 通知返信 Email アドレスをグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知返信 Email アドレス] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知返信 Email アドレスを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知返信 Email アドレスを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知返信 Email アドレスを新しい値に更新します。

## 通知件名をグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知件名] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知件名を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知件名を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知件名を新しい値に更新します。

## 通知簡易メッセージの宛先をグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知簡易

メッセージの宛先] を選択します。

2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知簡易メッセージ宛先を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知簡易メッセージ宛先を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知簡易メッセージの宛先を新しい値に更新します。

## 通知詳細メッセージの宛先をグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知詳細メッセージの宛先] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知詳細メッセージ宛先を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知詳細メッセージ宛先を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知詳細メッセージの宛先を新しい値に更新します。

## 第 1 実行前プロシジャをグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [第 1 実行前プロシジャ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の第 1 実行前プロシジャを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい第 1 実行前プロシジャを入力します。
4. [更新] をクリックして、すべてのスケジュールで使用する第 1 実行前プロシジャを新しい値に更新します。

## 第 2 実行前プロシジャをグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [第 2 実行前プロシジャ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の第 2 実行前プロシジャを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい第 2 実行前プロシジャを入力します。
4. [更新] をクリックして、すべてのスケジュールで使用する第 2 実行前プロシジャを新しい値に更新します。

## 第 1 実行後プロシジャをグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [第 1 実行後プロシジャ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の第 1 実行後プロシジャを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい第 1 実行後プロシジャを入力します。
4. [更新] をクリックして、すべてのスケジュールで使用する第 1 実行後プロシジャを新しい値に更新します。

## 第 2 実行後プロシジャをグローバル更新するには

### 手順

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [第 2 実行後プロシジャ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の第 2 実行後プロシジャを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい第 2 実行後プロシジャを入力します。
4. [更新] をクリックして、すべてのスケジュールで使用する第 2 実行後プロシジャを新しい値に更新します。

## ジョブログの削除

[ジョブログの削除] 機能では、過去の日数を指定してジョブログを削除するなど、ジョブログをオンデマンドで削除するオプションが提供されます。たとえば、前月のジョブログを削除するには、デフォルト値の 30 日を使用します。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。

## ジョブログをオンデマンドで削除するには

### 手順

1. ReportCaster ステータスの [ツール] グループで、[ジョブログの削除] をクリックします。  
[ジョブログの削除] ダイアログボックスが表示されます。
2. [削除する過去のジョブログ (日数)] テキストボックスで、デフォルト日数を使用するか、別の値を指定します。デフォルト値は 30 日です。
3. [トレースオプション] 下で、デフォルト値の [デフォルトトレース] を受容するか、[トレースなし] または [トレースオン] を選択します。



4. [OK] をクリックします。

## スケジュールの削除

[スケジュールの削除] 機能では、すべての非アクティブスケジュールまたは再実行なしのスケジュールを、オンデマンドで削除することができます。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。

**注意：**非アクティブまたは再実行なしのスケジュールをオンデマンドで削除するには、権限が必要です。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

## 非アクティブまたは再実行なしのスケジュールをオンデマンドで削除するには

### 手順

1. ReportCaster ステータスの [ツール] グループで、[スケジュールの削除] をクリックします。  
[非アクティブまたは再実行なしのスケジュールを削除] ダイアログボックスが表示されます。
2. [非アクティブまたは再実行なしのスケジュールを削除] ダイアログボックスで、非アクティブスケジュールを削除するか、再実行なしのスケジュールを削除するか、またその両方を削除するかを選択することができます。
3. [トレースオプション] 下でデフォルト値の [デフォルトトレース] を受容するか、[トレースなし] または [トレースオン] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

# コマンドプロンプトインターフェースを使用したスケジュールの削除

必要に応じて、Windows コマンドプロンプトの `purgesched` ユーティリティを使用して、非アクティブまたは再実行なしのスケジュールを削除することができます。このユーティリティは、UNIX でも使用できます。

## 非アクティブおよび再実行なしのスケジュール削除ユーティリティを実行するには

### 手順

1. Windows システムでコマンドプロンプトを起動し、  
**drive:**¥ibi¥WebFOCUSnn¥ReportCaster¥bin ディレクトリに移動します。この場合、**drive** は、WebFOCUS ソフトウェアの格納先のドライブ、**nn** は WebFOCUS ソフトウェアのバージョン番号です。
2. 「purgesched」と入力します。
3. Enter キーを押します。  
[ReportCaster Schedule Purge Utility Operation] と表示されます。
4. 有効な管理者 ID およびパスワードを入力します。
5. Enter キーを押します。  
[delete all inactive schedules] プロンプトが表示されます。
6. すべての非アクティブスケジュールを削除する場合は、「Y」と入力します。
7. Enter キーを押します。  
[delete all non-recurring schedules] プロンプトが表示されます。
8. すべての再実行なしのスケジュールを削除する場合は、「Y」と入力します。
9. Enter キーを押します。

確認のプロンプトが表示されます。

10. 選択したスケジュールの削除を確認するため、「Y」と入力して削除を続行するか、「N」と入力して削除を中止します。
11. Enter キーを押します。  
「Y」と入力した場合、ユーティリティは選択したスケジュールの削除を続行し、...ReportCaster¥log ディレクトリの purgesched.log ファイルに処理が記録されます。「N」と入力した場合、選択したスケジュールは削除されません。

# 配信リストの作成と保守

配信リストを作成しておくことで、スケジュールの受信者を個別に入力する代わりに、リポジトリに格納されている受信者リストを指定することができるため、複数の受信者への配信が簡単になります。配信リストは、一連のユーザに情報を送信する時間を短縮することに役立ちます。配信リストを作成することも、以前に作成したリストをインポートすることも、別のユーザが作成した公開リストを使用することもできます。配信リストは、Email、FTP の方法で作成できます。配信リストは、共有したり、権限を変更して管理したり、公開して別のユーザが使用できるようにできます。

配信リストには、次の種類があります。

- **Email** Email では、情報の一括送信に使用可能な Email のリストを作成することができます。
- **FTP** FTP では、情報の一括送信に使用可能な FTP パスのリストを作成することができます。

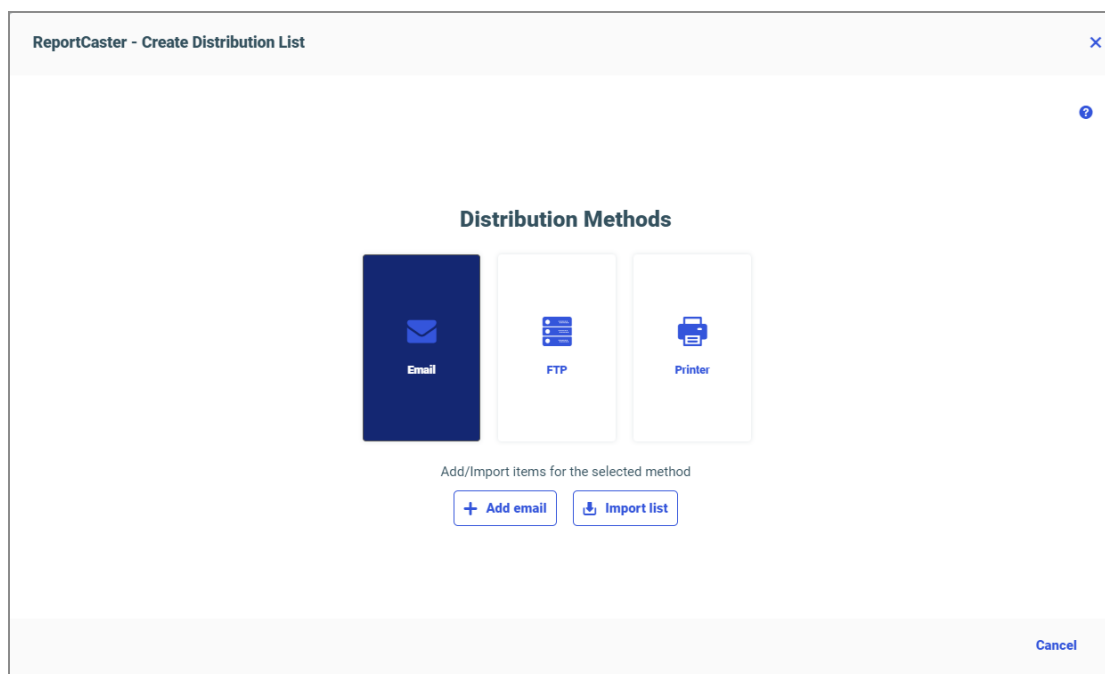
**i 注意：**LDAP データソースを使用している場合、ReportCaster ステータスの構成ツールで [LDAP Email の設定] を構成し、このデータソースに格納されている Email 情報にアクセスすることができます。この設定を構成すると、社内の Email アドレス帳から Email アドレスを選択することが可能になり、すべての Email アドレスを手動で入力する手間が省けます。この機能の使用についての詳細は、[LDAP の設定](#)を参照してください。

## 配信リストを作成するには

配信リストを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. [新しいことを始める] ボタン  をクリックし、[ReportCaster] セクションから [配信リストの作成] を選択します。
2. 下図のように、[配信リストの作成] ダイアログボックスが開きます。



3. 配信リストの [配信方法] を選択します。デフォルト設定の配信方法は、[Email] です。
  - Email を選択する場合は、[Email を追加するには](#)を参照してください。
  - FTP を選択する場合は、[FTP の追加](#)を参照してください。
4. [OK] ボタンをクリックします。
5. [リストのインポート] ボタン [Import list](#) をクリックすると、既存のリストをインポートすることができます。詳細は、[メンバーリストのインポートによる配信リストの作成](#)を参照してください。
6. [タイトル]、[名前]、[概要] を入力します。下図のように、[保存] ボタンをクリックして、配信リストの保存先ワークスペースを指定します。

Save

Workspaces > My\_Workspace > My Content

Search My Content

Items

Email Distribution list

Title: Distribution List Temp

Name: distribution\_list\_temp

Summary: This is a temporary distribution list.

Cancel Save



### 注意：

- ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
- ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

## 配信リストへのメンバーの追加

配信リストにメンバーを追加するには、次の方法があります。

- [Email を追加するには](#)
- [FTP の追加](#)

### Email を追加するには

1. [配信方法] ダイアログボックスで、[Email の追加] をクリックします。 [+ Add email](#)
2. [Email の追加] ダイアログボックスが開きます。[新しい Email] ボタン

[+ New email](#) をクリックして Email メンバーの追加を開始します。下図のように、ドロップダウンリスト、バースト値、受信者の Email アドレスをクリックして、パターンを指定する必要があります。

|                          | Pattern  | Burst Value | Email                               |
|--------------------------|----------|-------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | Wildcard | 1           | temp1@gmail.com x temp3@gmail.com x |
| <input type="checkbox"/> | Wildcard | 2           | temp2@gmail.com x                   |

3. 既存のリストからメンバーを追加することもできます。詳細は、[既存のリストからのメンバーの追加](#)を参照してください。
4. [Email アドレス] テキストボックスには、複数の Email アドレスを入力することができます。詳細は、[複数 Email アドレスの指定](#)を参照してください。
5. [OK] ボタンをクリックします。
6. [配信リストの作成] ダイアログボックスが開きます。下図のように、[Email の追加] ボタン [+ Add email](#) をクリックして、さらに Email アドレスを追加することも、[リストのインポート] ボタン [Import list](#) をクリックして既存のリストをインポートすることもできます。

**注意：**[方法] ドロップダウンリストで方法を切り替えることもできますが、方法を変更すると、既存の値がすべて削除されます。

ReportCaster - Create Distribution List

Method  
Email

+ Add email Import list Export list

Total members: 2

|                          | Burst Value | Email                              |
|--------------------------|-------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1           | "temp1@gmail.com; temp3@gmail.com" |
| <input type="checkbox"/> | 2           | "temp2@gmail.com"                  |

Cancel Save

7. すべてのメンバーを追加後、[保存] ボタンをクリックします。



#### 注意：

- 配信リストで指定可能な Email アドレスの最大値は 9999 件で、アドレス行当たりの最大文字数は 800 バイトです。
- ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで [入力はこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。

## FTP の追加

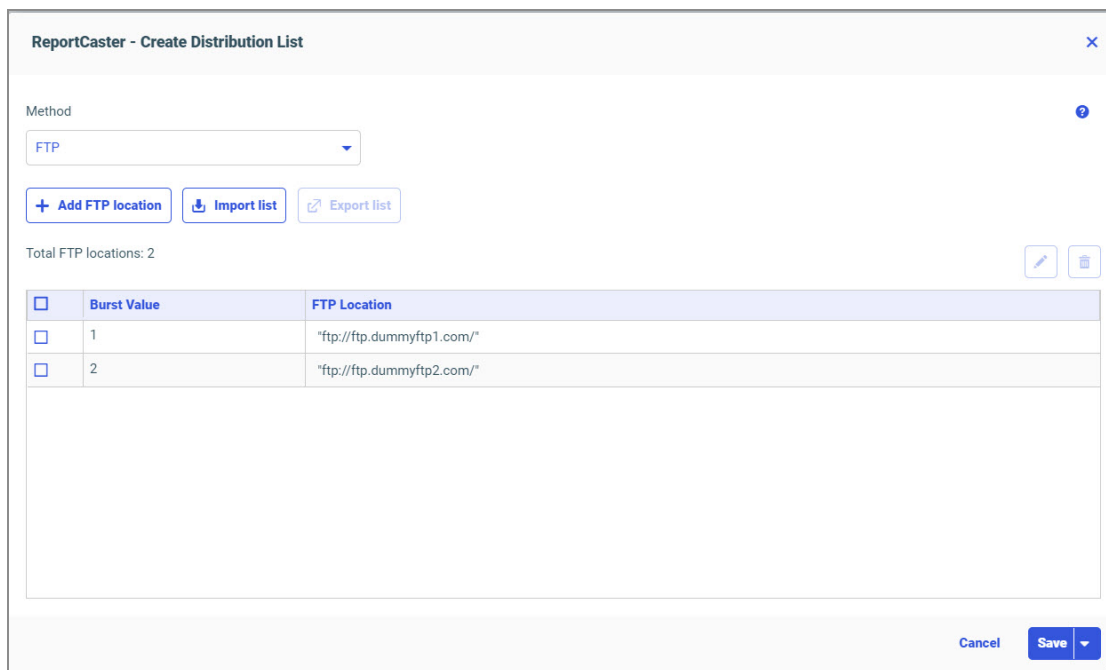
1. [配信方法] ダイアログボックスで、[FTP パスの追加] ボタン [+ Add FTP location](#) をクリックします。
2. 表示された [FTP パスの追加] ダイアログボックスで [新しい FTP の場所] ボタンをクリックし、FTP メンバーの追加を開始します。 [+ New FTP location](#) 下図のように、ドロップダウンリストをクリックして、[パターン]、[バースト値]、レポートを格納する [FTP パス] (括弧子を含む) を指定する必要があります。



| <input type="checkbox"/> | Pattern    | Burst Value | FTP Location             |
|--------------------------|------------|-------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | Wildcard ▼ | 1           | ftp://ftp.dummyftp1.com/ |
| <input type="checkbox"/> | Wildcard ▼ | 2           | ftp://ftp.dummyftp2.com/ |

3. 既存のリストからメンバーを追加することもできます。詳細は、[既存のリストからのメンバーの追加](#)を参照してください。
4. [OK] ボタンをクリックします。
5. 下図のように、表示された [配信リストの作成] ダイアログボックスで [FTP パスの追加] ボタン [+ Add FTP location](#) をクリックしてさらに FTP パスを追加するか、[リストのインポート] ボタン [Import list](#) をクリックして既存のリストをインポートします。

**i 注意：** [方法] ドロップダウンリストで方法を切り替えることもできますが、方法を変更すると、既存の値がすべて削除されます。



The image shows a dialog box titled "ReportCaster - Create Distribution List". It has a close button (X) in the top right corner. Below the title bar, there is a "Method" dropdown menu set to "FTP". To the right of the dropdown is a help icon (i). Below the dropdown are three buttons: "+ Add FTP location", "Import list", and "Export list". Below these buttons, it says "Total FTP locations: 2". To the right of this text are two icons: a pencil (edit) and a trash can (delete). Below this is a table with three columns: a checkbox, "Burst Value", and "FTP Location". The table contains two rows of data. At the bottom right of the dialog are "Cancel" and "Save" buttons, with a small dropdown arrow next to the "Save" button.

| <input type="checkbox"/> | Burst Value | FTP Location               |
|--------------------------|-------------|----------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1           | "ftp://ftp.dummyftp1.com/" |
| <input type="checkbox"/> | 2           | "ftp://ftp.dummyftp2.com/" |

6. すべての変更を完了後、[保存] ボタンをクリックします。

## 既存のリストからのメンバーの追加

以下は、Email 配信リストでの手順ですが、FTP の場合も、同じ手順を実行します。

1. [Email の追加] ダイアログボックスで、[既存のリスト] オプションをクリックします。
2. ドロップダウンリストから、[配信リスト] を選択することができます。
3. 下図のように、インポートするメンバーを選択し、[選択したオプションリストに選択項目を追加] ボタン  をクリックします。

4. 選択したメンバーが、右側に移動します。[選択したオプションリストから選択項目を削除] ボタン  をクリックすると、メンバーを変更または削除できます。
5. [OK] ボタンをクリックして [配信リストの作成] ダイアログボックスを表示すると、メンバーが追加されています。

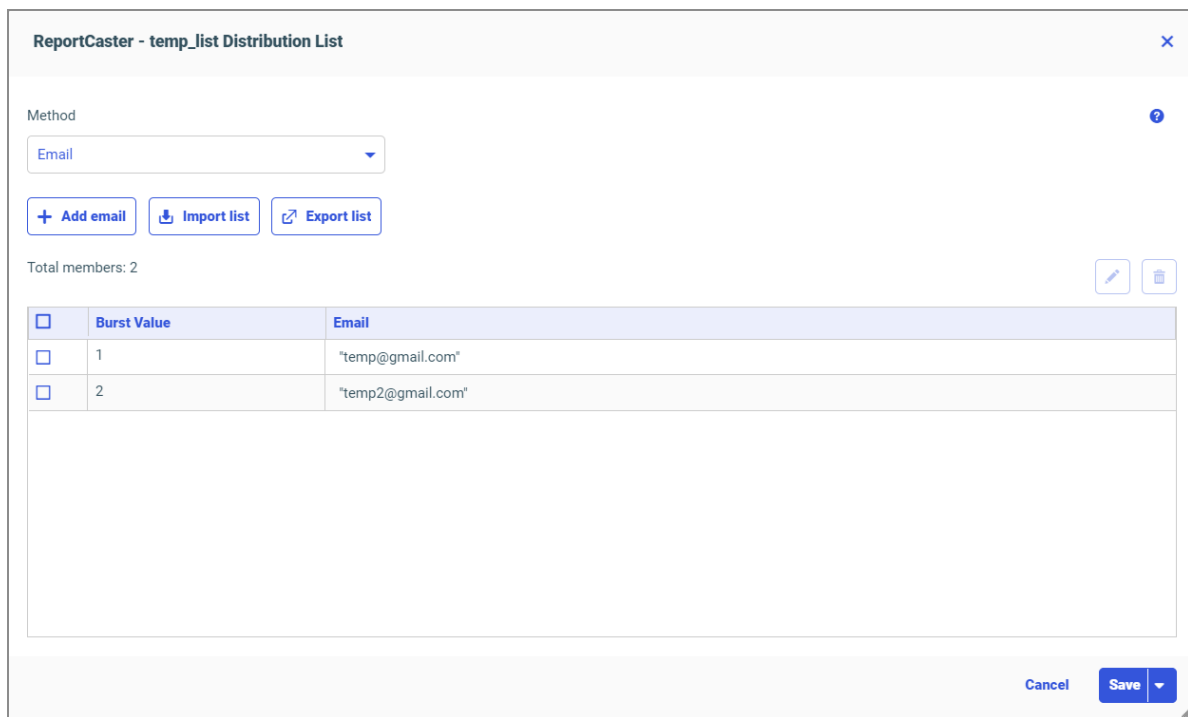
## 配信リストを編集するには

配信リストツールへのアクセスが許可されている場合、所有する配信リストを表示、編集することができます。配信リストがグループにより所有されている場合、または公開済みの場合は、その配信リストの編集権限が必要です。

配信リストを編集するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、編集する配信リストを右クリックして [編集] を選択するか、配信リストをダブルクリックします。
2. 下図のように、選択した配信リストのプロパティが表示されます。



ReportCaster - temp\_list Distribution List

Method

Email

+ Add email Import list Export list

Total members: 2

| <input type="checkbox"/> | Burst Value | Email             |
|--------------------------|-------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1           | "temp@gmail.com"  |
| <input type="checkbox"/> | 2           | "temp2@gmail.com" |

Cancel Save

3. このダイアログボックスでは、次の操作が可能です。

- 編集するメンバーのチェックをオンにする。メンバーを右クリックして [編集] を選択するか、[編集] アイコン  をクリックします。
- [追加] ボタンをクリックして、配信リストに新しいメンバーを追加する。[新規メンバーの追加] ダイアログボックスが表示されます。詳細は、[配信リストへのメンバーの追加](#)を参照してください。
- [リストのインポート] ボタン  をクリックして、配信リストをインポートする。詳細は、[メンバーリストのインポートによる配信リストの作成](#)を参照してください。
- [リストのエクスポート] ボタン  をクリックして、配信リストをエクスポートする。詳細は、[配信リストをエクスポートするには](#)を参照してください。
- 項目を選択し、[削除] アイコン  をクリックして、配信リストのメンバーを削除する。

**i** **注意：**ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)を参照してください。

4. 変更の完了後、[保存] をクリックします。

**i** **注意：**ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

変更せずにダイアログボックスでの編集を終了するには、[閉じる] をクリックします。

## 配信リストをエクスポートするには

使用中のシステムの配信リストをエクスポートし、別の配信リストにインポートして使用することができます。この配信リストを、別のユーザと共有できます。

配信リストをエクスポートするには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、編集する配信リストを右クリックして [編集] を選択するか、配信リストをダブルクリックします。
2. 下図のように、選択した配信リストのプロパティが表示されます。

ReportCaster - temp\_list Distribution List

Method

Email

+ Add email Import list Export list

Total members: 2

|                          | Burst Value | Email             |
|--------------------------|-------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1           | "temp@gmail.com"  |
| <input type="checkbox"/> | 2           | "temp2@gmail.com" |

Cancel Save

3. [リストのエクスポート] ボタン  をクリックします。下図のように、ポップアップウィンドウが表示されます。

Are you sure you want to export the distribution list?

Cancel OK

4. [OK] をクリックし、使用中のシステムのファイルをエクスポートします。

## 配信リストへのアクセス

プライベート配信リストを共有すると、オーナーシップを変更せずに、その配信リストを他のグループやユーザが表示したり、スケジュールで使用したりできるようになります。権限を所有するユーザは、プライベート配信リストを、共有対象として許可されているグループやユーザと共有することができます。共有済み配信リストの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザは、そのフォルダ内の配信リストにアクセスすることができます。

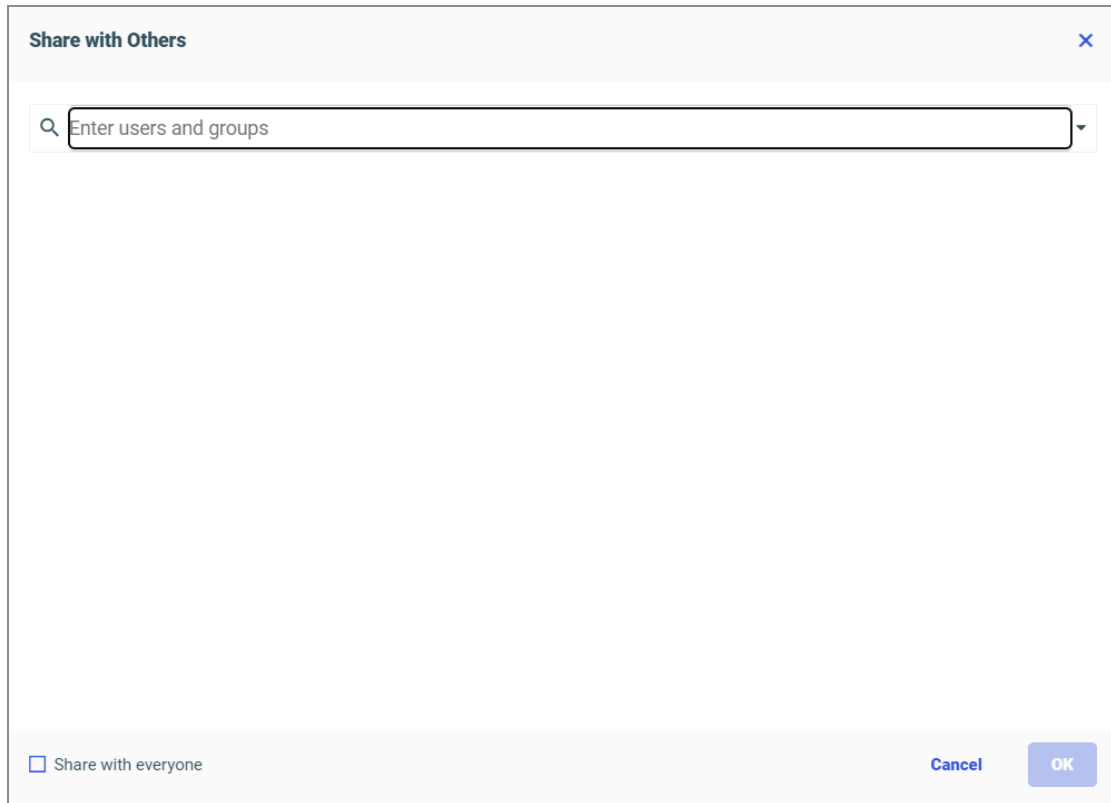
権限を所有するユーザは、配信リストを公開または非公開にすることができます。配信リストが公開されると、その配信リストの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザが配信リストを使用できるようになります。公開する場合は、項目が格納されているフォルダを公開する必要があります。公開したフォルダを非公開にすると、そのフォルダ内のすべての項目も非公開になります。フォルダおよび項目の公開と共有についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

ユーザが [マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有する権限を所有している場合、配信リストの格納先フォルダへのアクセスが許可されている他のユーザとその配信リストを共有することができます。WebFOCUS Hub または WebFOCUS ホームページで、共有するフォルダまたは配信リストを右クリックし、[共有する] を選択します。

[高度な共有] オプションの使用権限を所有している場合は、次の手順を実行して、共有対象として許可されているグループやユーザと、[マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有することができます。

1. 共有する配信リストを右クリックし、[共有の設定] を選択します。

下図のように、[別のユーザと共有] ダイアログボックスが表示されます。



2. [検索] テキストボックスのドロップダウン矢印をクリックし、ユーザまたはグループの選択条件を表示します。[ユーザ]、[グループ]、またはその両方で検索結果にフィルタ

を設定できます。

3. フィルタの選択後、検索テキストボックスへの入力を開始すると、選択可能なユーザまたはグループが表示されます。配信リストの表示を許可するユーザまたはグループのリストに追加するユーザまたはグループを選択します。
4. 配信リストを共有するユーザまたはグループの選択を完了後、[OK] をクリックします。

## 配信リストを公開するには

配信リストの公開は、各自のリストを別のユーザがスケジュールタスクで利用できるようにする簡単な方法です。配信リストなどワークスペース内の項目を公開するには、そのワークスペース自体を公開する必要があります。公開済みの項目およびフォルダはカラーで表示され、非公開の項目およびフォルダは白黒で表示されます。

配信リストを公開するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 開始ページまたは WebFOCUS ホームページを開きます。
2. 公開する配信リストが格納されたワークスペースを右クリックします。
3. [公開] をクリックします。
4. ワークスペースを非公開にするには、[非公開] を選択します。

## 配信リストにセキュリティルールを設定するには

権限を所有するユーザは、非公開配信リストにセキュリティを設定し、他のグループやユーザが配信リストを表示、管理できるよう許可することができます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。



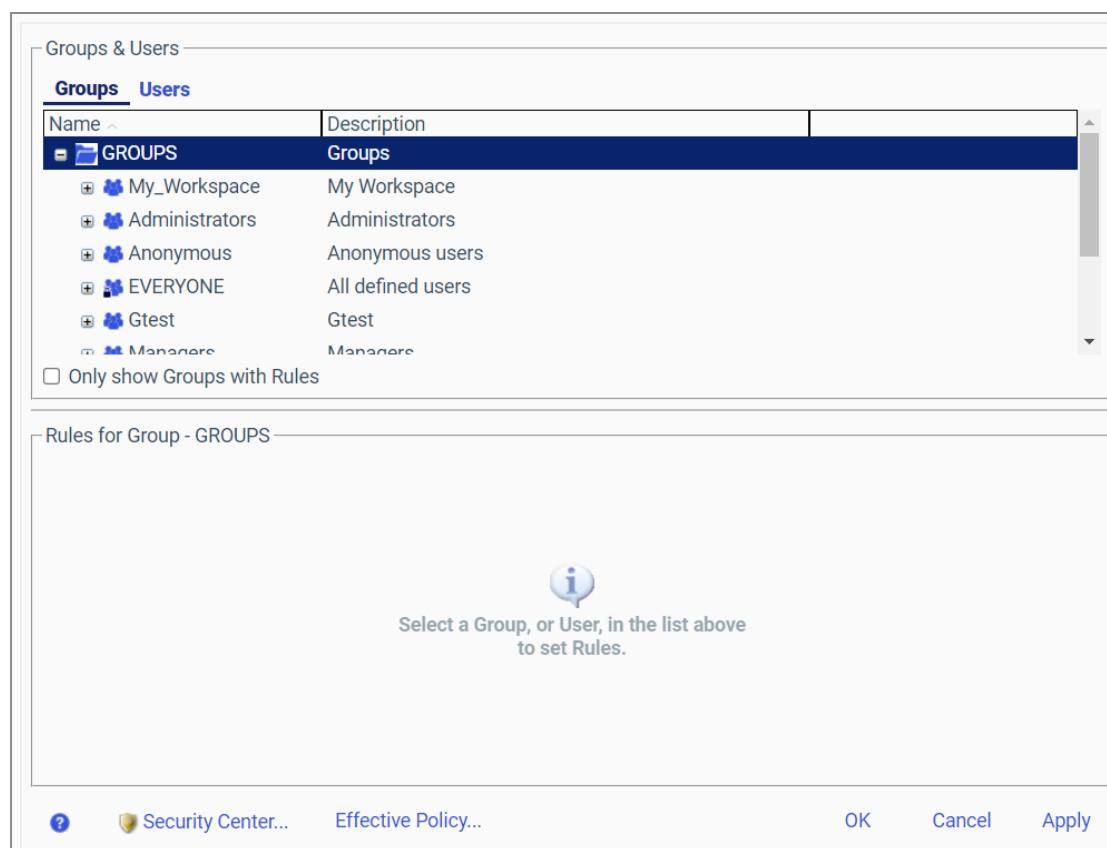
**注意：**権限を所有するユーザは、配信リストを右クリックし、[セキュリティ]、[有効なポリシー] を順に選択することで、セキュリティポリシーを確認することができます。

### 手順

1. 配信リストを格納するフォルダドメインワークスペースを選択するか、セキュリティを設定する非公開配信リストを選択します。
2. 右クリックして、[セキュリティ]、[ルール] を順に選択します。



下図のように、[アクセスルール] ダイアログボックスが開きます。



3. [グループ] タブで、配信リストへのアクセスを許可するグループまたはユーザを選択します。必要に応じて、[ルールが存在するグループのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのグループのみを表示することもできます。選択したグループの [ロール] が、[グループを対象とするルール] セクションに表示されます。
4. 必要に応じて、[グループを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
5. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なロールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
6. ロールのいずれかを選択します。このロールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
7. [アクセス] ドロップダウンリストから、許可レベルを選択します。次のオプションがあります。
  - **設定しない** アクセス許可は設定されていません。アクセス許可は、継承された

ルールに基づいて決定されます。

- **許可する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **拒否する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を拒否します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **最上級の許可** アクセスレベルの [拒否する] を無効にし、[適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **継承のクリア** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールで拒否されているルールをすべてクリアします。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
8. [ユーザ] タブをクリックすると、項目へのアクセスを許可する個別ユーザのリストが表示されます。必要に応じて、[ルールが存在するユーザのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのユーザのみを表示することもできます。  
 選択したユーザの [ロール] が、[ユーザを対象とするルール] セクションに表示されます。
  9. 必要に応じて、[ユーザを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
  10. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なロールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
  11. ロールのいずれかを選択します。このロールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
  12. 手順 7 で説明したように、[アクセス] ドロップダウンリストでアクセスレベルを選択します。
  13. [適用] をクリックします。
  14. 配信リストのセキュリティ設定の更新が保存されます。

# レポートのバースト

ReportCaster のバースト機能を使用して、スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) 全体ではなく、レポートをセクションに分割して、同一の配信先または異なる配信先に配信することができます。分割 (バースト) することにより、各ユーザに関連したレポートのセクションを割り当てることができます。各レポートセクションは、個別のファイルとして保存されます。

表形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、最初の BY フィールドで決定されます。グラフ形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、2 番目の BY フィールドで決定されます。バースト値は内部マトリックス (各データベースフィールド値の保存や、TABLE または GRAPH リクエストで参照される値の計算で使用するメモリ領域) によって自動的に決定されます。

セクションごとに受信者の配信先 (Email アドレスまたは FTP サーバパス、ファイル) を指定することにより、1 名の受信者に複数のレポートセクションを配信することが可能になります。複数のレポートセクションを単一の配信先に送信することもできます。配信リストで指定するバースト値は、レポートの作成に使用するデータソース内に存在する必要があります。



## 注意：

- レポートをバーストする場合、スケジュールのタスクでバーストを有効にする必要があります。タスクでレポートのバーストが指定されない限り、[配信リスト] の [バースト値] 列に指定された値は無視されます。
- レポート名に使用されている NLS 文字が 60 バイトを超える場合、配信前にレポート名の末尾が切り捨てられて 60 バイトになります。これにより、レポートが Email 配信された際にレポート名の文字化けが回避されます。

## 配信リストのバースト値の指定

配信リストを作成または編集する際は、ソートフィールドのバースト値および配信先 (Email アドレス、FTP) を指定することができます。

各地区担当者の Email アドレスは、主ソートフィールド値 (Northeast Sales、South Sales、Midwest Sales) により、それぞれに関連した売上レポートデータに関連付けられています。user 1 は Northeast 地区のデータのみが必要なため、[Email] 列の Email アドレスに対応する [バースト値] 列には、ソート値「Northeast」が表示されています。

user 2 は、Midwest 地区と South 地区の両方に勤務しています。両方の地区のデータが必要なため、user 2 の Email アドレスは [Email] 列に 2 回表示されています。それぞれの Email アドレスに対応する [バースト値] 列には、各地区の値が表示されています。

**① 注意：**

- 列見出しをクリックすると、その列のデータをソートすることができます。
- 単一アドレス行に複数の Email アドレスを指定することができます。詳細は、[複数 Email アドレスの指定](#)を参照してください。

## FTP によるレポート配信時の考慮事項

FTP を使用してバーストレポートを配信する際は、次のことを考慮します。

- HTML、PDF、EXL2K フォーマットを使用すると、バーストレポート出力にインデックスページが作成されます。
- FTP 配信用のインデックスページには、配信リストに指定されたバースト値のみが格納されます。レポート出力は、指定されたバースト値にのみ配信されます。
- スケジュール済みプロシジャ内に BASEURL が指定されている場合、FTP により配信されるバーストレポート出力のインデックスページのリンクは正しくなりません。これは、ReportCaster がスケジュール済みジョブのプロシジャコードを解析および評価しないためです。配信されたファイルを BASEURL ディレクトリに移動するか、インデックスページ内で配信出力の完全修飾ディレクトリパスを指定します。

## バーストのガイドラインと制限

スケジュール済みのタスクでレポートプロシジャ (FEX) のバーストが指定されている場合、各バーストセクションに対して生成されたすべてのデータ値が Distribution Server に返されます。

- 配信方法が [リポジトリ] および [ReportLibrary] の場合は、各バーストセクションはリポジトリに配信されます。レポート出力を正常に配信するには、スケジュール済みジョブの実行時に、スケジュールで指定されるリポジトリフォルダに、スケジュールのオーナーによる書き込みアクセス許可が必要です。レポートセクションへのアクセスは、レポートの配信時に作成するリポジトリのセキュリティルールによって制御されます。
- Email 配信では、特定のバーストセクションは、スケジュールに使用される配信リスト、またはスケジュールで使用する単一の配信先を作成する際に指定されたバースト値に基づいて配信されます。

次に、バースト機能のガイドラインおよび制限事項について説明します。

- **大文字と小文字** バースト値の大文字と小文字は区別されます。
- **キーワード** バースト値には、次のキーワードを含めることができます。

- **ワイルドカード文字** バースト値の先頭、末尾、中間の文字を表すワイルドカードとして、アスタリスク (\*) と疑問符 (?) を使用します。アスタリスク (\*) は 1 つ以上の文字を表し、疑問符は任意の 1 文字を表します。次の例に示すように、ワイルドカードを使用するバースト値それぞれの前に、大括弧 ( [ ] ) で囲んだワイルドカードキーワードとコロン (:) を指定します (例、[wildcard]:)。

[wildcard]:abc\* = 'abc' で始まるすべての値

[wildcard]:a?c = 'a' で始まり 'c' で終わる、3 文字の値すべて

[wildcard]:a?c\* = a で始まり 3 番目の文字が c である値すべて



**注意：**FTP 配信の場合、配信リストでのワイルドカードはサポートされません。

- **Java 正規表現** テキストの特定に使用されます。次の例に示すように、Java 正規表現キーワードを使用するバースト値それぞれの前に、大括弧 ( [ ] ) で囲んだ正規表現キーワードとコロン (:) を指定します (例、[regexp]:)。

[regexp]:[bcr]at = bat、cat、rat いずれかの値

[regexp]:[^bcr]at = bat、cat、rat 以外のすべての値

- **デフォルト配信** 配信リストで指定されていない任意のバースト値について、[elsesend] を使用してデフォルトの配信先を指定することができます。これを実行するには、配信リストの [バースト値] 列に、次の値を入力します。

[elsesend]: = 配信リストに含まれていないバースト値のレポートは、指定した受信者に送信されます。

- **'%BURST' 構文** 配信ファイルの名前に '%BURST' 構文を使用することで、配信ファイル名にバースト値を含めることができます。[Email のパケット化] 設定が [はい] の場合、ZIP ファイル名での '%BURST' の使用はサポートされません。

以下は、Email 配信リストへの入力例で、バースト値のワイルドカードとデフォルト配信キーワードの使用方法を示しています。

| バースト値           | アドレス            |
|-----------------|-----------------|
| [wildcard]:*an* | sml@company.com |
| England         | ray@company.com |
| [elsesend]:     | jt@company.com  |

スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力のバースト値として Country フィールドが指定されており、Country フィールドに Germany、USA、France、Canada、Italy、Chile、England、Japan という値が含まれている場合、配信先は次のようになります。

- Germany、France、Canada、England、Japan のレポート情報は、sml@company.com に配信されます。
- England のレポート情報は、ray@company.com に配信されます。
- USA、Italy、Chile のレポート情報は、jt@company.com に配信されます。

バースト値を空白にすることはできません。この値は、レポートファイル名に使用されるため、このパラメータに値が割り当てられていない場合は、エラーが発生して配信が終了します。

キーワードまたはワイルドカード文字を含む値を割り当てることにより、1 つまたは複数のインスタンスで値が空白になる可能性がある場合は、バースト値のすべてのインスタンスが空白にならないように、代替として特別な値を割り当てるプロシジャをコーディングします。

- **フォーマット** XML と Excel 以外のすべてのフォーマットは、バーストをサポートします。スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) レポート出力の各バーストセクションには、「burstvalue\_filename.format」の形式で名前が付けられます (例、Northeast\_Sales.pdf)。
- **ACROSS コマンド** このコマンドは、主ソートフィールドとして評価されません。また、スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) からバーストレポート出力を作成するには、BY フィールドを含める必要があります。バーストは、BY フィールドで実行されます。
- **TABLEF** 内部ソート処理は実行されません。BY フィールドを指定するには、データソース内のデータがソートされている必要があります。
- **ON TABLE SUBHEAD/ON TABLE SUBFOOT** スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力で、最初のページのみ SUBHEAD を作成し、最後のページのみに SUBFOOT を作成します。スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力をバーストする際は、各ソート区切りで SUBHEAD と SUBFOOT を指定する必要があります。このため、ON コマンドで、TABLE の代わりに主ソートフィールドを指定します。以下はその例です。

```
ON primarysortfield SUBHEAD
```

- **AnV フィールドタイプ** AnV フィールドタイプ (ここで、n は整数値) のフィールドでは、バーストはサポートされません。

## 外部配信ファイルの作成

スケジュールを作成する際に、レポート出力を 1 名または複数の受信者に配信することができます。複数の受信者への配信用にスケジュールを作成する場合、複数の受信者で構成される外部配信ファイルの作成をお勧めします。外部配信ファイルは、任意のスケジュールに割り当てることができます。外部配信ファイルの機能は、ReportCaster の外部で作成されることを除き、配信ファイルと同様です。

また、配信ファイルにパスワードを含めることもできます。配信ファイルにパスワードを含めて ZIP オプションを選択すると、出力はパスワード保護された ZIP ファイルとして暗号化されます。このオプションは、ReportCaster 構成ツールで [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] オプションが [なし] に設定されている場合にのみ有効です。ReportCaster 構成ツールで [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] オプションが [デフォルト] またはカスタムの値に設定されている場合、パスワードはプラグインによって提供されるため、配信ファイルのパスワードは無視されます。

### 外部配信ファイルの作成

外部配信ファイルには、カンマ区切りのレコードが格納されている必要があります。各レコードの長さの最大値は、800 バイトです。レコードは、カンマとドル記号の組み合わせ (,\$) で終了しなければなりません。各レコードは、ファイル内の個別の行に入力します。

- 非バーストプロシジャにレコードを指定するには、次の形式を使用します。

```
distributiondestination,,$
```

ここで、distributiondestination は、有効な Email アドレスまたは FTP ファイル名です。

- バーストプロシジャにレコードを指定するには、次の形式を使用します。

```
distributiondestination,burstvalue,$
```

ここで、distributiondestination は、有効な Email アドレスまたは FTP ファイル名です。

burstvalue は、スケジュールされるレポートの有効なバースト値です。

バースト値を空白にすることはできません。この値は、レポートファイル名に使用されるため、このパラメータに値が割り当てられていない場合は、エラーが発生して配信が終了します。

キーワードまたはワイルドカード文字を含む値を割り当てることにより、1 つまたは複数のインスタンスで値が空白になる可能性がある場合は、バースト値のすべてのインスタン

スが空白にならないように、代替として特別な値を割り当てるプロシジャをコーディングします。



**ヒント：**外部配信ファイルの単一レコード内には、複数の Email アドレスを指定することができます。詳細は、[複数 Email アドレスの指定](#)を参照してください。

ZIP 出力配信のパスワードを指定するには、次のステートメントを含めて、暗号化とレコードへのフォーマット設定を可能にします。

```
#encryption enabled
distributiondestination,burstvalue,password,$
```

ここで、password は、ZIP ファイルへのアクセスのパスワードとして使用する値です。



**注意：**

- 暗号化を有効にしたステートメントの大文字と小文字は区別されません。
- 配信ファイルに暗号化を有効にしたステートメントを含めた場合、配信ファイルのバースト値にカンマ (,) を含めることはできません。
- 配信ファイルに暗号化を有効にしたステートメントを含めた場合、パスワードにカンマ (,) を含めることはできません。
- バースト値はオプションです。バースト値を含めない場合は、配信方法とパスワードの値の間に 2 つのカンマ (,) を入力します。以下はその例です。

```
mcr@company.com,,XTG2,$
```

以下は、暗号化を有効にしたステートメントと、Distribution Server に渡されるパスワードなどのいくつかのレコードが格納された、配信ファイルの例を示しています。

```
#encryption enabled
mcr@company.com,England,abcd,$
jsmith@company.com,Australia,rrrAx,$
rable@company.com,France,UtLRzet,$
tom@gadgetco.com,Italy,mOmPP,$
```



**注意：**ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、[ReportCaster の構成](#)を参照してください。



## 外部配信ファイルを自動削除するには

外部配信ファイルを作成し、スケジュールの実行後に自動的に削除することができます。

外部配信ファイルを自動削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. ReportCaster インストールディレクトリ配下の cfg ディレクトリ (例、C:\ibi\WebFOCUS93\ReportCaster\cfg) 内にブランクのテキストファイル (fileaddr.txt) を作成します。
2. Distribution Server がインストールされているマシンに、削除済みの配信ファイルを格納する「addrpath」という名前のディレクトリを作成します (例、C:\ibi\WebFOCUS93\ReportCaster\addrpath)。
3. fileaddr.txt ファイルを編集し、削除する外部配信ファイルへの完全修飾ディレクトリパス (例、C:\ibi\WebFOCUS93\ReportCaster\addrpath) を含めます。ディレクトリパス末尾の円記号 (¥) は省略可能です。fileaddr.txt に無効なディレクトリパスを指定した場合、外部配信ファイルは削除されません。
4. スケジュールの実行時に自動的に削除する外部配信ファイルを、手順 2 で作成したディレクトリ (例、C:\ibi\WebFOCUS93\ReportCaster\addrpath) に格納します。
5. スケジュールを編集し、手順 2 で作成したディレクトリ (例、C:\ibi\WebFOCUS93\ReportCaster\addrpath) から外部配信ファイルが取得されるようにします。

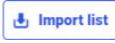
## メンバーリストのインポートによる配信リストの作成

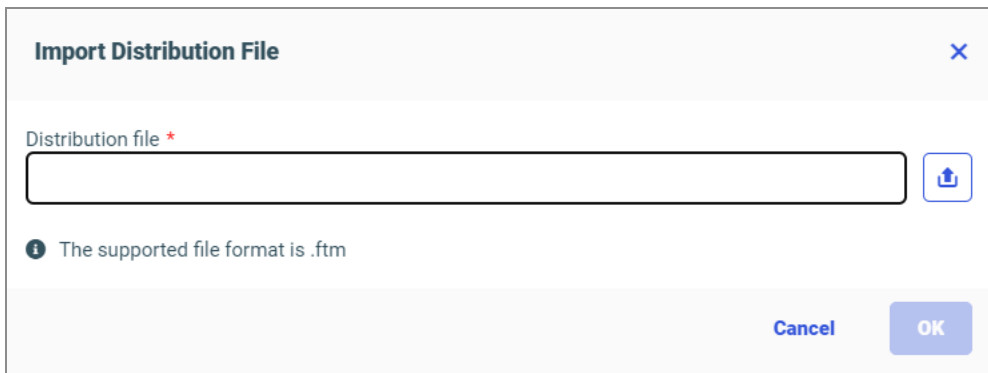
配信リストの各メンバーを直接入力する代わりに、既存の配信リストファイルからメンバーをインポートすることで、配信リストを作成することができます。リストをインポートする前に、配信リストの要件 (例、カンマ区切りレコード) を満たしていることを確認します。これにより、リストが正しくインポートされます。

配信リストの最低要件のほかに、ファイルにはその他の情報を含めることができます (例、配信リストの説明、概要、タイプ)。ファイルのインポート時に、これらの情報がそれぞれ対応するフィールドに挿入されます。配信リストファイルの構成方法についての詳細は、[外部配信ファイルの作成](#)を参照してください。

- ① 注意：**特殊文字を含む配信リストファイルは、インポート前に UTF-8 でエンコードする必要があります。

## 手順

1. [新しいことを始める] ボタン  をクリックし、[ReportCaster] セクションから [配信リストの作成] を選択します。
2. [配信リストの作成] ダイアログボックスで、[リストのインポート] ボタン  をクリックします。
3. 下図のように、[配信ファイルのインポート] ダイアログボックスが開きます。



The image shows a dialog box titled "Import Distribution File" with a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there is a label "Distribution file \*" followed by a text input field. To the right of the input field is an "upload" icon button. Below the input field, there is a message: "The supported file format is .ftm". At the bottom right of the dialog, there are two buttons: "Cancel" and "OK".

4. [アップロード] ボタン  をクリックし、ファイルシステムから配信ファイルを選択します。
5. ファイルが .ftm フォーマットであることを確認します。
6. [OK] をクリックします。コンテンツがインポートされ、[配信ファイルの作成] ダイアログボックスが表示されます。
7. 必要に応じて、インポート後の配信ファイルを編集します。
8. [タイトル]、[名前]、[概要] を入力します。[保存] ボタンをクリックして、配信リストの保存先ワークスペースを指定します。

## ダイナミック配信リストの作成

ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、ibi™ FOCUS® データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。サーバプロファイル (edasprof.prf) またはユーザのプロファイルで定義されたサーバのパスからアクセス可能な WebFOCUS プロシ

ジャを記述する必要があります。このプロシジャは、定義したレイアウトのデータを含む配信情報を PCHOLD コマンドを使用して返す必要があります。返された情報を ReportCaster で識別して処理するため、このレイアウトには、特定の値や配信先が格納されている必要があります。

オプションとして、ダイナミック配信リストにパスワードを含めることができます。ダイナミック配信リストにパスワードを含めておくと、ZIP オプションを選択した場合に、配信出力をパスワード保護された ZIP ファイルに圧縮する際に、そのパスワードが使用されます。このオプションは、ReportCaster 構成ツールで [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] オプションが [なし] に設定されている場合にのみ有効です。ReportCaster 構成ツールで [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] オプションが [デフォルト] またはカスタムの値に設定されている場合、パスワードの提供にはそのプラグインが使用されるため、ダイナミック配信リストのパスワードは無視されます。

**i 注意：**ダイナミック配信リストで指定可能なバースト値の数に上限はありません。ダイナミック配信リストの作成

- 以下は、テキストファイル内の Email 配信情報のためのサンプルマスターファイルです。

```
FILE=MYADDR,SUFFIX=FIX
SEGNAME=SEG01,SEGTYPE=S02
FIELDNAME=BURST_VALUE,BURST,A50,A50,$
FIELDNAME=EMAIL_ADDRESS,EMAIL,A40,A40,$
```

- 以下は、バーストのサンプルプロシジャです。フィールド名は、値を返す順序に従って「VALUE」、「DEST」の順に指定する必要があります。

```
SET ASNAMES=ON
TABLE FILE MYADDR
PRINT BURST_VALUE AS 'VALUE'
EMAIL_ADDRESS AS 'DEST'
ON TABLE PCHOLD
END
```

- 以下は、バーストなしのサンプルプロシジャです。この場合、バースト値は必要ないため、「VALUE」フィールドを指定する必要はありません。

```
SET ASNAMES=ON
TABLE FILE MYADDR
PRINT EMAIL_ADDRESS AS 'DEST'
ON TABLE PCHOLD
```

END

**① 注意：**マスターファイル内のフィールド名が「VALUE」および「DEST」以外の場合は、プロシジャの TABLE FILE ステートメントの前に「SET ASNAMES=ON」修飾子を追加する必要があります。

- 以下は、圧縮配信でパスワード保護を実装する方法の例を示しています。次のマスターファイルには、圧縮配信のパスワードが含まれています。

```
FILE=MYADDR,SUFFIX=FIX
SEGNAME=SEG01,SEGTYPE=S02
FIELDNAME=BURST_VALUE,BURST,A50,A50,$
FIELDNAME=EMAIL_ADDRESS,EMAIL,A40,A40,$
FIELDNAME=PASSWORD,PWD,A12,A12,$
```

- 次のサンプルプロシジャにはパスワード、配信方法、バースト値が含まれています。

```
SET ASNAMES=ON
TABLE FILE MYADDR
PRINT BURST_VALUE AS 'VALUE'
EMAIL_ADDRESS AS 'DEST'
PASSWORD AS 'PASS'
ON TABLE PCHOLD
END
```

**① 注意：**ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)を参照してください。

## ibi WebFOCUS リポジトリプロシジャからのダイナミック配信リストの生成

ダイナミック配信リストプロシジャは、任意のテキストエディタ、または WebFOCUS ユーザーインターフェースで使用可能なテキストエディタを使用して作成することができます。スケジュールに [Email 配信] オプションを割り当てる際に、[リポジトリプロシジャのダイナ

ミック配信リスト] オプションを選択し、リポジトリに格納されているダイナミック配信リストプロシジャを指定します。ダイナミック配信リストプロシジャの格納先でもある Reporting Server に対して、すべてのユーザがアクセス権限を所有するとは限りませんが、リポジトリへのアクセスはほとんどのユーザに許可されています。

リポジトリからダイナミック配信リストプロシジャを選択するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. Email 配信を使用するスケジュールを作成します。[配信] インターフェースを使用する場合は、[配信情報] セクションに移動し、[タイプ] ドロップダウンリストをクリックして、すべての Email 配信オプションを表示します。
2. 下図のように、[リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] オプションをクリックします。

**New Distribution Method - Email**

Distribution name \*  
 ☒ Enable

**General** **Options**

**Distribution Information**

Type  


- Distribution List
- Distribution File
- Email Address(s)
- Dynamic Distribution List from Server Procedure
- Dynamic Distribution List from Repository Procedure**

To \*

Cc

Bcc

**Email Information**

Select the inline message  
☐   
☒ Message

Cancel Add

3. [選択] ボタンをクリックすると、[リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] ダイアログボックスが表示されます。
4. [参照] ボタンをクリックし、リポジトリに格納されたダイナミック配信リストを検索します。リストを検索、選択し、[開く] をクリックします。  
リストのファイルパスが [プロシジャ名] テキストボックスに追加されます。[サーバ名] テキストボックスには、デフォルト設定で選択したリストのサーバ名が表示されます。
5. [実行 ID] テキストボックスに、このプロシジャに使用する実行 ID を入力します。
6. [パスワード] ボタンをクリックし、この実行 ID のパスワードを入力します。
7. 上記の設定の入力後、[OK] をクリックします。
8. スケジュールで必要な残りの設定を完了します。詳細は、[ReportCaster スケジュールの作成](#)を参照してください。

スケジュールの実行時に、選択したダイナミック配信リストのユーザに情報が配信されます。

#### 関連する資料

- [ReportCaster スケジュールの作成](#)

## 複数 Email アドレスの指定

スケジュールまたは配信リストを作成する際は、単一のフィールド、行、またはレコード内に、複数の Email アドレスを指定することができます。

スケジュールまたは配信リストを作成する際は、各 Email アドレスの区切り文字として、セミコロン (;) を使用します。

カンマ (,) が区切り文字として使用される配信リストを使用している場合は、セミコロン (;) としても扱われます。

スケジュール出力が配信される際は、単一 Email の宛先行に複数の Email アドレスが表示されます。

**① 注意：**

- アドレスごとに別の Email を配信するには、配信リスト内で、Email アドレスを別の行に指定します。
- ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力はこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)を参照してください。

**バースト値を含む複数 Email アドレスの指定**

- デフォルトの構成 ([Email のパケット化] を [はい] に設定) を使用する場合、1 つの Email アドレスに指定された複数のバースト値に対して Email が 1 通配信されます。各行に指定された Email アドレス値は文字列 (キー) として扱われます。1 つのアドレス値 (キー) に対して複数の行が存在する場合、すべてのバースト値を含む Email が 1 通配信されます。たとえば、次の配信リストについて考察します。

**バースト値のアドレス**

|   |                               |
|---|-------------------------------|
| A | user1@abcd.com;user2@abcd.com |
| B | user1@abcd.com                |
| C | user1@abcd.com                |

この例では、user1@abcd.com は、スケジュール出力の配信時に Email を 2 通受信します。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 1 つ (バースト値 A) 配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 2 つ (バースト値 B およびバースト値 C) 配信されます。

- 各行に Email を 1 通配信するよう指定した構成 ([Email のパケット化] を [いいえ] に設定) を使用する場合、上記の例では、個別の Email が 3 通配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 1 つ (バースト値 A) 配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com に添付ファイル (バースト値 B) が 1 つ配信されます。3 通目の Email では、user1@abcd.com に添付ファイル (バースト値 C) が 1 つ配信されます。
- スケジュールが複数のタスクで構成され、[Email のパケット化] が [バースト] に指定されている場合は、バースト値のそれぞれについて、すべてのタスクの出力が統合されて配信されます。この例では、個別の Email が 3 通配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、複数のタスクで生成されたすべての出力 (バースト値 A) が配信されます。2 通目の Email は、すべてのタスクで生成されたすべての出力 (バースト値 B) で、user1@abcd.com に送信されま



す。3 通目の Email は、すべてのタスクで生成されたすべての出力で (バースト値 C)、user1@abcd.com に送信されます。

- 次は、デフォルト構成 ([Email のパケット化] を [はい] に設定) を使用し、1 つのバースト値がアドレス (キー) 値に複数回指定されたときの考慮事項です。たとえば、次の配信リストについて考察します。

### バースト値のアドレス

|   |                               |
|---|-------------------------------|
| A | user1@abcd.com;user2@abcd.com |
| B | user1@abcd.com                |
| B | user1@abcd.com                |

この配信リストでは、user1@abcd.com には Email が 2 通だけ配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイル (バースト値 A) が 1 つ配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイル (バースト値 B) が 1 つ配信されます。配信リストの 3 行目は、2 行目と同一のキーおよびバースト値 (B) を含むため、無視されます。

処理の効率化のため、配信情報で、バースト値とアドレス値の組み合わせが重複していないことを確認します。

## バースト値を含まない複数 Email アドレスの指定

たとえば、バースト値を含まない次のサンプル配信リストについて考察します。

### アドレス

```
user1@abcd.com;user2@abcd.com
user1@abcd.com
user2@abcd.com
user3@abcd.com
user1@abcd.com;user2@abcd.com;user3@abcd.com
```

この配信リストでは、[Email のパケット化] の設定に関わらず、各アドレス行に Email が 1 通配信されます。これは、各アドレス値が一意であるためです。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルはスケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力全体です。2 通目の Email は、user1@abcd.com に配信されます。残りも同様です。

配信リスト内でアドレス行が重複する場合 (この例では、user3@abcd.com が 6 行目に追加された場合)、[Email のパケット化] が [はい] であれば、user3@abcd.com には Email が 1 通配信されます。ただし、[Email のパケット化] が [いいえ] の場合、user3@abcd.com には Email が 2 通配信されます。



# ReportCaster スケジュールの作成

ReportCaster スケジュールでは、レポートのレポートの実行日時、出力フォーマット、配信方法を選択できます。ここでは、ReportCaster スケジュールツールおよびスケジュールを作成するさまざまな方法について説明します。

## スケジュールツールの概要

スケジュールツールを使用すると、(さまざまなフォーマットでの) レポートの作成および配信を自動化できます。レポートを実行する特定の時間を設定できるため、手動による介入なしに、関連情報が関係者に迅速に提供されるようになります。これにより、WebFOCUS でのレポート処理の効率性を高めることができます。WebFOCUS Client のセキュリティ認可により、リポジトリおよびスケジュールツールに保存されているアプリケーションコンテンツにアクセスできるかどうかは制御されます。下図は、スケジュールツールのインターフェースを示しています。

ReportCaster - Create Schedule

| Name | Type | Scheduling Object | Alert | Burst | Enable |
|------|------|-------------------|-------|-------|--------|
|------|------|-------------------|-------|-------|--------|

When you create a schedule, you must specify a task that will run when the schedule starts.

Cancel Run Save

スケジュールは、次の方法で作成できます。

- ワークスペースで任意のファイルをクリックし、[スケジュール] を選択する。
- [新しいことを始める] 、[スケジュールの作成] を順に選択する。

最初の方法では、[WebFOCUS レポート] タスクタイプのスケジュール作成のみを行えます。2 つ目の方法では、さまざまなタスクタイプを作成することができます。これらのタスクタイプには、WebFOCUS Reporting Server プロシジャ (FEX)、Distribution Server にアクセス可能なファイルや FTP サーバからアクセス可能なファイル、Web サーバまたは Application Server に送信される完全修飾 URL を対象としたスケジュールがあります。さらに、スケジュールツールでは、タスク、スケジュールの配信方法、宛先の指定も行います。

縦方向に表示されるナビゲーションバーには、スケジュールオプションが、次のカテゴリに分類されて表示されます。

- **タスク** スケジュールに関連付けられたタスクを表示、編集します。
- **配信** スケジュールに関連付けられた配信方法を表示、編集します。
- **実行間隔** 配信および繰り返しオプションの実行間隔を表示します。
- **プロパティ** スケジュールのジョブ優先度、配信するレポートが存在しない場合、通知のオプションを表示します。
- **ログレポート** スケジュール実行のそれぞれについての詳細情報を提供します。

## タスク

[タスク] オプションを使用して、配信スケジュールのレポートタイプを選択することができます。[タスク] タブでは、複数のタスクを作成できます。

[新規タスクの作成]  アイコンのドロップダウン矢印をクリックすると、次のタスクタイプのすべてから選択することができます。

- [WebFOCUS レポート](#)
- [WebFOCUS サーバプロシジャ](#)
- [WebFOCUS スケジュール](#)
- [ファイル](#)
- [FTP](#)
- [URL](#)

作成されたタスクは、すべて [タスク] ウィンドウに表示されます。このウィンドウから、タスクを有効または無効にすることもできます。特定のタスクを選択すると、次のオプションが有効になります。

| オプション                                                                                       | 機能                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| タスクを上へ移動   | 選択したタスクをリストの上へ移動します。 |
| タスクを下へ移動   | 選択したタスクをリストの下へ移動します。 |
| タスクの削除     | 選択したタスクを削除します。       |
| タスクの複製を作成  | 選択したタスクの複製を作成します。    |
| タスクの編集     | 選択したタスクを編集します。       |

 **注意：**WebFOCUS Client ユニバーサルプロファイルは、WebFOCUS リポジトリ プロシジャまたは WebFOCUS Reporting Server プロシジャが実行される際に、ReportCaster によって実行されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ 管理ガイド』を参照してください。

## WebFOCUS レポート

[WebFOCUS レポート] タスクタイプは、リポジトリのプロシジャ (FEX) ファイルをスケジュール内のレポートとして使用する場合に使用します。[WebFOCUS レポート] タスクウィンドウには、[全般] タブ、[パラメータ] タブ、[実行前/実行後プロシジャ] タブ、[タスクの詳細設定] タブがあります。

### 全般タブ

[全般] タブには、次のオプションがあります。

| オプション      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プロシジャ      | プロシジャのパス名を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| サーバ名       | 選択したプロシジャに関連付けられたサーバが含まれます。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 実行 ID      | <p>プロシジャに関連付けられた [実行 ID] が含まれます。</p> <p><b>注意：</b>[実行 ID] を作成するには、テキストボックス横の [+] (プラス) アイコンを選択することもできます。</p>                                                                                                                                                                                                |
| パスワード      | [実行 ID] に関連付けられたパスワードが含まれます。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| レポートのプロパティ | <p>次の 2 つのチェックボックスがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>バーストレポートにする</b> レポートをバーストレポートにできます。詳細は、<a href="#">レポートのバースト</a>を参照してください。</li> <li>• <b>プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする</b> プロシジャのデフォルトフォーマットを上書きするためのさまざまなフォーマットが含まれています。</li> </ul> <p><b>保存レポート名</b> このテキストボックスに、レポートのタイトルを入力できます。</p> |

SET COMPOUND OPEN 構文を使用する複合レポートの場合、このレポートのスケジュールを作成する際に、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにした上で、フォーマットを指定します。この方法でフォーマットを指定しない場合、レポートが配信されません。WebFOCUS および WebFOCUS App Studio のレポートツールで作成された複合レポートの場合、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにする必要はありません。

- [FLEX]、[VISDIS]、[VISDISAE] レポート出力フォーマットはサポートの対象から除外されました。これらのフォーマットのタスクを編集する場合、表示されるダイアログボックスで出力フォーマットを変更することができます。
- [OK] をクリックし、レポートの出力フォーマットが AFLASH (FLEX) に設定されている場合、タスクの出力は AHTML として保存されます。
- [OK] をクリックし、レポートの出力フォーマットが VISDIS または VISDISAE に設定さ

れている場合、タスクの出力は HTML として保存されます。

- [閉じる] をクリックした場合、出力フォーマットは変更されず、タスクに加えた変更は保存されません。

既存の WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポートタスクを開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックがオンになっている場合は、フォーマットのリストが表示されます。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオフにすると、フォーマットのリストが非表示になります。

既存の WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポートタスクを開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックがオフになっている場合は、フォーマットのリストが表示されません。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにすると、フォーマットのリストが表示されます。

## パラメータタブ

スケジュールするレポートプロシジャ (FEX) の実行時に必要なパラメータ値を指定します。パラメータを使用して、レポートをカスタマイズし、処理を制御することができます。

スケジュールされたレポートのプロシジャ (FEX) を設定する場合は、スケジュールの [タスクパラメータ] セクションを使用します。レポートプロシジャのパラメータ値を入力するか、パラメータの名前と値を指定して、スケジュールに追加します。

## パラメータ値指定時の考慮事項

プロシジャのパラメータ値を指定する場合、次のことを考慮する必要があります。

- 1 つのパラメータの最大バイト数は 3200 です。1 つのパラメータに複数の値を保存することができます。1 つのパラメータに対する複数の値は、1 つの項目として格納されます。この項目は最大値である 3200 バイトを超えることはできません。
- プロシジャでパラメータが指定されている場合、ReportCaster はパラメータの説明を表示します。指定されていない場合、ReportCaster はパラメータ名を表示します。
- ReportCaster はデフォルト変数値、および静的または動的の単一選択リストおよび複数選択リストを表示します。

**i 注意：**

- 動的複数選択リストには [選択なし] オプションが表示されます。このオプションを選択すると、フィールドのデータ選択テストは実行されません。
  - ReportCaster では、-HTMLFORM コマンドを使用してパラメータ値を動的に選択するリストを作成することはできません。
- ReportCaster では、マスターファイルで定義済みの FILTERS で使用され、プロシジャで参照されているグローバル変数が表示されます。たとえば、マスターファイルに次の記述が含まれていることを想定します。

```
FILENAME=CAR,SUFFIX=FOC
VARIABLE NAME=&&COUNTRY1, USAGE=A10, DEFAULT=ENGLAND,$
FILTER FILTER1=COUNTRY EQ '&&COUNTRY1'; $
```

さらに、スケジュール中のプロシジャには、次の記述が含まれていることを想定します。

```
WHERE FILTER1
```

この場合、[パラメータ] ウィンドウには、「COUNTRY1」が表示されます。

- ReportCaster は、-DEFAULTH コマンドでデフォルト値が設定されている変数の入力を要求しません。-DEFAULTH コマンドの目的は、変数にデフォルト値を割り当てることで、この変数への動的プロンプトの表示を防止することです。
- ReportCaster では、実行時に Distribution Server が設定する内部変数の値の入力は要求されません。たとえば、&DSTOWNER は、スケジュール所有者のユーザ ID です。このパラメータがスケジュール済みプロシジャで使用された場合、実行時に Distribution Server によって、値がスケジュール所有者に設定されるため、この値は使用可能になります。これにより、アクセスが可能になります。ただし、スケジュールツールの [タスクのパラメータ] ダイアログボックスでは、この値の入力は要求されません。
- 特殊文字 (例、%、&、|) を使用する場合は、次のことに注意してください。
  - パラメータ値として WHERE 条件全体を指定する場合、値を 2 つの一重引用符 (') で囲む必要があります。1 つの二重引用符 (") は使用しないでください (例、"WHERE CAR NOT LIKE MOTO%")。
  - パラメータ値として 1 つの値を指定する場合、パラメータ値を引用符で囲む必要はありません (例、O&DINFO)。
- 実行前プロシジャまたは実行後プロシジャにパラメータ値を指定する場合、[実行前/実

行後プロシジャ] タブを選択し、その値を入力する必要があります。実行前プロシジャおよび実行後プロシジャのスケジュールについての詳細は、[実行前プロシジャおよび実行後プロシジャをスケジュールするには](#)を参照してください。

- スケジュールのパラメータが保存されている場合、ReportCaster のパラメータリストに表示されます。元のレポートからパラメータが削除された場合でも、このパラメータは、スケジュールの実行中に、WebFOCUS Reporting Server に送信されます。パラメータをスケジュール情報から削除するには、スケジュールを編集してパラメータを削除します。スケジュールからパラメータを削除する方法についての詳細は、[パラメータの削除](#)を参照してください。
- ファイル名には特殊文字を含めることができないため、出力ファイル名を指定するスケジュール設定で、特殊文字を含むパラメータ値を使用することはできません。影響を受けるスケジュール設定の例として、[保存レポート名]、単一ファイル FTP 配信の [レポート名]、および [ZIP ファイル名] の値があります。
- プロシジャをコーディングして、任意の値の [表示値] を設定することができます。たとえば、値が「ENGLAND」の場合、「England」と表示されるよう [表示値] を設定することができます。

## デフォルトパラメータ値の指定

デフォルトパラメータ値は、-DEFAULT コマンドまたは -DEFAULTH コマンドで指定することや、WHERE ステートメントで指定することができます。DEFAULTH コマンドで指定されたデフォルト値の入力は要求されません。

次のプロシジャでは、STATE (アメリカ合衆国の州名の 2 文字または 3 文字の略名) パラメータのデフォルト値として NY が設定されます。

```
-DEFAULT &STATE=NY
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS UNITS
BY CATEGORY
BY ST
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
END
```

レポートプロシジャ (FEX) でデフォルト値が定義されているパラメータは、[パラメータ] タブの [値] フィールドに、デフォルト値が表示されます。パラメータがスケジュールに格納されている場合は、ReportCaster によって、実行用に WebFOCUS Reporting Server に送信さ

れるスケジュールプロシジャに -SET が追加されます。-SET コマンドにより、- DEFAULT コマンドで指定されたデフォルト値が上書きされます。

スケジュールの実行時にデフォルト値以外の値を使用し、プロシジャが変更された場合でもその値が使用されるようにするには、パラメータをクリックし、[パラメータのプロパティ] セクションでパラメータ値を変更します。単純なパラメータの値は、[値] フィールドにパラメータ値を入力して指定します。パラメータタイプには、単一値または複数値の選択が可能な静的パラメータと動的パラメータもあります。これらについては、次の例で説明します。

パラメータがスケジュールに格納されている場合は、ReportCaster によって、実行用に WebFOCUS Reporting Server に送信されるスケジュールプロシジャに -SET が追加されます。-SET コマンドは、-DEFAULT コマンドで指定されたデフォルト値を上書きします。

## パラメータ値の静的単一選択リストの追加

次のプロシジャには、CATEGORY (カテゴリ) フィールドで有効な静的値のリストが含まれています。

```
-DEFAULT &STATE=NY
TABLE FILE GGSALES
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE CATEGORY EQ '&CATEGORY.(Coffee,Food,Gifts).Category.'
END
```

## パラメータ値の動的単一選択リストの追加

次のプロシジャには、PRODNAME (製品名) フィールドで有効な単一値の選択リストが含まれています。このリストは、GGSALES データソースの値から、動的に作成されます。

```
-DEFAULT &STATE=NY;
TABLE FILE GGSALES
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
```



```
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE PRODUCT EQ '&PRODUCT.(FIND PRODUCT IN GGSales).Product Name.'
END
```

## パラメータ値の静的複数選択リストの追加

次のプロシジャには、CATEGORY (カテゴリ) フィールドで有効な静的複数値の選択リストが含まれています。

```
-DEFAULT &STATE=NY
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE CATEGORY EQ '&CATEGORY.(OR(Coffee,Food,Gifts)).Category.'
END
```

## パラメータ値の動的複数選択リストの追加

次のプロシジャには、PRODNAME フィールドで有効な動的複数値の選択リストが含まれています。このリストは、GGSales データソースの値から、動的に作成されます。

```
-DEFAULT &STATE=NY;
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE PRODUCT EQ '&PRODUCT.(OR(FIND PRODUCT IN GGSales)).Product Name.'
END
```

## パラメータ値による Analytic Document および複合レポートのバースト

標準のバースト機能を使用して単一レポートをセクション別にユーザ配信する方法のほかに、静的または動的複数選択パラメータのフィルタを使用してレポートをセクション別に配信することもできます。

インタラクティブレポートを含む複合レポートの Analytic Document および Excel フォーマット出力を使用するレポートは、これらのレポートで保存されたパラメータ値を使用してバーストすることができます。また、目次を含む Excel レポートをバーストすることもできます。これらのレポートをバーストするには、最初の BY フィールド以外のフィールドを使用します。

### 注意

- [各選択値でタスクを繰り返す] チェックボックスは、静的または動的複数選択パラメータでのみ表示されます。
- 少なくとも 1 つのパラメータ値を選択する必要があります。
- [すべての値] のチェックがオンの場合、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [値] 列に「\_FOC\_NULL」と表示されます。サーバは、実行時に WFDescribe を実行し、パラメータ値のリストを生成します。
- [各選択値でタスクを繰り返す] 機能は、一度に 1 つのパラメータにのみ適用することができます。
- [タスク] タブ内の [バーストレポートにする] のチェックが最初にオンになっている場合、[各選択値でタスクを繰り返す] 機能は無効になり、チェックボックスが選択不可になります。単一スケジュールで 2 つのバースト方法を組み合わせることはできません。
- [変数のパラメータ] ダイアログボックスで [各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンになっている場合、[タスク] タブ内の [バーストレポートにする] チェックボックスは、[パラメータ化レポートフィルタでバースト] チェックボックスになります。このチェックボックスは自動的に選択され、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオフにしない限り選択解除されません。

## フィルタ設定済みおよびフィルタ未設定レポートを含む Analytic Document または Excel 複合レポートのバースト

フィルタ設定済みおよびフィルタ未設定レポートを含む Analytic Document または Excel 複合レポートを作成する場合、フィルタ設定済みレポートのみバースト構成することができます。スケジュールツールを使用して、この複合レポートの [タスクのパラメータ] にアクセスする場合、パラメータの編集はフィルタ設定済みレポートにのみ適用されます。つまり、フィルタ設定済みレポートのパラメータにのみ値を割り当てることができるということです。[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオンにして、複合レポートのバーストをスケジュールする場合、選択したパラメータ値に応じて、フィルタを設定したレポートがバーストされます。

## フィルタ設定済みレポートのみを含む Analytic Document または Excel 複合レポートのバースト

フィルタ設定済みレポートのみを含む Analytic Document または Excel 複合レポートをバーストする場合、すべてのレポートにバーストを適用することができます。

## パラメータの削除

スケジュール済みジョブが正常に実行されるようにするため、レポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする際は、削除するパラメータが次のように処理されることを確認しておくことが重要です。

- デフォルト値は、スケジュールを作成しているレポートプロシジャ (FEX) で指定されます。
- パラメータの値は、スケジュール済みジョブが WebFOCUS Reporting Server で実行される際に、レポートプロシジャ (FEX) の処理によって、動的に割り当てられます。
- レポートプロシジャ (FEX) が WebFOCUS Reporting Server で処理される際は、パラメータは参照されません。

パラメータをスケジュール情報から削除するには、パラメータのテーブルでパラメータを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

## 新規パラメータの作成

レポートプロシジャで定義されていないスケジュール済みジョブに、パラメータおよび値を送信する必要がある場合は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスで新しいパラメータを作成することができます。スケジュール済みジョブを正常に実行するには、Reporting Server が処理中に参照するパラメータに、値を割り当てる必要があります。必須のパラメータ値が提供されなかった場合は、スケジュールのジョブログレポートに、その情報が格納されます。

## レポートフォーマットの選択

フォーマットを選択する際は、次のガイドラインに従います。

- バーストをサポートするフォーマットは、AHTML (FML レポート以外)、ALPHA、COM、COMMA、COMT、DHTML (FML レポート以外)、DFIX、DOC、EXL07、EXL2K、EXL2K FORMULA、EXL2K TEMPLATE、EXL97、GIF、HTML、HTML ODP (FML レポート以外)、JPEG、PDF、PNG、PPT、SVG、TAB、TABT、WP です。統合された複合レポートのバーストは、DHTML フォーマット、PDF フォーマット、PPT フォーマットのみでサポートされます。
- フォーマットを選択すると、[保存レポート名] テキストボックスで指定された出力ファイル名には、適切なファイル拡張子が自動的に追加されます。この拡張子は、手動による変更が必要な場合があります。たとえば、スケジュールで DHTML フォーマットを選択し、レポート出力が Web アーカイブファイル以外の場合は、拡張子を .htm に変更します。スケジュールで HTML フォーマットを選択し、レポート出力が Web アーカイブファイルの場合は、拡張子を .mht に変更します。スケジュールで EXL07 TEMPLATE フォーマットを選択し、指定されたテンプレートでマクロが有効な場合は、拡張子を .xlsm に変更する必要があります。DHTML フォーマットおよび EXL07 TEMPLATE フォーマットについての詳細は、「スケジュール出力の ReportCaster フォーマット」を参照してください。
- 詳細は、「ReportCaster の構成」を参照してください。
- [プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] オプションを使用してフォーマットを選択した場合、埋め込み Email 配信が可能なフォーマットは、DHTML、DOC、GIF、HTML、JPEG、PNG、SVG、WP のみです。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] オプションを使用せず、埋め込み配信がサポートされないフォーマットで埋め込みオプションを選択した場合、出力は添付ファイルとして配信されます。また、レポートを Email に埋め込んで配信する場合、レポートの表示がメールサーバの影響を受けたり、Email がブロックされる可能性があります。JavaScript、埋め込みイメージ、CSS 参照を使用するレポートフォーマットとオプションを使用する前に、メールサーバプロバイダの制限を確認してください。

## 実行前/実行後プロシジャタブ

スケジュールしたタスクの実行前または実行後に実行するプロシジャを指定します。

## 実行前プロシジャおよび実行後プロシジャをスケジュールするには

WebFOCUS サーバプロシジャまたはレポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする場合、最大で 2 つの実行前プロシジャと実行後プロシジャをスケジュールすることができます。スケジュールする実行前プロシジャおよび実行後プロシジャは、Reporting Server または WebFOCUS リポジトリに配置することができます。

**注意：**ReportCaster 内部変数 (&DST で始まる変数) はすべて、実行前プロシジャおよび実行後プロシジャに渡されるため、これらの変数がアプリケーション固有のロジックで使用可能になります。詳細は、「ReportCaster 変数」を参照してください。

## タスクの詳細設定タブ

[タスクの詳細設定] タブからは、[警告として処理する追加の FOC エラー] ダイアログボックスにアクセスすることができます。このダイアログボックスでは、1 つ以上の FOC エラーメッセージ番号をカンマ区切りで指定することができます。これらの FOCUS エラー番号のいずれかがスケジュール実行中に検出された場合、ReportCaster はそのスケジュール実行をエラーではなく、警告として処理します。たとえば、プロシジャから FOC1517 エラーが生成される場合、テキストボックスに「1517」を追加すると、このエラーが警告に変換されます。つまり、レポートが生成された場合、FOCUS エラー番号に関係なくレポートが配信されます。また、エラー発生時に通知を送信するようスケジュールが構成されている場合でも、この FOCUS エラー番号でエラー通知が送信されることはありません。

**i 注意：**カンマ (,) を使用することもできますが、カンマはセミコロン (;) として解釈され、セミコロンとして保存されます。

## パラメータ値としての変数の使用

パラメータ付きレポートをスケジュールする場合、パラメータ値をリテラル値ではなく変数に設定することができます。この機能を使用することで、実行前にスケジュールを更新する手間が軽減されます。たとえば、最新情報を表示するためにスケジュールを毎日編集する代わりに、実行日の日付を常に表示するようレポートのスケジュールを設定することができます。

す。これは、パラメータ値を &YYMD に設定することで実行できます。[タスクのパラメータ] ダイアログボックスには、[値にシステム変数を含める] チェックボックスがあります。

デフォルト設定では、このチェックボックスは選択されていません。このチェックをオンにした場合、先頭にアンパサンド文字 (&) の付いた文字列が変数として処理されます。このチェックをオフにした場合、アンパサンド文字 (&) はリテラル値として処理されます。この機能は、システム変数でも、Reporting Server グローバルプロファイル edasprof.prf で設定されたグローバル変数でも使用できます。

## パラメータ値としての &YYMD 変数の使用

次の構文は、&YYMD 変数で使用可能な日付パラメータ値を含むサンプルレポートプロシジャ (FEX) です。

```
--*COMPONENT=Define_wf_retail
DEFINE FILE retail_samples/wf_retail
Sale_Date/YYMD='&Sale_Date.Sale Date:Use &|YYMD in Schedules.' ;
Last_Year/YYMD=Sale_Date - 365 ;
Two_Years_Ago/YYMD=Last_Year - 365 ;
Quantity/D12.2=IF WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Sale_Date THEN
WF_RETAIL.WF_RETAIL_SALES.QUANTITY_SOLD ELSE 0 ;
Prior_Year/D12.2=IF WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Last_Year
THEN
WF_RETAIL.WF_RETAIL_SALES.QUANTITY_SOLD ELSE 0 ;
Two_Years_Past/D12.2=IF WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Two_
Years_Ago
THEN WF_RETAIL.WF_RETAIL_SALES.QUANTITY_SOLD ELSE 0 ;
END
ENGINE INT CACHE SET ON
SET PAGE-NUM=NOLEAD
SET SQUEEZE=ON
-DEFAULTH &WF_HTMLENCODING=ON;
SET HTMLENCODING=&WF_HTMLENCODING
SET HTMLCSS=ON
-DEFAULTH &WF_EMPTYREPORT=ON;
SET EMPTYREPORT=&WF_EMPTYREPORT
-DEFAULTH &WF_SUMMARY='Summary';
-DEFAULTH &WF_TITLE='WebFOCUS Report';
TABLE FILE retail_samples/wf_retail
SUM Sale_Date AS 'Sale,Date'
Quantity AS 'Quantity Sold'
Last_Year AS 'Last,Year'
Prior_Year AS 'Quantity Sold,Last Year'
Two_Years_Ago AS 'Two,Years,Ago'
Two_Years_Past AS 'Quantity Sold,Two Years Ago'
BY WF_RETAIL.WF_RETAIL_GEOGRAPHY_STORE.BUSINESS_REGION
```

```

WHERE (WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Sale_Date) OR
(WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Last_Year) OR
(WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Two_Years_Ago);
ON TABLE SUBHEAD
"&Company.Company Name:Use Widgets&|More in Schedules."
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET CACHELINES 100
ON TABLE SET GRWIDTH 1
ON TABLE SET STYLE *
INCLUDE=IBFS:/FILE/IBI_HTML_DIR/javaassist/intl/EN/combine_templates/
ENIADefault_combine.sty,$
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&WF_TITLE.QUOTEDSTRING, SUMMARY=&WF_
SUMMARY.QUOTEDSTRING,
ORIENTATION=LANDSCAPE, HFREEZE=OFF, $
TYPE=TABHEADING, LINE=1, JUSTIFY=CENTER, $
TYPE=TABHEADING, LINE=1, ITEM=1, OBJECT=TEXT, SIZE=14, STYLE=BOLD+ITALIC, $
ENDSTYLE
END

```

## WebFOCUS レポートタスクを作成するには

### 手順

1. [ReportCaster - スケジュールの作成] ウィンドウで、[タスク] を選択します。
2. [新規スケジュールの作成] ドロップダウンメニューから、[WebFOCUS レポート] タスクを選択します。

**i 注意：**[有効にする] のチェックをオンまたはオフにすることで、タスクを有効または無効にすることができます。

3. [タスク名] テキストボックスに、タスクの名前を入力します。
4. [全般] タブを選択し、次の手順を実行します。
  - [プロシジャ] テキストボックス横のフォルダアイコンをクリックし、レポートとして使用するプロシジャを選択します。

**i 注意：**[サーバ名] テキストボックスに、選択したプロシジャに関連付けられたサーバ名が表示されます。

- [実行 ID] ドロップダウンリストから実行 ID を選択するか、[新しい実行 ID の追加] ボタンを選択して新しい実行 ID を作成します。
  - レポートをバーストレポートにする場合は、[バーストレポートにする] のチェックをオンにします。バーストレポートについての詳細は、[レポートのバースト](#)を参照してください。
  - レポートのフォーマットを変更する場合は、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにします。
  - [保存レポート名] テキストボックスに、任意のレポート名を入力します。
5. [パラメータ] タブを選択し、次の手順を実行します。

**i 注意：**プロシジャに関連付けられたパラメータが、パラメータリストに表示されます。

- 新しいパラメータを作成する場合は、[新規作成] ボタンを選択します。
  - デフォルト値を使用する場合は、[プロシジャで指定されたデフォルト値を常に使用] のチェックをオンにします。
6. [実行前/実行後プロシジャ] タブを選択し、次の手順を実行します。
- [実行前プロシジャ] 下で該当するテキストボックス横のフォルダアイコンをクリックし、第 1、第 2 実行前プロシジャを選択します。
  - [実行後プロシジャ] 下で該当するテキストボックス横のフォルダアイコンをクリックし、第 1、第 2 実行後プロシジャを選択します。
7. [タスクの詳細設定] を選択し、[警告として処理される追加の FOC エラー] テキストボックスに、警告として無視する必要があるエラーを入力します。
8. [追加] ボタンをクリックし、タスクをタスクリストに追加します。

## WebFOCUS サーバプロシジャ

[WebFOCUS サーバプロシジャ] は、プロシジャをサーバ側から選択する場合に使用します。[WebFOCUS サーバプロシジャ] の [タスク] ポップアップウィンドウは、WebFOCUS レポートのものと同一です。

パラメータ (変数) は、スケジュールの [保存レポート名] テキストボックスで値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータには、&YYMD のようなシステム変数、およびスケジュール済みプロシジャの実行時に WebFOCUS Reporting Server から取得される任意の変数を含めることができます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用する



には、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に WebFOCUS Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、'%BURST' 記号を使用して [保存レポート名] テキストボックスにバースト値を含めることもできます。バーストレポートについての詳細は、[レポートのバースト](#)を参照してください。

[WebFOCUS サーバプロシジャ] タスクを作成する方法についての詳細は、[WebFOCUS レポートタスクを作成するには](#)を参照してください。

## WebFOCUS スケジュール

[WebFOCUS スケジュール] タスクを使用して、1 つまたは複数の個別スケジュールを開始するスケジュールタスクを構成することができます。

**注意：**[WebFOCUS スケジュール] タスクタイプを使用するには、他のスケジュールのスケジュール権限が必要です。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

WebFOCUS スケジュールの [タスク] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

### 全般タブ

| オプション     | 説明                                                                                                                               |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スケジュールパス名 | タスクで呼び出すスケジュールのパス名を入力します。[参照] ボタンをクリックして、リポジトリからスケジュールを選択することができます。各自のプライベートスケジュールや公開済みのスケジュールなど、表示権限が付与されたスケジュールのみを表示することができます。 |
| 優先度       | スケジュールが Distribution Server で処理される際の優先度を表示します。最上位の優先度は 1、最下位の優先度は 5 です。                                                          |
| 実行モード     | このタスクで使用する選択したスケジュールの Distribution Server による処理方法を定義するオプションです。詳細は、 <a href="#">WebFOCUS スケジュールタスクの実行モードオプション</a> を参照してください。      |

**i 注意：**

- Distribution Server は、無限再帰を回避するために、WebFOCUS スケジュールタスクがそれ自体を実行しないことを確認します。Distribution Server が無限再帰を事前に検知した場合は、スケジュールを停止し、このタスクをエラーとしてスケジュールジョブログに記録します。
- スケジュールにレポート配信を伴わない WebFOCUS スケジュールタスクのみが含まれている場合でも、スケジュールを保存する前に、配信方法を選択する必要があります。

WebFOCUS スケジュールタスクでスケジュールを配信すると、このタスクのログレポートが作成されます。ログレポートは、HTML フォーマットで配信されます。配信スケジュールごとに、ジョブログにはジョブの送信、ジョブの名前、ジョブログへのリンクが記録されます。

## WebFOCUS スケジュールタスクの実行モードオプション

WebFOCUS スケジュールタスクでは、2 つの実行モードオプションを使用することができます。[WebFOCUS スケジュール] タスクは、Distribution Server キューに存在する他のスケジュールの直前に実行するよう設定することも、Distribution Server キューに存在する他のスケジュールから独立して実行するよう設定することもできます。次のオプションがあります。

- **このジョブを即時実行して完了するまで待機** 呼び出し先スケジュールを即時実行するスケジュールを設定します。Distribution Server は、他の待機中のジョブより先に、呼び出し先スケジュールを即時実行します。呼び出し元スケジュールは、呼び出し先スケジュールの完了後に次のタスクを実行します。
  - **タスクが失敗した場合、再試行 (頻度)** このチェックをオンにすると、呼び出し元のスケジュールは、エラーが発生した場合に、呼び出し先のスケジュールを定義済みの回数だけ再試行します。両方の数値オプションに使用可能な整数の最大値は 999 です。デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。
  - **このタスクが失敗した場合、スケジュールを続行しない** このチェックをオンにすると、呼び出し先スケジュールでエラーが発生した場合に、呼び出し元スケジュールの実行が停止されます。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。
- **このジョブを待機項目に追加** 呼び出し先スケジュールを他のスケジュールと関係なく独立して実行するスケジュールを設定します。Distribution Server は、優先度に関係なく、このスケジュールを待機項目に追加します。呼び出し元スケジュールは、呼び出し先スケジュールの完了を待たずに次のタスクを実行します。ワークロードの分散

が構成されている場合は、選択した Distribution Server はコンソールを使用してマネージャサーバを呼び出します。

## パラメータタブ

| オプション                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| タスクを選択してそのパラメータを表示します | ドロップダウンリストから、関連付けられたパラメータを表示するタスクを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| パラメータのプロパティ           | <p>[パラメータのプロパティ] には、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タイプ パラメータのタイプを定義します。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>注意：</b>パラメータのデフォルト値を使用する場合は、[プロシジャで指定されたデフォルト値を常に使用] のチェックをオンにします。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>値 このテキストボックスを使用して、パラメータに特定の値を指定します。</li> </ul> |

## 呼び出し先スケジュールで使用されたパラメータ値の上書き

スケジュールのファイルパスを [スケジュールパス名] フィールドに設定後、[パラメータ] タブをクリックすると、WebFOCUS スケジュールタスクのパラメータツールが表示されます。このタブでは、呼び出し先スケジュールで使用されているパラメータを上書きすることができます。たとえば、呼び出し先スケジュールの COUNTRY というパラメータが ENGLAND に設定されている場合、呼び出し先スケジュールで、FRANCE に置き換えることができます。

**i 注意：**呼び出し先スケジュールは、呼び出し元スケジュールの実行時のみ新しいパラメータ値を使用します。それ以外の場合は、呼び出し先スケジュールに保存済みの元のパラメータ値が適用されます。

既存のパラメータを上書きするには、パラメータを選択し、[値] テキストボックスに、呼び出し先スケジュールで使用する新しいパラメータ値を入力します。[OK] をクリックして、更新したパラメータを WebFOCUS スケジュールタスクに追加します。

呼び出し元スケジュールタスクの実行時に、呼び出し先スケジュールが、更新されたパラメータ値を使用したレポートを配信します。

## WebFOCUS スケジュールを作成するには

**i 注意：**[WebFOCUS スケジュール] タスクタイプを使用するには、他のスケジュールのスケジュール権限が必要です。詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

### 手順

1. [ReportCaster - スケジュールの作成] ウィンドウから、[タスク] を選択します。
2. [新規タスクの作成] ドロップダウンリストから、[WebFOCUS スケジュール] タスクを選択します。

**i 注意：**[有効にする] のチェックをオンまたはオフにすると、タスクの有効、無効を切り替えることができます。

3. [全般] タブを選択し、次の手順を実行します。
  - タスクに追加するスケジュールのパスを指定するか、[参照] ボタンをクリックしてシステム上またはリポジトリ内のスケジュールパスを指定します。
  - 呼び出し先スケジュールの優先度を選択します。最上位の優先度は 1、最下位の優先度は 5 です。
  - 呼び出し先スケジュールの実行モードを選択します。  
詳細は、[WebFOCUS スケジュールタスクの実行モードオプション](#)を参照してください。
  - [スケジュール] ウィンドウに表示されるタスクのリストで、タスクを有効または無効にすることもできます。
4. [パラメータ] タブを選択し、次の手順を実行します。
  - ドロップダウンリストから、関連付けられたパラメータを表示するタスクを選択します。
  - デフォルト値を使用する場合は、[プロシジャで指定されたデフォルト値を常に使用] のチェックをオンにします。

- 任意のパラメータを選択して [値] フィールドに値を入力することで、デフォルト値上書きすることができます。

5. [追加] ボタンをクリックし、タスクをタスクリストに追加します。

## FTP

[FTP] タスクタイプは、任意の FTP サーバからファイルを取得してレポートを作成する場合に使用します。[FTP] タスクには、次のオプションがあります。

| オプション    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| FTP 名    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• カスタム FTP このオプションでは、サーバおよび関連付けられたユーザ名とパスワードを設定できます。</li> </ul> <div> <p><b>注意：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [ユーザ名] ドロップダウンリストには、ReportCaster の構成の [実行 ID] タブに表示されるすべての FTP 実行 ID が、自動的に入力されます。</li> <li>◦ [カスタム FTP] を使用して追加された新しいユーザは、[実行 ID] リストに追加されます。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 定義済み FTP このオプションでは、ReportCaster の構成から、サーバおよび関連付けられたユーザ名とパスワードが、自動的に入力されます。</li> </ul> |
| FTP サーバ名 | <p>ドロップダウンリストから、カスタム FTP の FTP サーバのプロファイルを選択します。</p> <div> <p><b>注意：</b>[定義済み FTP] の場合、このテキストボックスは読み取り専用で、無効化されています。</p> </div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ユーザ名     | <p>ドロップダウンリストから、FTP サーバを選択します。さらに、[新規ユーザ名の追加]  アイコンをクリックして新しいユーザを作成することもできます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| パスワード    | <p>選択したユーザのパスワードを設定できます。さらに、[編集] アイコンを選択して、ユーザのパスワードを変更することもできます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

| オプション | 説明                       |
|-------|--------------------------|
| 接続テスト | 選択した FTP サーバとの接続をテストします。 |

**i 注意：** [パスワード] テキストボックスのパスワードを上書きした場合、対応するユーザ名の新しいパスワードが更新されます。

接続のテストでは、ReportCaster スケジュールツールは次の認証方法を使用します。

| プロトコル                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| このサーバには FTP が必要            | 標準の FTP プロトコルを実行する場合は、このオプションを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| このサーバには SFTP が必要           | <p>SFTP プロトコルを実行する場合は、このオプションを選択します。その場合、[認証情報] ドロップダウンリストから認証タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワード</li> <li>• パブリックキー</li> <li>• パブリックキーとパスワード (マルチファクタ)</li> </ul>                                                                                                                                        |
| このサーバには TLS/SSL (FTPS) が必要 | <p>FTPS プロトコルを実行する場合は、このオプションを選択します。このプロトコルでは、次のオプションを選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• セキュリティモード [Explicit] または [Implicit] を選択します。</li> <li>• プロトコル [トランスポート層セキュリティ (TLS)] または [セキュアソケットレイヤ (SSL)] を選択します。</li> <li>• データ接続セキュリティ [Private - 整合性とプライバシーを保護する] または [Clear - データ転送を保護しない] を選択します。</li> </ul> |

## FTP タスクを作成するには

### 手順

1. [ReportCaster - スケジュールの作成] ウィンドウで、[タスク] を選択します。
2. [新規タスクの作成] ドロップダウンリストから、[FTP] タスクを選択します。



**注意：**[有効にする] のチェックをオンまたはオフにすると、タスクの有効、無効を切り替えることができます。

3. [FTP サーバ名] ドロップダウンリストから、FTP サーバを選択します。
4. [ユーザ名] ドロップダウンリストからユーザ名を選択するか、プラス (+) アイコンをクリックして新しいユーザを作成します。
5. [接続テスト] をクリックして、FTP サーバの接続をテストすることができます。
6. 使用する任意のプロトコルを選択します。
  - [SFTP] を選択した場合、[認証情報] を指定します。FTPS を選択した場合、[セキュリティモード]、[プロトコル]、[データ接続セキュリティ] を設定します。
7. [FTP ファイル] テキストボックスに、ファイルの取得先のフルパスを入力します。
8. [ファイル転送タイプ] ドロップダウンリストから、ファイル転送タイプを選択します。
  - [バイナリ] フォーマットと [ASCII] フォーマットのいずれかを選択することができます。
9. [保存レポート名] テキストボックスにレポート名を入力し、[追加] ボタンをクリックしてタスクを作成します。

## ファイル

このオプションを使用して、Distribution Server からファイルを取得して出力レポートを配信するタスクを作成します。次のオプションがあります。

| オプション | 説明          |
|-------|-------------|
| タスク名  | タスク名を入力します。 |

| オプション         | 説明                                  |
|---------------|-------------------------------------|
| ファイル名         | 取得するファイルのパス名を入力します。                 |
| 保存レポート名       | レポート名を入力します。                        |
| 配信後にファイルを削除する | このチェックをオンにして、スケジュールの完了後にレポートを削除します。 |

## ファイルタスクを作成するには

1. [タスク名] テキストボックスに、タスクの名前を入力します。

**i 注意：**[有効にする] のチェックをオンまたはオフにすると、タスクの有効、無効を切り替えることができます。

2. [ファイル名] テキストボックスに、スケジュールするファイルのフルパス名を入力します。
3. [保存レポート名] テキストボックスに、レポートの名前を入力します。
4. スケジュールの実行後にレポートを削除する場合は、[配信後にファイルを削除する] のチェックをオンにします。
5. [追加] ボタンをクリックしてタスクを保存します。

## URL

このタスクタイプは、ユーザが提供する URL に基づいて、レポートを送信します。Distribution Server は、Web サーバに URL を送信します。URL は Web サーバで実行され、コンテンツは Distribution Server に送信された後、ReportCaster Distribution Server により配信されます。[URL] タスクダイアログボックスには、次のオプションがあります。



| オプション   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全般タブ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>URL アドレス</b> URL アドレスを入力します。</li> <li>• <b>URL ユーザ ID</b> URL に関連付けられたユーザ名を表示します。</li> <li>• <b>パスワード</b> URL に関連付けられたパスワードを入力します。</li> <li>• <b>ユーザ ID の削除</b> テキストボックスから、ユーザ ID を削除します。</li> <li>• <b>保存レポート名</b> レポート名を入力します。</li> </ul>                                                 |
| パラメータタブ | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [新規作成]  アイコンをクリックして、パラメータを作成することができます。テーブル内にパラメータの [名前] と [値] を入力します。</li> <li>•  アイコンをクリックし、パラメータを削除することもできます。</li> </ul> |

## URL タスクタイプの作成

1. [新規タスクの作成] ドロップダウンリストから、[URL] タスクを選択します。

**i 注意：**[有効にする] のチェックをオンまたはオフにすると、タスクの有効、無効を切り替えることができます。

2. [URL アドレス] テキストボックスに、URL を入力します。
3. [URL ユーザ ID] および [パスワード] テキストボックスに、URL に関連付けられたユーザ名とパスワードを入力するか、ペンのアイコンを選択して新しいユーザ ID を作成します。
4. [パラメータ] タブをクリックします。
5. [新規作成] ボタンをクリックし、パラメータを追加します。

6. [保存レポート名] テキストボックスに、レポートの名前を入力できます。
7. [追加] ボタンをクリックしてタスクを保存します。

## 配信

スケジュールツールの [配信] オプションには、レポート出力を配信する際に指定可能なオプションが表示されます。レポート出力の配信方法には、次のものがあります。

- [Email 配信](#)
- [FTP 配信](#)
- [ReportLibrary 配信オプションの使用](#)
- [リポジトリ配信](#)
- 配信方法は、ReportCaster の構成でグローバル (すべてのユーザを対象) に制限することや、セキュリティ権限に基づいてグループまたはユーザを対象として制限することができます。
- [スケジュールを ReportLibrary 配信のみに制限する] オプションを選択することで、WebFOCUS リポジトリレポートの配信を ReportLibrary のみに制限することができます。詳細は、[レポート配信を ReportLibrary のみに制限](#)を参照してください。
- マップは、ReportLibrary および リポジトリにのみ配信することができます。マップを Email または FTP 配信した場合、マップが正しく開きません。
- テキストフォーマットで配信されるレポートから末尾のブランクを削除するには、管理者が管理コンソールの [カスタム設定] テキストボックスに「IBIWF\_trimreport=YES」を追加する必要があります。また、この設定を特定のレポートフォーマットに適用するには、たとえば「IBIWF\_trimreport=WP」と入力します。

[配信] タブには、次のオプションがあります。

| オプション                                                                                         | 機能                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 新規配信方法の作成  | 新しい配信方法を作成します。        |
| 配信方法を上へ移動  | 選択した配信方法をリストの上へ移動します。 |

| オプション                                                                                       | 機能                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 配信方法を下へ移動  | 選択した配信方法をリストの下へ移動します。 |
| 配信方法の削除    | 選択した配信方法を削除します。       |
| 配信方法の編集    | 選択した配信方法を編集します。       |

すべての配信方法は、配信パネルに表示されます。また、[有効にする] のチェックをオンまたはオフにすることで、配信方法を有効または無効にすることができます。これらのオプションには、配信方法のいずれかを右クリックしてアクセスすることもできます。

## Email 配信

Email でレポートを配信する際、レポートは Email の本文に埋め込んで送信することや、添付ファイルとして送信することができます。埋め込み Email 配信が可能なフォーマットは、DHTML、DOC、GIF、HTML、JPG、PNG、SVG、WP のみです。

**i 注意：** Email 配信を使用するスケジュールを作成するには、Email 配信の権限が必要です。

レポート出力を Email メッセージの本文として配信する方法は、特にモバイルデバイス、または添付ファイルをサポートしない Email システムに配信する際に役立ちます。

## レポート送信時の考慮事項

次のことを考慮する必要があります。

- スケジュール作成時に Email の本文に埋め込んで送信するオプションが利用できるかどうかは、構成ツール (ReportCaster ステータス) の [埋め込みレポート配信] 設定に応じて異なります。
- 埋め込み Email メッセージとして配信されたレポートの表示は、使用するメールサーバまたはメールクライアントの設定および制限事項の影響を受けます。
- HTML レポートを Email 配信する場合は、スケジュールするレポートプロシジャ (.fex)

で、以下のレポートスタイルオプションに対して完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定する必要があります。これらは、WebFOCUS Client の構成先 Web サーバまたは Application Server の JavaScript コンポーネントを参照します。Distribution Server は、インストール時に入力されたホスト名およびポート番号を使用して、FTP 配信用の完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定します。スケジュールするプロシジャでこれらの値を設定することで、元の設定を上書きすることができます。以下はその例です。

```
SET FOCEXURL='hostname:port/ibi_apps/'
```

```
SET FOCHTMLURL='hostname:port/ibi_apps/ibi_html'
```

スタイルオプションには次のものがあります。

- アコーディオンレポート
- 目次 (TOC) レポート
- ピアグラフレポート
- マルチドリルダウンレポート
- FREEZE オプション

セキュリティとして SSL を使用する場合は、URL を編集して「https」を指定します。

- ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)を参照してください。

## 複数 Email アドレスへのレポート送信時の考慮事項

Email 配信を使用するスケジュールを作成する際は、[選択] テキストボックスに Email アドレスを入力することができます。[選択] テキストボックスに複数の Email アドレスを入力する場合、各 Email アドレス間にセミicolon (;) またはカンマ (,) を使用して、Distribution Server の情報配信先を指定することができます。[選択] テキストボックスの Email アドレスのそれぞれに、別の Email が送信されます。

**① 注意：**

- 配信リストを使用すると、[選択] テキストボックスの複数の Email アドレスに対して、単一の Email が送信されます。
- スケジュールを保存する際に、カンマ (,) は、セミコロン (;) として処理されます。

## CC および BCC Email オプションの使用

すべての Email スケジュールタイプで、CC および BCC オプションが使用できます。これらのオプションを使用すると、Email 配信のコピーを追加の受信者に送信できるため、Email 配信のスケジュール作成が容易になります。

CC リストの受信者は、各所に配信された Email のコピーを受信し、配信で作成された Email のコピーの受取人として、名前が Email 内の [CC] リストボックスに表示されます。

BCC リストの受信者も、各所に配信された Email のコピーを受信しますが、名前は他の受信者には表示されません。[BCC] リストボックスは、受信者の Email には表示されません。リストは、送信者にのみ表示されます。

## Email 配信

[Email] 配信には、次のタブがあります。

- 全般タブ
- オプションタブ

### 全般タブ

| オプション | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 配信情報  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>タイプ</b> ドロップダウンリストのオプションには、[配信リスト]、[配信ファイル]、[Email アドレス]、[サーバプロシジャのダイナミック配信リスト]、[リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] などのさまざまな配信タイプが表示されます。</li> <li>• [宛先]、[送信者]、[CC]、[BCC]、[返信 Email アドレス]、[件名] を追加するための、さまざまなテキストボックスがあります。</li> </ul> |

## オプション 説明

### 注意：

- [宛先] および [送信者] への入力は必須です。
- 複数の Email アドレスを、セミコロン (;) で区切って追加することができます。

### Email 情報

- **メッセージ** このテキストボックスに、Email に追加するメッセージを入力します。
- **インラインメッセージを選択** [ReportCaster の構成] で、インラインメッセージを構成することができます。
- **ファイル** フォルダアイコンをクリックし、レポートを選択します。

### レポートの圧縮

- **レポートを ZIP ファイルに追加** レポートを圧縮します。
- **ZIP ファイル名** このテキストボックスに、.zip ファイル名を追加します。
- **ZIP 最小サイズ** [デフォルト値を上書き] のチェックをオンにして、最小サイズを設定できます。

## オプションタブ

### オプション 説明

#### Email のプロファイル

ドロップダウンリストから、Email のプロファイルを選択します。  
次のプロファイルを選択できます。

- **カスタムメールサーバ** メールサーバの設定を構成することができます。
- **System Default** [ReportCaster の構成] で構成されたデフォルト設定の Email プロファイルを使用します。
- **Pre-defined** ユーザ定義の Email プロファイルを使用します。

| オプション   | 説明                         |
|---------|----------------------------|
| メールサーバ名 | ドロップダウンリストから、メールサーバを選択します。 |
| 接続テスト   | メールサーバとの接続をテストすることができます。   |

## Email 配信の使用

The screenshot shows the 'New Distribution Method - Email' dialog box. The 'Distribution name' is 'Email' and the 'Enable' checkbox is checked. The 'Distribution Information' section includes fields for 'Type' (Email Address(s)), 'To', 'From' (admin), 'Cc', 'Reply address', 'Bcc', and 'Subject' (Report). The 'Email Information' section has a 'Select the inline message' dropdown set to 'Message'. The 'Add' button is highlighted in blue.

1. [スケジュール] ウィンドウで、[配信] オプションを選択します。
2. 配信を受信する Email アドレスを指定するには、[タイプ] ドロップダウンリストから次のいずれかを選択します。

| オプション                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 配信リスト                                          | [宛先] のフォルダアイコンをクリックし、[開く] ダイアログボックスから構成済みの配信リストを選択します。詳細は、 <a href="#">配信リストの作成と保守</a> を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 配信ファイル                                         | このスケジュールに使用する外部配信ファイルのフルパスとファイル名を入力します。パスとファイル名は、WebFOCUS Distribution Server からアクセス可能でなければなりません。詳細は、 <a href="#">外部配信ファイルの作成</a> を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                          |
| Email アドレス                                     | [宛先] テキストボックスに、配信を受信する Email アドレス (複数可) を直接入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| サーバプロシジャのダイナミック配信リスト<br>リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト | <p>[宛先] のフォルダアイコンをクリックし、ダイナミック配信リストが格納されたプロシジャの名前を選択します。</p> <p>ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、FOCUS データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。</p> <p>[ダイナミック配信リスト] を選択した場合、[選択] ボタンが有効になり、プロシジャ名の選択が可能になります。プロシジャの選択後、プロシジャのコマンドラインにパラメータを渡すことができます。詳細は、<a href="#">ダイナミック配信リストの作成およびibi WebFOCUS リポジトリプロシジャからのダイナミック配信リストの生成</a>を参照してください。</p> |

3. [CC] テキストボックスおよび [BCC] テキストボックスに、Email アドレスを直接入力します。区切り文字には、カンマ (,) またはセミコロン (;) を使用します。

**i 注意：**どちらの区切り文字を使用した場合も、Distribution Server から、[CC] または [BCC] リストのすべての受信者に同一のコピーが送信されます。

4. [送信者] テキストボックスには、デフォルト設定でユーザ ID が表示されます。これは、別の値で置換することができます。

ReportCaster では、この値の入力は必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。



5. [返信アドレス] テキストボックスに、有効な Email アドレスを入力します。受信者が Email に返信する場合、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがコンテンツを配信できない場合、配信不可能な出力メッセージがこのアドレスに返送されます。このテキストボックスの入力は必須です。
6. [件名] テキストボックスに、Email の件名行に表示するテキストを入力します。この情報は、ReportCaster では必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。スケジュールの [タイトル] テキストボックスに入力した値は、[件名] のデフォルト値として使用されます。
7. [インラインメッセージを選択] オプションを選択して、レポートを Email 添付と埋め込みのどちらで送信するかを指定します。

**i 注意：**このオプションは、[ReportCaster の構成] から有効または無効にすることができます。

8. このドロップダウンリストから、レポートをインラインメッセージとして送信するタスクを選択することができます。
9. Email 本文に表示される「添付ファイルを参照してください」というデフォルトメッセージの代わりに、新しいメッセージを入力することができます。

**i 注意：**デフォルトメッセージのテンプレートは、[ReportCaster の構成] から変更することができます。

10. [ファイル] オプションを選択し、Email 配信時の配信メッセージが記述されたファイルを WebFOCUS リポジトリから選択します。
11. [Email のパケット化] オプションの値を指定するか、デフォルト値を受容します。  
[Email のパケット化] オプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合、各受信者に送信する Email 数を指定することができます。次のオプションがあります。
  - a. **いいえ** 各添付ファイルをそれぞれ個別の Email で送信します。
  - b. **はい** すべての添付ファイルを 1 通の Email で送信します。
  - c. **バースト値** バースト値ごとに複数の添付ファイルを 1 通の Email で送信します。
12. [レポートを ZIP ファイルに追加] のチェックのオンとオフを切り替えて、レポートを圧縮ファイル (.zip) として送信するかどうかを指定します。  
この設定で、配信レポートをパスワード保護の圧縮ファイルに変換することができます。

す。デフォルト設定では、[レポートを ZIP ファイルに追加] のチェックはオフで、レポートは圧縮されません。必要に応じて、配信ファイルまたはダイナミック配信リストにパスワードを含めることで、ZIP ファイルをパスワード保護することができます。詳細は、[外部配信ファイルの作成](#)または[ダイナミック配信リストの作成](#)を参照してください。

13. [レポートを ZIP ファイルに追加] のチェックをオンにした場合は、[ZIP ファイル名] テキストボックスに ZIP ファイル名を入力します。

**注意：**Windows 7 および Windows 2008 Server R2 で Zip ファイル名および Zip ファイル内のコンテンツに対して Unicode 文字をサポートするには、Microsoft のサイト (<http://support.microsoft.com/kb/2704299/en-us>) から Hotfix を入手する必要があります。この Hotfix を使用しない場合、Windows 7 または Windows 2008 Server R2 で Zip ファイルを解凍した後、ファイル名が文字化けします。

14. 必要に応じて、[ZIP 最小サイズ] (キロバイト) のデフォルト値を上書きすることができます。この最小サイズを超える添付ファイルのみが ZIP ファイルに自動的に追加されます。[ZIP 最小サイズ] オプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。デフォルト値を変更し、特定のサイズを超える添付ファイルを自動的に ZIP ファイルに追加するには、この値を適切なサイズに設定します。
15. [オプション] タブの構成を完了後、[追加] をクリックして Email 配信情報を保存します。完了済みでない場合は、以下の [メールサーバ情報を設定するには](#) の手順に従います。

## メールサーバ情報を設定するには

スケジュールツールで Email 配信の [全般] タブを設定後、メールサーバ情報の設定をカスタマイズすることができます。

1. [Email 配信] ダイアログボックスで、[オプション] タブをクリックします。
2. [Email プロファイル] ドロップダウンリストから、Email のプロファイルを選択します。
3. リストから、[カスタムメールサーバ]、[(System Default)]、[pre-defined] のいずれかを選択できます。
4. [カスタムメールサーバ] を選択した場合、[メールサーバ名] を変更し、セキュリティプロトコルを設定することができます。
  - a. メールサーバに SSL 接続が必要な場合は、[このサーバには SSL 接続が必要] のチェックをオンにします。
  - b. メールサーバに TLS 接続が必要な場合は、[このサーバにはセキュア TLS 接続が

必要] のチェックをオンにします。

- c. メールサーバに認証情報が必要な場合は、[このサーバには認証情報が必要] のチェックをオンにします。

このチェックをオンにした場合、[アカウント名] と [パスワード] に、これらの値を入力します。さらに、 アイコンをクリックして新しいユーザを作成することもできます。

**i 注意：**

- カスタムメールサーバの場合、パスワードタイプの認証のみを構成することができます。
- OAuth 認証の場合は、pre-defined サーバを使用できます。ReportCaster での OAuth 構成についての詳細は、[OAuth2 認証を構成するには](#)を参照してください。
- OAuth メールサーバを使用する場合、[パスワード] テキストボックスのラベルが [OAuth 2.0] に変わります。

5. [OK] をクリックして変更内容を保存するか、[全般] タブをクリックします。

## FTP 配信

ここでは、スケジュール済み出力を FTP を使用して配信する方法について説明します。FTP 配信には、次のオプションがあります。

### 全般タブ

| オプション | 機能                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 配信情報  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>タイプ</b> ドロップダウンリストのオプションには、[配信リスト]、[配信ファイル]、[単一ファイル]、[サーバプロシジャのダイナミック配信リスト]、[リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] などのさまざまな配信タイプが表示されます。</li> <li>• <b>名前</b> [タイプ] フィールドに基づいて、配信リストを設定します。</li> <li>• <b>ディレクトリ</b> 配信先のディレクトリを設定します。</li> </ul> |

- レポートの圧縮 次の圧縮オプションがあります。
- なし
  - アーカイブファイル (.zip) の作成
  - 圧縮ファイル (.zip) の作成
  - 圧縮ファイル (.gz) の作成

ZIP ファイル名 圧縮ファイルの名前を入力します。

レポートのインデックスファイル インデックスファイルの名前を入力します。

## オプションタブ

| オプション       | 説明                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| FTP 名       | <p>ドロップダウンリストから、FTP のプロファイルを選択します。</p> <p>次のプロファイルを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>カスタム FTP</b> プロトコルと FTP サーバを設定することができます。</li> <li>• <b>Pre-defined</b> ユーザ定義の FTP プロファイルを使用します。</li> </ul> |
| FTP サーバホスト名 | ドロップダウンリストから、FTP サーバを選択します。                                                                                                                                                                                           |
| 接続テスト       | メールサーバとの接続をテストすることができます。                                                                                                                                                                                              |

- FTP 配信を使用するスケジュールを作成するには、FTP 配信の権限が必要です。
- [カスタム FTP] と [pre-defined] のいずれかを選択することができます。[カスタム FTP] を選択すると、ホスト名、ユーザ名、パスワードをカスタマイズできます。FTP サーバ名のリストから [pre-defined] を選択すると、ダイアログボックス内の残りのテキストボックスに、定義済み FTP の設定構成から値が入力されます。
- WebFOCUS Reporting Server 認証情報の格納方法と同様に、スケジュールの作成時に FTP サーバの認証情報がユーザごとに格納されます。ユーザは、FTP サーバごとに認

証情報を一度だけ入力します。スケジュールツールでその FTP サーバを使用する FTP 配信のスケジュールを作成するたびに、これらの認証情報が使用されます。

FTP サーバに SFTP が必要な場合は、[このサーバには SFTP が必要] のチェックをオンにします。次の認証方法のいずれかを選択します。

- サーバ認証にユーザ ID とパスワードが必要な場合は、[パスワード] を選択します。
- サーバ認証にパブリックキー認証を使用する場合は、[パブリックキー] を選択します。
- パブリックキー認証情報を使用して認証し、サーバ認証にユーザ ID とパスワードが必要な場合は、[パブリックキーとパスワード (マルチファクタ)] を選択します。

### 注意

- SFTP サーバ認証に使用されるパブリックキーとプライベートキーの組み合わせには、複数のフォーマットがあります。FTP サーバで使用されるパブリックキーとプライベートキーの組み合わせのフォーマットが Distribution Server で認識されない場合は、Distribution Server の sshkeygen ユーティリティを使用して、適切なフォーマットのキーを生成することができます。
- パブリックキー認証を使用する場合は、サーバのプライベートキーを sftp\_private\_key.txt ファイルに追加しておく必要があります。このファイルは、Distribution Server の %cfg ディレクトリに格納されています。
- FTP サーバに FTPS が必要な場合は、[このサーバには FTPS が必要] のチェックをオンにします。次のオプションがあります。
  - **セキュリティモード** 選択可能なモードには、[Explicit] および [Implicit] があります。
  - **プロトコル** オプションには、[トランスポート層セキュリティ (TLS)] および [セキュアソケットレイヤ (SSL)] があります。
  - **データ接続セキュリティ** オプションには、[Clear - データ転送を保護しない] および [Private - 整合性とプライバシーを保護する] があります。
- HTML レポートを FTP 配信する場合は、スケジュールするレポートプロシジャ (.fex) で、以下のレポートスタイルオプションに対して完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定する必要があります。これらは、Client の構成先 Web サーバまたは Application Server の JavaScript コンポーネントを参照します。Distribution Server は、インストール時に入力されたホスト名およびポート番号を使用して、FTP 配信の完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定します。スケジュールする

プロシジャでこれらの値を設定することで、元の設定を上書きすることができます。以下はその例です。

```
SET FOCURL='hostname:port/ibi_apps/'
```

```
SET FOHTMLURL='hostname:port/ibi_apps/ibi_html'
```

スタイルオプションには次のものがあります。

- アコーディオンレポート
- 目次 (TOC) レポート
- ピアグラフレポート
- マルチドリルダウンレポート
- FREEZE オプション

セキュリティとして SSL を使用する場合は、URL を編集して「https」を指定します。

## FTP 配信オプションを使用するには

パラメータ (変数) は、スケジュールの FTP 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に WebFOCUS Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。

## 条件

- スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に WebFOCUS Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。
- スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、'%BURST' 記号を使用してバースト値を含めることもできます。複数のレポートが単一アーカイブファイルで配信される場合、ZIP ファイル名にバースト値は代入されません。

## 手順

1. スケジュールツールで、[配信] オプションを選択します。
2. [新規配信方法の作成] ドロップダウンリストから、[FTP] を選択します。
3. [配信名] テキストボックスに、この配信の名前を入力します。  
デフォルト値は [FTP] です。
4. [タイプ] ドロップダウンリストから、FTP の提供方法、レポートを配信するディレクトリ、ファイル名を選択します。
  - **配信リスト** 配信リストの名前を入力します。レポートは、選択した配信リストのすべての FTP アドレスに送信されます。詳細は、[配信リストの作成](#)を参照してください。
  - **配信ファイル** このスケジュールに使用する外部配信ファイルのフルパスとファイル名を入力します。パスとファイル名は、ReportCaster Distribution Server からアクセス可能でなければなりません。ReportCaster は、ファイルが存在するかどうかを確認しません。詳細は、[外部配信ファイルの作成](#)を参照してください。
  - **単一ファイル** 配信するファイルの名前とファイル拡張子を入力します。スケジュールの [保存レポート名] テキストボックスの値が、[名前] テキストボックスに自動的に入力されます。スケジュールレポートをバーストする場合、ReportCaster が自動的に各バーストファイルのファイル名の末尾にバースト値を追加します。必要に応じて、ファイル名の先頭に '%BURST' 構文を追加したり、ファイル名の先頭にディレクトリを追加したり、また同時に両方を追加したりできます。

### **i** 注意：

- レポートを正しく配信するためには、[名前] の値にファイル拡張子を追加する必要があります。デフォルト設定では、[単一ファイル] の [名前] の値にはファイル拡張子が含まれません。ファイル拡張子を追加するには、[タスク] タブで [プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにしてレポートフォーマットを選択するか、ファイル拡張子を手動で入力します。
- ReportCaster は、ファイルパスまたは指定したファイルの有無を確認しません。
- このボックスには、最大 800 バイトの文字を入力可能です。

- **ダイナミック配信リスト** ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、FOCUS データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。詳細は、[動的配信リストの作成](#)を参照してください。

5. [ディレクトリ] テキストボックスに、出力の配信先を入力します。

**i 注意：**

- 新しいプリペアレポートを作成することはできませんが、作成済みのプリペアレポートはサポートされます。
- プリペアレポート以外の WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートの場合、FTP ログインディレクトリ、およびレポートの送信先である SFTP または FTP サーバ上のアカウントを持つユーザ ID のパスを指定します。
- これがブランクの場合、FTP を使用して配信される WebFOCUS サーバプロシジャは、FTP ユーザのホームディレクトリに送信されます。
- FTP 配信をスケジュールする場合、[ディレクトリ] テキストボックスに入力するフルパス名の文字数は最大で 255 バイトです。

6. [レポートの圧縮] セクションで、レポートの圧縮方法のオプションを指定します。選択可能なオプションには、[アーカイブファイル (.zip) の作成]、[圧縮ファイル (.zip) の作成]、[圧縮ファイル (.gz) の作成]、[なし] (デフォルト) があります。詳細は、[ReportCaster の構成](#)を参照してください。

**i 注意：**

- [レポートの圧縮] セクションのデフォルト設定は、構成設定から取得されます。詳細は、[ReportCaster の構成](#)を参照してください。
- Windows 7 および Windows 2008 Server R2 で Zip ファイル名および Zip ファイル内のコンテンツに対して Unicode 文字をサポートするには、Microsoft のサイト (<http://support.microsoft.com/kb/2704299/en-us>) から Hotfix を入手する必要があります。  
この Hotfix を使用しない場合、Windows 7 または Windows 2008 Server R2 で Zip ファイルを解凍した後、ファイル名が文字化けします。

7. [インデックスファイル名] テキストボックスで、レポートのインデックスファイル名を指定します。



- ① 注意：**ReportCaster の構成によっては、このオプションが使用できない場合があります。詳細は、[ReportCaster の構成](#)を参照してください。  
WebFOCUS サーバプロシジャで、レポートをバーストするよう指定する場合は、インデックスページの作成先となるファイルの名前を入力します。

**重要：**入力するインデックスファイルの名前は、オペレーティングシステムの大文字と小文字の規則に準拠し、小文字で指定する必要があります。

**注意：**バーストレポート出力のインデックスページには、配信リストで指定されたバースト値のみが含まれます。

8. [オプション] タブの構成を完了後、[追加] をクリックして FTP 配信情報を保存します。完了済みでない場合は、以下の [FTP 配信の FTP 情報を構成するには](#) の手順に従います。

## FTP 配信の FTP 情報を構成するには

スケジュールツールで FTP 配信の [全般] タブを設定後、FTP サーバ情報の設定をカスタマイズすることができます。

### 手順

1. [配信] ダイアログボックスで、[オプション] タブをクリックします。  
デフォルト設定では、現在の FTP サーバ名およびアカウント名が表示されます。
2. リストから、[カスタム FTP]、[(System Default)]、[pre-defined] のいずれかを選択できます。
3. [カスタム FTP] を選択した場合、[FTP サーバホスト名] を変更し、ユーザ ID を追加してプロトコルを設定することができます。
  - a. [ユーザ名] と [パスワード] に、これらの値を入力します。さらに、 アイコンをクリックして新しいユーザを作成することもできます。
4. 下表の FTP プロトコルから、任意のオプションを選択します。

| 5. オプション        | 説明                  |
|-----------------|---------------------|
| このサーバには FTP が必要 | 標準の FTP プロトコルに従います。 |

**このサーバには SFTP が必要**

認証ベースのプロトコルに従います。次のオプションから認証タイプを指定する必要があります。

- サーバ認証にユーザ ID とパスワードが必要な場合は、[パスワード] を選択します。
- パブリックキー認証情報を使用して認証する場合は、[パブリックキー] を選択します。
- パブリックキー認証情報を使用して認証し、サーバ認証にユーザ ID とパスワードが必要な場合は、[パブリックキーとパスワード (マルチファクタ)] を選択します。

**このサーバには TLS/SSL (FTPS) が必要**

FTPS プロトコルに従います。[セキュリティモード]、[プロトコル]、[データ接続セキュリティ] を設定する必要があります。

- [セキュリティモード] で、[Explicit] または [Implicit] を選択します。
- [プロトコル] で、[トランスポート層セキュリティ (TLS)] または [セキュアソケットレイヤ (SSL)] を選択します。
- [データ接続のセキュリティ] で、[Private - 整合性とプライバシーを保護する] または [Clear - データ転送を保護しない] を選択します。

6. [追加] をクリックして設定を保存します。

## ReportLibrary 配信オプションの使用

ReportLibrary は、リポジトリに格納されるコンテンツへのセキュアなアクセスを提供するほか、同一出力の複数バージョンの保存、有効期限の設定、指定したバージョン数の保存が可能です。ReportLibrary を使用できるのは、ReportLibrary レポートの格納先フォルダで、ReportLibrary レポートへのアクセスおよび表示が許可されているユーザのみです。ReportLibrary 配信には、次のオプションがあります。

### 全般タブ

| オプション                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 配信情報                            | <p><b>フォルダパス</b> レポートの保存先を選択するためのフォルダアイコン。</p> <p><b>詳細</b> ファイルの詳細を設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| アクセスオプション                       | <p>スケジュール済みレポートにアクセス可能なユーザを制御します。以下のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プライベート (オーナーのみアクセス可)</li> <li>• 公開済み (ibi™ WebFOCUS® セキュリティポリシーによるアクセス許可)</li> <li>• 共有 ([共有コンテンツ] フォルダに表示)</li> <li>• 高度な共有 (アクセスリストの設定により [共有コンテンツ] フォルダに表示)</li> </ul> <p>このオプションを選択した場合、[アクセスリスト] のフォルダアイコンから、アクセスリストを選択できます。また、[配信をアクセスリストの値に制限] のチェックをオンにして、配信をアクセスリストのメンバーに制限することもできます。</p> |
| ReportLibrary<br>のレポートの期限<br>切れ | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>期限切れ</b> 配信を期限切れにするタイミングを選択することができます。オプションには、[バージョン]、[日]、[週]、[月]、[年] があります。</li> <li>• <b>期限切れなし</b> このオプションを選択すると、配信は継続的に実行されます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                        |

[全般] タブの [詳細] ボタンを選択すると、追加の設定を行うことができます。

| オプション          | 説明                                               |
|----------------|--------------------------------------------------|
| 保存されたレポートを圧縮する | ReportLibrary レポートをリポジトリに格納する際にレポートを圧縮することができます。 |
| サブフォルダを有効にする   | レポートの配信先としてサブフォルダを有効にすることができます。[サブフォル            |

| オプション    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          | <p>ダを有効にする] を選択した場合は、パターンを指定する必要があります。パターンには、テキスト、パラメータ (変数)、'%BURST' 記号を含めることができます。</p>                                                                                                                                                                           |
| バージョンの説明 | <p>[ReportLibrary 詳細オプション] ダイアログボックスで、ReportLibrary に配信されたレポートの各バージョンに、パラメータ化された説明テキストを割り当てることができます。バージョンの説明には、テキスト、変数、および '%BURST' 記号 (レポートがバーストされる場合) を含めることができます。バージョンの説明は、スケジュールの実行時に Distribution Server によって作成されます。レポートビューアを開いた際に、この説明がバージョン番号の横に表示されます。</p> |
| カテゴリ     | <p>ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートをソートする際に使用するオプションの値です。詳細は、<a href="#">ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラ</a>を参照してください。</p>                                                                                                                               |

[オプション] タブのオプションは、[ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] のチェックをオンにした場合にのみ有効になります。次のオプションがあります。

| オプション    | 説明                                                                                                                                        |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メールサーバ情報 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Email のプロファイル</b></li> </ul> <p>ドロップダウンリストから、Email のプロファイルを選択します。</p> <p>次のプロファイルを選択できます。</p> |

| オプション                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ <b>カスタムメールサーバ</b> プロトコルとメールサーバを設定することができます。</li> <li>◦ <b>System Default</b> [ReportCaster の構成] で構成されたデフォルト設定の Email プロファイルを使用します。</li> <li>◦ <b>Pre-defined</b> ユーザ定義の Email プロファイルを使用します。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>メールサーバ名</b> ドロップダウンリストから、メールサーバを選択します。</li> <li>• <b>接続テスト</b> メールサーバとの接続をテストすることができます。</li> </ul>                                                                 |
| <b>ReportLibrary Email</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ReportLibrary URL</b> ReportLibrary の URL アドレスが表示されます。このテキストボックスは、読み取り専用です。<br/>この値は、ReportCaster の構成から読み取られます。</li> <li>• <b>送信者</b> 送信者 Email アドレスを入力するためのテキストボックスです。ペンのアイコンを選択して、Email アドレスを検索することもできます。</li> <li>• <b>返信 Email アドレス</b> テキストボックスに、返信 Email アドレスを入力します。このテキストボックスへの入力必須です。</li> <li>• <b>件名</b> テキストボックスに、Email の件名を入力します。</li> <li>• <b>メッセージ</b> テキストボックスに、Email に記載するメッセージを入力します。</li> </ul> |

**① 注意：**

- ReportLibrary 配信を使用するスケジュールを作成するには、ReportLibrary 配信の権限が必要です。
- ReportLibrary 配信を使用するスケジュールのオーナーが変更された場合、このスケジュールの新しいオーナーに合わせて関連する ReportLibrary レポートのオーナーを修正する必要があります。

ReportLibrary レポートへのアクセスが許可されているユーザには、ReportLibrary レポートが作成されたことを通知する Email を送信することができます。この Email 通知は新しい

バージョンが配信されるたびにユーザに送信され、ユーザはその URL から新しいバージョンに直接アクセスすることができます。

スケジュールを作成してレポート出力を ReportLibrary に配信する際は、レポート出力の配信先フォルダを選択します。[全般] タブを使用して、出力の配信先サブフォルダを指定することができます。サブフォルダが存在しない場合は、初回のスケジュール実行時にサブフォルダが動的に作成されます。次回以降のスケジュール実行時には、既存の ReportLibrary 項目が格納されているサブフォルダにレポートが配信されます。サブフォルダを作成する場合は、サブフォルダのタイトルに使用するパターンを指定する必要があります。このパターンには、テキスト、パラメータ (変数) のほか、スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は '%BURST' 記号を含めることができます。'%BURST' 記号を使用すると、バースト値ごとに新しいサブフォルダが作成されます。また、ReportLibrary レポートをリポジトリに格納する際にレポートを圧縮するオプションを選択することができます。

さらに、[カテゴリ] の値を指定して、ReportCaster エクスプローラに表示される ReportLibrary レポートリストの分類を容易にすることもできます。このカテゴリ値は ReportCaster エクスプローラの [カテゴリ] 列に表示され、この列タイトルを選択して ReportLibrary レポートリストをカテゴリ値でソートすることができます。

**i 注意：**XML フォーマットの ReportLibrary レポートは、新しいウィンドウで開く必要があります。

リポジトリに格納されているレポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする場合、レポート出力配信先のデフォルトフォルダは、スケジュール元レポートプロシジャ (FEX) と同一になります。ReportLibrary にレポートを配信する場合は、ReportLibrary レポートごとに異なるフォルダを作成して指定することをお勧めします。これにより、レポート出力へのアクセスに対するセキュリティを、フォルダレベルで定義、管理することができます。また、同一レポートプロシジャ (FEX) に対して複数のスケジュールを作成する場合や、配信される各レポートセクションのタイトルにバースト値を割り当てるバースト ReportLibrary レポートを実行する場合にも、名前の競合を回避することができます。タイトルは、リソースツリーに表示される値です。

たとえば、[Product Information] フォルダに格納されている [Regional Product Sales (Quarterly)] レポートが、四半期ごとに地域別のバーストレポートを [Regional Product Sales (Library Reports)] ReportLibrary フォルダに配信するよう設定されていることを想定します。[Regional Product Sales (Library Reports)] フォルダには、レポートリクエストで指定された地域の値に基づいて、地域別の ReportLibrary レポートが格納されます。地域別売上レポートの追加のスケジュールを作成する場合は、バーストレポートの説明が同一の地域の値になるため、別のフォルダパスを指定します。

**① 注意：**

- ReportLibrary レポートを配信する既存のスケジュールでは、現在のタスクを削除して新しいタスクを追加すると、新しい ReportLibrary の項目がリポジトリに作成されます。このスケジュールを保存すると、新しい ReportLibrary の項目が作成されたことを通知する警告が表示されます。
- ReportLibrary 配信を使用するスケジュールのオーナーが変更された場合、このスケジュールの新しいオーナーに合わせて関連する ReportLibrary レポートのオーナーを修正する必要があります。

## アクセスリストの値に配信を制限する際の考慮事項

ReportLibrary 配信をアクセスリストの値に制限する際は、次のことを考慮する必要があります。

- アクセスリストで指定されていないバースト値は、どれも ReportLibrary に配信されません。
- このオプションは、プロシジャの実行やデータソースからのデータの取得方法を変更するのではなく、アクセスリストに指定されたバースト値に基づいて、Reporting Server から返送されたバーストレポートセクションにフィルタを設定します。
- [バーストレポート] オプションが有効で、[配信をアクセスリストの値に制限] オプションが無効の場合、ReportCaster は、Reporting Server から返されたすべてのバーストレポートの ReportLibrary への配信を継続します。
- スケジュールを保存する際、スケジュールの [バーストレポート] オプションが有効であるかが検証されます。有効でない場合は、[バーストレポート] オプションを有効にして、アクセスリストで指定した値に配信を制限することを要求するメッセージが表示され、[スケジュール] オプションが再表示されます。
- ログファイルには、[配信をアクセスリストの値に制限] オプションが選択されたことを示す情報が格納されます。アクセスリストのバースト値ごとに別のログエントリが作成され、各バースト値に対するレポートセクションが ReportLibrary に配信されたかどうかが表示されます。

## レポート配信を ReportLibrary のみに制限

レポート (FEX) のスケジュールを作成する際の配信方法を ReportLibrary のみに制限することができます。この制限は、機密データやプライベートデータが含まれたレポートなど、すべてのレポートに適用されるほか、配信を制限するその他の項目にも適用されます。

レポートの配信を ReportLibrary のみに制限すると、リポジトリに格納された配信済みレポート出力へのアクセスがセキュリティで保護されます。機密データが含まれたレポートの

場合、この制限により、ReportCaster を使用して Email やその他の ReportCaster 配信方法で情報がスケジュール配信されることを防止することができます。

この機能を使用するには、レポートの [プロパティ] ダイアログボックスの [スケジュールを ReportLibrary のみに制限する] オプションを使用して、レポートの配信を ReportLibrary のみに制限する必要があります。

## 最上位フォルダへの ReportLibrary レポートのバースト

ReportLibrary 配信のスケジュールを作成する際に、リソースツリーの [ワークスペース] フォルダを最上位フォルダとして選択すると、ReportLibrary レポートの格納先となるサブフォルダがバーストされます。

この方法では、最初にサブフォルダを作成せずに、ReportLibrary レポートをサブフォルダに格納することができます。ReportLibrary レポートを最上位フォルダにバーストするようスケジュールすると、ReportLibrary レポートのバースト先となるサブフォルダが自動的に作成されます。

ReportLibrary レポートは、単一フォルダに配信する必要はありません。さまざまなサブフォルダパターンを使用することで、選択した変数で定義されるバースト値に基づいて、ReportLibrary レポートを複数のサブフォルダに配信することができます。

**i 注意：**最上位フォルダに ReportLibrary レポートをバーストするには、[ワークスペース] フォルダ下にサブフォルダを作成する権限を所有している必要があります。

## ReportLibrary 配信オプションを使用するには

1. スケジュールツールで、[配信] オプションを選択します。
2. [新規配信方法の作成] ドロップダウンリストから、[ReportLibrary] を選択します。
3. フォルダパスが正しいことを確認するか、必要に応じて [フォルダパス] テキストボックスの値を編集します。  
デフォルト設定で、このフォルダパスは、スケジュールの対象として選択したレポートプロシジャ (FEX) と同一のフォルダが指定されています。ユーザが別のフォルダへの書き込み権限およびコンテンツの作成権限を所有している場合は、レポートの配信先としてそのフォルダを選択することができます。



**i 注意：**ReportLibrary レポートの配信先とする別のフォルダを作成し、そのフォルダを指定することをお勧めします。

4. オプションのサブフォルダ、カテゴリ、レポート圧縮を設定するには、[詳細] をクリックします。これらのオプションを設定する場合は、次の情報を使用します。
  - a. **保存されたレポートを圧縮する** ReportLibrary レポートをリポジトリに格納する際にレポートを圧縮することができます。
  - b. **サブフォルダを有効にする** レポートの配信先としてサブフォルダを有効にすることができます。[サブフォルダを有効にする] を選択した場合は、パターンを指定する必要があります。パターンには、テキスト、パラメータ (変数)、'%BURST' 記号を含めることができます。
  - c. **バージョンの説明** [ReportLibrary 詳細オプション] ダイアログボックスで、ReportLibrary に配信されたレポートの各バージョンに、パラメータ化された説明テキストを割り当てることができます。バージョンの説明には、テキスト、変数、および '%BURST' 記号 (レポートがバーストされる場合) を含めることができます。バージョンの説明は、スケジュールの実行時に Distribution Server によって作成されます。レポートビューアを開いた際に、この説明がバージョン番号の横に表示されます。
  - d. **カテゴリ** ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートをソートする際に使用するオプションの値です。詳細は、[ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラ](#)を参照してください。
5. [プライベート]、[公開済み]、[共有]、[高度な共有] オプションのいずれかを選択して、ReportLibrary レポートへのアクセスを許可するグループおよびユーザを指定します。  
[高度な共有] を選択した場合は、[アクセスリスト] ボタンをクリックしてボタンをクリックして [開く] ダイアログボックスを表示し、アクセスが許可されているアクセスリストを選択します。
6. スケジュール実行後の特定の日付に ReportLibrary レポートを削除する場合は、[期限切れ] を選択します。デフォルト設定では、[期限切れなし] が選択されています。

**i 注意：**手順 5 と 6 のオプションは、いずれも [ReportCaster の構成] で構成することができます。

7. [オプション] タブの構成を完了後、[追加] をクリックして ReportLibrary 配信情報を保存します。完了済みでない場合は、以下の [ReportLibrary 配信の ReportLibrary 情報を設定するには](#)の手順に従います。

## ReportLibrary 配信の ReportLibrary 情報を設定するには

スケジュールツールで ReportLibrary の [全般] タブを設定後、メールサーバ情報の設定をカスタマイズすることができます。

1. ReportLibrary の [配信] ダイアログボックスで、[オプション] タブをクリックします。
2. 必要に応じて [ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] のチェックをオンにして、新しいバージョンの ReportLibrary レポートが配信されるたびに、ReportLibrary レポートへのアクセスが許可されているユーザに Email 通知を送信します。

Email メッセージには、ReportLibrary のレポートコンテンツへの URL も含まれています。[全般] タブで選択した [アクセスオプション] に応じて、次のいずれかの通知がユーザに送信されます。

- [アクセスオプション] を [プライベート]、[公開済み]、[共有] のいずれかに設定した場合は、スケジュールオーナーに、スケジュールの実行により ReportLibrary に出力が配信されるたびに Email 通知が送信されます。
  - [アクセスオプション] を [高度な共有] に設定した場合は、アクセスリスト内の各ユーザに、スケジュールの実行により ReportLibrary に出力が配信されるたびに Email 通知が送信されます。
  - アクセスリストに登録されているグループは、Email アドレスの取得には使用されません。Email 通知は、登録されているユーザのみに送信されます。
3. [Email のプロファイル] ドロップダウンリストから、Email プロファイルのいずれかを選択します。  
デフォルト設定では、[(System Default)] が選択されています。
  4. [カスタムメールサーバ] を選択すると、メールサーバ名とプロトコルのオプションが有効になります。
    - a. メールサーバを変更するには、[メールサーバ名] ドロップダウンリストに表示されているオプションのいずれかを選択します。
    - b. メールサーバに SSL 接続が必要な場合は、[このサーバには SSL 接続が必要] のチェックをオンにします。
    - c. メールサーバに TLS 接続が必要な場合は、[このサーバにはセキュア TLS 接続が必要] のチェックをオンにします。
    - d. メールサーバに認証情報が必要な場合は、[このサーバには認証情報が必要] のチェックをオンにします。

[このサーバには認証情報が必要] のチェックをオンにした場合、[アカウント名] チェックボックスおよび [パスワード] が有効になり、これらのテキストボックスでそれぞれの値を設定します。

5. サーバをテストするには、[接続テスト] ボタンをクリックします。
6. [送信者] テキストボックスに、任意の値 (例、スケジュールを作成したユーザ名) を入力します。このテキストボックスの入力は ReportCaster で必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。
7. [返信アドレス] テキストボックスに、有効な Email アドレスを入力します。受信者が Email に返信する場合、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがコンテンツを配信できない場合、配信不可能な出力メッセージがこのアドレスに返送されます。このテキストボックスの入力は必須です。
8. [件名] テキストボックスに、Email の件名行に表示するテキストを入力します。この情報は、ReportCaster では必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。スケジュールの [タイトル] テキストボックスに入力した値は、[件名] のデフォルト値として使用されます。
9. Email 本文として表示するメッセージを入力します。
10. [追加] をクリックするか、[全般] タブをクリックします。

## 最上位フォルダに ReportLibrary レポートをバーストするには

1. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、新しいスケジュールを作成するワークスペースを選択します。
2. [新しいことを始める]、[スケジュールの作成] を順に選択します。
3. [配信] タブをクリックし、[新規配信方法の作成] ボタンのドロップダウン矢印をクリックして [ReportLibrary] を選択します。
4. [フォルダパス] 横のフォルダアイコンをクリックします。
5. [ワークスペース] フォルダを選択し、[開く] をクリックします。
6. [詳細] ボタンをクリックします。[ReportLibrary 詳細オプション] ダイアログボックスが開きます。
7. [サブフォルダを有効にする] のチェックをオンにし、サブフォルダパターンを指定します。このパターンに基づいて、サブフォルダのタイトルが作成されます。詳細は、[ibi WebFOCUS ReportCaster 変数](#)を参照してください。

8. [OK] をクリックします。
9. [タスク] オプションをクリックし、[バーストレポートにする] のチェックをオンにします。

**i 注意：**バーストレポートの処理では、異なるバースト値を使用するレポートごとに個別のサブフォルダが作成されるため、ReportLibrary の配信スケジュールを作成して保存した後は、このチェックをオフにすることはできません。選択した ReportLibrary 配信コンテンツをバーストする必要がなくなった場合は、[バーストレポート] のチェックをオフにして、新しい ReportLibrary 配信スケジュールを作成する必要があります。

10. スケジュールの実行に必要な他の項目をすべて指定し、スケジュールを保存します。
11. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、作成済みのスケジュールを右クリックし、[実行] を選択します。

バースト ReportLibrary レポートを格納する新しいサブフォルダが、[ワークスペース] 最上位フォルダに作成されます。

**i 注意：**サブフォルダ構造は、使用された変数に応じて異なります。

## リポジトリ配信

スケジュールツールで、スケジュール済み出力をリポジトリに配信する場合は、レポート出力の配信先としてリポジトリのフォルダパスを指定します。リポジトリ配信には、次のオプションがあります。

| オプション  | 説明                               |
|--------|----------------------------------|
| 配信名    | テキストボックスに、配信名を追加します。             |
| フォルダパス | フォルダアイコンをクリックし、レポートの配信先パスを選択します。 |

- ① 注意：**リポジトリ配信を使用するスケジュールを作成するには、リポジトリへの配信権限が必要です。選択したフォルダにコンテンツを送信するための権限も必要です。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

リポジトリファイルシステム配信機能を使用して、Distribution Server がアクセス可能なディレクトリにレポートを送信することができます。ファイルシステムが構成されたリポジトリに配信する場合、ファイルシステムフォルダを選択することができます。

- ① 注意：**
- この方法には FTP サーバは必要ありません。
  - [ファイル名にタイムスタンプを追加しない] のチェックをオンにしない場合、デフォルト設定で、Distribution Server によって、[タスク] タブの [保存レポート名] で指定した名前の最初に、曜日と日時が追加されます。

この配信方法を使用するには、ユーザに [Distribute to File System] 権限が許可されている必要があります。また、WebFOCUS 管理コンソールを使用して、ファイルシステムディレクトリを配信用に構成する必要があります。ユーザには、これらのフォルダを表示する権限が付与されている必要があります。この権限を付与するには、そのファイルサブシステムに対して [リスト] コマンドを許可します。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

権限が付与されたユーザは、構成済みフォルダに配信するコンテンツをスケジュールすることができます。

繰り返しスケジュールおよびバーストスケジュールの場合は、同一レポートプロシジャ (FEX) で配信するレポートのそれぞれについて、別のフォルダパスを作成して指定することをお勧めします。セキュリティアクセスはフォルダレベルで定義、管理することができ、また、配信済みレポート出力をバーストする場合は、バースト値は配信するレポートセクションのそれぞれのタイトル値として割り当てられるため、このことは重要です。タイトルは、リソースツリーに表示される値です。

レポート出力がリポジトリ配信オプションを使用して配信される際に、スケジュールタスク情報で指定する [保存レポート名] の最初に、曜日と日時の情報が追加されます。たとえば、Product Packaging & Price レポートのスケジュールで [保存レポート名] の値として「Product\_Packaging\_Price.htm」を割り当てた場合について考察します (ブランクと特殊文字は、アンダースコア文字 (\_) に置換されます)。

リポジトリリポジトリ への配信日時が 2011 年 12 月 19 日 (月曜日) 午後 1 時 35 分 (日本標準時) の場合、「2011 年 12 月 19 日 月 午後 01:35 JST Product Packaging Price」という説明が割り当てられます。

## リポジトリ配信オプションを使用するには

1. [新規配信方法の作成] ドロップダウンリストから、[リポジトリ] オプションを選択します。
2. [配信名] テキストボックスに、スケジュールの名前を入力します。

**i 注意：**デフォルト値は [リポジトリ] です。

3. フォルダパスが正しいことを確認します。[フォルダパス] ボタンをクリックして新しいフォルダを選択します。

デフォルト設定で、このフォルダパスは、スケジュールの対象として選択したレポートプロシジャ (FEX) と同一のフォルダが指定されています。ユーザが別のフォルダへの書き込み権限およびコンテンツの作成権限を所有している場合は、レポートの配信先としてそのフォルダを選択することができます。

4. タイムスタンプをレポートに追加しない場合は、[ファイル名にタイムスタンプを追加しない] のチェックをオンにします。
5. [追加] ボタンをクリックして配信情報を保存します。

## 実行間隔

[実行間隔] オプションを使用して、スケジュールを配信する頻度を定義することができます。下図は、スケジュールツールの [実行間隔] タブを示しています。Distribution Server は、スケジュールで指定した時間およびタイムゾーンでスケジュール配信を実行し、コンテンツが予定どおりに受信者に配信されるようにします。

**ReportCaster - Create Schedule**

Schedule runs

Task: Once

On: 2/19/2024 12:26 AM

Time Zone: America/New\_York

The schedule runs once on February 19, 2024 at 12:26 AM EST.

Cancel Run Save

## 実行間隔オプションウィンドウ

[実行間隔] オプションでは、[スケジュールの実行] 下で使用可能なオプションに基づいて、さまざまな設定が提供されます。[スケジュールの実行] ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。

- 1 回
- 日付/曜日
- 繰り返し

下表は、各ドロップダウンリスト項目で設定可能なさまざまなオプションを示しています。

| スケジュールの実行 | オプション                                  |
|-----------|----------------------------------------|
| 1 回       | 日付/曜日 スケジュールを実行する特定の日付と時間を選択することができます。 |

| スケジュールの実行    | オプション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>日付/曜日</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>日付</b> スケジュールを実行する日付を選択することができます。</li> <li>• <b>時間</b> スケジュールを実行する時間を設定することができます。</li> </ul> <div data-bbox="1015 569 1414 716"> <p><b>注意：</b>設定する時間は、[日付] ボックスで指定するすべての日付で共通です。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>スケジュールの実行間隔</b> 設定に基づいて、スケジュールを繰り返し実行することができます。次の設定があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 分単位または時間単位の繰り返しを設定できます。</li> <li>◦ <b>終了時間</b> 繰り返し実行するスケジュールの終了時間を設定できます。</li> <li>◦ <b>継続時間</b> スケジュールを継続する時間を設定できます。</li> </ul> </li> </ul> |
| <p>繰り返し</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• スケジュール実行の繰り返し単位として、[分]、[時間]、[日間]、[週間]、[か月間]、[年] から選択できます。選択するオプションに応じて、異なる設定が表示されます。追加の設定についての詳細は、<a href="#">繰り返しオプションの設定</a>を参照してください。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |



## 繰り返しオプションの設定

[繰り返し] オプションには、次の追加設定があります。

| オプション | 追加設定                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 分     | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>日間</b> スケジュールを実行する日付を選択することができます。</li> <li>• <b>開始日時</b> スケジュールを開始する日付と時間を設定できます。</li> <li>• <b>終了日時</b> スケジュールの実行を終了する日付と時間を設定できます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                        |
| 時間    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>日間</b> スケジュールを実行する日付を選択することができます。</li> <li>• <b>開始日時</b> スケジュールを開始する日付と時間を設定できます。</li> <li>• <b>終了日時</b> スケジュールの実行を終了する日付と時間を設定できます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                        |
| 日間    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>日間</b> スケジュールを実行する日付を選択することができます。</li> <li>• <b>開始日時</b> スケジュールを開始する日付と時間を設定できます。</li> <li>• <b>終了日時</b> スケジュールの実行を終了する日付と時間を設定できます。</li> <li>• <b>スケジュールの実行間隔</b> 設定に基づいて、スケジュールを繰り返し実行することができます。次の設定があります。</li> <li>• 分単位または時間単位の繰り返しを設定できます。</li> <li>• <b>終了時間</b> 繰り返し実行するスケジュールの終了時間を設定できます。</li> <li>• <b>継続時間</b> スケジュールを継続する時間を設定で</li> </ul> |

| オプション | 追加設定                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | きます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 週間    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>開始日時</b> スケジュールを開始する日付と時間を設定できます。</li> <li>• <b>終了日時</b> スケジュールの実行を終了する日付と時間を設定できます。</li> <li>• <b>スケジュールの実行間隔</b> 設定に基づいて、スケジュールを繰り返し実行することができます。次の設定があります。</li> <li>• 分単位または時間単位の繰り返しを設定できます。</li> <li>• <b>終了時間</b> 繰り返し実行するスケジュールの終了時間を設定できます。</li> <li>• <b>継続時間</b> スケジュールを継続する時間を設定できます。</li> </ul>                                                                                                    |
| か月間   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>日付</b> スケジュールを月単位で実行する日付を設定できます。さらに、月末日または月末の x 日前の日付を選択することもできます。</li> <li>• <b>月の最終日</b> 月末日にスケジュールを実行するには、このチェックをオンにします。</li> <li>• <b>日前 (月の最終日まで)</b> 月の最終日から x 日前までスケジュールを実行するには、このチェックをオンにします。</li> <li>• <b>日間</b> スケジュールを実行する曜日を設定できます。週番号の [第 1]、[第 2]、[第 3]、[第 4]、[最終] を設定し、スケジュールを実行する月単位の曜日をより詳細に指定することができます。</li> <li>• <b>スケジュールの実行間隔</b> 設定に基づいて、スケジュールを繰り返し実行することができます。次の設定があります。</li> </ul> |

| オプション | 追加設定                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 分単位または時間単位の繰り返しを設定できます。</li> <li>• <b>終了時間</b> 繰り返し実行するスケジュールの終了時間を設定できます。</li> <li>• <b>継続時間</b> スケジュールを継続する時間を設定できます。</li> </ul>                                                                                                                                                                            |
| 年     | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>開始日時</b> スケジュールを開始する日付と時間を設定できます。</li> <li>• <b>終了日時</b> スケジュールの実行を終了する日付と時間を設定できます。</li> <li>• <b>スケジュールの実行間隔</b> 設定に基づいて、スケジュールを繰り返し実行することができます。次の設定があります。</li> <li>• 分単位または時間単位の繰り返しを設定できます。</li> <li>• <b>終了時間</b> 繰り返し実行するスケジュールの終了時間を設定できます。</li> <li>• <b>継続時間</b> スケジュールを継続する時間を設定できます。</li> </ul> |

## タイムゾーンの設定

実行スケジュールの日付と時間のタイムゾーンを指定することができます。タイムゾーンを変更するには、[タイムゾーン] のボタンを使用します。ユーザまたはスケジュールコンテンツの受信者のタイムゾーンがデフォルト設定と異なる場合は、[タイムゾーン] リストから異なるタイムゾーンを選択することができます。スケジュールにタイムゾーンを割り当てると、すべてのスケジュール時間が、指定したタイムゾーンで定義されます。

**① 注意：**デフォルト設定では、WebFOCUS はサーバのオペレーティングシステムで  
使用されているタイムゾーンを、新しい配信スケジュールに割り当てます。

## 実行間隔オプションの使用

1. [スケジュールの実行] ドロップダウンリストから、任意のオプションを選択します。
2. 選択したオプションに該当する、次のいずれかの手順に従います。

| オプション | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | [日付/時間] のカレンダーボタンを使用して、実行スケジュールの日付と時間を設定します。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 日付/曜日 | <ol style="list-style-type: none"><li>a. [日付] フィールドから、スケジュールを実行する日付を選択します。</li><li>b. [時間] フィールドから、スケジュールを実行する時間を選択します。</li><li>c. スケジュールを繰り返す場合は、[スケジュールの実行間隔] のチェックをオンにします。<ol style="list-style-type: none"><li>a. 要件に応じて、分または時間を設定します。</li><li>b. スケジュールの終了を、[終了時間] または [継続時間] として設定します。</li></ol></li></ol> |
| 繰り返し  | <ol style="list-style-type: none"><li>a. ドロップダウンリストから、スケジュールを実行する間隔の単位を選択します。</li><li>b. 選択したオプションに基づいて、関連する項目を指定します。繰り返しオプションについての詳細は、<a href="#">繰り返しオプションの設定</a>を参照してください。</li></ol>                                                                                                                          |

3. [タイムゾーン] 下のボタンをクリックし、タイムゾーンを選択します。

4. [保存] をクリックし、スケジュールを保存します。

**i 注意：**入力した実行間隔についての詳細は、このウィンドウ上の概要で確認することができます。

## プロパティ

[プロパティ] オプションを使用して、ジョブの優先度とエラー通知を設定することができます。このオプションには、[プロパティ] セクションと [Email 通知] セクションがあります。

### プロパティセクションの使用

| 名前                  | 説明                                                                                                                                                                   |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 有効 (指定された時間にジョブを実行) | <p>このチェックボックスは、デフォルト設定で選択されています。スケジュール済みジョブの実行がポーリングされる際に、Distribution Server がスケジュールの評価を実行することを指定します。</p> <p>スケジュールの配信基準として [次回実行時間] の値を使用しない場合は、このチェックをオフにします。</p> |
| 優先度                 | <p>スケジュール済みジョブを Distribution Server で処理する際の優先度を指定します。デフォルト設定の優先度は、[標準 - 3] です。ただし、ドロップダウンリストを使用して、優先度を設定することができます。</p>                                               |
| 配信するレポートがない場合       | <p>このオプションは、管理者が設定したデフォルト値に設定されます。レポートが生成されない場合にエラー通知を送信するには、この値を [エラー] に設定します。レ</p>                                                                                 |

| 名前                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         | ポートが生成されない際に通知を送信しない場合は、この値を [警告] に設定します。                                                                                                                                                                                                             |
| ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除 | <p>このチェックボックスを使用して、スケジュール済みジョブの処理完了後、再実行が予定されていないスケジュールを削除することを指定できます。</p> <p>このオプションを選択すると、フォルダコンテンツが表示されるリソースツリーホームページ開始ページまたは WebFOCUS ホームページ、および ReportCaster エクスプローラでスケジュールを表示する際の全体的なパフォーマンスが向上するため、スケジュールを再実行する予定がない場合は、このオプションの選択をお勧めします。</p> |

## Email 通知設定の使用

このセクションを使用して、Email 通知を次のいずれかのオプションに設定します。

- なし
- 常に通知
- エラー時

[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] を指定する必要があります。

## ログレポート

ログレポートはスタイルが設定された HTML フォーマットで、別のブラウザウィンドウに表示されます。指定された期間内に実行された各スケジュール済みジョブに対して、ログレコードが作成されます。ログレポートを実行し、そのステータスを参照することで、日付、

時間、正常に実行されたかどうか、送信先ユーザなど、スケジュールされたタスクについての詳細を確認できます。

ログレポートでは、成功ステータス、出力の送信日時、フォーマット、送信方法など、配信されたジョブの詳細を確認できます。ログレポートは HTML フォーマットで、別のブラウザウィンドウに表示されます。ログレポートには、スケジュールツールでスケジュールを編集する際にアクセスすることも、リソースツリーで既存のスケジュールを右クリックする方法でもアクセスすることができます。

ログファイルには、情報が累積されます。保存されたレポートの数を管理し、表示されるログ情報のパフォーマンスを向上させるために、ログレコードを定期的に削除する必要があります。

右側のリストには、ジョブ ID、開始時間、継続時間、ステータスなどの主要な詳細が表示されます。ジョブの詳細なレポートを表示するには、ジョブリストでジョブをダブルクリックします。

ログレポートには、次のフィルタがあります。

| フィルタ    | 機能                                  |
|---------|-------------------------------------|
| 最新の実行時間 | 最後に実行されたスケジュールが表示されます。              |
| すべて     | すべての実行スケジュールについてのすべてのログが表示されます。     |
| カスタム    | 指定された日時範囲に実行されたスケジュールのログレポートを表示します。 |

[ログレポート] ウィンドウには、次のオプションがあります。

| オプション         | 機能                |
|---------------|-------------------|
| ログレポートの削除     | 選択したログレポートを削除します。 |
| ログレポートのダウンロード | 選択し               |

| オプション             | 機能                                                        |
|-------------------|-----------------------------------------------------------|
|                   | たログ<br>レポー<br>トをダ<br>ウン<br>ロード<br>しま<br>す。                |
| ログレポートを新規ウィンドウで開く | 選択し<br>たログ<br>レポー<br>トを新<br>しい<br>ウィン<br>ドウで<br>開きま<br>す。 |
| ログレポートのリフレッシュ     | ログレ<br>ポート<br>リスト<br>をリフ<br>レッ<br>シュし<br>ます。              |

レポートをダブルクリックすると、レポートがポップアップウィンドウで開きます。開いたレポートをダウンロード、コピー、新規ウィンドウで開く、リフレッシュすることができます。

- エントリが赤で表示されている場合は、スケジュールでエラーが発生したか、実行に失敗したことを示します。
- エントリがアンバーで表示されている場合は、スケジュールで警告が発生したことを示します。



## スケジュールの保守

---

スケジュールを保守することで、スケジュールのプロパティの編集や、不要になったスケジュールの削除が行えます。スケジュールのプロパティを新しいスケジュールでも使用する必要がある場合は、複製またはコピーのオプションを使用して、新しいスケジュールに適用するプロパティが記述されたテンプレートを作成することができます。また、スケジュールのステータスを確認することや、ログレポートを実行してスケジュールの詳細情報を取得することもできます。

## スケジュールの共有

[マイコンテンツ] フォルダに格納されているスケジュールのオーナーは、そのスケジュールを他のユーザと共有することができます。[マイコンテンツ] フォルダ以外に格納されているスケジュールについてのみ、セキュリティルールを設定することができます。

## 特定のグループまたはユーザとスケジュールを共有するには

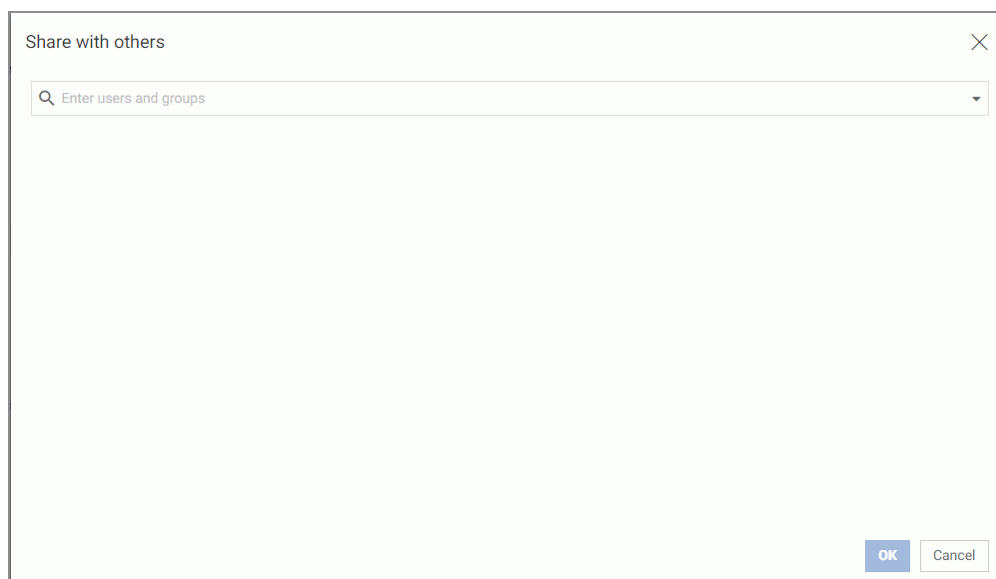
ユーザが [マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有する権限を所有している場合、スケジュールの格納先フォルダへのアクセスが許可されている他のユーザとそのスケジュールを共有することができます。この場合、開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、共有するフォルダまたはスケジュールを右クリックし、[共有する] を選択します。

[高度な共有] オプションの使用権限を所有している場合は、次の手順を実行して、共有対象として許可されているグループやユーザと、[マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有することができます。

### 手順

1. 共有するスケジュールを右クリックし、[共有の設定] を選択します。

下図のように、[別のユーザと共有] ダイアログボックスが表示されます。



2. [検索] テキストボックスのドロップダウン矢印をクリックし、ユーザまたはグループの選択条件を表示します。[ユーザ] または [グループ] で検索結果にフィルタを設定できます。
3. フィルタの選択後、検索テキストボックスへの入力を開始すると、選択可能なユーザまたはグループが表示されます。スケジュールの表示を許可するユーザまたはグループのリストに追加するユーザまたはグループを選択します。必要に応じて、リストから除外するユーザまたはグループのタイルで X をクリックします。
4. スケジュールを共有するユーザまたはグループの選択を完了後、[OK] をクリックします。

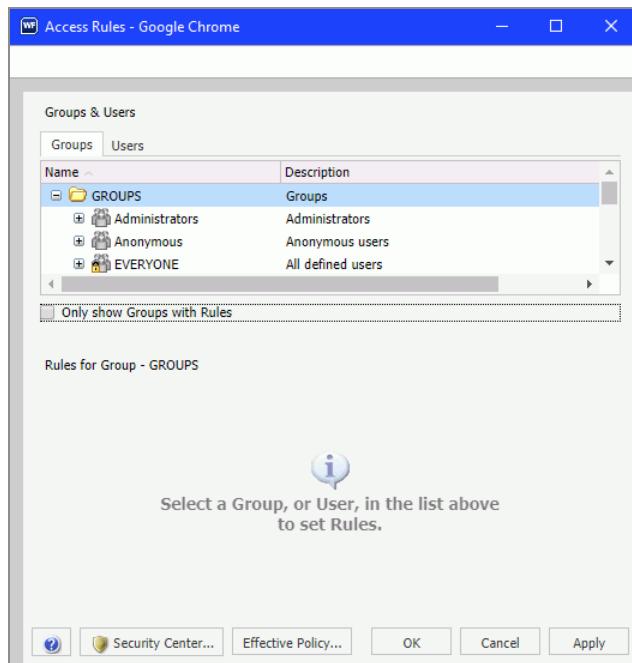
## スケジュールにセキュリティルールを設定するには

権限を所有するユーザは、非公開スケジュールにセキュリティを設定し、他のグループやユーザがリストを表示、管理できるよう許可することができます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

**注意：**権限を所有するユーザは、スケジュールを右クリックし、[セキュリティ]、[有効なポリシー] を順に選択することで、セキュリティポリシーを確認することができます。

## 手順

1. スケジュールを格納するワークスペースを選択するか、セキュリティを設定する非公開スケジュールを選択します。
2. 右クリックして、[セキュリティ]、[ルール] を順に選択します。  
下図のように、[アクセスルール] ダイアログボックスが開きます。



3. [グループ] タブで、スケジュールへのアクセスを許可するグループまたはユーザを選択します。必要に応じて、[ルールが存在するグループのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのグループのみを表示することもできます。  
選択したグループの [ロール] が、[グループを対象とするルール] セクションに表示されます。
4. 必要に応じて、[グループを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
5. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なロールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
6. ロールのいずれかを選択します。このロールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
7. [アクセス] ドロップダウンリストから、許可レベルを選択します。

次のオプションがあります。

- **設定しない** アクセス許可は設定されていません。アクセス許可は、継承されたルールに基づいて決定されます。
  - **許可する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **拒否する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を拒否します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **最上級の許可** アクセスレベルの [拒否する] を無効にし、[適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **継承のクリア** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールで拒否されているルールをすべてクリアします。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
8. [ユーザ] タブをクリックすると、項目へのアクセスを許可する個別ユーザのリストが表示されます。必要に応じて、[ルールが存在するユーザのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのユーザのみを表示することもできます。
- 選択したユーザの [ロール] が、[ユーザを対象とするルール] セクションに表示されます。
9. 必要に応じて、[ユーザを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
10. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なロールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
11. ロールのいずれかを選択します。このロールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
12. 手順 7 で説明したように、[アクセス] ドロップダウンリストでアクセスレベルを選択します。
13. [適用] をクリックします。
14. [OK] をクリックします。

スケジュールのセキュリティ設定の更新が保存されます。

## スケジュールの公開

公開されたスケジュールは、スケジュールが存在するフォルダへのアクセス権限を所有するユーザすべてに表示されます。スケジュールのコンテキストメニューに表示されるオプションは、ログインしたユーザの権限に応じて異なります。たとえば、スケジュール権限を所有するユーザは、公開済みスケジュールを実行することができます。公開済みスケジュールを実行する際は、その実行を開始したログインユーザとしてではなく、そのスケジュールの作成者として実行されます。

**注意：**公開済みスケジュールは、そのスケジュールの作成者として実行されます。公開済みスケジュールの編集権限を所有するユーザは、スケジュール作成者が権限を所有しない変更をスケジュールに加えることができます。この場合、スケジュールは実行時に失敗します。たとえば、編集権限を所有するユーザは、スケジュールで使用されている配信リストまたはアクセスリストを、スケジュール作成者が編集権限を所有しないプライベート配信リストまたはアクセスリストに変更することができます。変更されたスケジュールを実行すると、作成者がリポジトリから配信リストまたはアクセスリストを取得できないため、スケジュールの実行に失敗します。

## スケジュールを公開するには

スケジュールを公開するには、WebFOCUS Hub のワークスペースエリアで、次の手順を実行します。スケジュールを公開する前に、スケジュールを格納するワークスペースおよびフォルダを公開する必要があります。

### 手順

1. スケジュールがフォルダにも格納されている場合、公開するスケジュールを格納するフォルダを右クリックし、[公開] を選択します。
2. スケジュールを右クリックし、[公開] を選択します。  
スケジュールが公開されます。

# コンテキストメニューオプションによるスケジュールの有効化と無効化

リソースツリーから、または ReportCaster エクスプローラを使用して、スケジュールを有効または無効にすることができます。有効にする設定は、ベーシックスケジュールツールおよびアドバンスドスケジュールツールの [プロパティ] タブからもアクセスできます。

**注意：**スケジュールを有効化または無効化するには、そのための権限が必要です。

WebFOCUS Hub、WebFOCUS ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラで、有効化済みのスケジュールを右クリックし、コンテキストメニューから [無効にする] を選択します。スケジュールがすでに無効になっている場合、このオプションは [有効にする] と表示されます。

詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。

# スケジュールのトラッキング

---

スケジュールに関する情報 (例、配信ジョブの日付、時間、実行ステータス、受信者) にアクセスするには、ログレポートを実行するか、ReportCaster ステータスで [ジョブステータス] をクリックします。スケジュールのリソース利用を分析することもできます。

## ログレポート

ログレポートはスタイルが設定された HTML フォーマットで、別のブラウザウィンドウに表示されます。ログレポートは個別のブラウザウィンドウに表示され、情報の表示方法は指定した内容により異なります。指定された期間内に実行された各スケジュール済みジョブに対して、ログレコードが作成されます。

## コンソールによるスケジュールのトラッキング

日付、実行ステータス、配信ジョブの受信者などの情報には、ログレポートの実行およびジョブステータスの確認によって、アクセスすることができます。詳細は、[ibi WebFOCUS ReportCaster ステータスの使用](#)を参照してください。

## スケジュールログの使用

ログレポートを使用して、配信されたジョブの情報を表示することができます。この情報には、ジョブの完了状況、スケジュール出力が配信された時間、使用された配信出力フォーマット、配信方法などがあります。ログレポートは HTML フォーマットで、別のブラウザウィンドウに表示されます。ログレポートには、スケジュールツールでスケジュールを編集する際にアクセスすることも、リソースツリーで既存のスケジュールを右クリックする方法でもアクセスすることができます。

ログファイルには、情報が累積されます。リポジトリに格納されている多くのログレポートを管理し、表示されるログレポート情報のパフォーマンスを向上させるには、ログレコードを定期的に消去する必要があります。

右側パネルのリストは、ジョブ ID、ジョブの実行開始時間、ジョブの実行が完了するまでの所要時間、ジョブの全般的なステータスなど、ジョブの実行についての基本的な情報を提供します。ジョブの詳細なレポートを表示するには、ジョブリストでジョブをダブルクリックします。

## ログレポートでの &ECHO および -TYPE サポート

プロシジャ内の &ECHO 変数および -TYPE コマンドの値は、ログレポートに表示されます。&ECHO 変数は、プロシジャが実行される際に、テストやデバックの目的で、それらをコマンドラインに表示します。-TYPE コマンドにより、コメントを記述したり、参考用またはデバッグ用にコードを評価したりすることができます。たとえば、ReportCaster を使用して次のプロシジャのスケジュールを作成すると、次のようなログレポートが作成されます。

**注意：**2 つ目の -TYPE は、実際にはレポートプロシジャ (FEX) の単一行に記述されています。

```
-SET &ECHO='ALL';
-TYPE Regional Product Sales Forecast
-TYPE Parameter RATE is passed into report to forecast potential sales growth
-DEFAULT &RATE = .05;
-DEFAULTH &WF_TITLE='WebFOCUS Report';
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS
COMPUTE GROWTH/D12.2= (DOLLARS * &RATE) + DOLLARS; AS 'Sales, Forecast'
BY REGION
BY PRODUCT
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET PAGE-NUM NOLEAD
ON TABLE SET SQUEEZE ON
ON TABLE SET EMPTYREPORT ON
ON TABLE SET HTMLCSS ON
ON TABLE SET HTMLENCODE ON
ON TABLE SET STYLE *
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&WF_TITLE.QUOTEDSTRING,$
```



```
ENDSTYLE  
END
```

## ジョブステータスの確認

スケジュールのトラッキングを行うには、ジョブのステータスを確認する方法もあります。スケジュールステータスは、Distribution Server で実行待ち中の、スケジュール済みジョブリストを提供します。ステータス情報には、スケジュール ID、スケジュールの開始時間、ジョブのステータスなどがあります。

スケジュールのジョブステータス情報にアクセスするには、ReportCaster ステータスの [ジョブステータス] タブを表示します。詳細は、[ジョブステータス](#)を参照してください。

## ログレポートを表示するには

### 手順

1. WebFOCUS Hub または WebFOCUS ホームページのワークスペースエリアで、スケジュールを右クリックし、[ログの表示] を選択します。

[スケジュールのログオプション] ダイアログボックスが開きます。

2. [最新の実行ジョブ]、[すべて]、[日付] から、表示するログレポートを選択します。  
[日付] を選択すると、[開始日時] および [終了日時] パラメータを使用して検索するオプションが表示されます。
3. [OK] をクリックします。

検索条件に一致するログレポートが表示されます。

ログレポートの先頭行には、[ジョブの説明] が表示されます。これは、スケジュールの作成時に指定した一意の説明 ID です。[ジョブの説明] の下の 1 列目には、次の情報が表示されます。

- **ユーザ** ReportCaster ユーザ ID です。スケジュールのオーナーを示します。
- **プロシジャ** ReportCaster により生成される一意のキーです。スケジュール済みジョブの特定の実行を識別します。

- **スケジュール ID** ReportCaster により生成される一意のキーです。ジョブのスケジュールの作成時に割り当てられます。
- **開始時間** ジョブが開始した日付と時間です。
- **終了時間** ジョブが終了した日付と時間です。

2 列目には、次の内容を含むメッセージが表示されます。

- 特定のジョブへの配信方法 (例、Email 配信) などの一般情報。
- リクエストの開始、配信の完了、リクエストの完了などを示すプロセス情報。プロセス情報には、リクエストの失敗の原因 (例、データソースの使用不可) などの情報も含まれます。

## ログレポート表示時の考慮事項

ログレポートを表示する際は、次のことを考慮する必要があります。

### タスク名とレポート名

ReportCaster ログは、WebFOCUS フォルダとプロシジャ (FEX) を、説明ではなくパスおよびファイル名で参照します。

### Email アドレス

Email の有効性の確認はメールサーバで行われるため、ReportCaster は Email アドレスを確認できません。メールサーバで認可され、ReportCaster に送信された Email アドレスがすべてログレポートに記述されています。

### バーストレポート

- 有効なバースト値が、配信リスト、配信ファイル、ダイナミック配信リストで省略された場合、ReportCaster は有効なバースト値をブランクと見なします。バースト値がブランクであるため、ログファイルには値が表示されません。これにより、ログファイルのサイズが大幅に減少します。これは、データベースがプロシジャ中の最初の BY 項目に多くの値を含み、これらの値がバーストされる場合に顕著です。
- バースト値が、配信リスト、配信ファイル、ダイナミック配信リストに指定されており、データベース上に存在しない場合、ログファイルには次のメッセージが表示されます。

バースト値 バースト値のレポートはありません。

- レポートプロシジャ (FEX) のバーストレポート配信が完了すると、ログファイルには、

各バースト値に対する次のメッセージが表示されます。

ファイル名を宛先へ配信しました。

### 無効なオプション

- タスクタイプ、配信方法が使用不可のスケジュールの実行が許可されていない場合は、エラー通知が送信されます。ジョブプロセスログレポートでは、エラーが赤色のテキストで表示されます。ログレポート、詳細通知、簡易通知には、スケジュールのオーナーが変更する必要がある無効なオプションに関する情報が記載されています。
- スケジュールで無効なタスクタイプまたは配信方法が指定されている場合でも、スケジュールの実行が許可されている場合は、通常どおりジョブが実行され、ログレポートにメッセージが記録されます。このメッセージは、無効なタスクタイプまたは配信方法が指定された既存のスケジュールが実行可能であることを通知するものです。使用可能なタスクタイプと配信方法の構成についての詳細は、[ReportCaster の構成](#)を参照してください。

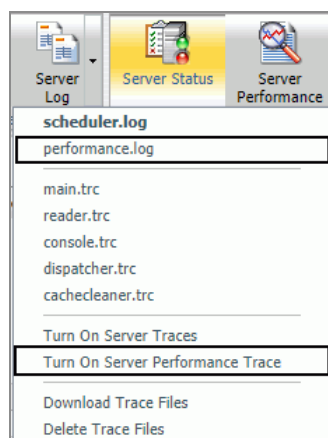
## ibi WebFOCUS ReportCaster のパフォーマンスログによるスケジュール実行のトラッキング

パフォーマンスログを使用して、ReportCaster を使用したスケジュールでのリソース利用を分析することができます。このログは、各スケジュールおよびスケジュールコンポーネントの処理期間を記録します。

パフォーマンスログを使用するには、ReportCaster ステータスにアクセスします。リボンの[表示]グループで、[サーバステータス]タブをクリックします。次に、[サーバの管理]グループで[サーバログ]ドロップダウン矢印をクリックし、[サーバログ]メニューを表示します。

パフォーマンスログ機能は、デフォルト設定で無効になっています。パフォーマンスログの記録を有効にするには、[サーバパフォーマンストレース オン]を選択します。

下図は、[performance.log] および [サーバパフォーマンストレース オン] のオプションを示しています。



[performance.log] は、各レコードに次の情報を記録します。

- ジョブ ID
- スケジュール ID
- スケジュール名
- ユーザ ID
- 時間
- タイプ - (開始、終了)
- イベント - (QUEUED、JOB、WF\_REPORTING\_SERVER、DESTINATION\_MAPPING、COMPRESSION、EMAIL、FTP、LIBRARY、REPOSITORY)
- ソース - (スケジュール ID、タスク ID、配信 ID)
- サーバ名 - (EDASERVE、FTP サーバ名...)
- サーバユーザ - (実行 ID)
- オブジェクト - スケジュール済みプロシジャ

# ReportLibrary の使用

---

ReportCaster では、セキュアなレポートストレージおよびデータ抽出機能を備えた ReportLibrary にレポートを配信することができます。レポートを ReportLibrary に配信するには、スケジュールの作成時に [ReportLibrary] 配信オプションを選択します。[ReportLibrary] 配信オプションを選択した場合、ReportLibrary レポートへのアクセスを許可するユーザを選択し、レポートを配信する WebFOCUS リポジトリ内のフォルダを指定します。また、レポートの有効期限を設定したり、保存するバージョン数を指定したりすることができます。レポートへの URL が含まれた Email 通知を送信することもできます。

## ReportLibrary の概要

ReportLibrary は、コンテンツへのセキュアなアクセスを提供するほか、同一出力の複数バージョンの保存、有効期限の設定、指定したバージョン数の保存が可能です。レポート出力を ReportLibrary に配信するスケジュールを作成する際に、アクセスオプションを使用して、レポートへのアクセスを許可するユーザを指定することができます。指定可能なアクセスオプションには、スケジュールのオーナーのみ、WebFOCUS リポジトリ内のレポート格納先フォルダへのアクセスが許可されたユーザすべて、またはアクセスリストで指定されたグループやユーザ (スケジュールで ReportLibrary に配信されるレポート出力の表示が許可されたユーザ) があります。

ReportLibrary レポートの表示が許可されたユーザは、WebFOCUS ホームページから ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示することも、すべてのバージョンを表示することもできます。また、ReportCaster エクスプローラで、ツールバーの [ReportLibrary レポート] フィルタオプションを選択することで ReportLibrary レポートを表示する方法もあります。

ユーザが ReportLibrary 管理権限を所有する場合、または他のユーザのプライベートコンテンツを管理する権限を所有する場合は、ReportLibrary レポートを管理、リスト表示、削除することができます。ただし、これらのユーザは、ReportLibrary レポート自体を表示することはできません。

### 注意

- ReportLibrary 配信を使用するスケジュールのオーナーが変更された場合、このスケジュールの新しいオーナーに合わせて関連する ReportLibrary レポートのオーナーを修正する必要があります。

# ReportLibrary コンテンツの表示

ReportLibrary レポートの表示が許可されたユーザは、リソースツリーおよび ReportCaster エクスプローラから ReportLibrary レポートを表示することができます。表示が許可された ReportLibrary レポートには、次のものがあります。

- ユーザが所有する ReportLibrary レポート。
- コンテンツのアクセスおよび表示が許可されたフォルダ内で公開されている ReportLibrary レポート。
- コンテンツのアクセスおよび表示が許可されたフォルダ内で共有されている ReportLibrary レポート。

## 注意

- フォルダ内の ReportLibrary レポートを表示するには、そのフォルダまたはレポートに対するユーザのポリシーに、[Access Library Content] (opLibrary) 権限が含まれている必要があります。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
- ReportLibrary レポートにアクセスすると、管理コンソールの libraryAccess ログファイルにイベントが記録されます。ReportLibrary アクセスイベントは、デフォルト設定で記録されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

他のユーザが所有するプライベートコンテンツを管理する権限を所有している場合、ReportLibrary レポートへのアクセスおよび管理は許可されますが、そのコンテンツを表示することはできません。

ReportLibrary レポートが作成されると、そのレポートにはスケジュールと同一のタイトルが割り当てられます。レポートがバーストされた場合、ReportLibrary レポートのタイトルはバースト値になります。また、プライベート ReportLibrary レポートには、スケジュールで指定されたアクセスレベルが適用されます。スケジュールでアクセスリストを指定した場合、プライベート ReportLibrary レポートは、レポートが配信されるたびに、アクセスリストで指定されたグループおよびユーザと共有されます。

**注意：**ユーザがアクセスリストのメンバーである場合でも、レポートが公開されている場合でも、表示可能な ReportLibrary レポートは、WebFOCUS Client セキュリティに基づいてアクセスが許可されたレポートに限定されます。

リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラでは、ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示することも、複数のバージョンの中から特定のバージョンを選択して表示することもできます。ReportLibrary レポートで使用可能なオプションは、WebFOCUS Client セキュリティで定義されたユーザ認可に基づいて決定されます。ReportLibrary レポートを削除できるのは、ReportLibrary レポートのオーナー、他のユーザのプライベート

リソースの管理権限を所有するユーザ、および ReportLibrary レポートの管理権限を所有するユーザに限られます。WebFOCUS Client セキュリティ情報についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

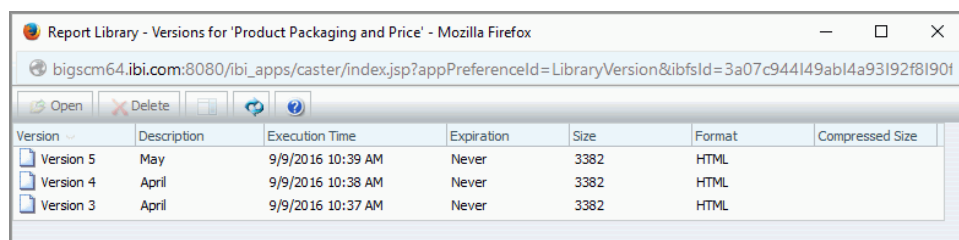
## ReportLibrary コンテンツの表示

WebFOCUS Hub またはホームページのワークスペースエリアでは、階層構造のフォルダから ReportLibrary レポートにアクセスすることができます。ReportLibrary レポートは、他の ReportCaster コンテンツや WebFOCUS コンテンツと同一のフォルダに格納することができます。ただし、ReportLibrary レポートをバーストする場合は、バーストされたレポートセクションすべてが同一フォルダに表示されるよう、ReportLibrary レポートを独自のフォルダに格納することをお勧めします。また、各バーストレポートに割り当てられるタイトルは、それぞれのレポートセクションのバーストフィールド値になります。

ReportLibrary レポートを選択した際に使用可能なオプションは、WebFOCUS Client セキュリティ認可に基づいて決定されます。ユーザには、ReportLibrary レポートの表示、バージョン履歴の表示、切り取り、削除、共有、公開、セキュリティ管理の権限が設定できます。

[最新のバージョンを表示] および [バージョン] 表示オプションを使用して、この ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示したり、すべてのバージョンのリストを表示したりできます。ReportLibrary レポートを表示する際のデフォルト表示設定を変更するには、WebFOCUS 管理コンソールの [構成] タブで [その他] をクリックします。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

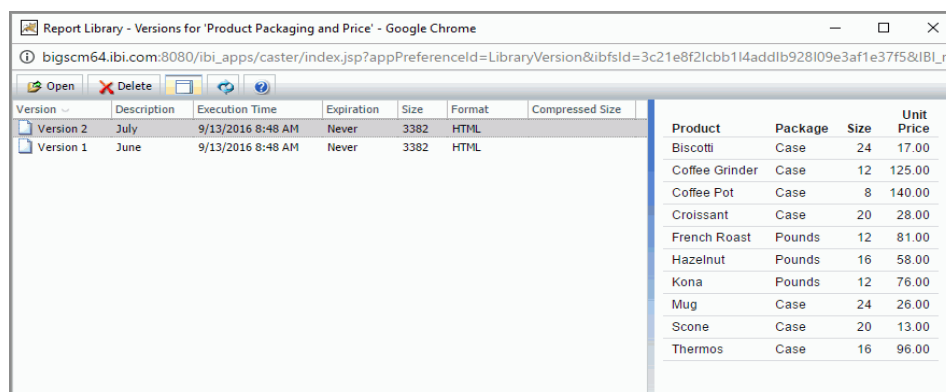
下図は、ReportLibrary レポートで有効なバージョンのリストを示しています。



The screenshot shows a web browser window titled 'Report Library - Versions for 'Product Packaging and Price' - Mozilla Firefox'. The address bar shows a URL from bigscm64.ibi.com. Below the address bar are buttons for 'Open', 'Delete', and other actions. A table displays the following data:

| Version   | Description | Execution Time    | Expiration | Size | Format | Compressed Size |
|-----------|-------------|-------------------|------------|------|--------|-----------------|
| Version 5 | May         | 9/9/2016 10:39 AM | Never      | 3382 | HTML   |                 |
| Version 4 | April       | 9/9/2016 10:38 AM | Never      | 3382 | HTML   |                 |
| Version 3 | April       | 9/9/2016 10:37 AM | Never      | 3382 | HTML   |                 |

ReportLibrary のバージョンリストから ReportLibrary レポートを新しいウィンドウに表示するには、ReportLibrary レポートの特定のバージョンを選択し、ツールバーの [開く] をクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから [開く] を選択します。また、ツールバーの [表示ウィンドウの表示] オプションをクリックして、バージョンリスト右側の表示ウィンドウにレポートを表示することもできます。下図では、ReportLibrary レポートが表示ウィンドウに表示されています。



| Version   | Description | Execution Time    | Expiration | Size | Format | Compressed Size |
|-----------|-------------|-------------------|------------|------|--------|-----------------|
| Version 2 | July        | 9/13/2016 8:48 AM | Never      | 3382 | HTML   |                 |
| Version 1 | June        | 9/13/2016 8:48 AM | Never      | 3382 | HTML   |                 |

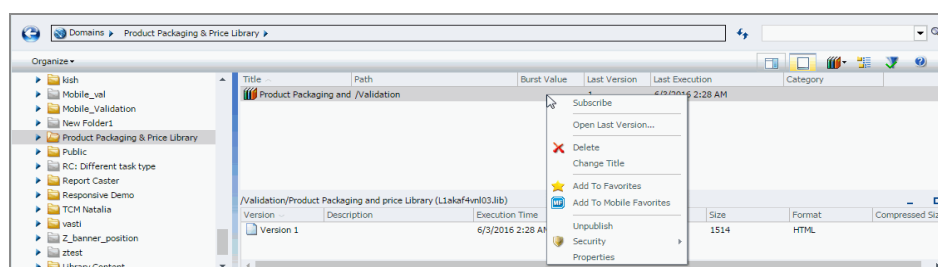
| Product        | Package | Size | Unit Price |
|----------------|---------|------|------------|
| Biscotti       | Case    | 24   | 17.00      |
| Coffee Grinder | Case    | 12   | 125.00     |
| Coffee Pot     | Case    | 8    | 140.00     |
| Croissant      | Case    | 20   | 28.00      |
| French Roast   | Pounds  | 12   | 81.00      |
| Hazelnut       | Pounds  | 16   | 58.00      |
| Kona           | Pounds  | 12   | 76.00      |
| Mug            | Case    | 24   | 26.00      |
| Scone          | Case    | 20   | 13.00      |
| Thermos        | Case    | 16   | 96.00      |

ReportLibrary 表示ウィンドウを非表示にするには、ツールバーの [表示ウィンドウの非表示] オプションをクリックします。表示ウィンドウが表示されている場合、ツールバーの [表示ウィンドウの非表示] オプションがハイライト表示されます。

## ReportCaster エクスプローラからの ReportLibrary コンテンツの表示

ReportCaster エクスプローラでは、アクセスが許可されている ReportLibrary レポートを表示することができます。ReportCaster エクスプローラツールバーの [フィルタ] および [ファイルを表示] オプションを使用して ReportLibrary レポートおよびウォッチリストレポートのリストを表示する方法、および ReportLibrary レポートに特化した情報についての詳細は、[ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラ](#)を参照してください。

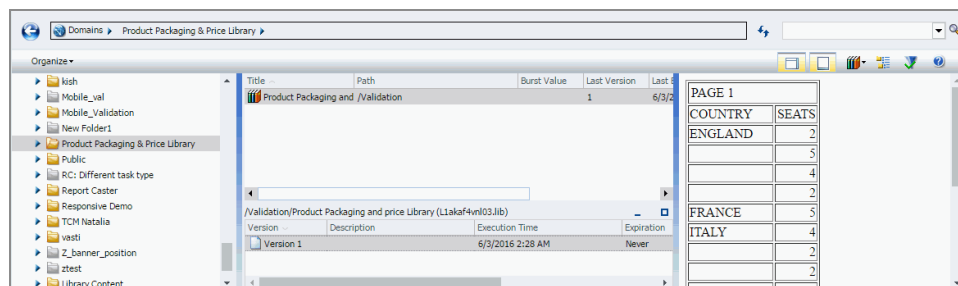
ReportCaster エクスプローラウィンドウのリストで ReportLibrary レポートを選択し、[バージョンリストウィンドウの表示] アイコンをクリックすると、そのレポートで使用可能なバージョンが下側のウィンドウに表示されます。下図の ReportCaster エクスプローラでは、ReportLibrary レポートの有効なバージョンおよび使用可能なオプションが表示されています。



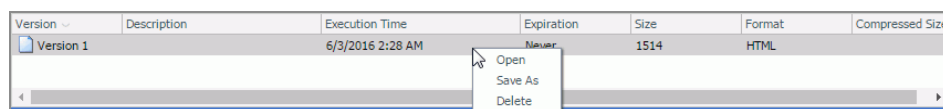
ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示するには、ReportLibrary レポートを右クリックして [最新バージョンを開く] オプションを選択します。新しいウィンドウに ReportLibrary レポートが表示されます。



ReportLibrary レポートの特定のバージョンを表示するには、ReportLibrary レポートリスト下側のウィンドウで、そのレポートバージョンを選択します。ReportLibrary レポートの特定のバージョンを選択すると、下図のように、ReportLibrary レポートリスト右側の表示ウィンドウに ReportLibrary レポートが表示されます。



ReportLibrary レポートの特定のバージョンを新しいウィンドウに表示するには、そのバージョンをダブルクリックするか、下図のように右クリックして [開く] を選択します。



## ReportLibrary ウォッチリストの使用

ReportLibrary ウォッチリストを使用すると、新しいバージョンの ReportLibrary レポートが作成された際にユーザに Email が送信されるため、ユーザが必要とする情報をすばやく確認することができます。ReportLibrary レポートのオーナーであるかどうかに関係なく、アクセスが許可されている任意の ReportLibrary レポートをウォッチリストに追加することができます。

**注意：**管理者は、ウォッチリストの ReportLibrary レポートから他のユーザの登録を解除することができます。SMTP 認証が有効化されている場合、ウォッチリストの登録ユーザには、SMTP 認証が適用されます。

- Windows の場合、この機能を有効にするには、¥ibi¥WebFOCUS93¥ReportCaster¥bin ディレクトリに格納されている unsubscribe.bat ファイルを実行します。
- UNIX の場合、この機能を有効にするには、/ibi/WebFOCUS93/ReportCaster/bin ディレクトリに格納されている unsubscribe シェルスクリプトを実行します。

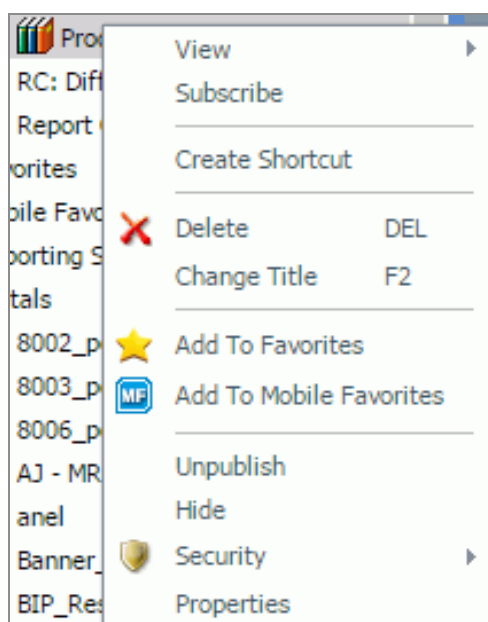
ウォッチリストの Email 通知には、ReportLibrary に格納されているレポートのタイトルと、そのレポートへのリンクが含まれています。ウォッチリストの Email 通知パラメータは、ReportCaster ステータスの [構成] タブの [ReportLibrary] フォルダで定義します。詳細は、[ReportCaster の構成](#)を参照してください。

ReportLibrary レポートをウォッチリストに追加、またはウォッチリストから削除するには、リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートを右クリックし、[ウォッチリストに登録] または [ウォッチリストの登録解除] オプションを選択します。

**注意：**[ウォッチリストに登録] オプションは、ReportCaster ステータスの [構成] タブで [ReportLibrary ウォッチリストを有効にする] のチェックがオンに設定されている場合にのみ使用できます。詳細は、[ReportCaster の構成](#)を参照してください。

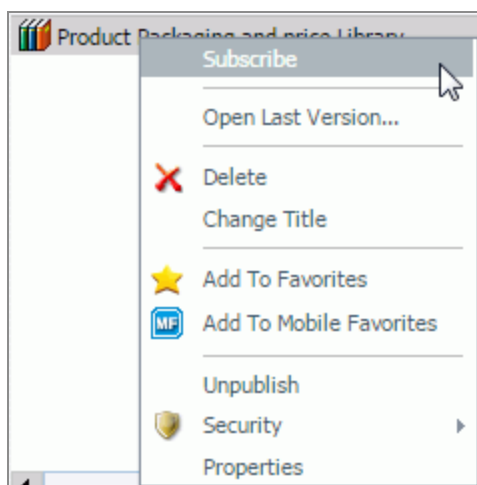
次の例は、リソースツリーおよび ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートをウォッチリストに追加する方法を示しています。

- リソースツリーで、ウォッチリストに追加する ReportLibrary レポートを右クリックし、コンテキストメニューから [ウォッチリストに登録] を選択します。レポートがバーストされている場合は、ウォッチリストに追加するレポートセクションを個別に登録します。下図は、リソースツリーの ReportLibrary レポートから表示された [ウォッチリストに登録] オプションを示しています。



- ReportCaster エクスプローラで、ツールバーの [フィルタ] オプションから [ReportLibrary レポート] を選択し、ツリーから ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択するか、アクセスが許可されている ReportLibrary レポートのフォルダパス上のフォルダを選択します。ReportCaster エクスプローラツールバーの [ファイルを表示] オプションを使用して、選択したフォルダ内の ReportLibrary レポートを表示するか、選択したフォルダとそのサブフォルダ内の ReportLibrary レポートを表示するかを切り替えることができます。ツールバーの [フィルタ] および [ファイルを表示] オプションについての詳細は、[ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラ](#)を参照してください。

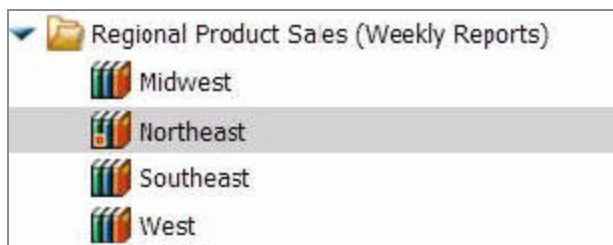
ウォッチリストに追加する ReportLibrary レポートを右クリックし、コンテキストメニューから [ウォッチリストに登録] を選択します。レポートがバーストされている場合は、ウォッチリストに追加するレポートセクションを個別に登録します。下図は、ReportCaster エクスプローラの ReportLibrary レポートリストで、ReportLibrary レポートを選択した際の [ウォッチリストに登録] オプションを示しています。



- リソースツリーおよび ReportCaster エクスプローラに表示されたウォッチリストレポートは、次のアイコンで識別されます。



下図のリソースツリーでは、[ReportLibrary] フォルダが展開され、バーストレポートの各セクションが表示されています。[FRANCE] レポートセクションは、ウォッチリストレポートです。



ReportCaster エクスプローラツールバーの [ウォッチリスト] フィルタオプションおよび [ファイルを表示] オプションを使用することで、特定のフォルダまたはフォルダパス上のフォルダに格納されているウォッチリストレポートにすばやくアクセスすることができます。詳細は、[ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラ](#)を参照してください。

ウォッチリストレポートを選択すると、ウォッチリストレポートリスト右側の表示ウィンドウにそのレポートが表示されます。

表示ウィンドウを非表示にするには、ウォッチリストレポートリスト下側のブランク領域をクリックします。また、ウォッチリストレポートを右クリックし、[開く]を選択することで、ウォッチリストレポートを新しいウィンドウに表示することもできます。

**注意：**表示ウィンドウの表示と非表示を制御したい場合は、リソースツリーで ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートを右クリックし、[表示]、[バージョン] を順に選択して [バージョン] ダイアログボックスを開きます。[バージョン] ダイアログボックスのツールバーで、[表示ウィンドウの表示] アイコン  をクリックして、表示ウィンドウの表示を有効にします。ツールバーの [表示ウィンドウの非表示] アイコン  をクリックして、表示ウィンドウを非表示にします。

ウォッチリストからレポートを削除するには、次のいずれかを実行します。

- リソースツリーで、ウォッチリストレポートを右クリックし、[ウォッチリストの登録解除] を選択します。
- ReportCaster エクスプローラの ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートのリストで、ウォッチリストレポートを右クリックし、[ウォッチリストの登録解除] を選択します。[リフレッシュ] をクリックして、ウォッチリストレポートアイコンをクリアします。

## ReportLibrary レポートの公開

権限を所有するユーザは、ReportLibrary レポートを公開または非公開にすることができます。ReportLibrary レポートを公開すると、そのレポートの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザが、ReportLibrary レポートを表示できるようになります。フォルダ内の項目を公開するには、その項目が格納されているフォルダを公開する必要があります。公開したフォルダを非公開にすると、そのフォルダ内のすべての項目も非公開になります。セキュリティ情報についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

**注意：**[マイコンテンツ] フォルダおよびそのフォルダパス上にあるコンテンツを公開することはできません。

## ReportLibrary レポートを公開するには

### 手順

1. WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エク

スプローラから、公開する ReportLibrary レポートまたはフォルダを選択します。

**注意：**フォルダ内の項目を公開するには、そのフォルダ自体を公開する必要があります。公開済みの項目およびフォルダは、カラーのアイコンで表示されます。非公開の項目およびフォルダは、白黒のアイコンで表示されます。

2. 項目またはフォルダを右クリックし、[公開] を選択します。

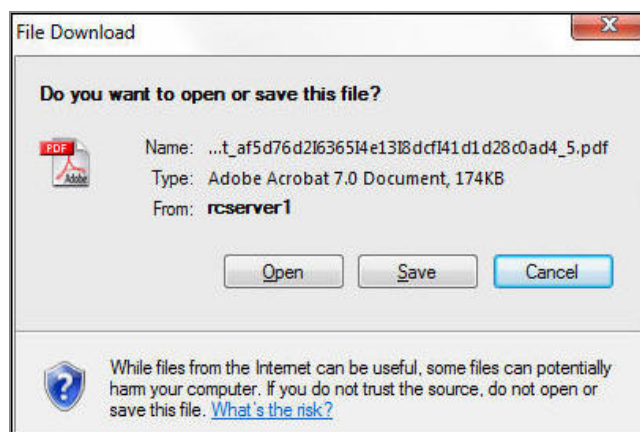
## ReportLibrary レポートを非公開にするには

### 手順

1. 開始ページのワークスペースエリア、WebFOCUS ホームページ、または ReportCaster エクスプローラで、非公開にする ReportLibrary レポートまたはフォルダを選択します。
2. 非公開にする公開済みフォルダまたは項目を右クリックし、[非公開] を選択します。

## ReportLibrary レポートの保存

[ReportLibrary バージョン] ダイアログボックスまたは ReportCaster エクスプローラツリーで ReportLibrary レポートを選択し、[名前を付けて保存] コンテキストメニューオプションを使用することで、ReportLibrary レポートをユーザのマシンに保存することができます。[名前を付けて保存] コンテキストメニューオプションを選択すると、ReportLibrary レポートファイルがユーザのマシンにダウンロードされます。ファイルをダウンロードする際に、Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが開いて、ファイルを開く、ファイルを保存する、またはファイルのダウンロードをキャンセルするオプションが表示されます。下図は、PDF フォーマットの ReportLibrary レポートの [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスを示しています。



Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスに表示される [名前] の値は、レポートが ReportLibrary に配信された際に割り当てられた ReportLibrary レポート名です。Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスで [保存] オプションを選択した場合、Windows の [保存] ダイアログボックスで [名前] の値を変更したり、ReportLibrary レポートの保存先を選択したりできます。

## WebFOCUS ホームページで ReportLibrary レポートに名前を付けて保 存するには

### 手順

1. WebFOCUS Hub またはホームページのワークスペースエリアで、マシンに保存する ReportLibrary レポートを選択します。
2. ReportLibrary レポートを右クリックし、[表示]、[バージョン] を順に選択します。
3. [ReportLibrary バージョン] ダイアログボックスで、保存する ReportLibrary レポート バージョンを右クリックし、[名前を付けて保存] を選択します。

Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示されます。

4. [保存] をクリックします。

Windows の [保存] ダイアログボックスが表示されます。ここで、ReportLibrary レポートをユーザのマシンに保存することができます。

# ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートに名前を付けて保 存するには

## 手順

1. ReportCaster エクスプローラを開きます。
2. ツールバーの [フィルタの変更] ボタンをクリックし、[ReportLibrary レポート] を選択します。  
**注意：**ウォッチリストに ReportLibrary レポートを登録済みの場合は、[ウォッチリスト] を選択することもできます。
3. ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択するか、ReportLibrary レポートへのパス上のフォルダを選択し、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] ツールバーオプションを選択します。
4. 右側のウィンドウで、ユーザのマシンに保存する ReportLibrary レポートを選択します。
5. ツールバーの [バージョンリストウィンドウの表示] オプションをクリックします。  
ReportLibrary レポートリスト下側のウィンドウに、ReportLibrary レポートの各バージョンが表示されます。
6. ユーザのマシンに保存するレポートバージョンを右クリックし、[名前を付けて保存] を選択します。Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示されます。
7. [保存] をクリックします。  
Windows の [保存] ダイアログボックスが表示されます。ここで、ReportLibrary レポートをユーザのマシンに保存することができます。

## ReportLibrary コンテンツの削除

ReportLibrary からコンテンツを削除するには、ユーザが ReportLibrary レポートのオーナーであるか、ReportLibrary コンテンツを管理する権限または他のユーザのプライベートコンテンツを管理する権限を所有する必要があります。

リソースツリーで ReportLibrary レポートを削除しても、その ReportLibrary レポートの各バージョンは削除されません。リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラの ReportLibrary レポートリストに表示されている ReportLibrary は、ユーザがその ReportLibrary レポートの各バージョンにアクセスできるよう、レポートの作成元スケジュールに関連付けられたものです。リソースツリーで ReportLibrary レポートを削除すると、ユーザはその ReportLibrary レポートの既存のバージョンに一時的にアクセスできなくなりますが、レポートの作成元スケジュールが再実行され、新しいバージョンが配信されると、スケジュールに関連付けられた ReportLibrary レポートが再作成されます。

ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートの特定のバージョンを削除するには、その ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートの有効なバージョンのリストを取得します。ReportLibrary レポートの各バージョンのリストは、次の方法でリソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラから取得することができます。

- リソースツリーで、ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートを右クリックし、[表示]、[バージョン] を順に選択します。
- ReportCaster エクスプローラで、ツールバーの [フィルタ] オプションから [ReportLibrary レポート] または [ウォッチリスト] を選択し、リソースツリーから ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択します。選択したフォルダのフォルダパス上のファイルを表示するには、ツールバーの [ファイルを表示] オプションから、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。レポートリストのウィンドウで、レポートを選択します。ReportLibrary レポートリスト下側のウィンドウに、ReportLibrary レポートの各バージョンが表示されます。

削除する ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートのバージョンを右クリックし、[削除] を選択します。

ReportLibrary レポートの特定のバージョンを削除した場合でも、残りのバージョンの番号は変更されません。たとえば、レポートに 6 つのバージョンが存在し、バージョン 1、2、4 を削除した場合、バージョン 3、5、6 が残り、次に ReportLibrary に配信されるバージョンは 7 です。

ReportLibrary レポートのすべてのバージョンを削除した場合でも、その ReportLibrary レポートは引き続きリソースツリーに表示されます。これは、この ReportLibrary レポートが、今後のレポート配信のためにスケジュールに関連付けられた項目のためです。

ReportLibrary レポートは、次のすべてが削除されるまで ReportLibrary に保持されます。

- スケジュールの実行により配信された ReportLibrary レポートのすべてのバージョン。
- リソースツリーのフォルダで、スケジュールに関連付けられている ReportLibrary レ



ポート。

- ReportLibrary レポートのバージョンを今後作成する予定がない場合は、ReportLibrary レポートが関連付けられているスケジュールを削除します。

## 切り取りと貼り付けによる ReportLibrary レポートの移動

[切り取り] および [貼り付け] オプションを使用して、リポジトリ内の複数のフォルダ間で ReportLibrary レポートを移動することができます。ReportLibrary レポートの切り取りと貼り付けを実行できるかどうかは、フォルダのユーザアクセス権限に基づいて決定されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

## ReportLibrary レポートを切り取り、貼り付けるには

### 手順

1. WebFOCUS Hub またはホームページで、ReportLibrary レポートを右クリックし、[切り取り] を選択します。
2. 新しい移動先のフォルダを右クリックし、[貼り付け] を選択します。  
ReportLibrary レポートが、新しいフォルダに表示されます。

### 注意

- ReportLibrary レポートを生成するスケジュールは、ReportLibrary レポートの項目を移動した後も正常に実行されます。ただし、この ReportLibrary レポートの生成元のスケジュールを編集する場合は、スケジュールの保存前にこの ReportLibrary レポート配信のパスを更新する必要があります。この配信のパスが更新されなかった場合、警告メッセージが表示されます。ReportLibrary レポートがバーストスケジュールプロシジャで生成された場合、警告メッセージは表示されません。
- ReportLibrary レポートは、切り取りを実行した同じフォルダに貼り付けることができます。

また、ドラッグアンドドロップ操作で新しいフォルダに ReportLibrary レポートを移動することもできます。詳細は、[ReportLibrary の使用](#)を参照してください。

## Web ビューアレポートの表示

ReportLibrary の Web ビューア機能を使用して、レポートを一度に 1 ページずつ表示し、残りのページを Web サーバまたは Application Server で保持して、必要に応じて表示させることができます。レポートが表示されるまでの待機時間を短縮することができるため、この機能は、レポートが大規模な場合に役立ちます。

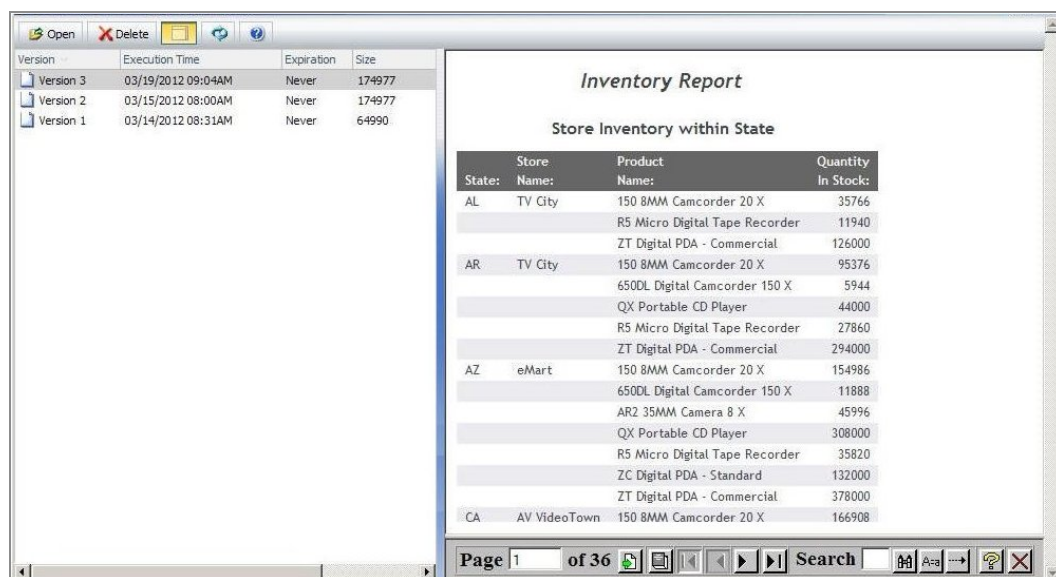
Web ビューアレポートは、ReportLibrary の Web ビューア内で開きます。Web ビューアは、レポートのページを表示して、レポート内の特定のページまたは情報を検索するためのフレームワークを提供します。

**注意：**[ReportLibrary 配信] を選択すると、Distribution Server により、プロシジャに「SET WEBVIEWTARG=OFF」が追加され、ReportLibrary のフレームの動作が制御されます。

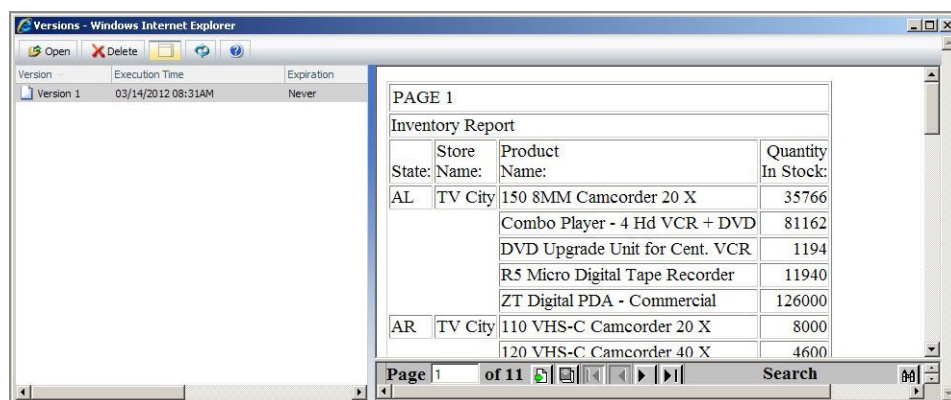
SET WEBVIEWTARG により、ON TABLE SET WEBVIEWTARG が上書きされることはありません。そのため、スケジュールするプロシジャに、target\_frame 値が指定された ON TABLE SET WEBVIEWTARG ステートメントを含めることはできません。WEBVIEWTARG コマンドおよびその他の Web ビューア設定についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

すべての ReportLibrary レポートで、Web ビューアレポートを別のウィンドウに表示することも、ReportLibrary バージョンリストから表示ウィンドウに表示することもできます。ReportLibrary レポートの表示についての詳細は、[ReportLibrary コンテンツの表示](#)または [ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラ](#)を参照してください。

下図の例は、ReportLibrary の表示ウィンドウに表示された Web ビューアレポートを示しています。



ReportLibrary バージョンの [表示] ウィンドウで Web ビューアレポートを表示した場合、Web ビューアコントロールパネルが完全には表示されず、縦のスクロールコントロールとともにレポートが表示されます。この問題を回避するには、ツールバーまたは選択した ReportLibrary レポートのコンテキストメニューから [開く] オプションを選択して、下図のように Web ビューアレポートを新しいウィンドウに表示します。



Web ビューアの下部には、下図のような Web ビューアのコントロールパネルが表示されます。



これらのコントロールを使用して、特定のページを表示することができます。特定のページを表示するには、[ページ] テキストボックスにページ番号を入力して Enter キーを押すか、[ページ] テキストボックス横の [移動] アイコンをクリックしてページ番号を入力します。下図は、コントロールパネルに表示される [ページ] テキストボックスとアイコンを示しています。



前ページまたは次ページを順に表示するには、下図の [戻る] または [次へ] 矢印をクリックします。



レポートの最初または最後のページを表示するには、下図のような [最初のページ] または [最後のページ] の矢印をクリックします。



レポート全体を 1 つのドキュメントとしてブラウザにダウンロードするには、下図のような [すべてのページ] アイコンをクリックします。



Web ビューアを閉じるには、下図のような [閉じる] アイコンをクリックします。



## ReportLibrary レポートのパラメータ値の表示

ReportLibrary のユーザインターフェースまたは ReportCaster エクスプローラを使用して ReportLibrary レポートを表示する場合、[パラメータ] 列には、各バージョンのパラメータと値の組み合わせが表示されます。下図では、ReportLibrary ユーザインターフェースに ReportLibrary レポートの 3 つのバージョンがリスト表示されています。各バージョンでは、同一パラメータに異なるパラメータ値が使用されています。

| Version   | Description | Execution Time    | Parameters    | Expiration | Size | Format | Compressed Size |
|-----------|-------------|-------------------|---------------|------------|------|--------|-----------------|
| Version 3 |             | 6/27/2018 6:06 PM | COUNTRY=JAPAN | Never      | 2579 | HTML   |                 |
| Version 2 |             | 6/27/2018 6:05 PM | COUNTRY=ITALY | Never      | 3038 | HTML   |                 |
| Version 1 |             | 6/27/2018 6:05 PM |               | Never      | 3038 | HTML   |                 |

## Web ビューアレポートの検索

ビューアコントロールパネルには、レポート内を検索するためのコントロールがいくつか用意されています。ビューアの検索コントロールを使用して、レポート内の語句や数字グループなどの文字列情報の選択や、一致した個々の文字列の検索が行えます。語句の大文字小文字の正確な一致 (大文字と小文字を区別した検索)、または検索の方向 (レポート上の検索開始地点から前方または後方のいずれか) を指定して、さらに検索方法をカスタマイズすることができます。これらのコントロールを使用して、レポートを検索します。

- 大文字小文字を区別した検索を実行するには、下図のような [大文字と小文字の区別] をクリックします。



- レポートを後方へ検索するには、下図のような [検索方向] をクリックします。



- 特定の文字列を検索するには、下図のようなテキストボックスに、検索する文字列を入力して [検索] アイコンをクリックします。

**注意：**この検索機能を使用すると、入力した文字列が存在するページが検索され、その文字列に下線が付けられます。ページ内の文字列を検索するには、ブラウザの検索オプションを使用する必要があります。



## Web ビューアレポートを検索するには

### 手順

1. [検索] テキストボックスに文字列を入力します。
2. 大文字小文字を区別した検索を実行するには、[大文字と小文字の区別] アイコンをクリックします。

WebFOCUS ビューアでは、[大文字と小文字の区別] が有効な場合、赤いラインが引かれた状態で表示されることに注意してください。

3. 検索を開始するには、次のいずれかをクリックします。

- a. 検索方向 - 現在のページから最初のページに向けて、文字列を検索します。  
または

- b. 検索 - レポートの現在のページから最後に向けて検索します。

WebFOCUS ビューアでは、レポートを検索して最初に一致した文字列が、下線付きで表示されます。

**注意：**この検索機能を使用すると、入力した文字列が存在するページが検索され、その文字列に下線が付けられます。ページ内の文字列を検索するには、ブラウザの検索オプションを使用する必要があります。

4. 一致する他の文字列を検索するには、再度 [検索] アイコンをクリックします。

**注意：**一致する文字列が複数個検索され、これらが同一ページに表示される場合は、次の文字列に下線が付けられます。最後の文字列に到達すると、一致する文字列の次のページが表示され、先頭の文字列に下線が付けられます。

## ビューアコントロールパネルを使用した検索

この例では、ビューアコントロールパネルを使用して、「Inventory Sales within State」という大規模レポートで、販売している電化製品タイプの「Digital」という文字列を検索します。レポートを実行後、WebFOCUS ビューアにレポートの最初のページが表示されます。

1. 「Digital」という文字列を含む電化製品を検索するには、入力ボックスに「Digital」と入力し、[検索] アイコンをクリックします。

WebFOCUS Viewer - Windows Internet Explorer

### Inventory Report

#### Store Inventory within State

| State: | Store Name:  | Product Name:                  | Quantity In Stock: |
|--------|--------------|--------------------------------|--------------------|
| AL     | TV City      | 150 8MM Camcorder 20 X         | 35766              |
|        |              | R5 Micro Digital Tape Recorder | 11940              |
|        |              | ZT Digital PDA - Commercial    | 126000             |
| AR     | TV City      | 150 8MM Camcorder 20 X         | 95376              |
|        |              | 650DL Digital Camcorder 150 X  | 5944               |
|        |              | QX Portable CD Player          | 44000              |
|        |              | R5 Micro Digital Tape Recorder | 27860              |
| AZ     | eMart        | ZT Digital PDA - Commercial    | 294000             |
|        |              | 150 8MM Camcorder 20 X         | 154986             |
|        |              | 650DL Digital Camcorder 150 X  | 11888              |
|        |              | AR2 35MM Camera 8 X            | 45996              |
|        |              | QX Portable CD Player          | 308000             |
|        |              | R5 Micro Digital Tape Recorder | 35820              |
| CA     | AV VideoTown | ZC Digital PDA - Standard      | 132000             |
|        |              | ZT Digital PDA - Commercial    | 378000             |
|        |              | 150 8MM Camcorder 20 X         | 166908             |

Page 1 of 36   Search Digital

WebFOCUS ビューアにレポートが返され、下図のように、検索文字列と最初に一致した文字列が下線付きで表示されます。





**Inventory Report**

**Store Inventory within State**

| State: | Store Name:  | Product Name:                  | Quantity In Stock: |
|--------|--------------|--------------------------------|--------------------|
| AL     | TV City      | 150 8MM Camcorder 20 X         | 35766              |
|        |              | R5 Micro Digital Tape Recorder | 11940              |
|        |              | ZT Digital PDA - Commercial    | 126000             |
| AR     | TV City      | 150 8MM Camcorder 20 X         | 95376              |
|        |              | 650DL Digital Camcorder 150 X  | 5944               |
|        |              | QX Portable CD Player          | 44000              |
|        |              | R5 Micro Digital Tape Recorder | 27860              |
| AZ     | eMart        | ZT Digital PDA - Commercial    | 294000             |
|        |              | 150 8MM Camcorder 20 X         | 154986             |
|        |              | 650DL Digital Camcorder 150 X  | 11888              |
|        |              | AR2 35MM Camera 8 X            | 45996              |
|        |              | QX Portable CD Player          | 308000             |
| CA     | AV VideoTown | R5 Micro Digital Tape Recorder | 35820              |
|        |              | ZC Digital PDA - Standard      | 132000             |
|        |              | ZT Digital PDA - Commercial    | 378000             |
|        |              | 150 8MM Camcorder 20 X         | 166908             |

Page 1 of 36 Search Digital

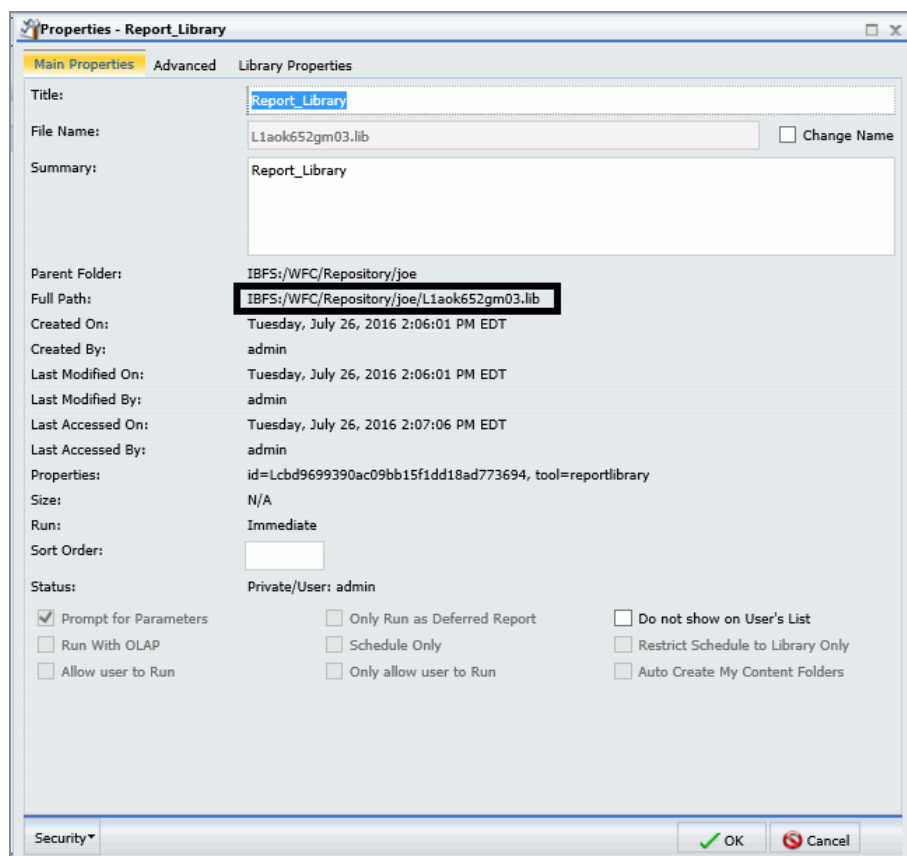
2. [検索] を再度クリックし、「Digital」と一致する次の文字列を検索します。

注意：一致する文字列が複数個検索され、これらが同一ページに表示される場合は、次の文字列に下線が付けられます。最後の文字列に到達すると、一致する文字列の次のページが表示され、先頭の文字列に下線が付けられます。

## ReportLibrary レポートの特定バージョンを Excel および他のドキュメントで開く

下図のように、ReportLibrary レポートのプロパティには、パスを含めた URL が表示されます。この URL を使用して、特定バージョンの ReportLibrary レポートを Excel で開くことができます。





この機能に使用する URL は、次の URL コンポーネントで構成されます。

- **パス** ReportLibrary レポートの [プロパティ] ダイアログボックスに表示されます。
- **ReportLibrary URL** ReportLibrary を識別する標準 URL です ([http://host:port/ibi\\_apps/lib-report.rc](http://host:port/ibi_apps/lib-report.rc))。

上図の例では、パス情報と ReportLibrary URL を組み合わせると、完全な URL は次のようになります。

[http://host:port/ibi\\_apps/lib-report.rc?path=IBFS:/WFC/Repository/joe/L1ack652gm03.lib](http://host:port/ibi_apps/lib-report.rc?path=IBFS:/WFC/Repository/joe/L1ack652gm03.lib)

**注意：**上記の疑問符 (?) は、修飾 URL の必須コンポーネントです。

この URL を使用して、この方法で識別される ReportLibrary レポートの現在バージョンを Excel で開いたり、Microsoft Word や HTML ページなどの他のタイプのドキュメントで開いたりできます。

# アクセスリストの作成と管理

アクセスリストは、スケジュールの実行により ReportLibrary に配信されたレポート出力にアクセス可能なグループおよびユーザを定義したリストです。同一のアクセスリストを複数のスケジュールで使用することもできます。

アクセスリストは、ユーザが所有するプライベート項目として作成され、他のグループやユーザがスケジュールの作成時にそのアクセスリストを使用できるよう共有することができます。共有済みアクセスリストの使用が許可されているユーザは、ReportLibrary にレポートを配信するスケジュールを作成し、配信されたレポートを、共有対象として許可されているグループやユーザと共有することができます。

**注意：**アクセスリストに変更を加えた場合、その変更はアクセスリストで保護されている ReportLibrary レポートに適用されますが、実際に適用されるのは、その ReportLibrary レポートを作成するスケジュールの次回実行時になります。

アクセスリストツールにアクセスし、ワークスペースのフォルダに保存する権限を所有しているユーザは、次のことを行えます。

- アクセスリストの作成。
- 新しいメンバーの追加。[メンバーの追加] オプションを使用して、メンバー情報を入力することができます。アクセスリストを保存するには、少なくとも 1 名のメンバーを指定する必要があります。
- メンバーの選択。[既存のリスト] オプションを使用して、アクセスが許可されている既存のアクセスリストからメンバーを選択することができます。
- アクセスリストの削除。アクセスリストのオーナー、および他のユーザのプライベートコンテンツを管理する権限を所有しているユーザは、アクセスリストを削除することができます。
- アクセスリストを保存して閉じる。書き込みが許可されているワークスペースのフォルダに、アクセスリストを保存することができます。
- アクセスリストの編集。既存のアクセスリストを編集することができます。

## 新しいアクセスリストを作成するには

新しいアクセスリストを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

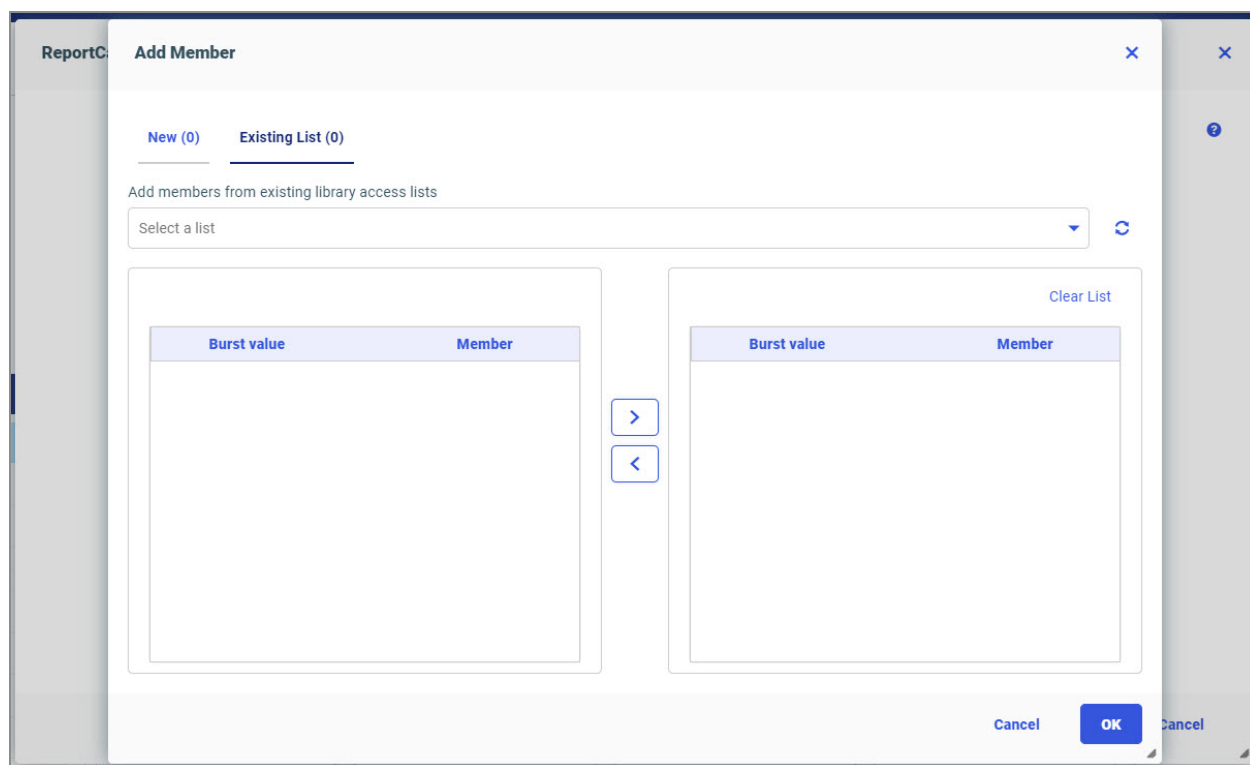
1. [新しいことを始める]  オプションを選択します。
2. [アクセスリストの作成] を選択します。  
[アクセスリスト] ウィンドウが開きます。
3. [メンバーの追加] を選択し、新しいメンバーを追加します。
4. [新規] タブを選択し、新しいメンバーを追加します。
5. リストに追加するメンバーのチェックをオンにします。
6. 必要に応じて、[バースト値] テキストボックスにバースト値を入力して、グループまたはユーザに配信するレポートセクションを指定します。この値の大文字と小文字は区別されます。レポートの配信をアクセスリストのバースト値に制限するには、アクセスリストが指定されたスケジュールで、[バーストレポート] のチェックをオンにする必要があります。
7. [OK] ボタンをクリックし、これらのメンバーをメンバーリストに追加します。
8. [保存] をクリックし、アクセスリストを保存します。

**注意：**

- ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
- ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

## 既存のリストからアクセスリストを作成するには

下図は、[アクセスリスト] ウィンドウを示しています。



## 手順

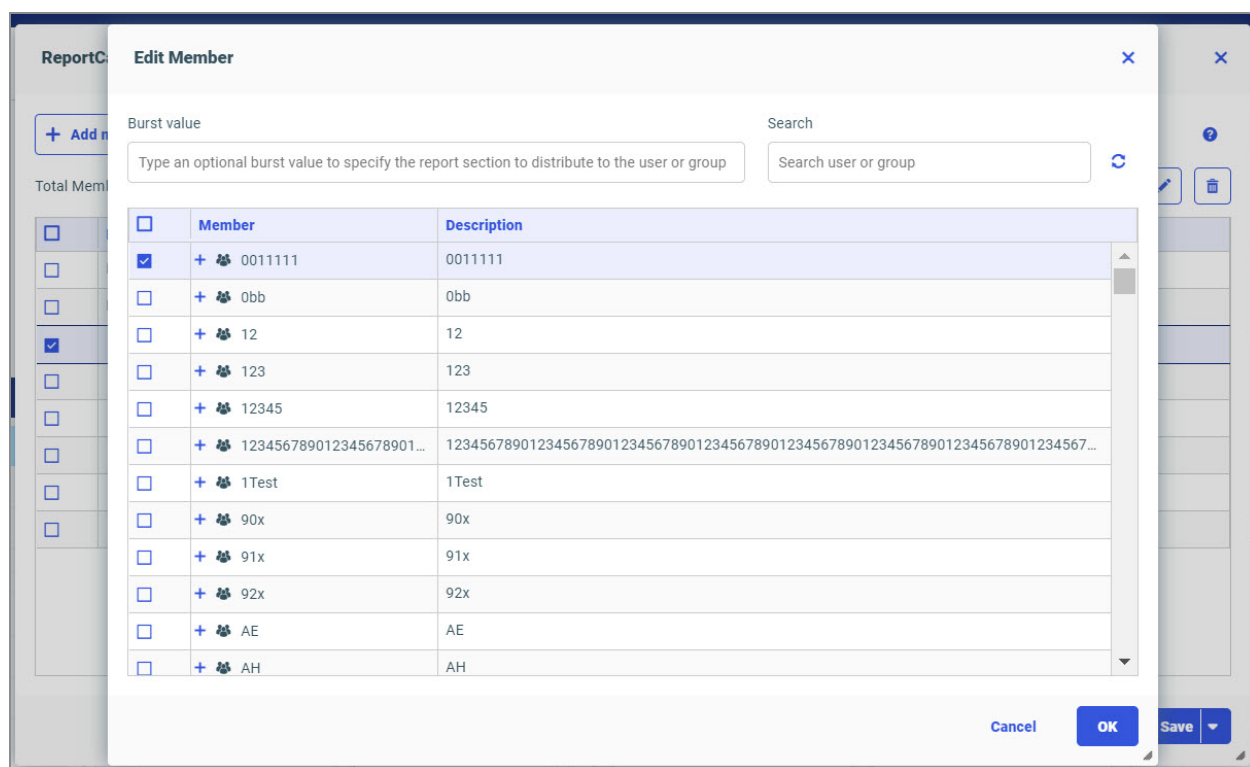
1. [新しいことを始める]  オプションを選択します。
2. [アクセスリストの作成] を選択します。  
[アクセスリスト] ウィンドウが開きます。
3. [メンバーの追加] を選択し、新しいメンバーを追加します。
4. [既存のリスト] タブを選択し、既存のリストからメンバーを選択します。
5. ドロップダウンリストから、新しいリストに追加するアクセスリストを選択します。
6. 矢印を使用して、追加するメンバーを選択します。
7. 必要に応じて、[バースト値] テキストボックスにバースト値を入力して、グループまたはユーザに配信するレポートセクションを指定します。この値の大文字と小文字は区別されます。レポートの配信をアクセスリストのバースト値に制限するには、アクセスリストが指定されたスケジュールで、[バーストレポート] のチェックをオンにする必要があります。
8. [OK] ボタンをクリックし、これらのメンバーをメンバーリストに追加します。
9. [保存] をクリックし、アクセスリストを保存します。

**① 注意：**

- ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
- ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

## アクセスリストを編集するには

ユーザが所有するアクセスリスト、またはユーザが管理権限を所有するアクセスリストを編集するには、ワークスペースまたは ReportCaster エクスプローラで次の手順を実行します。下図は、[メンバーの編集] ウィンドウを示しています。



### 手順

1. 編集するアクセスリストを選択します。
2. アクセスリストを右クリックし、[編集] を選択します。  
[アクセスリスト] ウィンドウが開きます。

3. メンバーを選択して [編集] アイコンをクリックすると、リストを更新することができます。
4. [OK] をクリックして、リストにメンバーを追加します。
5. (オプション) リストからする任意のメンバーを選択し、[メンバーの削除] アイコンをクリックします。
6. アクセスリストに必要な変更を加え、[保存して閉じる] をクリックします。

## アクセスリストへのアクセス

プライベートアクセスリストを共有すると、オーナーシップを変更せずに、そのアクセスリストを他のグループやユーザが表示したり、スケジュールで使用したりできるようになります。権限を所有するユーザは、ユーザのプライベートアクセスリストを、共有対象として許可されているグループおよびユーザと共有することができます。共有済みアクセスリストの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザは、そのフォルダ内のアクセスリストにアクセスすることができます。

権限を所有するユーザは、アクセスリストを公開または非公開にすることができます。アクセスリストを公開すると、そのアクセスリストの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザがアクセスリストを使用できるようになります。公開する場合は、項目が格納されているフォルダを公開する必要があります。公開したフォルダを非公開にすると、そのフォルダ内のすべての項目も非公開になります。フォルダおよび項目の公開と共有についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

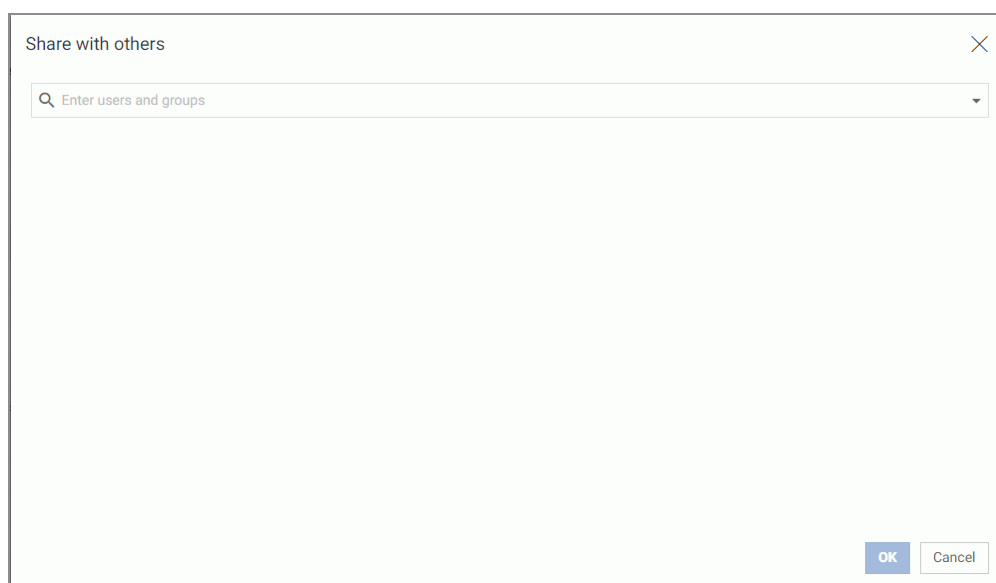
## アクセスリストを共有するには

ユーザが各自の [マイコンテンツ] フォルダに保存したプライベートコンテンツを共有する権限を所有する場合、WebFOCUS Hub またはホームページのワークスペースエリアで、アクセスリストが保存されているフォルダを右クリックして [共有する] を選択することで、このフォルダへのアクセス権限を所有するユーザとアクセスリストを共有することができます。

[高度な共有] オプションの使用権限を所有している場合は、次の手順を実行して、共有対象として許可されているグループやユーザと、[マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有することができます。

### 手順

1. 共有するアクセスリストを右クリックし、[共有の設定] を選択します。  
下図のように、[別のユーザと共有] ダイアログボックスが表示されます。



2. [検索] テキストボックスのドロップダウン矢印をクリックし、ユーザまたはグループの選択条件を表示します。[ユーザ] または [グループ] で検索結果にフィルタを設定できます。
3. フィルタの選択後、検索テキストボックスへの入力を開始すると、選択可能なユーザまたはグループが表示されます。アクセスリストの表示を許可するユーザまたはグループのリストに追加するユーザまたはグループを選択します。必要に応じて、リストから除外するユーザまたはグループのタイルで X をクリックします。
4. アクセスリストを共有するユーザまたはグループの選択を完了後、[OK] をクリックします。

## アクセスリストの公開

アクセスリストなどワークスペース内の項目を公開するには、そのワークスペース自体を公開する必要があります。公開済みの項目およびフォルダはカラーで表示され、非公開の項目およびフォルダは白黒で表示されます。

WebFOCUS Hub またはホームページのワークスペースエリアで、公開するアクセスリストが格納されているドメインを右クリックし、[公開] を選択します。ワークスペースおよびワークスペース内のアクセスリストを非公開にするには、[非公開] を選択します。

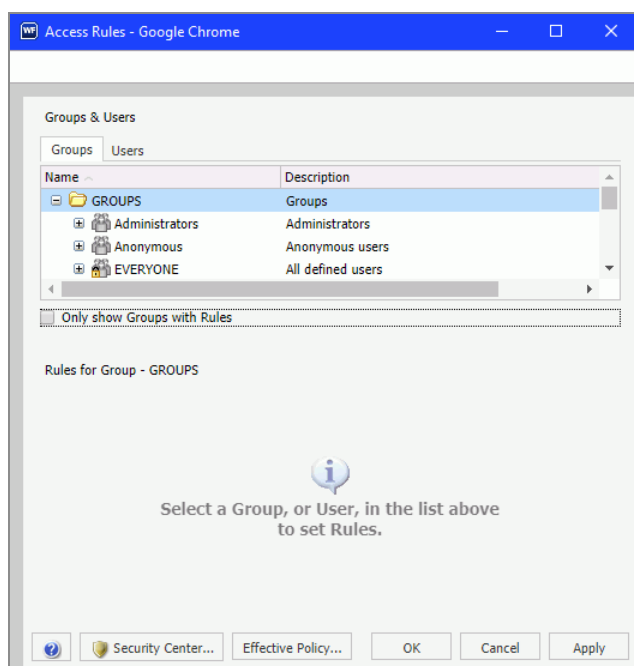
# アクセスリストにセキュリティルールを設定するには

権限を所有するユーザは、非公開アクセスリストにセキュリティを設定し、他のグループやユーザがアクセスリストを表示、管理できるよう許可することができます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

**注意：**権限を所有するユーザは、アクセスリストを右クリックし、[セキュリティ]、[有効なポリシー] を順に選択することで、セキュリティポリシーを確認することができます。

## 手順

1. アクセスリストを格納するワークスペースを選択するか、セキュリティを設定する非公開アクセスリストを選択します。
2. 右クリックして、[セキュリティ]、[ルール] を順に選択します。  
下図のように、[アクセスルール] ダイアログボックスが開きます。



3. [グループ] タブで、アクセスリストへのアクセスを許可するグループまたはユーザを選択します。必要に応じて、[ルールが存在するグループのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのグループのみを表示することもできます。

選択したグループの [ロール] が、[グループを対象とするルール] セクションに表示さ



れます。

4. 必要に応じて、[グループを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
5. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なロールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
6. ロールのいずれかを選択します。このロールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
7. [アクセス] ドロップダウンリストから、許可レベルを選択します。

次のオプションがあります。

- **設定しない** アクセス許可は設定されていません。アクセス許可は、継承されたルールに基づいて決定されます。
  - **許可する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **拒否する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を拒否します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **最上級の許可** アクセスレベルの [拒否する] を無効にし、[適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
  - **継承のクリア** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールで拒否されているルールをすべてクリアします。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
8. [ユーザ] タブをクリックすると、アクセスリストへのアクセスを許可するユーザのリストが表示されます。必要に応じて、[ルールが存在するユーザのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのユーザのみを表示することもできます。  
 選択したユーザの [ロール] が、[ユーザを対象とするルール] セクションに表示されます。
  9. 必要に応じて、[ユーザを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
  10. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能

なロールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。

11. ロールのいずれかを選択します。このロールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
12. 手順 7 で説明したように、[アクセス] ドロップダウンリストでアクセスレベルを選択します。
13. [適用] をクリックします。
14. [OK] をクリックします。

アクセスリストのセキュリティ設定の更新が保存されます。

# ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラ

---

ReportCaster エクスプローラでは、ReportCaster 項目のリストをタイプ別に取得し、選択した項目タイプに特化した詳細情報を表示することができます。

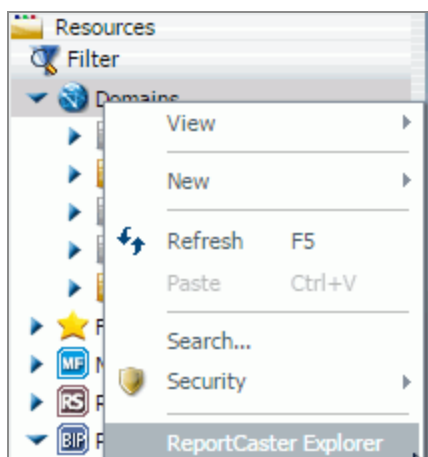
注意：ここでは、ReportCaster エクスプローラを「エクスプローラ」と記述しています。

## ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラの使用

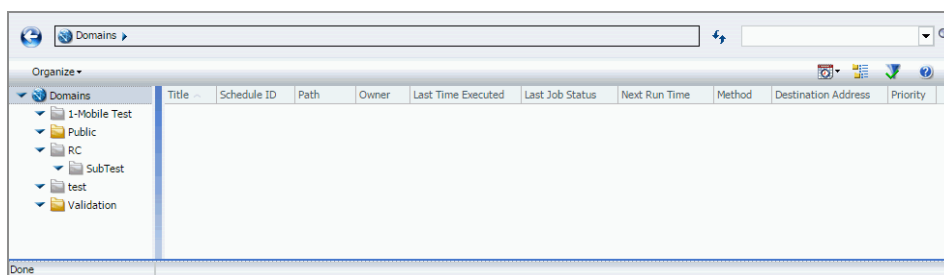
エクスプローラでは、ReportCaster 項目のリストをタイプ別に取得し、選択した項目タイプに特化した詳細情報を表示することができます。このリストは、選択したフォルダ内のスケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ReportLibrary レポート、ウォッチリスト別にフィルタすることができます。また、このリストには、選択したフォルダ下のサブフォルダ内の項目も含めることもできます。ReportLibrary 通知 Email のリンクから ReportLibrary レポートを表示すると、[ReportLibrary レポート] 項目タイプでフィルタされたエクスプローラが開きます。

エクスプローラへのアクセスは、WebFOCUS Client セキュリティ認可モデルにより制御されます。エクスプローラへのユーザアクセスが [コンテンツ] フォルダレベルで許可されている場合もあれば、特定の下位フォルダで許可されている場合もあります。ReportCaster ツールへのアクセスを制御する権限についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

権限を所有するユーザは、フォルダのコンテキストメニューから [エクスプローラ] オプションにアクセスすることができます。[ワークスペース] フォルダからエクスプローラにアクセスする権限を所有しているユーザは、WebFOCUS ホームページの [ユーティリティ] メニューから [エクスプローラ] オプションにアクセスすることもできます。



[ユーティリティ] メニューから [ReportCaster エクスプローラ] を選択した場合、エクスプローラが新しいタブで開きます。[ワークスペース] フォルダノードがデフォルトのフォルダパスになり、ユーザがアクセス権限を所有するフォルダのリストがその下に展開表示されます。下図のエクスプローラでは、フォルダパスとして [ワークスペース] フォルダが選択されています。



フォルダのコンテキストメニューから [ReportCaster エクスプローラ] を選択した場合、選択したフォルダパスがエクスプローラに渡され、そのフォルダがエクスプローラツリーで選択された状態になります。右側パネルには、ユーザがアクセスを許可されているスケジュールのリストが表示されます。

**注意：** WebFOCUS ホームページから ReportCaster エクスプローラを起動した後、WebFOCUS ホームページからログアウトするか、WebFOCUS ホームページを閉じた場合、ReportCaster エクスプローラは開いた状態で保持されます。この場合、WebFOCUS ホームページからログアウトするか、WebFOCUS ホームページを閉じた後に、ReportCaster エクスプローラを手動で閉じる必要があります。ReportCaster エクスプローラの前のセッションが開いた状態で WebFOCUS ホームページに別のユーザ名で再度ログインすると、前のセッションの ReportCaster コンテンツが ReportCaster エクスプローラに表示されます。

# 開始ページから ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラツールにアクセスするには

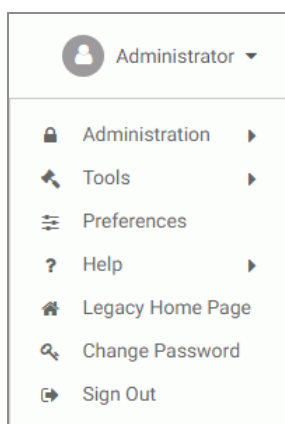
## 手順

1. 開始ページ左上のメインメニューをクリックし、メニューオプションを展開します。
2. [クイックアクセス] 下で、[ReportCaster エクスプローラ] を選択します。  
ReportCaster エクスプローラが開きます。

# WebFOCUS ホームページから ibi WebFOCUS ReportCaster エクスプローラツールにアクセスするには

## 手順

1. 下図のように、WebFOCUS ホームページ右上の [ユーティリティ] メニューをクリックします。



2. [ReportCaster エクスプローラ] を選択します。

ReportCaster エクスプローラツールが表示されます。

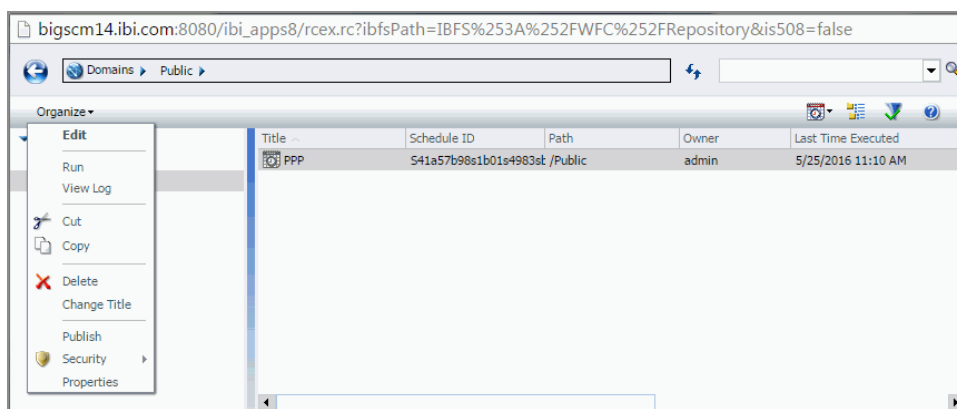
## エクスプローラのツールバー

下図は、エクスプローラのツールバーを示しています。ツールバーを使用すると、選択した ReportCaster 項目で使用可能なオプションにすばやくアクセスすることができます。リストに表示する ReportCaster 項目のタイプを指定するオプションや、現在のフォルダ内の項目のみを表示するか、現在のフォルダとそのサブフォルダ内の項目を表示するかを切り替えるオプションがあります。オンラインヘルプにアクセスすることもできます。

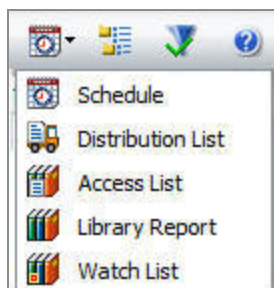


[編成] メニューには、右側パネルで選択した ReportCaster 項目に対して、ユーザが使用を許可されているオプションが表示されます。下図は、右側パネルで選択したスケジュールに対して使用可能な [編成] メニューオプションを示しています。

**注意：**[編成] メニューは、下図のように、右側パネルで項目が選択されている場合にのみ有効になります。



[フィルタの変更] オプションを使用して、リストに表示する項目タイプとして、[スケジュール]、[配信リスト]、[アクセスリスト]、[ReportLibrary レポート]、[ウォッチリスト] のいずれかを指定することができます。デフォルトのフィルタは [スケジュール] です。下図は、エクスプローラのツールバー右側で展開された [フィルタの変更] オプションを示しています。



ReportCaster 項目のリストは、選択したフィルタに基づいて表示されますが、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションを使用することで、現在のフォルダ内の項目のみを表示するか、現在のフォルダとそのサブフォルダ内の項目を表示するかを切り替えることができます。デフォルト設定では、現在のフォルダ内の項目のみがリストに表示されます。

**注意：**ツールバーの [選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] アイコンは、切り替えボタンです。このボタンをクリックして、フォルダ検索の深さ (選択したフォルダのみ、または選択したフォルダとそのサブフォルダ) を切り替えることができます。この操作は、現在のリストのフォルダの深さには影響しません。右側パネルの [パス] 列で、ReportCaster 項目のフォルダパスを確認します。

下図のアイコンは、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションを示しています。このオプションが選択されている場合、選択したフォルダとそのサブフォルダ内の ReportCaster 項目のリストが、選択済みのフィルタに基づいて表示されます。



下図のアイコンは、[選択したフォルダのファイルを表示] オプションを示しています。このオプションが選択されている場合、選択したフォルダ内の ReportCaster 項目のリストが、選択済みのフィルタに基づいて表示されます。



下図のアイコンは、[コンテンツが存在するフォルダのみを表示] オプションを示しています。このオプションを選択すると、コンテンツが存在するフォルダのみが表示されます。



下図のアイコンは、[すべてのフォルダを表示] オプションを示しています。このオプションを選択すると、元のフォルダ表示に戻り、すべてのフォルダが表示されます。このオプションは、[コンテンツが存在するフォルダのみを表示] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。



下図のアイコンは、[ヘルプ] オプションを示しています。このアイコンをクリックすると、ReportCaster エクスプローラのヘルプ情報が表示されます。



## エクスプローラのツリー

エクスプローラのツリーでは、WebFOCUS ホームページと同様の操作でフォルダ間を移動することができます。フォルダをダブルクリックして、フォルダを展開したり折りたたんだりします。

## エクスプローラの項目リストパネル

エクスプローラの右側パネルには、ツールバーの [フィルタの変更] および [選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションの設定に基づいて ReportCaster 項目が表示されます。選択した ReportCaster 項目タイプごとに、表示される列が異なります。選択した ReportCaster 項目で使用可能なオプションは、ツールバーの [編成] メニューまたは項目のコンテキストメニューからアクセスすることができます。

## エクスプローラのスケジュール詳細情報

スケジュールのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、下図のように、スケジュールに関する情報を表示することができます。

| Title          | Schedule ID                          | Path    | Owner | Last Time Executed | Last Job Status | Next Run Time   | Method                             | Destination Address            | Priority |
|----------------|--------------------------------------|---------|-------|--------------------|-----------------|-----------------|------------------------------------|--------------------------------|----------|
| Top Ten Stores | 55b1b32d3e602e4020e9ddesc1e40e0d2842 | /Public | admin | 8/14/17 3:29 PM    | Error           | 8/14/17 3:25 PM | Print,Email,FTP,Repository,Library | ///WFC/Repository/Public,Owner | 3        |

- **タイトル** スケジュールのタイトルを表示します。
- **スケジュール ID** スケジュールの一意の ID を表示します。
- **パス** スケジュールが格納されているリポジトリパスを表示します。
- **オーナー** スケジュールのオーナーの名前を表示します。



- **最新の実行時間** スケジュールが最後に実行された日時およびタイムゾーンを表示します。
- **最新のジョブステータス** 最後に実行されたスケジュールジョブでエラーが発生したかどうかを表示します。
- **次回実行時間** 次回のスケジュール実行日時およびタイムゾーンを表示します。
- **方法** スケジュールで指定されたレポート出力の配信方法を表示します。最大 5 つの配信方法が表示されます。各配信方法は、カンマ (,) 区切りで表示されます。配信方法が 6 つ以上存在する場合は、リストの末尾に [...] (参照) ボタンが表示されます。
- **配信先アドレス** レポートが送信される Email アドレスまたは格納先パスを表示します。最大 5 つの配信先アドレスが表示されます。各配信先アドレスは、カンマ (,) 区切りで表示されます。配信先アドレスが 6 つ以上存在する場合は、リストの末尾に [...] (参照) ボタンが表示されます。
- **優先度** スケジュールが Distribution Server で処理される際の優先度を表示します。最上位の優先度は 1、最下位の優先度は 5 です。

## エクスプローラの配信リスト詳細情報

配信リストのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、下図のように、配信リストに関する情報を表示することができます。

| Title                                                                                                 | Path    | Method | Owner |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------|-------|
|  Distribution List | /Public | Email  | admin |

- **タイトル** 配信リストのタイトルを表示します。
- **パス** 配信リストが格納されているリポジトリパスを表示します。
- **方法** 配信リストの作成時に指定された配信方法 (Email、FTP) を表示します。
- **オーナー** 配信リストのオーナーの名前を表示します。

## エクスプローラのアクセスリスト詳細情報

アクセスリストのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、下図のように、アクセスリストに関する情報を表示することができます。

| Title                                                                                         | Path    | Owner |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------|
|  Access List | /Public | admin |

- **タイトル** アクセスリストのタイトルを表示します。
- **パス** アクセスリストが格納されているリポジトリパスを表示します。
- **オーナー** アクセスリストのオーナーの名前を表示します。

## エクスプローラの ReportLibrary レポート およびウォッチリストレポート詳細情報

ReportLibrary レポートのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、ReportLibrary レポートに関する情報を表示することができます。これらの ReportLibrary レポートには、ウォッチリストレポートが含まれている場合があります。

**注意：**ウォッチリストレポートに関する情報は、元の ReportLibrary レポートの情報と同一です。ウォッチリストレポートは、ユーザがウォッチリストに登録した ReportLibrary レポートであるため、列には同一の情報が表示されます。ReportLibrary レポートの新しいバージョンが作成されると、登録済みユーザに Email 通知が送信されます。

下図は、ReportLibrary レポートおよびウォッチリストレポートで表示される列タイトルを示しています。

| Title                                                                                         | Path    | Burst Value | Last Version | Last Execution | Category | Owner |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------------|--------------|----------------|----------|-------|
|  ENGLAND   | /Public | ENGLAND     | 1            | 8/4/17 8:37 PM |          | admin |
|  FRANCE    | /Public | FRANCE      | 1            | 8/4/17 8:37 PM |          | admin |
|  ITALY     | /Public | ITALY       | 1            | 8/4/17 8:37 PM |          | admin |
|  JAPAN     | /Public | JAPAN       | 1            | 8/4/17 8:37 PM |          | admin |
|  W GERMANY | /Public | W GERMANY   | 1            | 8/4/17 8:37 PM |          | admin |

- **タイトル** ReportLibrary レポートのタイトルを表示します。
- **パス** ReportLibrary レポートが格納されているリポジトリパスを表示します。
- **バースト値** ReportLibrary レポートのバースト値を表示します。
- **最新のバージョン** ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示します。レポートを選択すると、ReportLibrary レポートリスト下側のパネルに、そのレポートで有効なバージョンがすべて表示されます。
- **最新の実行日** ReportLibrary レポートが作成された日時を表示します。
- **カテゴリ** オーナーが ReportLibrary レポートを割り当てたカテゴリを表示します。

[カテゴリ] 列のタイトルをクリックして、カテゴリ値を基準に ReportLibrary レポートをソートすることができます。カテゴリ値は、スケジュールの作成時に指定された情報です。

- **オーナー**ReportLibrary レポートのオーナーの名前を表示します。

## エクスプローラの項目オプション

権限を所有するユーザは、ReportCaster 項目 (スケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ReportLibrary レポート、ウォッチリスト) を選択し、[編成] メニューまたはコンテキストメニューのオプションを使用して、次の操作を実行することができます。

- スケジュールを開く。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- スケジュールを実行する。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- スケジュールを有効または無効にする。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- 複数のスケジュールを有効または無効にする。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- スケジュールを削除する。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- 配信リストを開く。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- 配信リストを削除する。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- アクセスリストを開く。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- アクセスリストを削除する。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- ReportLibrary レポートをウォッチリストに登録する。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- ReportLibrary の最新バージョンを開く。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- ReportLibrary レポートの複数のバージョンを表示する。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。

[目オプション](#)を参照してください。

- ReportLibrary レポートを削除する。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- ウォッチリストレポートを開く。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。
- ウォッチリストの登録を解除する。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。

**注意：**ReportCaster エクスプローラでは、複数のファイルを同時に選択して、[編集]、[実行]、[ログの表示]、[切り取り]、[コピー]、[削除]、[共有する] の操作を実行することができます。

## スケジュールを開くには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. エクスプローラで、開くスケジュールを選択します。
4. 選択したスケジュールを右クリックし、コンテキストメニューから [編集] を選択します。

## スケジュールを実行するには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。

3. エクスプローラで、実行するスケジュールを選択します。
4. スケジュールを右クリックし、[実行] を選択します。
5. 必要に応じて、複数のスケジュールを同時に実行する場合は、Ctrl キーを押しながら、実行する各スケジュールを選択します。Ctrl キーを離し、選択したスケジュールのいずれかを右クリックして [実行] を選択します。

## スケジュールを有効または無効にするには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. ドロップダウンリストで [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. 有効なスケジュールを右クリックします。  
コンテキストメニューが表示されます。
4. [無効にする] をクリックします。スケジュールがすでに無効になっている場合、このオプションは [有効にする] と表示されます。

## 複数のスケジュールを有効または無効にするには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. ドロップダウンリストで [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. Ctrl キーを押しながら、有効または無効にするスケジュールを選択します。
4. 選択したスケジュールのいずれかを右クリックします。

コンテキストメニューが表示されます。

5. 選択したスケジュールをすべて有効にするには [有効にする] をクリックし、選択したスケジュールをすべて無効にするには [無効にする] をクリックします。

## スケジュールを削除するには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. エクスプローラで、削除するスケジュールを選択します。
4. スケジュールを右クリックし、[削除] を選択します。

## 配信リストを開くには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [配信リスト] を選択します。
3. エクスプローラで、開く配信リストを選択します。
4. 配信リストを右クリックし、[編集] を選択します。

## 配信リストを削除するには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォル

- ダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [配信リスト] を選択します。
3. エクスプローラで、削除する配信リストを選択します。
4. 配信リストを右クリックし、[削除] を選択します。

## アクセスリストを開くには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [アクセスリスト] を選択します。
3. エクスプローラで、開くアクセスリストを選択します。
4. アクセスリストを右クリックし、[編集] を選択します。

## アクセスリストを削除するには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [アクセスリスト] を選択します。
3. エクスプローラで、削除するアクセスリストを選択します。
4. アクセスリストを右クリックし、[削除] を選択します。

# ReportLibrary レポートをウォッチリストに登録するには

## 手順

1. ウォッチリストに登録する ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. エクスプローラで、ウォッチリストに登録する ReportLibrary レポートを選択します。
4. 選択した ReportLibrary レポートを右クリックし、[ウォッチリストに登録] を選択します。

# ReportLibrary レポートの最新バージョンを開くには

## 手順

1. アクセスする ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. エクスプローラで、開く ReportLibrary レポートを選択します。
4. 選択した ReportLibrary レポートを右クリックし、[最新バージョンを開く] を選択します。



# ReportLibrary レポートの複数バージョンを表示するには

## 手順

1. 表示する ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. エクスプローラで、複数のバージョンを表示する ReportLibrary レポートを選択します。
4. ReportLibrary リストの下側ウィンドウに、選択した ReportLibrary レポートの複数のバージョンが表示されます。下図は、表示された複数のバージョンを示しています。

| Title     | Path           | Burst Value | Last Version | Last Execution   | Category |  |
|-----------|----------------|-------------|--------------|------------------|----------|--|
| ENGLAND   | /Report_Caster | ENGLAND     | 10           | 6/3/2016 5:48 AM |          |  |
| FRANCE    | /Report_Caster | FRANCE      | 10           | 6/3/2016 5:48 AM |          |  |
| ITALY     | /Report_Caster | ITALY       | 10           | 6/3/2016 5:48 AM |          |  |
| JAPAN     | /Report_Caster | JAPAN       | 10           | 6/3/2016 5:48 AM |          |  |
| W GERMANY | /Report_Caster | W GERMANY   | 10           | 6/3/2016 5:48 AM |          |  |

| /Report_Caster/ENGLAND (L1akapind704.lib) |             |                  |            |      |        |                 |
|-------------------------------------------|-------------|------------------|------------|------|--------|-----------------|
| Version                                   | Description | Execution Time   | Expiration | Size | Format | Compressed Size |
| Version 10                                |             | 6/3/2016 5:48 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |
| Version 9                                 |             | 6/3/2016 5:43 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |
| Version 8                                 |             | 6/3/2016 5:41 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |
| Version 7                                 |             | 6/3/2016 5:40 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |
| Version 6                                 |             | 6/3/2016 5:40 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |

# ReportLibrary レポートを削除するには

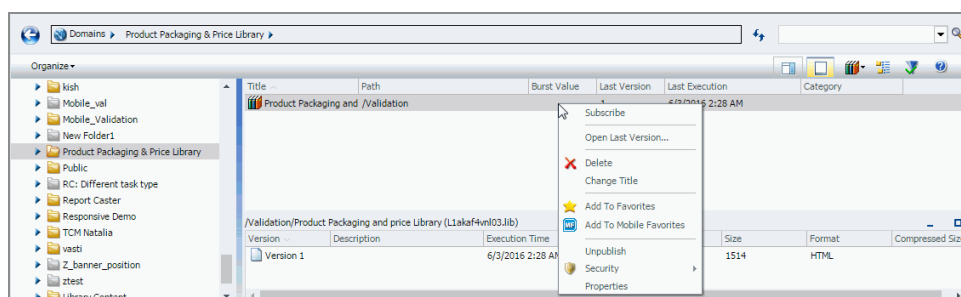
## 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. エクスプローラで、削除する ReportLibrary レポートを選択します。

**注意：**これは、スケジュールに関連付けられている ReportLibrary レポートです。こ

の ReportLibrary レポートを削除すると、スケジュールの次回実行時まで、このスケジュールで配信された ReportLibrary レポートのすべてのバージョンにアクセスできなくなります。

4. 下図のように、選択した ReportLibrary レポートを右クリックし、[削除] を選択します。



## ReportLibrary レポートの特定バージョンを削除するには

### 手順

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. 1 つまたは複数のバージョンを削除する ReportLibrary レポートを選択します。
4. 下図のように、下側のウィンドウでレポートバージョンを右クリックし、[削除] を選択します。

**注意：**複数のレポートバージョンを同時に削除するには、Ctrl キーを押しながら、削除するレポートバージョンを順に選択します。

| Version    | Description | Execution Time   | Expiration | Size | Format | Compressed Size |
|------------|-------------|------------------|------------|------|--------|-----------------|
| Version 10 |             | 6/3/2016 5:48 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |
| Version 9  |             | 6/3/2016 5:43 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |
| Version 8  |             | 6/3/2016 5:43 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |
| Version 7  |             | 6/3/2016 5:43 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |
| Version 6  |             | 6/3/2016 5:43 AM | Never      | 675  | HTML   |                 |

## ウォッチリストレポートを開くには

ウォッチリスト内の ReportLibrary レポートを表示するには、ReportLibrary レポートを登録する必要があります。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。

### 手順

1. アクセスするウォッチリストレポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ウォッチリスト] を選択します。
3. エクスプローラで、開くウォッチリストレポートを選択します。
4. 登録済みの項目を右クリックし、[開く] を選択します。

## ウォッチリストから項目の登録を解除するには

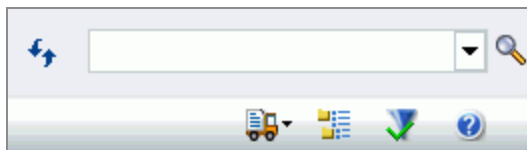
ウォッチリスト内の ReportLibrary レポートを表示するには、ReportLibrary レポートを登録する必要があります。詳細は、[エクスプローラの項目オプション](#)を参照してください。

### 手順

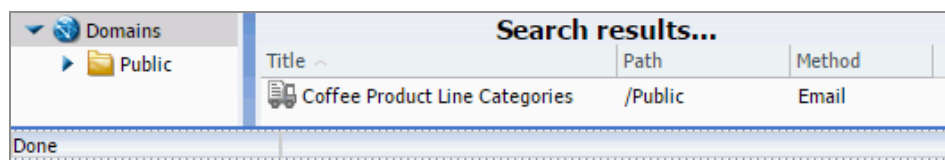
1. 登録を解除する ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ウォッチリスト] を選択します。
3. エクスプローラで、登録を解除するウォッチリストレポートを選択します。
4. 登録済みの ReportLibrary レポートを右クリックし、[ウォッチリストの登録解除] を選択します。

## サブフォルダの検索

エクスプローラへのアクセス権限を所有するユーザは、下図のように、エクスプローラ右上の [検索] 機能を使用して、選択した ReportCaster 項目フィルタに基づいて、ReportCaster 項目およびフォルダを検索することができます。



リポジトリ内の項目を検索中に、ReportCaster エクスプローラ最下部のステータスバーに [処理中] または [完了] が表示されます。[処理中] は検索項目の取得中に表示され、[完了] は検索結果が取得された際に表示されます。下図は、この例を示しています。



## 注意

- サブフォルダを検索する場合、検索を実行する前に設定済みのフィルタ (例、スケジュール、配信リスト、ReportLibrary レポート、アクセスリスト、ウォッチリスト) を変更しない限り、そのフィルタが引き続き使用されます。フィルタの使用についての詳細は、[エクスプローラのツールバー](#)を参照してください。
- ReportCaster エクスプローラで検索を実行した後、検索テキストボックスに入力した内容をクリアした場合に、エクスプローラの右側ウィンドウの項目リストがリフレッシュされません。エクスプローラの表示を元の状態に戻すには、ブラウザのリフレッシュ機能を使用します。

# トレースの使用

---

ReportCaster で権限を所有するユーザは、トレースを使用して、ReportCaster コンポーネントの内部処理に関する情報を取得することができます。ReportCaster リクエストのトレースを実行すると、実行されたイベントを記述する一連の詳細なステートメントが生成され、トレースファイルに格納されます。

## トレースの有効化

Distribution Server スケジュールトレースは、ReportCaster ステータスの構成ツール、ReportCaster Servlet トレースは、管理コンソールで有効または無効にします。

## Servlet トレース

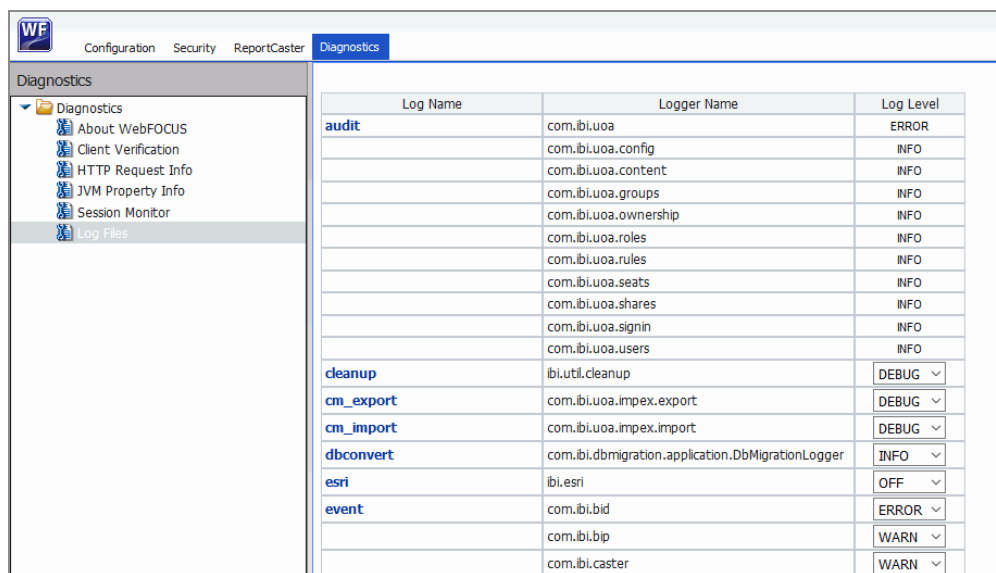
Servlet トレースは、ReportCaster API を含めて、Web アプリケーションに展開済みのすべての ReportCaster Servlet のトレースを有効にします。Servlet トレースは、リポジトリへのクエリおよび保守に関する情報を提供します。これには、スケジュールの作成時に発生するイベントも含まれます。

**注意：**Application Server のログファイルも確認してください。デフォルト設定では、Apache Tomcat トレースファイルは、Apache Tomcat インストールパスの %logs ディレクトリに格納されます。Apache Tomcat が WebFOCUS Client とともにインストールされた場合、Apache Tomcat は、ibi ディレクトリ配下にインストールされます。ReportCaster が WebFOCUS Client とともに構成されている場合、Client の Servlet トレースファイルも作成されます。これらのトレースファイルにアクセスするには、管理コンソールを開き、[機能診断] タブの [セッションモニタ] をクリックします。

## Servlet トレースにアクセスするには

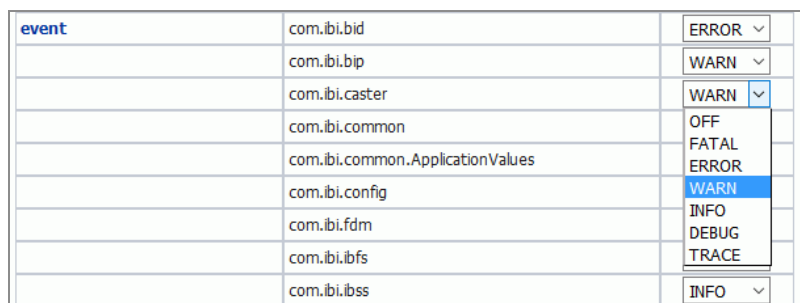
### 手順

1. 管理コンソールを開きます。
2. [機能診断] タブをクリックします。
3. [機能診断] タブで [ログファイル] をクリックします。  
下図のように、ログファイルのリストが表示されます。



| Log Name         | Logger Name                                       | Log Level |
|------------------|---------------------------------------------------|-----------|
| <b>audit</b>     | com.ibi.uoa                                       | ERROR     |
|                  | com.ibi.uoa.config                                | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.content                               | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.groups                                | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.ownership                             | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.roles                                 | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.rules                                 | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.seats                                 | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.shares                                | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.signin                                | INFO      |
|                  | com.ibi.uoa.users                                 | INFO      |
| <b>cleanup</b>   | ibi.util.cleanup                                  | DEBUG ▾   |
| <b>cm_export</b> | com.ibi.uoa.impex.export                          | DEBUG ▾   |
| <b>cm_import</b> | com.ibi.uoa.impex.import                          | DEBUG ▾   |
| <b>dbconvert</b> | com.ibi.dbmigration.application.DbMigrationLogger | INFO ▾    |
| <b>esri</b>      | ibi.esri                                          | OFF ▾     |
| <b>event</b>     | com.ibi.bid                                       | ERROR ▾   |
|                  | com.ibi.bip                                       | WARN ▾    |
|                  | com.ibi.caster                                    | WARN ▾    |

4. 下図のように、[ログレベル] ドロップダウンリストから、アクセスするログファイルの情報タイプを選択します。



|              |                                  |         |
|--------------|----------------------------------|---------|
| <b>event</b> | com.ibi.bid                      | ERROR ▾ |
|              | com.ibi.bip                      | WARN ▾  |
|              | com.ibi.caster                   | WARN ▾  |
|              | com.ibi.common                   | OFF     |
|              | com.ibi.common.ApplicationValues | FATAL   |
|              | com.ibi.config                   | ERROR   |
|              | com.ibi.fdm                      | WARN    |
|              | com.ibi.ibfs                     | INFO    |
|              | com.ibi.ibss                     | DEBUG   |
|              |                                  | TRACE   |
|              |                                  | INFO ▾  |

ReportCaster ログレベルオプションは、次のレベルの機能診断情報を提供します。

- **オフ** イベントを収集しません。
- **重大** システム処理を中断するイベントのみを収集します。
- **エラー** 重大イベント以外に、エラーメッセージを生成するイベントを収集します。

- **警告** エラーイベントおよび重大イベント以外に、警告メッセージを生成するイベントを収集します。
  - **情報** 警告イベント、エラーイベント、重大イベント以外に、情報メッセージを生成するイベントを収集します。
  - **デバッグ** 情報イベント、警告イベント、エラーイベント、重大イベント以外に、トレースメッセージを生成するイベントを収集します。
  - **トレース** デバッグイベント、情報イベント、警告エラーイベント、エラーイベント、重大イベント以外に、トレースメッセージを生成するイベントを収集します。
5. トレースを表示するログファイルをクリックします。

下図は、event.log ファイルが選択された場合の例を示しています。

|                           |       |                                          |              |                                                      |
|---------------------------|-------|------------------------------------------|--------------|------------------------------------------------------|
| [2012-03-28 17:00:36,692] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-8  | - admin - returning view getServletPath /ui-se.rc    |
| [2012-03-28 17:00:36,692] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-8  | - admin - returning view getRequestURL http://local  |
| [2012-03-28 17:00:36,692] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-8  | - admin - returning view appName tools/rcaster/reso  |
| [2012-03-28 17:00:36,692] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-8  | - admin - returning view att IBINF SES AUTH_TOKEN =  |
| [2012-03-28 17:00:36,692] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-8  | - admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true   |
| [2012-03-28 17:00:36,692] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-8  | - admin - IBSSOperation.opSchedule: true             |
| [2012-03-28 17:00:36,692] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-8  | - admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true      |
| [2012-03-28 17:00:36,712] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-8  | - admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true   |
| [2012-03-28 17:00:36,712] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-8  | - admin - IBSSOperation.opSchedule: true             |
| [2012-03-28 17:00:36,712] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-8  | - admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true      |
| [2012-03-28 17:00:36,745] | INFO  | CasterViewController                     | http-8080-12 | - admin - returning view with Wed Mar 28 17:00:36 E  |
| [2012-03-28 17:00:36,745] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-12 | - admin - returning view getServletPath /ui-lo.rc    |
| [2012-03-28 17:00:36,745] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-12 | - admin - returning view getRequestURL http://local  |
| [2012-03-28 17:00:36,745] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-12 | - admin - returning view appName tools/rcaster/reso  |
| [2012-03-28 17:00:36,745] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-12 | - admin - returning view att IBINF SES AUTH_TOKEN =  |
| [2012-03-28 17:00:36,745] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true   |
| [2012-03-28 17:00:36,745] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opSchedule: true             |
| [2012-03-28 17:00:36,745] | DEBUG | CasterViewController                     | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true      |
| [2012-03-28 17:00:36,765] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true   |
| [2012-03-28 17:00:36,765] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opSchedule: true             |
| [2012-03-28 17:00:36,765] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true      |
| [2012-03-28 17:00:38,264] | INFO  | BIP_EntityManagerHelper                  | http-8080-8  | - admin - finding BIP UserProfile instance with prog |
| [2012-03-28 17:00:50,241] | DEBUG | CommandController                        | http-8080-12 | - admin - Creating new command of class [com.ibi.ca  |
| [2012-03-28 17:00:50,311] | DEBUG | CasterEMF                                | http-8080-12 | - admin - Clear Caster cache from EntityManagerFact  |
| [2012-03-28 17:00:50,341] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true   |
| [2012-03-28 17:00:50,341] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opSchedule: true             |
| [2012-03-28 17:00:50,341] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-12 | - admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true      |
| [2012-03-28 17:00:50,436] | DEBUG | CommandController                        | http-8080-5  | - admin - Creating new command of class [com.ibi.ca  |
| [2012-03-28 17:00:50,436] | DEBUG | tStandardReportPropertiesByIdCmdProducer | http-8080-5  | - admin - ibfsId: untitled[app]80582554.fex          |
| [2012-03-28 17:00:50,446] | DEBUG | CasterEMF                                | http-8080-5  | - admin - Clear Caster cache from EntityManagerFact  |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: FOCFOCEXEC                           |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: FOCXURL                              |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: FOCHTMLURL                           |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: GOOGLEMAPSAPIKEY                     |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: WF TITLE                             |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - IBFSAmperVarType: set                      |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: FOCREL                               |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: EXCELSESVURL                         |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: ECHO                                 |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - IBFSAmperVarType: system                   |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - name: RepCols                              |
| [2012-03-28 17:00:50,861] | DEBUG | ScheduleUtils                            | http-8080-5  | - admin - IBFSAmperVarType: unresolved               |
| [2012-03-28 17:00:50,881] | DEBUG | CasterMetadataInterceptor                | http-8080-5  | - admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true   |



# Distribution Server スタートアップ トレースファイル

スケジュールトレースを有効にすると、次の Distribution Server のコアトレースファイルが `ibi\WebFOCUS93\ReportCaster\trc` ディレクトリに作成されます。Distribution Server の新しいインスタンス開始時に、これらのトレースファイルが以前のトレースファイルと置き換わります。

- **main.trc** Distribution Server のメインスレッドにより処理されるコマンドをトレースします。これらのコマンドには、初期化、シャットダウン、ジョブの即時実行があります。
- **reader.trc** Distribution Server のスケジュールチェックをトレースします。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。
- **disp.trc** Distribution Server と WebFOCUS Reporting Server 間のスレッドをトレースします。最大スレッド数は、ReportCaster 構成ツールの [最大スレッド] の設定で定義します。デフォルトのスレッド数は 3 です。
- **console.trc** ReportCaster API および ReportCaster Servlet と Distribution Server との通信をすべてトレースします。

## スケジュールトレースおよびレポート トレース

Distribution Server スケジュールトレースを有効にするには、コンソールの [構成] タブで [Distribution Server] フォルダ下の [その他の設定] フォルダを選択し、[スケジュールジョブトレース] を [スケジュール] (レポートトレースも有効にする場合は [スケジュールとレポート]) に設定します。

ReportCaster では、オンデマンドでスケジュールを実行する場合に、スケジュールごとに [スケジュール] または [スケジュールとレポート] のトレースを有効にすることもできます。スケジュールを実行する際は、ReportCaster 構成ツールで指定したスケジュールトレース設定が、そのスケジュールのみの設定を変更するオプションとともに表示されます。



# 特定のジョブに関連付けられたトレースファイル

[スケジュールジョブトレース] パラメータを [スケジュール] に設定した場合、ReportCaster が生成するトレースファイルに、実行中の特定のジョブに関連する ReportCaster Distribution Server 情報が記録されます。次のトレースファイルがジョブごとに作成され、¥ibi¥WebFOCUS93¥ReportCaster¥trc¥Jobid ディレクトリに格納されます。ファイル名には一意のジョブプロセス ID (Jobid) が付けられます。

- **Jobid.trc** (例、J0ud2a6kqk01.trc) ジョブの実行に関連した情報がすべて格納されます。スケジュールプロシジャ、配信情報、ログ作成とそのコンテンツに関する情報が格納されます。[スケジュールとレポート] トレースを選択した場合、このファイルには、WebFOCUS Reporting Server から返信されたレポートも含まれます。
- **procedure.log** 配信情報、レポートパラメータ (存在する場合)、実行前プロシジャおよび実行後プロシジャ (存在する場合)、プロシジャコード (WebFOCUS レポート レポートの場合)、または -INCLUDE FOCEXEC (サーバプロシジャの場合) が格納されます。
- **Jobid.err** プロセスエラーが発生した場合、ReportCaster により、レポートの配信が失敗した原因に関連する情報を記述した jobid.err ファイルが作成されます。トレースファイルを表示する際は、\*.err ファイルを検索することをお勧めします。
- **DistRun.trace** IBFS トレース情報が格納されます。
- **DistRun.html** レポートの .html バージョンが格納されます。
- **session.log** IBFS セッションに関する情報が格納されます。

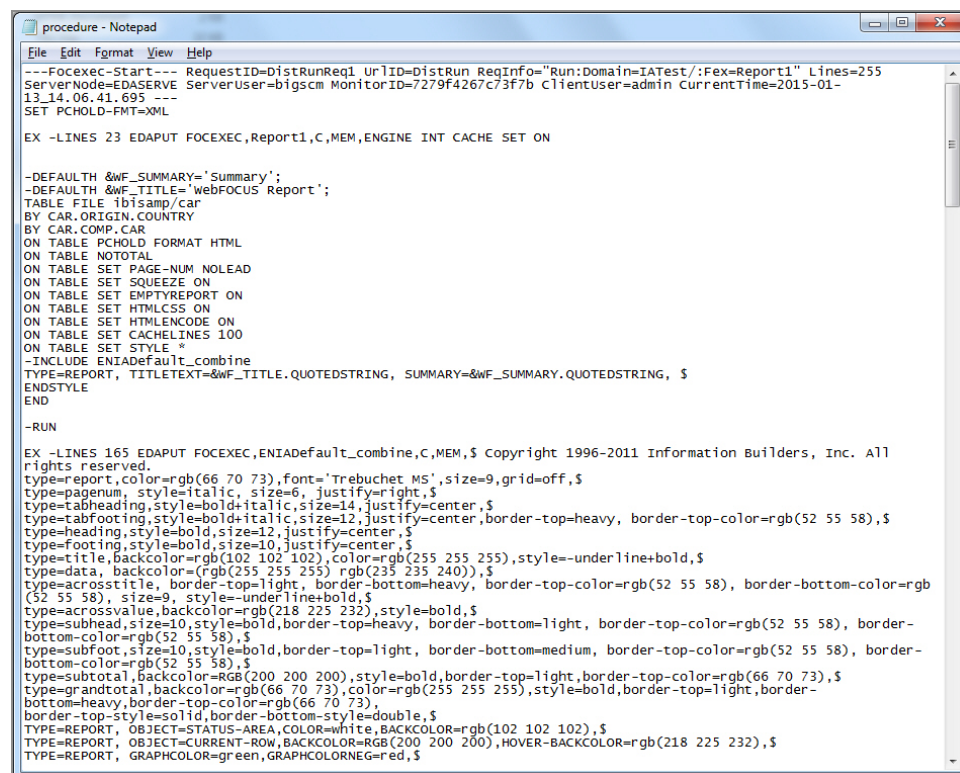
**注意：**ターゲットジョブのジョブプロセス ID は、ログレポートを実行することで特定できます。ログレポートについての詳細は、[スケジュールのトラッキング](#)または[ジョブログ](#)を参照してください。ジョブプロセス ID は「J」で始まり、その後に一連の乱数と小文字が続きます。

## スケジュールトレースファイルの使用

以下は、ジョブ ID が reportcaster.log\_2011-12-20.log のスケジュールトレースファイルの一部を示しています。reportcaster.log\_2011-12-20.log ファイルには、ワークスレッドの開始日時、スケジュール済みジョブに関連付けられたパラメータ、リポジトリの接続情報が記述されています。

# プロシジャログファイル

次のスケジュールトレースファイルは、プロシジャログファイルに関連するプロシジャを示しています。



```

---Procexec-Start--- RequestID=DistRunReq1 URLID=DistRun ReqInfo="Run:Domain=IATest/:Fex-Report1" Lines=255
ServerNode=EDASERVE ServerUser=bigscm MonitorID=7279f4267c73f7b ClientUser=admin CurrentTime=2015-01-
13_14.06.41.695 ---
SET PCHOLD-FMT=XML

EX -LINES 23 EDAPUT FOCEXEC,Report1,C,MEM,ENGINE INT CACHE SET ON

--DEFAULTH &wF_SUMMARY='Summary';
--DEFAULTH &wF_TITLE='webFOCUS Report';
TABLE FILE ibisamp/car
BY CAR.ORIGIN,COUNTRY
BY CAR.COMP,CAR
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET PAGE-NUM NOLEAD
ON TABLE SET SQUEEZE ON
ON TABLE SET EMPTYREPORT ON
ON TABLE SET HTMLCSS ON
ON TABLE SET HTMLENCODING ON
ON TABLE SET CACHELINES 100
ON TABLE SET STYLE *
--INCLUDE ENIADefault_combine
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&wF_TITLE.QUOTEDSTRING, SUMMARY=&wF_SUMMARY.QUOTEDSTRING, $
ENDSTYLE
END

--RUN

EX -LINES 165 EDAPUT FOCEXEC,ENIADefault_combine,C,MEM,$ Copyright 1996-2011 Information Builders, Inc. All
rights reserved.
type=report,color=rgb(66 70 73),font='Trebuchet MS',size=9,grid=off,$
type=pagenum,style=italic,size=6,justify=right,$
type=tabheading,style=bold+italic,size=14,justify=center,$
type=tabfooting,style=bold+italic,size=12,justify=center,border-top=heavy,border-top-color=rgb(52 55 58),$
type=heading,style=bold,size=12,justify=center,$
type=footing,style=bold,size=10,justify=center,$
type=title,backcolor=rgb(102 102 102),color=rgb(255 255 255),style=underline+bold,$
type=data,backcolor=rgb(255 255 255) rgb(235 235 240),$
type=acrosstitle,border-top=light,border-bottom=heavy,border-top-color=rgb(52 55 58),border-bottom-color=rgb
(52 55 58),size=9,style=underline+bold,$
type=acrossvalue,backcolor=rgb(218 225 232),style=bold,$
type=subhead,size=10,style=bold,border-top=heavy,border-bottom=light,border-top-color=rgb(52 55 58),border-
bottom-color=rgb(52 55 58),$
type=subfoot,size=10,style=bold,border-top=light,border-bottom=medium,border-top-color=rgb(52 55 58),border-
bottom-color=rgb(52 55 58),$
type=subtotal,backcolor=rgb(200 200 200),style=bold,border-top=light,border-top-color=rgb(66 70 73),$
type=grandtotal,backcolor=rgb(66 70 73),color=rgb(255 255 255),style=bold,border-top=light,border-
bottom=heavy,border-top-color=rgb(66 70 73),
border-top-style=solid,border-bottom-style=double,$
TYPE=REPORT, OBJECT=STATUS-AREA,COLOR=white,BACKCOLOR=rgb(102 102 102),$
TYPE=REPORT, OBJECT=CURRENT-ROW,BACKCOLOR=rgb(200 200 200),HOVER-BACKCOLOR=rgb(218 225 232),$
TYPE=REPORT, GRAPHCOLOR=green,GRAPHCOLORNEG=red,$

```

# トレースエラーファイル

ReportCaster に予測外のエラーや異常終了が発生した場合は、次のエラーファイルが作成されます。

- **console.err** コンソールの終了時に作成されます。
- **disp.err** ディスパッチャの終了時に作成されます。
- **main.err** メインスレッドの終了時に作成されます。
- **reader.err** リーダの終了時に作成されます。
- **Jobid.err** ジョブの処理でのエラー発生時に作成されます。

# スケジュールトレースファイルのクリーンアップ

スケジュールトレースの設定をオフにした場合、Distribution Server の %temp ディレクトリ内のファイルとフォルダ、および %trc ディレクトリ内のスケジュールトレースファイル (J\*.\*) は、Distribution Server の起動時に削除されます。このため、これらのファイルを保持するには、ファイルのバックアップを作成するか、スケジュールトレースを有効にします。スケジュールトレースを有効にするには、ReportCaster 構成ツールで [スケジュールジョブトレース] の値を [スケジュール] または [スケジュールとレポート] に設定します。

## Resource Analyzer のサポート

ReportCaster は Resource Analyzer をサポートします。ReportCaster は、サーバプロセスまたは WebFOCUS レポートを実行する際に、WebFOCUS Reporting Server にコマンドを送信します。Resource Analyzer は、これらのコマンドを取得して、ReportCaster から配信される出力の作成時に使用されたリソースをモニタします。Resource Analyzer を使用していない場合は、コマンドは Reporting Server で無視されます。

スケジュールのトレース機能が ReportCaster で有効な場合、特定のジョブの [スケジュールトレース] ファイル内のコマンドを表示することができます。

## ibi WebFOCUS ReportCaster ジョブトレースファイルのダウンロード

スケジュールの実行後またはジョブログの削除、ReportLibrary の削除、スケジュールの削除のいずれかの機能の使用後に、ReportCaster ステータスに保存された対応するジョブログを選択し、各ジョブで作成されたトレースファイルをダウンロードすることができます。

# ibi WebFOCUS ReportCaster ジョブ トレースファイルをダウンロードするには

## 手順

1. スケジュールを実行するか、ジョブログの削除、ReportLibrary の削除、スケジュールの削除機能のいずれかを使用します。

**注意：**ReportCaster ジョブのトレースファイルを取得するには、このジョブのトレースを有効にしておく必要があります。

詳細は、以下を参照してください。

- [ベーシックスケジュールツールの概要](#)
- [アドバンススケジュールツールのクイックアクセスツールバー](#)
- [ジョブログの削除](#)
- [ReportCaster の構成](#)

2. ReportCaster ステータスを開きます。リボンの [表示] グループで、[ジョブログ] ボタンをクリックします。
3. [ジョブログ] ウィンドウで、表示するジョブログが格納されたフォルダを選択します。右側のウィンドウに、ジョブログが表示されます。
4. ジョブログをクリックします。
5. リボンの [ジョブログの管理] グループで、[トレースの表示] ボタンの下向き矢印をクリックします。  
[トレースファイルのダウンロード] メニューオプションが表示されます。
6. [トレースファイルのダウンロード] オプションを選択します。

Windows の [保存] ダイアログボックスが表示されます。ここで、トレースファイルをユーザのマシンに保存することができます。ログのジョブ ID が、開くまたは保存する ZIP ファイルの名前になります。

## Distribution Server 初期化トレース

scheduler.log トレースファイルは、常に ¥ibi¥WebFOCUS93¥ReportCaster¥log ディレクトリ内に作成されます。このファイルは、Distribution Server の初期化をトレースし、

ReportCaster 構成ツールで有効にしたオプションを表示します。また、ログファイルに書き込まれた情報も表示します。

Distribution Server がインストールされ、Windows サービスとして開始されると、次のファイルが生成されます。

- **service.log** サービスのインストール時に作成されます。
- **commons-daemon.log** サービスの開始と終了をトラッキングします。
- **wf93-stdout.log** さまざまな Distribution Server が開始されたことを示します。
- **wf93-stderr.log** サービスの潜在的な問題に関する情報が記録されます。

**注意：**同日中に複数の scheduler.log ファイルが作成されると、ReportCaster が日付時間スタンプを使用して、インスタンスごとに一意のファイルを作成します。使用されるフォーマットは、scheduler\_DD-MM-YY\_HH-MM-SS です。

# scheduler.log

以下は、scheduler.log トレースファイルの一部です。

```

scheduler.log - Notepad
File Edit Format View Help
[2012-07-31 16:31:59.730] main INFO - Starting Distribution Server with parameter(s): 'C:\Install\8001\lbi\webfocus8001\Reportcaster', 'GSKPLAP:8201', 'C:\Install\8001\lbi\webfocus8001\client\wfc'
[2012-07-31 16:31:59.849] main INFO - gen info [Sequence]: gen=133
[2012-07-31 16:31:59.849] main INFO - gen info [Label]: label=arch8001
[2012-07-31 16:31:59.865] main INFO - gen info [GenDate]: date=Sun Jul 29 19:04:21 EDT 2012
[2012-07-31 16:32:06.157] main INFO - start to read the config from the Repository
[2012-07-31 16:32:06.157] main INFO - start to read the sendmode from the Repository
[2012-07-31 16:32:06.154] main INFO - repository:
<dbname><unittype>NO</unittype><targetdb>/<data_server>
<server_name>repository</server_name>
<res_auth_type>STATIC</res_auth_type>
<user_id>webfocus</user_id>
<password>[a0]NC1701A98284576922785828F7b636</password>
<jdbc_properties>
<url>jdbc:derby://127.0.0.1:1527/webfocus8001;create=true</url>
<jdbc_driver>org.apache.derby.jdbc.ClientDriver</jdbc_driver>
<jdbc_locator>exit</jdbc_locator>
<jdbc_properties>
<data_source_properties>
<url_name>
<context_factory>
<data_source_properties>
</data_source>
</repository>
[2012-07-31 16:32:06.354] main INFO - <reportcaster operational_mode="STANDALONE" type="MASTER" failover="YES" multiple="no">
<console>
<console type="MASTER">
<host_name>GSKPLAP</host_name>
<ports>8201</ports>
<caster_name>
</console>
<console type="FAILOVER">
<host_name>GSKPLAP</host_name>
<ports>8209</ports>
<caster_name>
</console>
</console>
<max_thread>3</max_thread>
<max_message>1000</max_message>
<zip_method>zip_METHOD</zip_method>
<excelserverurl>http://GSKPLAP:8080/lbi_apps_8001/excelserver</excelserverurl>
<reader_interval>1</reader_interval>
<console_reader_interval>1</console_reader_interval>
<add_zip_file_extension>YES</add_zip_file_extension>
<default_zip_file_name>NO</default_zip_file_name>
<spring_def>YES</spring_def>
<recovery>OFF</recovery>
<log_purge_start>100</log_purge_start>
<log_purge_time>100</log_purge_time>
<scan_back_type>NO</scan_back_type>
<scan_back>1</scan_back>
<mail_host>lbihost</mail_host>
<notify_mail_host>
</notify_mail_host>
<hold_repository_connection>YES</hold_repository_connection>
<code_page>
<zip_encoding>GBK</zip_encoding>
<packet_mail>YES</packet_mail>
<packet_mail_byburst>
<trace>YES</trace>
<report_trace>NO</report_trace>
<write_stdout_exit>
</write_stdout_exit>
<email_domain>
</email_domain>
<email_restrict_domain>
</email_restrict_domain>
<email_retry_interval>60</email_retry_interval>
<process_warning_codes>99,90,737,837,36359</process_warning_codes>
<zip_condition_size>zip_condition_size
<zip_condition_size_type>NO</zip_condition_size_type>
<zip_directory>
</zip_directory>
<ftp_index>
</ftp_index>
<log_purge_start>NO</log_purge_start>
<zip_password_plugin_status>0</zip_password_plugin_status>
<zip_password_plugin>lbi_broker.scheduler.plugin.SchemaInBasedPassword</zip_password_plugin>
<job_listener>
</job_listener>
<save_ondemand_schedule>NO</save_ondemand_schedule>
<syncronize_server_status_with_db>YES</syncronize_server_status_with_db>
</reportcaster>
[2012-07-31 16:32:06.479] main INFO - ReportCaster Repository Release Validation:ReportCaster Repository tables confirmed to be at the 8.0.01 release level.
[2012-07-31 16:32:06.479] main INFO - Distribution Server initialization completed.
[2012-07-31 16:32:06.479] main INFO - Starting thread
[2012-07-31 16:32:06.479] main INFO - Starting console thread
[2012-07-31 16:32:06.479] main INFO - Console ready
[2012-07-31 16:32:06.479] main INFO - ReportCaster Server startup complete, MODE: STANDALONE, TYPE: MASTER)
[2012-07-31 16:32:06.479] main INFO - Add Shutdownhook to JVM Runtime
[2012-07-31 16:32:06.479] main INFO - Synchronizer ready
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - Stop all the running processes
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - Stop the running processes on EDASERVE
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - Begin to Stop DataServer EDASERVE
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - DTC code 31033
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - Starting reader thread
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - Reader ready
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - Starting dispatcher thread
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - Dispatcher ready
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - Switched to full function mode from failover by the server status synchronization
[2012-07-31 16:34:01.068] reportcaster.dsstatusreader INFO - The server status: 346

```

# ibi WebFOCUS Reporting Server のト レース

WebFOCUS Reporting Server トレースは、ジョブの実行と配信に関する情報を提供します。サーバトレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. WebFOCUS Reporting Server コンソールにアクセスします。
2. [ツール] メニューから [ワークスペース] を選択し、ナビゲーションウィンドウの [ログとトレース] を展開して [トレース] を右クリックします。
3. [トレースを有効にする] をクリックします。

# ReportCaster レポートコーディング上のヒントとテクニック

---

ここでは、既存の WebFOCUS レポートの評価や、ReportCaster によるスケジュールおよび配信の要件を満たす新しいレポートの開発のためのヒントとテクニックを提供します。

HTML およびグラフ出力として配信されるレポートの最適なコーディング方法を紹介するほか、-HTMLFORM や GRAPH FILE などの WebFOCUS コマンドを使用した例についても説明します。

## ibi WebFOCUS プロシジャの編集

ReportCaster を使用してスケジュールする WebFOCUS プロシジャの編集には、「ワードパッド」ではなく、「メモ帳」を使用することをお勧めします。「ワードパッド」では、行末にブランクが追加されるため、WebFOCUS は適切に解析することができないためです。これは、特に切り取りと貼り付けによる編集時に発生する可能性があります。

## アンパサンド (&) または一重引用符 (') の使用

ReportCaster では、次のテキストボックスで、アンパサンド (&) および一重引用符 (') を使用することができます。

- タイトル
- Email の件名および送信者
- (WebFOCUS からスケジュールされた) FTP レポート名
- WebFOCUS リポジトリフォルダ名
- 通知の件名

**変数値内でのアンパサンド (&) の使用** 文字列内のアンパサンド (&) とその次の文字の間に連結記号 (|) を入力します。以下はその例です。

```
-SET &COMPANY='AT&|T';  
-TYPE &COMPANY
```

**変数値内での一重引用符 (') の使用** 値に一重引用符 (') が 1 つ含まれているときは、一重引用符 (') を 2 つ使用します (例、O'Brien)。引用符で囲まれた文字列では、2 つの一重引用符 (') は、1 つの一重引用符 (') として認識されます。

**注意：**この方法をお勧めしますが、CTRAN サブルーチンを使用して、文字を変更することもできます。

## CTRAN による文字の変換

```
CTRAN (inlen, infield, decfrm, decto, output)
```

説明

### inlen

入力文字列の文字数を指定する整数です。

### infield

英数入力文字列です。

### decfrm

変換される文字の 10 進数の値です。

### decto

decfrm の代替文字として使用される 10 進数の値です。

### output

英数文字列の出力結果です。

このサブルーチンを使用するには、内部マシン表現での文字の 10 進数値を把握する必要があります。印刷可能な EBCDIC 文字、ASCII 文字、およびその 10 進数の値は、文字コード表に記載されています。



## CTRAN による一重引用符 (') から二重引用符 (") への変換

次のコードを使用することにより、一重引用符 (') を二重引用符 (") に変換することができます。

```
TABLE FILE TRAIN
PRINT TRAIN AND COMPUTE
ALT_MOD/A20 = CTRAN(20, MODEL, 39, 34, ALT_MOD);
BY COUNTRY
END
```

## HTML レポートおよびドリルダウンレポート

配信する HTML レポートまたはドリルダウンレポートに Web サーバまたは Application Server 上のコンテンツへの参照が含まれている場合は、スケジュールするプロシジャに FOCHTMLURL コマンド (WebFOCUS レポートプロシジャで使用) または BASEURL コマンドを使用して、完全修飾 URL を指定する必要があります。完全修飾 URL を指定することで、レポートを表示するユーザが、WebFOCUS Client がインストールされている、または参照するコンテンツが存在する Web サーバまたは Application Server 上のコンテンツにアクセスできるようになります。その結果、HTML レポートまたはドリルダウンレポートの実行、イメージの表示、ハイパーリンクの解決、外部 CSS の適用が可能になります。

**注意：**ユーザがレポートを受信するには、外部 CSS ファイルが完全修飾され、アクセス可能である必要があります。

ドリルダウンレポートを実行するには、Web サーバと WebFOCUS Reporting Server にアクセスする必要があります。WebFOCUS Reporting Server がセキュアモードで稼動している場合、ユーザがレポートを実行するためには、有効なユーザ ID とパスワードが必要です。ユーザが有効な実行 ID とパスワードを持たない場合、認証メッセージが表示されます。

ドリルダウンをコーディングする際は、ホスト名に「localhost」は使用しないでください。localhost がホスト名に指定されると、ユーザマシンへのレポートの送信時には、ユーザのログイン先のマシンが参照されます。ドリルダウンリクエストを実行するには、WebFOCUS Client がインストールされている Application Server のホスト名にリクエストを送信する必要があります。

# ポップアップ説明表示のためのコーディング要件

ReportCaster を使用してポップアップフィールド説明付きの HTML レポートを配信するには、WebFOCUS Client 内にある JavaScript コンポーネントを使用する必要があります。ReportCaster で配信するレポートからこれらのコンポーネントにアクセスするには、スケジュールするプロシジャに SET FOCHTMLURL コマンドを含める必要があります。このコマンドには、デフォルト値の /ibi\_apps/ibi\_html ではなく、絶対 URL を設定します。

以下はその例です。

```
SET FOCHTMLURL = http://hostname[:port]/ibi_apps/ibi_html
```

## 説明

### hostname[:port]

WebFOCUS Web アプリケーションの展開先のホスト名とオプションのポート番号です。ポート番号はデフォルト値以外を使用している場合に入力します。

### ibi\_apps/ibi\_html

WebFOCUS93\ibi\_html ディレクトリのサーバエイリアスです。この値はサイトにより異なります。

## -HTMLFORM の使用

展開環境では、-HTMLFORM コマンドを使用することで、プロシジャに HTML コマンドを含めることができます。これにより、Web ページの機能が拡張されます。Web ページには、標準の HTML 要素 (例、文字スタイル、ハイパーリンク、グラフィメージ、テーブル、フォーム、フレーム) をすべて使用することができます。このコンテンツは、必要な機能を内蔵する 1 組のアンサーセットである必要があります。

## -HTMLFORM の使用と HTML ページでの 2 つの表形式レポートの表示

```
TABLE FILE CENTORD
SUM
  LINEPRICE
BY
  PRODCAT AS 'Product Category'
HEADING
" "
" "
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT HTML
ON TABLE SET STYLE *
.....
.....
ENDSTYLE
```

```
ON TABLE HOLD AS HOLD1 FORMAT HTMTABLE
END
TABLE FILE CENTORD
SUM LINEPRICE AS 'Sales'
BY STORE_CODE AS 'Store'
BY PRODCAT AS 'Category'
WHERE STORE_CODE EQ '4003NY' OR
STORE_CODE EQ '1003CA'
HEADING
" "
" "
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT HTML
ON TABLE SET STYLE *
.....
.....
ENDSTYLE
```

```
ON TABLE HOLD AS HOLD2 FORMAT HTMTABLE
END
-HTMLFORM SALES
```

-HTMLFORM コマンドにより、WebFOCUS Reporting Server パスに存在する .HTM ファイルが実行されます。下図の例では、HTML ページに 2 つの表形式レポートが表示されています。この HTML ページは、下図のとおり配信されます。

| <b>Century Corp Sales Analysis</b> |                   |                                            |                        |                 |
|------------------------------------|-------------------|--------------------------------------------|------------------------|-----------------|
| <b>Sales by Category</b>           |                   | <b>Sales By Category For Select Stores</b> |                        |                 |
| <b>Product Category</b>            | <b>Line Total</b> | <b>Store</b>                               | <b>Category</b>        | <b>Sales</b>    |
| CD Players                         | \$85,034,454.74   | 1003CA                                     | CD Players             | \$555,790.98    |
| Camcorders                         | \$739,819,546.58  |                                            | Camcorders             | \$8,755,177.98  |
| Cameras                            | \$24,856,684.65   |                                            | Cameras                | \$361,298.05    |
| DVD                                | \$112,057,864.09  |                                            | DVD                    | \$2,821,530.46  |
| Digital Tape Recorders             | \$81,204,933.20   |                                            | Digital Tape Recorders | \$1,854,704.60  |
| PDA Devices                        | \$490,694,824.12  |                                            | PDA Devices            | \$11,502,951.64 |
| VCRs                               | \$59,954,512.81   |                                            | VCRs                   | \$700,307.48    |
|                                    |                   | 4003NY                                     | CD Players             | \$264,394.76    |
|                                    |                   |                                            | Camcorders             | \$2,306,444.02  |
|                                    |                   |                                            | Cameras                | \$173,836.22    |
|                                    |                   |                                            | DVD                    | \$1,621,890.92  |
|                                    |                   |                                            | Digital Tape Recorders | \$679,284.00    |
|                                    |                   |                                            | PDA Devices            | \$4,164,274.76  |
|                                    |                   |                                            | VCRs                   | \$33,866.80     |

## ReportCaster による目次レポートの配信

動的 HTML を基準とする TOC (目次) を追加して、大規模な HTML レポートの内部ナビゲーション機能を拡張することができます。この機能を活用するには、少なくとも 1 つの BY フィールドを、レポートに含める必要があります。レポートに複数の BY フィールドが含まれている場合、目次の階層は、リクエストで BY フィールドが指定された順序に基づいて決定されます。下位のソートフィールドに TOC を追加する場合は、その親にも TOC を追加する必要があります。

TOC には、最上位の BY フィールドのすべての値と、TOC オプションが指定された下位の BY フィールドの値が、ハイパーリンクとして表示されます。リクエストで特に指定しない限り、最上位のソートフィールドが変更されたところで、新しいページが開始します。

### 注意

- ReportCaster では、TOC を有効にしたレポートのバーストはサポートされません。
- 複数レポートの制御機能は、『ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』の「複数レポートの制御」に記載されていますが、この機能は ReportCaster ではサポートされません。
- TOC が有効なレポートのサイズは、WebFOCUS Client のメモリサイズにより制限されます。

## ReportCaster による目次レポートの配信

ReportCaster を使用して目次 (TOC) レポートを配信するには、プロシ ज्याに次のコードを追加します。

```
SET BASEURL=http://hostname[:port]
```

説明

### hostname[:port]

WebFOCUS Web アプリケーションの展開先のホスト名とオプションのポート番号です。ポート番号はデフォルト値以外を使用している場合に入力します。

### ibi\_apps/ibi\_html

サイトごとに異なる WebFOCUS93¥ibi\_apps¥ibi\_html ディレクトリの Web サーバエイリアスです。ここで、ibi\_apps/ibi\_html はデフォルト値です。

以下はその例です。

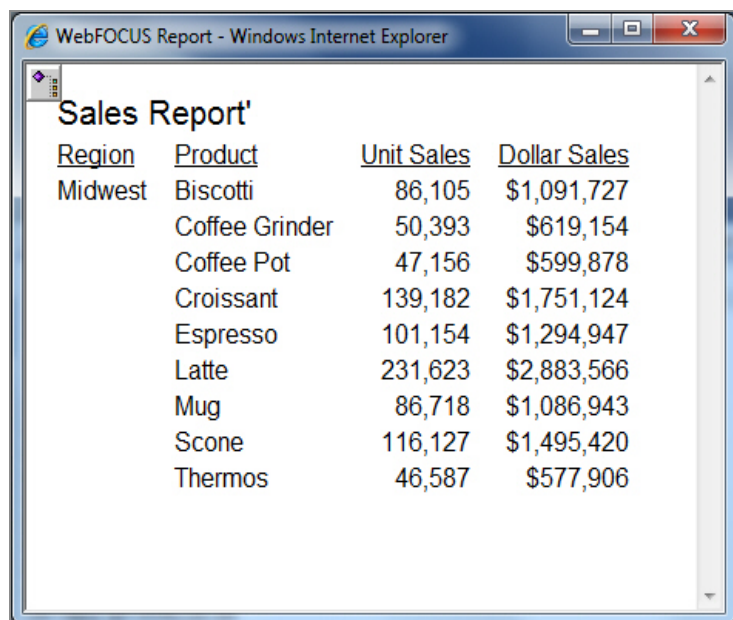
```
SET BASEURL=http://server1:8080/
TABLE FILE GGSALES
HEADING
"Sales Report"
SUM GGSALES.SALES01.UNITS/I08C
GGSALES.SALES01.DOLLARS/I08M
BY GGSALES.SALES01.REGION
BY GGSALES.SALES01.PRODUCT
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET PAGE-NUM NOLEAD
ON TABLE SET SQUEEZE ON
ON TABLE SET EMPTYREPORT ON
```

```

ON TABLE SET HTMLCSS ON
ON TABLE SET HTMLENCODE ON
ON TABLE SET STYLE *
TYPE=REPORT, GRID=OFF, FONT=ARIAL, SIZE=12,$
TYPE=HEADING, SIZE=16, $
ENDSTYLE
ON TABLE SET COMPOUND BYTOC
END

```

下図は、HTML レポートを示しています。ダイナミック HTML ベースの TOC が左上部に表示されています。このレポートは、作成後に ReportCaster で配信することができます。



The screenshot shows a web browser window titled "WebFOCUS Report - Windows Internet Explorer". Inside the browser, there is a report titled "Sales Report'". The report contains a table with four columns: "Region", "Product", "Unit Sales", and "Dollar Sales". The data is for the "Midwest" region and lists various products with their respective unit and dollar sales figures.

| Region  | Product        | Unit Sales | Dollar Sales |
|---------|----------------|------------|--------------|
| Midwest | Biscotti       | 86,105     | \$1,091,727  |
|         | Coffee Grinder | 50,393     | \$619,154    |
|         | Coffee Pot     | 47,156     | \$599,878    |
|         | Croissant      | 139,182    | \$1,751,124  |
|         | Espresso       | 101,154    | \$1,294,947  |
|         | Latte          | 231,623    | \$2,883,566  |
|         | Mug            | 86,718     | \$1,086,943  |
|         | Scone          | 116,127    | \$1,495,420  |
|         | Thermos        | 46,587     | \$577,906    |

## EXL2K 目次レポートの配信

WebFOCUS レポートで EXL2K 目次 (TOC) を生成するレポートを作成し、このレポートを ReportCaster で配信すると、最初のシートのみが作成されます。これは、ReportCaster が BYTOC リクエストを正しく処理していないためです。この場合、BYTOC リクエストが正しく処理されるよう SET ONLINE-FMT=EXL2K を追加して、この問題を解決することができます。以下はその例です。

```

SET BASEURL=http://server1:8080/
SET COMPOUND=BYTOC
SET ONLINE-FMT=EXL2K

```

```
TABLE FILE GGSALES
SUM GGSALES.SALES01.UNITS/I08C
GGSALES.SALES01.DOLLARS/I08M
BY GGSALES.SALES01.REGION
BY GGSALES.SALES01.PRODUCT
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE SET BYDISPLAY ON
ON TABLE NOTOTAL
END
```

下図は、SET ONLINE-FMT=EXL2K を指定した場合の EXL2K レポートを示しています。レポートの下部に、地域別のタブが表示されています。

|                                                                                                                                 | A       | B              | C          | D            |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----------------|------------|--------------|--|
| 1                                                                                                                               | Region  | Product        | Unit Sales | Dollar Sales |  |
| 2                                                                                                                               | Midwest | Biscotti       | 86,105     | \$1,091,727  |  |
| 3                                                                                                                               | Midwest | Coffee Grinder | 50,393     | \$619,154    |  |
| 4                                                                                                                               | Midwest | Coffee Pot     | 47,156     | \$599,878    |  |
| 5                                                                                                                               | Midwest | Croissant      | 139,182    | \$1,751,124  |  |
| 6                                                                                                                               | Midwest | Espresso       | 101,154    | \$1,294,947  |  |
| 7                                                                                                                               | Midwest | Latte          | 231,623    | \$2,883,566  |  |
| 8                                                                                                                               | Midwest | Mug            | 86,718     | \$1,086,943  |  |
| 9                                                                                                                               | Midwest | Scone          | 116,127    | \$1,495,420  |  |
| 10                                                                                                                              | Midwest | Thermos        | 46,587     | \$577,906    |  |
| 11                                                                                                                              |         |                |            |              |  |
| 12                                                                                                                              |         |                |            |              |  |
| <div> <span>◀</span> <span>▶</span> <span>Midwest</span> <span>Northeast</span> <span>Southeast</span> <span>West</span> </div> |         |                |            |              |  |

## データのグラフ化

HTML レポートをより強力にするため、選択したデータのグラフを直接レポート出力に挿入することができます。これらの視覚的な表現は、データ間の関係や動向をより明確にする縦または横のピアグラフ形式で表されます。ピアグラフは、WebFOCUS レポートまたは サーバプロセスで使用可能です。

たとえば、次のコードは、CENTHR データソースから情報を取得します。

```
SET BASEURL=http://hostname[:port]/
TABLE FILE CENTHR
SUM EMP_COUNT
BY PLANT
ON TABLE SET STYLE * GRAPHTYPE=DATA, FIELD=EMP_COUNT, GRAPHCOLOR=RED,$
END
```

## 説明

**hostname[:port]**

WebFOCUS Web アプリケーションの展開先のホスト名とオプションのポート番号です。ポート番号はデフォルト値以外を使用している場合に入力します。

**ibi\_apps/ibi\_html**

サイトごとに異なる WebFOCUS93¥ibi\_apps¥ibi\_html ディレクトリの Web サーバエイリアスです。ここで、ibi\_apps/ibi\_html はデフォルト値です。

出力結果は、下図のようなグラフフォーマットで表示されます。この出力を、ReportCaster で配信することができます。

| PAGE 1         |                |             |
|----------------|----------------|-------------|
| Plant Location | Employed Count |             |
| BOS            | 18             | <div></div> |
| DAL            | 25             | <div></div> |
| LA             | 58             | <div></div> |
| ORL            | 30             | <div></div> |
| SEA            | 14             | <div></div> |
| STL            | 6              | <div></div> |

## ibi WebFOCUS がインストールされていない Web サーバでピアグラフを表示するには

WebFOCUS がインストールされていない Web サーバでピアグラフファイルを使用するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 現在の ReportCaster 構成に応じて、Web サーバ上で /ibi\_html または ibi\_apps/ibi\_html のエイリアスを作成します。



WebFOCUS /ibi\_html エイリアスの作成についての詳細は、使用するプラットフォームの『ibi™ WebFOCUS® インストールガイド』を参照してください。

2. %ibi\_html ディレクトリ配下に vis サブディレクトリを作成します。
3. WebFOCUS Client がインストールされている Application Server から、GIF ファイルを *outside*%vis% ディレクトリにコピーします。*outside* は、WebFOCUS がインストールされていない Web サーバの名前です。
4. 配信レポートを作成するプロシジャ内で、「SET BASEURL=http://*outside*/」を実行します。

## GRAPH FILE コマンドの使用

TABLE FILE コマンドを GRAPH FILE コマンドに置き換えることにより、ほとんどの TABLE リクエストは、GRAPH リクエストに変換することができます。ただし、グラフフォーマットの性質による制限はあります。この方法で TABLE リクエストを変換すると、グラフのフォーマットおよびレイアウトは、リクエストの本文を構成するさまざまな句により決定されます。GRAPH FILE リクエストによって作成されたグラフのタイプは、使用した表示コマンド (SUM または PRINT) およびソート句 (ACROSS または BY) により異なります。

WebFOCUS で使用される内部グラフエンジンは、ReportCaster Distribution Server に統合されています。したがって、ReportCaster Distribution Server に GRAPH FILE リクエストのデータが返されると、グラフが作成され、配信されます。GRAPH FILE コマンドを使用する際は、ReportCaster Distribution Server にデータを返すためには、コマンドに SET GRAPHEDIT=SERVER 構文を含める必要があります。バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。ReportCaster スケジュールを作成するときは、グラフィックイメージフォーマット (GIF、PNG、SVG) のいずれかを指定する必要があります。

**注意：**見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、WebFOCUS InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信されるイメージファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。

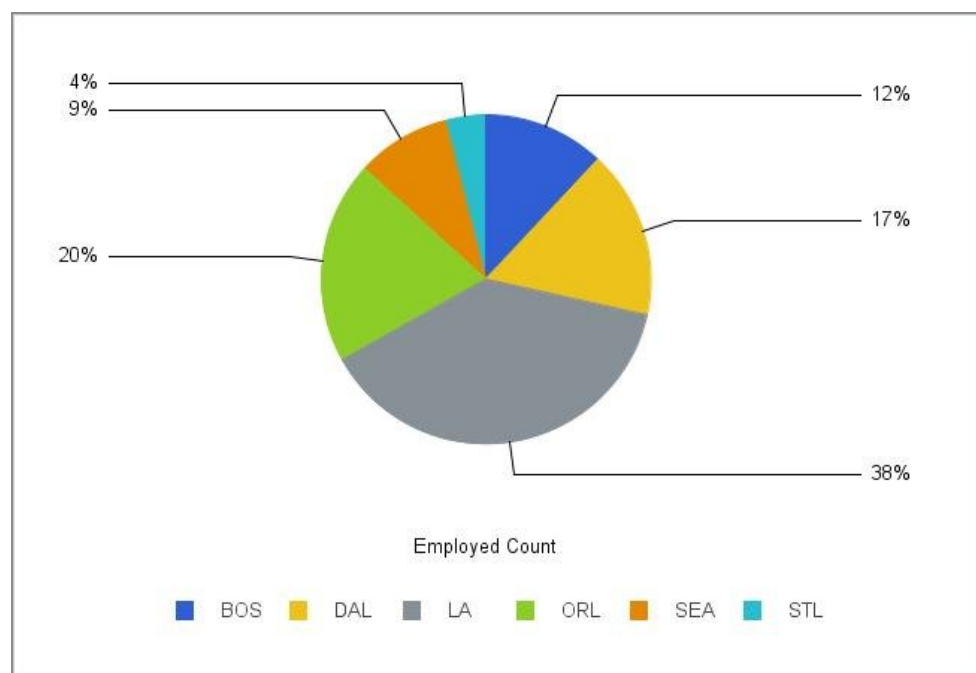
## 円グラフを出力表示するレポートの作成

WebFOCUS InfoAssist を使用して、出力を円グラフとして表示するレポートを作成することができます。

```
-DEFAULTH &WF_STYLE_UNITS='PIXELS';
-DEFAULTH &WF_STYLE_HEIGHT='405.0';
-DEFAULTH &WF_STYLE_WIDTH='770.0';
-DEFAULTH &WF_TITLE='WebFOCUS Report';
GRAPH FILE CENTHR
-* Created by Info Assist for Graph
SUM CENTHR.EMPSEG.EMP_COUNT
BY CENTHR.EMPSEG.PLANT
ON GRAPH PCHOLD FORMAT HTML
ON GRAPH SET HTMLENCODE ON
ON GRAPH SET GRAPHDEFAULT OFF
ON GRAPH SET ARGRAPHENGINE JSCHART
ON GRAPH SET VZERO OFF
ON GRAPH SET GRMERGE ADVANCED
ON GRAPH SET GRMULTIGRAPH 0
ON GRAPH SET GRLEGEND 0
ON GRAPH SET GRXAXIS 1
ON GRAPH SET UNITS &WF_STYLE_UNITS
ON GRAPH SET HAXIS &WF_STYLE_WIDTH
ON GRAPH SET VAXIS &WF_STYLE_HEIGHT
ON GRAPH SET GRMERGE ADVANCED
ON GRAPH SET GRMULTIGRAPH 0
ON GRAPH SET GRLEGEND 1
ON GRAPH SET GRXAXIS 0
ON GRAPH SET LOOKGRAPH PIEMULTI
ON GRAPH SET GRAPHSTYLE *
setReportParsingErrors(false);
setSelectionEnableMove(false);
setCurveFitEquationDisplay(false);
setPieDepth(0);
setPieTilt(0);
setDepthRadius(0);
setPieFeelerTextDisplay(1);
setPlace(true);
ENDSTYLE
ON GRAPH SET STYLE *
INCLUDE=IBFS:/FILE/IBI_HTML_DIR/javaassist/intl/EN/ENIADefault_combine.sty,$
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&WF_TITLE.QUOTEDSTRING, $
```

```
ENDSTYLE
END
```

下図は、ReportCaster による配信が可能な複数色の円グラフ出力の例を示しています。



## グラフィイメージを組み込んだ PDF レポートの配信

グラフィイメージを組み込んだ PDF レポートは、ReportCaster で配信することが可能です。次の手順を実行します。

1. WebFOCUS Reporting Server の一時ディレクトリにグラフを作成し、PDF レポートのヘッダまたは本文にイメージを挿入します。
2. グラフィイメージを作成し、PDF レポートに埋め込んだ後、PDF プロシジャ (FEX) を保存します。ReportCaster を使用してこのプロシジャ (FEX) のスケジュールを作成し、PDF レポートとして配信することができます。スケジュールを作成する際は、必ず PDF レポートフォーマットを選択してください。

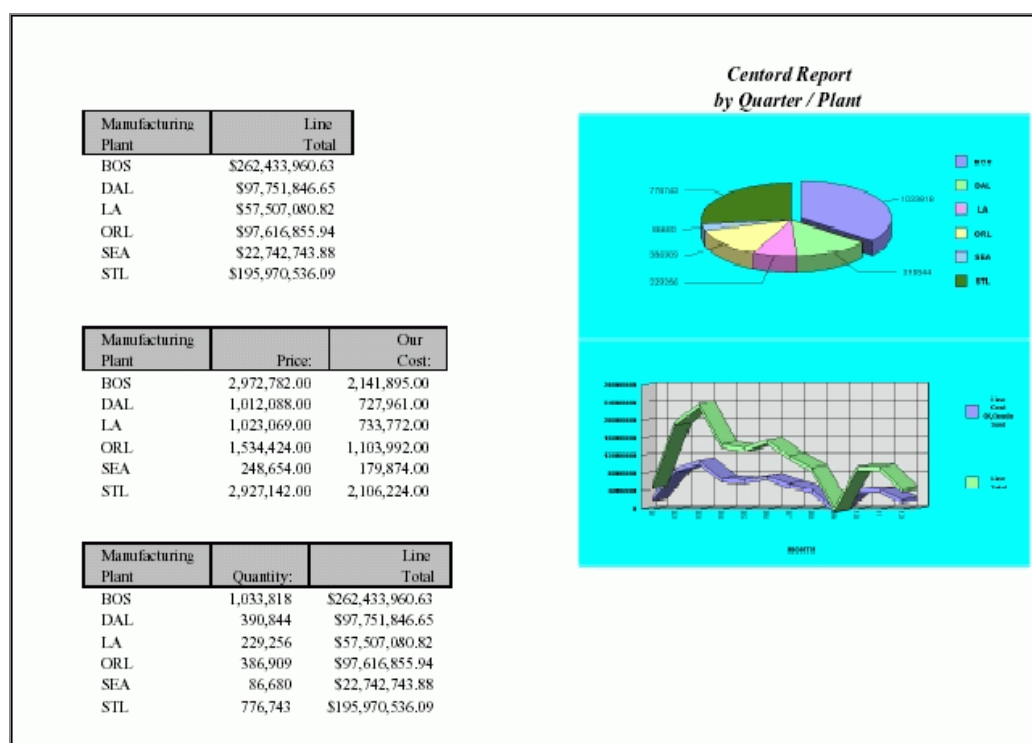
WebFOCUS で JSCOM3 グラフオプションを有効にした場合、GRAPHSEVURL を設定する必要はありません。以下はその例です。

```
SET GRAPHSEVRURL=http://hostname:port/ibi_apps/IBIGraphServlet
```

GRAPHSEVRURL を使用すべきでない構成については、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

## 複数のグラフィメージを組み込んだ PDF レポートの作成

下図の PDF 複合ドキュメントは、3 つの PDF レポートで構成され、そのうちの 1 つに GIF イメージが 2 つ含まれています。



次のコードは、上図に示す PDF 複合ドキュメントを作成します。このプロシジャは次の URL から入手できます。

[https://techsupport.informationbuilders.com/tech/wbf/wbf\\_tcn\\_088.html](https://techsupport.informationbuilders.com/tech/wbf/wbf_tcn_088.html)

```
SET GRAPHSEVRURL=http://hostname:port/ibi_apps/IBIGraphServlet
-* where hostname:port is the host name and port number of your
-* Application Server
GRAPH FILE CENTORD
```

```
SUM QUANTITY AS ''
ACROSS PLANT
ON GRAPH SET LOOKGRAPH PIESINGL
ON GRAPH SET GRAPHEDIT SERVER
ON GRAPH SET GRAPHSTYLE *
```

```
setPieDepth(99);
setPieTilt(57);
setAutofit(getLegendText(0), false);
setFontSize(getLegendText(0), 14);
setAutofit(getLegendText(1), false);
setFontSize(getLegendText(1), 14);
setAutofit(getLegendText(2), false);
setFontSize(getLegendText(2), 14);
setAutofit(getLegendText(3), false);
setFontSize(getLegendText(3), 14);
setAutofit(getLegendText(4), false);
setFontSize(getLegendText(4), 14);
setAutofit(getLegendText(5), false);
setFontSize(getLegendText(5), 14);
setFontSizeAbsolute(getPieSliceLabel(), true);
setAutofit(getPieSliceLabel(), false);
setFontSize(getPieSliceLabel(), 14);
setFontStyle(getLegendText(0), 2);
```

```
setBorderColor(getX1MinorGrid(), new Color(133, 133, 133));
setBorderColor(getY1MinorGrid(), new Color(133, 133, 133));
setAutofit(getLegendText(0), false);
setFillColor(getChartBackground(), new Color(0, 255, 255));
setPieSliceDetach(getSeries(0), 52);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(0), true);
setAutofit(getO1Label(0), false);
setFontSize(getO1Label(0), 12);
setMarkerDisplay(true);
setConnectLineMarkers(false);
setConnectScatterMarkers(false);
setO1LabelDisplay(true);
setO1AxisSide(0);
setO1MajorGridDisplay(true);
setO1MajorGridStyle(0);
setO1MinorGridDisplay(false);
```

```
setSeriesType(0, 0);
setY1LabelDisplay(true);
```

```

setY1AxisSide(0);
setY1MajorGridDisplay(true);
setY1MajorGridStyle(0);
setY1MinorGridDisplay(false);
setPieFeelerTextDisplay(1);
setPieLabelDisplay(0);
setTextFormatPreset(getPieSliceLabel(),1);
setTextFormatPreset(getY1Label(),1);
setLegendDisplay(true);
setFontSizeAbsolute(getLegendText(),true);
ENDSTYLE

```

```

ON GRAPH SET BARNUMB OFF
ON GRAPH SET 3D OFF
ON GRAPH SET VZERO ON
ON GRAPH SET GRID ON
ON GRAPH SAVE AS GRAPH1 FORMAT GIF
END

```

```

GRAPH FILE CENTORD
SUM LINE_COGS LINEPRICE
ACROSS MONTH
ON GRAPH SET LOOKGRAPH VLINSTK
ON GRAPH SET GRAPHEDIT SERVER
ON GRAPH SET GRAPHSTYLE *

```

```

setGridStep(getY1MajorGrid(),1.0E8);
setGridStep(getY2MajorGrid(),4.0E7);
setTextWrap(getLegendText(0),true);
setDisplayBarAsPictograph(true);
setAutofit(getLegendText(0),false);
setFontSize(getLegendText(0),11);
setAutofit(getLegendText(1),false);
setFontSize(getLegendText(1),11);
setAutofit(getY1Label(),false);
setFontStyle(getLegendText(0),2);
setBorderColor(getX1MinorGrid(),new Color(133,133,133));
setBorderColor(getY1MinorGrid(),new Color(133,133,133));
setRect(getLegendArea(),new Rectangle(10901,-9500,4698,20800));
setAutofit(getLegendText(0),false);
setDataLineThickness(39);
setDepthAngle(19);
setDepthRadius(18);

```

```
setFillColor(getChartBackground(),new Color(0,255,255));
setFillColor(getFrame(),new Color(223,223,223));
setFillColor(getFrameSide(),new Color(191,191,191));
setFillColor(getFrameBottom(),new Color(179,179,179));
setRiserBarGroupSpacing(52);
setRiserWidth(31);
setScaleMax(getY1Axis(),5.0E8);
setScaleMax(getY2Axis(),2.8E8);
setScaleMin(getY2Axis(),0.0);
setSeriesType(getSeries(0),2);
setSeriesType(getSeries(1),2);
```

```
setFontSizeAbsolute(getO1Label(0),true);
setAutofit(getO1Label(0),false);
setFontSize(getO1Label(0),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(1),true);
setAutofit(getO1Label(1),false);
setFontSize(getO1Label(1),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(2),true);
setAutofit(getO1Label(2),false);
setFontSize(getO1Label(2),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(3),true);
setAutofit(getO1Label(3),false);
setFontSize(getO1Label(3),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(4),true);
setAutofit(getO1Label(4),false);
setFontSize(getO1Label(4),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(5),true);
setAutofit(getO1Label(5),false);
setFontSize(getO1Label(5),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(6),true);
setAutofit(getO1Label(6),false);
setFontSize(getO1Label(6),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(7),true);
setAutofit(getO1Label(7),false);
setFontSize(getO1Label(7),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(8),true);
setAutofit(getO1Label(8),false);
setFontSize(getO1Label(8),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(9),true);
setAutofit(getO1Label(9),false);
setFontSize(getO1Label(9),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(10),true);
setAutofit(getO1Label(10),false);
setFontSize(getO1Label(10),12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(11),true);
```

```
setAutofit(getO1Label(11),false);
setFontSize(getO1Label(11),12);
```

```
setMarkerDisplay(false);
setConnectLineMarkers(true);
setConnectScatterMarkers(true);
setO1LabelDisplay(true);
setO1AxisSide(0);
setO1MajorGridDisplay(true);
setO1MajorGridStyle(0);
setO1MinorGridDisplay(false);
setSeriesType(0,2);
setSeriesType(1,2);
setY1LabelDisplay(true);
setY1AxisSide(0);
setY1MajorGridDisplay(true);
setY1MajorGridStyle(0);
setY1MinorGridDisplay(false);
setPieFeelerTextDisplay(0);
setTextFormatPreset(getPieSliceLabel(),1);
setTextFormatPreset(getY1Label(),1);
setLegendDisplay(true);
setFontSizeAbsolute(getLegendText(),true);
setFontSizeAbsolute(getY1Label(),true);
setFontSize(getY1Label(),11);
setFontStyle(getY1Label(),2);
ENDSTYLE
```

```
ON GRAPH SET BARNUMB OFF
ON GRAPH SET 3D ON
ON GRAPH SET VZERO ON
ON GRAPH SET GRID ON
ON GRAPH SAVE AS GRAPH2 FORMAT GIF
END
```

```
SET COMPOUND = OPEN NOBREAK
TABLE FILE CENTORD
SUM
    LINEPRICE
BY
    PLANT
HEADING
" <40 "
"Centord Report "
```



```
"by Quarter / Plant "  
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF  
ON TABLE SET BYDISPLAY OFF  
ON TABLE NOTOTAL  
ON TABLE SET ONLINE-FMT PDF
```

```
ON TABLE SET STYLE *  
    UNITS=IN,  
    PAGESIZE='Letter',  
    LEFTMARGIN=0.500000,  
    RIGHTMARGIN=0.500000,  
    TOPMARGIN=0.000000,  
    BOTTOMMARGIN=0.000000,  
    SQUEEZE=ON,  
    ORIENTATION=LANDSCAPE,  
$
```

```
TYPE=REPORT,  
    FONT='TIMES NEW ROMAN',  
    SIZE=8,  
    COLOR=BLACK,  
    BACKCOLOR=NONE,  
    STYLE=NORMAL,  
$
```

```
TYPE=TITLE,  
    GRID=ON,  
    BACKCOLOR=SILVER,  
$
```

```
TYPE=REPORT,  
    IMAGE=GRAPH1.gif,  
    POSITION=(4.000000 0.700000),  
    SIZE=(3.200000 1.600000),  
$
```

```
TYPE=REPORT,  
    IMAGE=GRAPH2.gif,  
    POSITION=(4.000000 2.300000),  
    SIZE=(3.200000 1.600000),  
$
```

```

TYPE=HEADING, LINE=2, SIZE=10,STYLE=BOLD+ITALIC, JUSTIFY=CENTER, $
TYPE=HEADING, LINE=3, SIZE=10,STYLE=BOLD+ITALIC, JUSTIFY=CENTER, $
ENDSTYLE
END

```

```

SET COMPOUND = NOBREAK
TABLE FILE CENTORD
SUM PRICE COST
BY
    PLANT
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE SET BYDISPLAY OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT PDF
ON TABLE SET STYLE *
    UNITS=IN,
    PAGESIZE='Letter',
    LEFTMARGIN=0.500000,
    RIGHTMARGIN=0.500000,
    TOPMARGIN=0.000000,
    BOTTOMMARGIN=0.000000,
    SQUEEZE=ON,
    ORIENTATION=LANDSCAPE,
$

```

```

TYPE=REPORT,
    FONT='TIMES NEW ROMAN',
    SIZE=8,
    COLOR=BLACK,
    BACKCOLOR=NONE,
    STYLE=NORMAL,
$

```

```

TYPE=TITLE, BACKCOLOR=SILVER,
    GRID=ON,$
ENDSTYLE
END
SET COMPOUND = CLOSE
TABLE FILE CENTORD
SUM
    QUANTITY
    LINEPRICE
BY
    PLANT

```

```

ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE SET BYDISPLAY OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT PDF
ON TABLE SET STYLE *
    UNITS=IN,
    PAGESIZE='Letter',
    LEFTMARGIN=0.500000,
    RIGHTMARGIN=0.500000,
    TOPMARGIN=0.000000,
    BOTTOMMARGIN=0.000000,
    SQUEEZE=ON,
    ORIENTATION=LANDSCAPE,
$

```

```

TYPE=REPORT,
    FONT='TIMES NEW ROMAN',
    SIZE=8,
    COLOR=BLACK,
    BACKCOLOR=NONE,
    STYLE=NORMAL,
$
TYPE=TITLE, BACKCOLOR=SILVER,
    GRID=ON,$
ENDSTYLE
END

```

## FML の作成

FML (Financial Modeling Language) は、バランスシート、連結、予算など、財務データの作成、計算、表示に使用します。これらのレポートは、計算が複数の行や列で行われるため、他のレポートとは区別されます。

POST および PICKUP コマンドを使用した FML レポートをスケジュールする際は、次のガイドラインに従います。POST と PICKUP は、次の 2 つのプロシジャに分割します。

- **POST** FML レポート結果の保存に必要です。POST コマンドは、実行前プロシジャで使用します。実行前プロシジャの実行中にレポートを生成しないよう、ON TABLE HOLD 構文を POST コマンドにより保存されたレポートに記述する必要があります。このプロシジャは、WebFOCUS Reporting Server に格納する必要があります。
- **PICKUP** POST コマンドにより保存されたデータの検索に必要です。スケジュールす

るプロシジャです。このプロシジャは、WebFOCUS Reporting Server、WebFOCUS リポジトリ、またはローカルアプリケーションに格納することができます。

**注意：**FML レポートでは BY フィールドを使用しないため、FML レポートのバーストはサポートされません。

## FML リクエストでの POST コマンドの使用

次のコードは、FML レポートを作成します。LEDGEOUT 作業ファイルには、POST コマンドにより 2 つのタグ行が保存されます。このプロシジャは、WebFOCUS Reporting Server に格納する必要があります。

```
FILEDEF LEDGEOUT DISK D:¥IBI¥LEDGEOUT.DAT
DEFINE FILE LEDGER
CUR_YR/I5C=AMOUNT;
LAST_YR/I5C=.87 * CUR_YR - 142;
END

TABLE FILE LEDGER
SUM CUR_YR LAST_YR
FOR ACCOUNT
1100 LABEL AR POST TO LEDGEOUT OVER
1200 LABEL INV POST TO LEDGEOUT OVER
RECAP CA=R1 + R2; AS 'ASSETS' ON TABLE HOLD
END
```

## FML リクエストでの PICKUP コマンドの使用

次のコードは、LEDGEOUT 作業ファイルから送信されたデータを検索し、RECAP 計算に使用します。このプロシジャの出力は、ReportCaster によって配信されます。

```
FILEDEF LEDGEOUT DISK D:¥IBI¥LEDGEOUT.DAT
DEFINE FILE LEDGER
CUR_YR/I5C=AMOUNT;
LAST_YR/I5C=.87 * CUR_YR - 142;
END

TABLE FILE LEDGER
SUM CUR_YR LAST_YR
FOR ACCOUNT
```

```

1010 TO 1030 AS 'CASH' LABEL CASH OVER
DATA PICKUP FROM LEDGEOUT AR
AS 'ACCOUNTS RECEIVABLE' LABEL AR      OVER
DATA PICKUP FROM LEDGEOUT INV
AS 'INVENTORY' LABEL INV                OVER
BAR                                     OVER
RECAP CUR_ASSET/I5C = CASH + AR + INV;
END

```

## &&KILL\_RPC フラグの使用

&&KILL\_RPC フラグは ReportCaster の変数です。このフラグは、条件に基づいて ReportCaster の処理を停止し、スケジュール済みプロシジャを実行しない場合、実行前プロシジャに使用することができます。条件には、データ検索の有無や、スケジュールが実行可能な日数の制限などがあります。条件を評価するコードには、WebFOCUS Reporting Server でサポートされるダイアログマネージャコマンドと FOCUS コマンドの組み合わせが使用できます。&&KILL\_RPC 変数は、ダイアログマネージャを使用して設定する必要があります。

次のサンプルコードは、実行前プロシジャとして実行するよう構成されています。現在の日付が休日リストに含まれる場合、リクエストを停止します。

```

-*
-* TEST CURRENT DATE AGAINST A CALENDAR OF BUSINESS EXCEPTION DAYS
-* The assumption here is that the dates in the data file are in
-* ascending order
FILEDEF HDAYRCLB DISK baseapp/hdayrclb.dat
-RUN
-*
-SET &TDAYX = &YYMD;
-SET &&KILL_RPC = 'N';
-*
-*set PREV_DATE to some value that will cause the first IF to continue
-* the loop
-SET &PREV_DATE = 00000101;
-REPEAT DATELOOP WHILE &&KILL_RPC NE 'Y';
-READ HDAYRCLB &FILEDATE.I8
-SET &&KILL_RPC = IF &TDAYX EQ &FILEDATE THEN 'Y' ELSE 'N';
-IF &PREV_DATE GE &FILEDATE THEN GOTO ENDME;
-SET &PREV_DATE = &FILEDATE;
-DATELOOP
-ENDME

```

下図は、ログレポートに表示される情報 (例、「pre-prc (実行間プロシジャ) 実行中」や「KILL\_RPC フラグによるユーザ強制終了です」などのメッセージ) を示しています。

| Job Process Log Report                                                     |                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Job Description:</b> salesbys (IBFS:/WFC/Repository/Sales/salesbys.sch) |                                                                                                           |
| <b>User:</b> admin                                                         | Schedule Executed On Demand at 572HJN1:25030 (572HJN1/169,254,2,157)                                      |
| <b>Procedure:</b> J48032115jbf68j4b2ejaacej774c3025ff3                     | Job placed in the waiting queue at 2020-01-16 14:12:56.039-0500 (1,579,201,976,039)                       |
| <b>Schedule ID:</b> S45a01c77aabfes4e75ab2e1a82a2627351a9                  | Job started running at 2020-01-16 14:12:56.350-0500 (1,579,201,976,350)                                   |
| <b>Start Time:</b> 2020-01-16 02:12:56 PM EST                              | Job remained in waiting queue for 0.311 seconds                                                           |
| <b>End Time:</b> 2020-01-16 02:12:59 PM EST                                | Starting task: Task 1                                                                                     |
|                                                                            | Task type: WebFOCUS Report                                                                                |
|                                                                            | WebFOCUS Report: /WFC/Repository/Sales/salesbys.fex                                                       |
|                                                                            | Task domain: Sales                                                                                        |
|                                                                            | Connecting to server EDASERVE with execution id admin at 2020-01-16 14:12:57.330-0500 (1,579,201,977,330) |
|                                                                            | Executing pre-rpc: baseapp/rpc1                                                                           |
|                                                                            | User termination via KILL_RPC flag.                                                                       |
|                                                                            | No report to distribute.                                                                                  |
|                                                                            | Total running time was 2.883 seconds                                                                      |
|                                                                            | Total elapsed time (including the queue time) was 3.194 seconds                                           |

スケジュール済みジョブの実行を停止するため、&&KILL\_RPC が「Y」に設定されている場合、スケジュールの NEXTRUNTIME の値は、WebFOCUS リポジトリに格納されている情報に基づいて計算されたスケジュールの次回実行時間に設定されます。これは、「On Error」通知条件のトリガとして機能します。この動作は、次に示す実行前プロシジャのグローバル変数を使用して制御することができます。

- **&&KILL\_RPC\_NRT** スケジュール済みジョブの停止の際、「Y」に設定すると、NEXTRUNTIME 間隔が再設定され、「N」に設定すると再設定されません。デフォルト値は Y です。
- **&&KILL\_RPC\_ERR** スケジュール済みジョブ停止時に、「Y」に設定すると、[エラー時通知] が発動し、「N」に設定すると、発動されません。デフォルト値は「Y」です。変数が「N」に設定されると、「Y」に設定された &&KILL\_RPC に関するメッセージは、エラー以外のメッセージとしてログに書き込まれます。

次のサンプルコードは、上記の例に次回実行時間と &&KILL\_RPC のグローバル変数通知を追加します。その結果、現在の日付が休日リストに含まれるため、スケジュールの次回実行時間は再設定されず、スケジュールが停止した場合も、エラー時通知は送信されません。

```

-＊
-＊ TEST CURRENT DATE AGAINST A CALENDAR OF BUSINESS EXCEPTION DAYS
-＊ The assumption here is that the dates in the data file are in
-＊ ascending order
FILEDEF HDAYRCLB DISK baseapp/hdayrclb.dat
-RUN
-＊
-SET &TDAYX = &YYMD;
-SET &&KILL_RPC = 'N';
-SET &&KILL_RPC_NRT = 'N';
-SET &&KILL_RPC_ERR = 'N';
-＊

```

```

-*set PREV_DATE to some value that will cause the first IF to continue
-* the loop
-SET &PREV_DATE = 00000101;
-REPEAT DATELOOP WHILE &&KILL_RPC NE 'Y';
-READ HDAYRCLB &FILEDATE.I8
-SET &&KILL_RPC = IF &TDAYX EQ &FILEDATE THEN 'Y' ELSE 'N';
-IF &PREV_DATE GE &FILEDATE THEN GOTO ENDME;
-SET &PREV_DATE = &FILEDATE;
-DATELOOP
-ENDME

```

## Excel 複合レポート

Excel 複合レポートを使用して、EXL2K 出力フォーマットで複数のワークシートレポートを作成することができます。

Excel 複合レポートの構文は、PDF 複合レポートの構文と同一です。デフォルト設定では、複合レポートの各コンポーネントレポートは、新しい Excel ワークシートとして作成されます (PDF で新しいページが作成されることと同様)。NOBREAK キーワードを使用する場合は、次のレポートが同一ワークシート上の現在のレポートの下に作成されます (PDF の同一ページでのレポートの開始と同様)。

PCHOLD を使用してクライアントに送信、または HOLD を使用してファイルに保存した場合は、いずれも Microsoft Web アーカイブフォーマットで出力されます。このフォーマットは、Excel の [名前を付けて保存] ダイアログボックスの [単一ファイル Web ページ] に対応します。このフォーマットのファイル拡張子は、.mht または .mhtml です。WebFOCUS では EXL2K レポートと同一の拡張子 .xht を使用します。レポートは常に 1 つのファイルに出力されるため、ReportCaster で配信することができます。

Excel 複合レポートのコンポーネントには FORMULA または PIVOT レポートを使用することができます。Excel 複合レポート機能についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® Language リファレンス』を参照してください。

**注意：**EXL2K フォーマットを使用する場合は、Excel 2002 (Office XP) 以降がインストールされている必要があります。Excel 複合レポートは Web アーカイブファイルフォーマットをサポートしないため、以前のバージョンの Excel では、Excel 複合レポートは動作しません。

## 複合レポートと統合された複合レポート

ReportCaster では、AHTML、DHTML、EXL2K、XLSX、PDF、PPT、PPTX フォーマットで作成された複合レポートを配信することができます。

ReportCaster では、XLSX、DHTML、PDF、PPT、PPTX フォーマットで作成された、統合された複合レポートをバースト配信することができます。

## アコーディオンレポート機能によるソートデータの表示制御

アコーディオンレポート機能を使用すると、HTML レポートページに表示するソートデータの数量を制御することができます。生成したレポートで、BY フィールドの値ごとにデータを展開して表示したり、折りたたんで非表示にしたりできます。アコーディオンレポートをはじめて表示した場合、先頭 (最上位) の BY フィールドデータ値のみが表示され、それ以外のデータは非表示になっています。レポートを手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。

アコーディオンレポートを作成すると、最上位のソート項目を指定している見出しの下、各列データ値の左側に、プラス記号 (+) が表示されます。下位のソートフィールドに対応するデータ値の左側にプラス記号 (+) が表示され、実際のデータは、これらを手動で展開しない限り表示されません。最下位ソートフィールドのデータ値を展開することはできません。

展開可能ソートフィールドのプラス記号 (+) をクリックするだけで、下位ソートフィールドのデータを表示することができます。最下位から 2 番目のソート項目を指定している見出しのデータ値を展開すると、対応するデータがすべて表示されます。

アコーディオンレポートを作成するには、BY 句を使用して 2 つ以上の BY フィールドを含める必要があります。コマンド構文に 2 つ以上の BY 句が存在しない場合、EXPANDABLE コマンドは無視され、標準の HTML レポートが作成されます。この場合、メッセージは生成されません。

アコーディオンレポートでは、ACROSS ソートフィールドを使用することもできます。ACROSS ソートフィールドの見出しは、標準の HTML レポートでは BY ソートフィールドの見出しの上部に表示されますが、アコーディオンレポートでは、各ソートフィールドの列で少なくとも 1 つのソートデータ値を手動で展開した時点で表示されます。

アコーディオンレポートでは、PDF フォーマットと Excel フォーマットはサポートされません。



# アコーディオンレポートの要件

アコーディオンレポートを作成する際は、次の要件を考慮する必要があります。

- アコーディオンレポートにドリルダウンリンクを追加する場合は、TARGET パラメータの値に、新しい HTML フレームを指定する必要があります。
- アコーディオンレポートの作成およびユーザへの配信完了後、ユーザがレポートで作業する際、WebFOCUS Reporting Server への呼び出しは行われません。ソートフィールドの折りたたみフォルダコントロールには、WebFOCUS Client の JavaScript が必要です。この機能を使用するには、ユーザが WebFOCUS Web 階層コンポーネントに接続している必要があります。ユーザが WebFOCUS へオンラインで接続している場合、レポートに変更を加える必要はありません。ただし、ReportCaster を使用してレポートを配信する場合は、[アコーディオンレポート機能によるソートデータの表示制御](#)を参照し、Email 添付ファイルまたは ReportLibrary のアーカイブレポートとして、レポートが正しく配信されるようにします。

## ReportCaster によるアコーディオンレポートの配信

アコーディオンレポートを ReportCaster で配信するには、WebFOCUS Client 上に存在する JavaScript コンポーネントおよびイメージを使用する必要があります。

ReportCater で配信されたレポートからこれらのコンポーネントにアクセスするには、スケジュール済みプロシジャに SET FOCHTMLURL コマンドを記述する必要があります。このコマンドは、デフォルト値ではなく、絶対 URL に設定する必要があります。以下はその例です。

```
SET FOCHTMLURL = http://hostname[:port]/ibi_apps/ibi_html
```

### 説明

#### hostname[:port]

WebFOCUS Web アプリケーションの展開先のホスト名とオプションのポート番号です。ポート番号はデフォルト値以外を使用している場合に入力します。

**ibi\_apps/ibi\_html**

サイトごとに異なる WebFOCUS93¥ibi\_apps¥ibi\_html ディレクトリの Web サーバエイリアスです。ここで、ibi\_apps/ibi\_html はデフォルト値です。

## アコーディオンレポートサポート

アコーディオンレポートでは、次のコマンドはサポートされません。

```
BORDER, COLUMN, FOR, IN, OVER, PAGE-NUM, ROW-TOTAL, TOTAL
```

ピアグラフ、OLAP、Web ビューア、ReportCaster バーストレポートも使用できません。

## アコーディオンレポートの作成

アコーディオンレポートを有効にするには、次の構文を指定します。

```
ON TABLE SET EXPANDABLE = {ON|OFF}
TABLE FILE GGSales
SUM UNITS DOLLARS
BY REGION BY ST BY CITY BY CATEGORY
ON TABLE SET EXPANDABLE ON
END
```

### 説明

#### **ON**

アコーディオンレポートを有効にします。

#### **OFF**

アコーディオンレポートを無効にします。デフォルト値は OFF です。

## アコーディオンレポートの作成

次の例では、EXPANDABLE コマンドを使用して、アコーディオンレポートを設定しています。

```
TABLE FILE GGSALES
SUM UNITS DOLLARS
BY REGION BY ST BY CITY BY CATEGORY
ON TABLE SET EXPANDABLE ON
END
```

下図は、アコーディオンレポートの最上位ソートフィールドである Region の全データを表示しています。ここで表示されているデータ値は展開された状態ですが、これは、レポートの最上位、第2位、第3位のソートフィールドのプラス記号 (+) をユーザがクリックした結果です。

| Region    | State | City          | Category | Unit Sales | Dollar Sales |
|-----------|-------|---------------|----------|------------|--------------|
| Midwest   |       |               |          |            |              |
| Northeast | CT    |               |          |            |              |
|           | MA    |               |          |            |              |
|           | NY    | New York      | Coffee   | 116659     | 1459160      |
|           |       |               | Food     | 125473     | 1555165      |
|           |       |               | Gifts    | 70194      | 887940       |
| Southeast |       |               |          |            |              |
| West      | CA    | Los Angeles   | Coffee   | 109082     | 1383924      |
|           |       |               | Food     | 110417     | 1381698      |
|           |       |               | Gifts    | 78571      | 1006381      |
|           |       | San Francisco |          |            |              |
|           | WA    |               |          |            |              |

## ibi WebFOCUS 機能の制限事項

ReportCaster の複雑な内部処理のため、スケジュールするプロシジャでは次の機能はサポートされません。

- **PCSEND** 別のファイルにレポートセクションを格納する WebFOCUS レポート機能です。
- **HTML フォーマットの複数 TABLE または GRAPH リクエスト** 内部的には、複数の

HTML ドキュメントです。最初の TABLE または GRAPH リクエスト (HOLD または SAVE コマンドなし) のみが配信されます。

- グラフの配信には、GIF、HTML、JPG、PDF、PNG、SVG フォーマットのいずれかを必要があります。

複数ファイルの配信、または Web サーバや Application Server コンポーネントとの統合が必要なため、次の WebFOCUS 機能は、ReportCaster の Email 配信および FTP 配信では使用できません。

- **OLAP** レポート全体またはバーストレポートセクションのみが配信されます。OLAP 機能では、Web サーバまたは Application Server 上の WebFOCUS コンポーネントへの接続と認証が必要です。
- **Web ビューア** レポート全体またはバーストレポートセクションのみが配信されます。レポート出力はキャッシュされ、レポートの最初のページが WebFOCUS ビューアとともに、ブラウザに送信されます。ReportLibrary に配信する HTML ODP フォーマットのレポートでは、ON TABLE SET WEBVIEWTARG コマンドは使用しないでください。
- **グラフドリルダウン** GRAPH リクエストが実行されるたびに、ReportCaster はグラフをイメージとして作成します。WebFOCUS Client を介して GRAPH リクエストが実行される場合は、HTML フォームとグラフィイメージが存在します。HTML フォームには、グラフィイメージおよび対応するドリルダウンを表示するための参照があります。

## SET コマンドによる有効リンクまたはドリルダウンへのアクセス

有効リンク、または WebFOCUS レポートへのリンク (ドリルダウン) を含むレポートを配信する際は、URL コンテキストは完全修飾であり、レポートを実行またはリンクのコンテンツにアクセスするために、Web サーバおよび Application Server に接続している必要があります。SET FOCHTMLURL または SET BASEURL コマンドを使用し、有効リンクを完全修飾することができます。SET FOCHTMLURL を使用して、ibi\_apps/ibi\_html エイリアス下に存在するリソースにアクセスします。WebFOCUS レポート以外のプロシジャには、SET BASEURL を使用します。これにより、WebFOCUS で作成されたドキュメント (HTML ファイル、イメージ) を参照する相対 URL のデフォルトパスが指定されます。SET FOCEXURL コマンドを使用し、ドリルダウンを完全修飾することができます。SSL セキュリティを使用する場合、URL に「https」を指定します。デフォルト設定では、ReportCaster 構成ツールの [データサーバ] フォルダの設定を使用して、Distribution Server が自動的に FOCHTML および FOCEXURL コマンドを構成します。

# ibi WebFOCUS コマンド使用時の既知の問題

下表は、ReportCaster を使用してスケジュールされたプロシジャ内で特定のコマンドを使用したときに発生する、既知の問題とその説明および解決方法を記載しています。

| コマンド                   | 既知の問題                                                                                                                                 | 解決方法                                  |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| &DATE                  | <p>実行前プロシジャで EDAPATH の設定および &amp;DATE に基づくフィールドの計算を行うと、ログファイルに次のメッセージが表示されます。</p> <pre>No report for ReportCaster to distribute</pre> | &DATE ではなく、&YYMD 変数を使用してください。         |
| ON TABLE SUMMARIZE     | 複数の動詞を含む TABLE リクエストで ACROSS および COMPUTE とともに使用すると無視されます。                                                                             | 複数の動詞には、この構文を使用しないでください。              |
| TABLE                  | SQL Server では、「USER」というフィールド名は使用できません。USER は予約語です。このフィールド名を参照した場合、TABLE コマンドが失敗します。                                                   | データベースフィールド名を「USERID」に変更してください。       |
| FORMAT YYM と FORMAT YM | MVS で値が表示されません。                                                                                                                       | DATEDISPLAY=ON に設定してください。             |
| -INCLUDE               | ReportCaster は 1 組のアンサーセットのみ受信可能なため、複数の配信レポートを出                                                                                       | 出力を保存 (HOLD または SAVE) するプロシジャとともに使用して |

| コマンド           | 既知の問題                                                                                                                                                   | 解決方法                                                                                                                                                                          |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                | 力するレポートは作成できません。                                                                                                                                        | <p>ください。スタイルシート (.sty)、カスケードスタイルシート (.css)、GIF (.gif) ファイルには、-INCLUDE が使用できます。</p> <p>複合レポート機能を使用してください。</p>                                                                  |
| -EXIT<br>-QUIT | これらのコマンドは、スケジュール済みジョブを実行している内部セッションを停止するため、スケジュールするプロシジャ内には使用しないでください。スケジュール済みジョブの実行中に内部セッションが停止したときでも、レポート出力の配信が正常に完了する可能性があります。スケジュール実行のログ情報は処理できません。 | ダイアログマネージャコマンドを使用し、プロシジャの終了点にあるラベルに分岐してください。これにより、アプリケーションロジックを実装することができます。また、ReportCaster による、指定したすべての実行後プロシジャの実行およびログ情報の処理が可能になります。                                         |
| FOC_NONE       | ReportCaster では、FOC_NONE 構文を使用したサーバプロシジャはサポートされていません。                                                                                                   | <p>FOC_NONE は、ReportCaster でスケジュールする WebFOCUS レポートプロシジャ、および WebFOCUS Client でのみ使用します。</p> <p>WebFOCUS Client でこの値を設定するには、IBIF_describe_null を FOC_NONE に設定します。この値を設定するには、</p> |

| コマンド | 既知の問題 | 解決方法                                                                |
|------|-------|---------------------------------------------------------------------|
|      |       | WebFOCUS 管理コンソールの [構成] タブで、[アプリケーションの設定] 下の [パラメータのプロンプト] をクリックします。 |

**注意：**これらのコマンドについての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

## バーストレポートでの ibi WebFOCUS コマンドの使用

ここでは、バーストレポートで WebFOCUS コマンドを使用する際の考慮事項について説明します。

## バーストレポートでの総合計の自動非表示

バーストレポートで SUBTOTAL、SUB-TOTAL、SUMMARIZE、RECOMPUTE のいずれかのコマンドを使用する場合、WebFOCUS Reporting Server は自動的に総合計を非表示にします。たとえば、次のコードの場合、PRODCAT (製品カテゴリ) をバースト値として、下図のような Excel レポートが生成されます。

```
TABLE FILE CENTINV
SUM QTY_IN_STOCK
BY PRODCAT SUBTOTAL
BY PRODTYPE BY PRODNAME
ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL2K FORMULA
END
```

在庫数 (Quantity in Stock) の値は、製品カテゴリ (Product Category) の値ごとに合計されていますが、製品タイプ (Product Type) の値ごとの合計は非表示になっています。

| Product Category:         | Product Type: | Product Name:                 | Quantity In Stock: |
|---------------------------|---------------|-------------------------------|--------------------|
| CD Players                | Digital       | QX Portable CD Player         | 22000              |
| *TOTAL PRODCAT CD Players |               |                               | 22000              |
| Camcorders                | Analog        | 110 VHS-C Camcorder 20 X      | 4000               |
|                           |               | 120 VHS-C Camcorder 40 X      | 2300               |
|                           |               | 150 8MM Camcorder 20 X        | 5961               |
|                           |               | 250 8MM Camcorder 40 X        | 60073              |
|                           | Digital       | 650DL Digital Camcorder 150 X | 2972               |
|                           |               | 750SL Digital Camcorder 300 X | 10758              |
| *TOTAL PRODCAT Camcorders |               |                               | 86064              |

## バーストレポートの列合計表示

ON TABLE COLUMN-TOTAL を使用したレポートをバーストすると、バースト値ごとに列合計が作成されます。たとえば、次のコードの場合、PRODCAT (製品カテゴリ) をバースト値として、下図のような Excel レポートが生成されます。

```
TABLE FILE CENTINV
SUM QTY_IN_STOCK
BY PRODUCT
BY PRODTYPE SUBTOTAL BY PRODNAME
ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL2K FORMULA
ON TABLE COLUMN-TOTAL
END
```

製品タイプ (Product Type) の値ごとの列合計が作成され (例、Analog)、在庫数 (Quantity in Stock) の値が、製品タイプの値ごとに合計されています。

| Product Category:       | Product Type: | Product Name:                 | Quantity In Stock: |
|-------------------------|---------------|-------------------------------|--------------------|
| CD Players              | Digital       | QX Portable CD Player         | 22000              |
| *TOTAL PRODTYPE Digital |               |                               | 22000              |
| Camcorders              | Analog        | 110 VHS-C Camcorder 20 X      | 4000               |
|                         |               | 120 VHS-C Camcorder 40 X      | 2300               |
|                         |               | 150 8MM Camcorder 20 X        | 5961               |
|                         |               | 250 8MM Camcorder 40 X        | 60073              |
| *TOTAL PRODTYPE Analog  |               |                               | 72334              |
|                         | Digital       | 650DL Digital Camcorder 150 X | 2972               |
|                         |               | 750SL Digital Camcorder 300 X | 10758              |
| *TOTAL PRODTYPE Digital |               |                               | 13730              |



## スケジュール出力の言語指定

スケジュールするプロシジャに SET LANG パラメータを記述することにより、スケジュール出力の表示言語を指定することができます。たとえば、「SET LANG=ja」と設定すると、レポートは日本語で表示されます。

プロシジャに値を入力する代わりに、プロシジャのスケジュール時に表示されるメッセージで言語値を選択することもできます。これは、値を指定するドロップダウンリストを提供するプロシジャに、変数を使用することによって可能です。

スケジュール時には、ユーザが選択した値および ReportCaster Distribution Server のコードページの言語セットは検証されません。マスターファイルにはないタイトル言語オプションを選択した場合、「title=」という値が表示されます。TITLE が存在しない場合、FIELDNAME 値が使用されます。

**注意：**ReportCaster ユーザーインターフェースの言語を指定する WebFOCUS 管理コンソールの [言語の切り替え] 設定は、この設定とは無関係に動作します。SET LANG コマンドは、ログレポートを含むすべてのレポート出力に影響します。SET LANG コマンドについての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』の「環境のカスタマイズ」を参照してください。

# スケジュール出力の ibi WebFOCUS ReportCaster フォーマット

---

スケジュールを作成すると、ReportCaster は、プロシジャで定義されているフォーマットでレポートを出力します。また、プロシジャでフォーマットが指定されていない場合は、デフォルトフォーマットが使用されます。必要に応じて、プロシジャで指定されているフォーマットを上書きし、スケジュールで別のフォーマットを指定することができます。ここでは、ReportCaster で使用可能なフォーマットについて説明します。また、これらのフォーマットの使用および配信の際の考慮事項も記載しています。フォーマットによっては、プロシジャで定義されているフォーマットを上書きする方法で出力できないものもあります。これらのフォーマットで出力するには、スケジュールするレポート自体でフォーマットを定義する必要があります。上書きする方法で出力できないフォーマットは、スケジュールツールでフォーマットを選択する際のリストに表示されません。詳細は、各フォーマットの考慮事項を参照してください。

## AHTML

**フォーマット：**HTML (.htm、.html)

**説明：**カスタマイズ可能なオプションを備えた HTML フォーマットのレポートを作成します。このレポートでは、Excel ブックなどで使用可能な機能を使用することができます。

**用途 (推奨)：**ReportLibrary、Web ブラウザでの Email 表示

**考慮事項**

- FML レポートおよび複合レポート以外のバーストをサポートします。
- Email の添付ファイルでのみ配信が可能です。Email メッセージ本文として配信することはできません。

## ALPHA

**フォーマット：**ALPHA (.ftm, .txt)

**説明：**スケジュール出力を固定フォーマットの文字データとして保存します。

**用途 (推奨)：**テキストドキュメントでの表示および WebFOCUS でのレポート作成に使用するほか、データソースを変更するためのトランザクションファイルとして使用します。

**考慮事項**

- HOLD ファイルとして作成した場合、対応するマスターファイルが作成されます。
- バーストをサポートします。

## APDF

**フォーマット：**APDF (.pdf)

**説明：**「Analytic PDF」とも呼ばれ、PDF に Flash ファイルが埋め込まれたレポートを作成します。

**用途 (推奨)：**レポートの動的な表示に使用します。

## COM

**フォーマット：**COM (.cvs)

**説明：**スケジュール出力をカンマ (,) 区切り可変長テキストファイルとして保存します。この場合、文字値は二重引用符 (") で囲まれます。フィールド内のブランクは保持されません。

Microsoft Access などのパッケージソフトウェアでは必須のフォーマットです。

**用途 (推奨)：**データベースアプリケーションでの処理に使用します。このフォーマットタイプは、Excel や Lotus などのアプリケーションにインポートすることができます。

**考慮事項**

- このフォーマットタイプは、マスターファイルを作成しません。
- バーストをサポートします。
- ReportLibrary から Excel で開くことができます。
- SMARTDATE フィールドおよび日付フォーマットオプション付きの I または P フォーマットの日付フィールドは数値として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれません。日付オプション付きの文字フィールドは文字として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれます。

- コンチネンタル 10 進表記 (CDN=ON|SPACE|QUOTE) はサポートされません。間にカンマ (,) のある数値は、Microsoft Access などのアプリケーションでは、2 つのフィールドとして認識されます。

## COMMA

**フォーマット：**COMMA (.csv)

**説明：**スケジュール出力をカンマ (,) 区切り可変長テキストファイルとして保存します。この場合、文字値は二重引用符 (") で囲まれます。フィールドのブランクはすべて保持されます。

Microsoft Access などのパッケージソフトウェアでは必須のフォーマットです。

**用途 (推奨)：**データベースアプリケーションでの処理に使用します。このフォーマットタイプは、Excel や Lotus などのアプリケーションにインポートすることができます。

### 考慮事項

- このフォーマットタイプは、マスターファイルを作成しません。
- バーストをサポートします。
- ReportLibrary 内で Excel で開くことができます。また、COMMA レポートは、レポートを右クリックして ReportLibrary の外部に保存することで、Lotus 1-2-3 で開くことができるようになります。
- SMARTDATE フィールドおよび日付フォーマットオプション付きの I または P フォーマットの日付フィールドは数値として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれません。日付オプション付きの文字フィールドは文字として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれます。
- コンチネンタル 10 進表記 (CDN=ON|SPACE|QUOTE) はサポートされません。間にカンマ (,) のある数値は、Microsoft Access などのアプリケーションでは、2 つのフィールドとして認識されます。

## COMT

**フォーマット：**COMT (.csv)

**説明：**COMMA ファイルにタイトルを追加します。スケジュール出力をカンマ (,) 区切り可変長テキストファイルとして保存します。この場合、文字値は二重引用符 (") で囲まれます。フィールドのブランクはすべて保持されます。

Microsoft Access などのパッケージソフトウェアでは必須のフォーマットです。

**用途 (推奨)：**データベースアプリケーションでの処理に使用します。このフォーマットタイプは、Excel や Lotus などのアプリケーションにインポートすることができます。

### 考慮事項

- このフォーマットタイプは、マスターファイルを作成しません。
- バーストをサポートします。
- ReportLibrary から Excel で開くことはできません。
- SMARTDATE フィールドおよび日付フォーマットオプション付きの I または P フォーマットの日付フィールドは数値として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれません。日付オプション付きの文字フィールドは文字として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれます。
- コンチネンタル 10 進表記 (CDN=ON|SPACE|QUOTE) はサポートされません。間にカンマ (,) のある数値は、Microsoft Access などのアプリケーションでは、2 つのフィールドとして認識されます。
- COMT フォーマットで作成されたレポートの ReportCaster スケジュールを作成し、COMT フォーマットで配信する場合は、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにした上で、COMT フォーマットを再指定する必要があります。この方法でフォーマットを再指定しない場合、.csv ファイルが生成される際に、出力から CR/LF (キャリッジリターン / ラインフィード) が失われる場合があります。

## DFIX

**フォーマット：**DFIX (.ftm, .txt)

**説明：**任意の文字を区切り文字として機能させます (DELIMITER = 選択する文字)。文字フィールドの前後には引用符を含めます (ENCLOSURE = " )。フィールドタイトルを含めます (HEADER = YES/NO)。

以下は、区切り文字としてパイプ文字 (|) を指定する PCHOLD ステートメントの例を示しています。文字フィールドの前後に引用符を追加し、フィールドタイトル (見出し) は含まれていません。

```
ON TABLE PCHOLD AS OUT1 FORMAT DFIX DELIMITER | ENCLOSURE " HEADER NO
```

**用途 (推奨)：**カスタム (標準外) の区切り文字が必要なファイルで使います。

#### 考慮事項

- ミッシングデータに、値は表示されません。囲み文字を指定する場合、ミッシングの文字フィールドは、“” で表されます。ミッシングの数値フィールドは、2 つの区切り文字で表されます。
- バーストをサポートします。

## DHTML

**フォーマット：**HTML (.htm、.mht)

**説明：**ハイパーリンクおよびその他の WWW (World Wide Web) 機能をサポートします。スタイルシートのフォーマットを保持します。

HTML の機能に加えて、DHTML は Web アーカイブフォーマット (.mht) をサポートします。.mht ファイルには、複数のレポートおよびグラフを含めることができ、WebFOCUS の統合された複合レポートに利用することができます。

**用途 (推奨)：**ReportLibrary、Web ブラウザでの Email 表示

#### 考慮事項

- DHTML フォーマットのデフォルトファイルタイプは .mht です。プロシジャから取得される出力が HTML の場合、出力ファイルを適切に開くには、ファイルタイプを .html に手動で変更する必要があります。
- FML レポート以外のバーストをサポートします。
- WebFOCUS Reporting Server から取得されるファイルが Web アーカイブファイル (.mht) 以外の場合、DHTML を Email メッセージの本文として配信することができます。取得されるファイルが Web アーカイブファイルの場合は、このフォーマットを本文として配信することはできません。
- 出力が .mht ではなく .htm の場合は、DHTML を Email の添付ファイルとして配信し、Email メッセージの本文として送信することができます。
- DHTML には、2 つのフォーマットがあります。
  - リクエストに SET HTMLARCHIVE=ON コマンドが設定されていない場合、スケ

ジュールプロシジャは HTML ファイルを出力します。Email または FTP で配信する場合は、ファイルタイプ .htm を使用します。

- リクエストに SET HTMLARCHIVE=ON コマンドが指定されている場合、ジュールプロシジャは Web アーカイブファイル (.mht) ファイルを出力します。Email または FTP で配信する場合は、ファイルタイプ .mht を使用します。

## DOC

**フォーマット：**DOC (.txt)

**説明：**スケジュール出力をワードプロセッサ用テキストとして開きます。テキストは、すべてのワードプロセッサアプリケーションで開くことができます。ASCII フォームフィード文字を保持し、ページ出力を正しく表示します。

**用途 (推奨)：**ワードプロセッサアプリケーション、Email、ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- ほとんどのフォーマットを保持しません。ハイパーリンクやアラートはサポートしません。
- Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。
- バーストをサポートします。
- ReportCaster で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。

## EXCEL

**フォーマット：**EXCEL (.xls)

**説明：**スケジュール出力を Microsoft Excel 2000 または 2003 スプレッドシートファイルとして開きます。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- Excel 2000 または 2003 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- バーストレポートやアラートはサポートしません。

- 見出し、脚注、中間見出し、中間脚注は保持されません。
- フォーマットはバイナリです。
- ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- ReportCaster が BY HIGHEST *primarysortfield* 構文を含む TABLE リクエストで作成された EXCEL レポートを配信する場合、レポートには主ソートフィールド値ごとにページ区切りが挿入されます。

## EXL07

**フォーマット：**EXL07 (.xlsx)

**説明：**スケジュール出力を Excel 2007 または 2010 以降のバージョンで開きます。

ほとんどのスタイルシート属性をサポートしているため、完全なレポートのフォーマット設定が可能です。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- このフォーマットによるレポート配信をスケジュールする場合、プロシジャ、ReportCaster の構成設定、Excel サーバ URL のいずれかで、Excel 2007 ファイルコンポーネントを配信用に圧縮する Application Server が指定されていることを確認します。プロシジャの Excel サーバ URL は、ReportCaster 構成ツールで指定された値を上書きします。
- 複合レポート以外のバーストをサポートします。

## EXL07 FORMULA

**フォーマット：**EXL07 FORMULA (.xlsx)

**説明：**スケジュール出力を Excel 2007 または 2010 以降のバージョンで開きます。

列合計、行合計、中間合計など、集計情報はすべて Excel 関数として格納され、結果が計算、表示されます。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項



- このフォーマットによるレポート配信をスケジュールする場合、プロシジャ、ReportCaster の構成設定、Excel サーバ URL のいずれかで、Excel 2007 ファイルコンポーネントを配信用に圧縮する Application Server が指定されていることを確認します。プロシジャの Excel サーバ URL は、ReportCaster 構成ツールで指定された値を上書きします。
- 複合レポート以外のバーストをサポートします。

## EXL07 TEMPLATE

フォーマット：EXL07 TEMPLATE (.xlsx)

説明：スケジュール出力を Excel 2007 または 2010 以降のバージョンで開きます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- EXL07 TEMPLATE フォーマットのデフォルトファイル拡張子は .xlsx です。プロシジャで使用するテンプレートでマクロが有効な場合、出力ファイルを適切に開くには、拡張子を .xlsm に手動で変更する必要があります。
- スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

```
ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL07 TEMPLATE templatename SHEETNUMBER  
sheetnumber
```

- Windows XP または Windows 2003 以降を使用する必要があります。
- Excel 2002 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- フォーマットは ASCII です。
- バーストをサポートします。

## EXL2K

フォーマット：EXL97 (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel 2000 以降のバージョンで開きます。

ほとんどのスタイルシート属性をサポートしているため、完全なレポートのフォーマット設定が可能です。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

#### 考慮事項

- Excel 2000 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- フォーマットは ASCII です。
- .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- 複合レポート以外のバーストをサポートします。

## EXL2K FORMULA

**フォーマット：**EXL2K FORMULA (.xls)

**説明：**スケジュール出力を Excel 2000 以降のバージョンで開きます。

列合計、行合計、中間合計など、集計情報はすべて Excel 関数として格納され、結果が計算、表示されます。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

#### 考慮事項

- EXL2K FORMULA レポートのフォーマットをスケジュールで上書きしない場合、ReportLibrary ではフォーマットとして EXL2K と表示されます。
- Excel2000 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- フォーマットは ASCII です。
- .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。

- 複合レポート以外のバーストをサポートします。

## EXL2K PIVOT

**フォーマット：**EXL2K PIVOT (.xls)

**説明：**スケジュール出力を Excel 2000 以降のバージョンで開きます。

複雑なデータの分析に使用します。このフォーマットを使用すると、ピボットテーブル内でデータフィールドをドラッグアンドドロップすることができ、行や列でソートするなど、データを異なるビューで表示することが可能になります。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- EXL2K PIVOT レポートのフォーマットをスケジュールで上書きしない場合、ReportLibrary ではフォーマットとして EXL2K と表示されます。
- Excel2000 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- フォーマットは ASCII です。
- WebFOCUS Reporting Server で、主ファイルとキャッシュファイルの代わりに単一出力ファイルが作成されるよう、WEBARCHIVE=ON コマンドを使用する必要があります。WebFOCUS Reporting Server のデフォルト構成では、WEBARCHIVE=ON に設定されています。
- .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- 複合レポートのスケジュールには使用できません。
- スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

```
ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL2K PIVOT
```

- バーストはサポートされません。

# EXL2K TEMPLATE

**フォーマット：**EXL2K TEMPLATE (.xls)

**説明：**スケジュール出力を Excel 2002 以降のバージョンで開きます。

スケジュール出力からのデータが入力された Excel テンプレートです。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

## 考慮事項

- EXL2K TEMPLATE レポートのフォーマットをスケジュールで上書きしない場合、ReportLibrary ではフォーマットとして EXL2K と表示されます。
- スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

```
ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL2K TEMPLATE templatename SHEETNUMBER  
sheetnumber
```

- Windows XP または Windows 2003 以降を使用する必要があります。
- Excel 2002 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- フォーマットは ASCII です。
- .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- バーストをサポートします。

# EXL97

**フォーマット：**EXL97 (.xls)

**説明：**スケジュール出力を Excel97 ワークシートファイルとして開きます。レポートフォーマットおよびドリルダウンをサポートする HTML ベースの表示フォーマットです。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

## 考慮事項

- Excel97 以降のバージョンをインストールする必要があります。

- ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- バーストをサポートします。

## GIF

**フォーマット：**GIF (.gif)

**説明：**スケジュール出力を GIF フォーマットのグラフィイメージとして開きます。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- GIF フォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- GIF フォーマットを使用する場合、単一レポートに複数のイメージを使用して配信することはできません。単一レポートで複数のイメージを配信する場合は、PDF フォーマットを使用します。
- 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、WebFOCUS InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される GIF ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。
- GIF レポートを UNIX 上で配信するには、eschkbr スクリプトファイルを編集し、#!/bin/ksh 行の後に次のコードを追加します。

```
DISPLAY=IP_Address export DISPLAY TERM=xterm export TERM
```

### 説明

#### IP\_Address

xterm が実行されているマシンの IP アドレスです。

**注意：**この手順は、グラフが GRAPH FILE リクエスト (WebFOCUS サーバプロシ

ジャ、WebFOCUS レポート) で作成された場合にのみ必要です。ファイルを配信する場合には必要ありません。

- 埋め込み Email メッセージがサポートされます。

# HTML

**フォーマット：**HTML (.htm、.html)

**説明：**ハイパーリンクおよびその他の Web ベースの機能をサポートします。スタイルシートのフォーマットを保持します。

**用途 (推奨)：**ReportLibrary、Web ブラウザでの Email 表示

## 考慮事項

- HTML フォーマットのデフォルトファイルタイプは .htm です。プロシジャから取得される出力が .mht ファイルの場合、出力ファイルを適切に開くには、ファイルタイプを .mht に手動で変更する必要があります。
- グラフを HTML フォーマットでスケジュールし、配信する場合、バースト配信されません。グラフを正常にバースト配信するためには、次のフォーマットが選択できます。
  - **バースト可能なイメージフォーマットは、次のとおりです。**
    - PNG
    - SVG
    - JPEG
    - GIF
  - **バースト可能なファイルフォーマットは、次のとおりです。**
    - PDF
    - PPTX
    - EXL07
  - 通常、イメージが含まれた HTML ページを出力するには、フォーマットとして DHTML を選択し、出力を拡張子が .mht のファイルとして配信します。配信フォーマットとして HTML を選択することができます。ReportCaster のデフォルト設定では、HTML を選択すると、拡張子が .htm の出力が作成されます。

**注意：**HTML レポートにイメージを表示するには、プロシジャで SET BASEURL=" コマンドを指定する必要があります。

スケジュールプロシジャに SET WEBARCHIVE = ON コマンドが含まれている場合は、イメージが含まれたページが出力されますが、フォーマットとして HTML を選択する場合は、[保存レポート名] テキストボックスの拡張子を .htm から .mht に変更してください。

- HTML レポートを Email または FTP 配信する場合は、スケジュールするレポートプロシジャ (.fex) で、以下のレポートスタイルオプションに対して完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定する必要があります。これらは、Client の構成先 Web サーバまたは Application Server の JavaScript コンポーネントを参照します。以下はその例です。

```
SET FOCEXURL='hostname:port/ibi_apps/'
```

```
SET FOCHTMLURL='hostname:port/ibi_apps/ibi_html'
```

スタイルオプションには次のものがあります。

- アコーディオンレポート
- 目次 (TOC) レポート
- ピアグラフレポート
- マルチドリルダウンレポート
- HFREEZE オプション

セキュリティとして SSL を使用する場合は、URL を編集して「https」を指定します。

- FML レポート以外のバーストをサポートします。
- Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。
- GRAPH FILE 構文を含むプロシジャで 사용할 수 있습니다。GRAPH FILE で 사용할 경우、ReportCaster は 그래프를 Reporting Server (JSCOM3 を使用) 上で自動的に 생성し、HTMLEMBEDIMG=ON を使用して HTML 出力에 埋め込みます。スケジュール 프로시ジャ에 HTMLARCHIVE=ON が 지정されている 경우、この設定は HTMLEMBEDIMG=ON を 上書きし、以前の 버전의 Internet Explorer で 表示 가능한 出力을 생성합니다。

# HTML5

**フォーマット：**HTML5 (.htm)

**説明：**スケジュール出力をグラフィイメージとして開きます。これらのグラフィイメージは、ビットマップで、1600 万色をサポートします。また、HTML5 グラフを圧縮してもデータ損失が発生しないため、圧縮したファイルを解凍して元の状態に戻すことができます。そのため、HTML5 イメージを保存、変更、再保存しても、全体の画質が低下することはありません。

**用途 (推奨)：**ReportLibrary、Email、FTP

## 考慮事項

- HTML5 で配信されたレポートは、Internet Explorer 8 では正しく表示されない場合があります。Internet Explorer 8 では HTML5 はサポートされないため、Internet Explorer 8 は、HTML5 フォーマット (JSCHART) で配信されたグラフを最初に Adobe Flash プラットフォームを使用して表示しようとします。表示できない場合、Microsoft VML 標準が使用されます。
- GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- FML レポート以外のバーストはサポートしません。
- このフォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- Email および FTP 配信では、完全修飾 FOCEXURL を使用する必要があります。SSL セキュリティを使用する場合、URL に「https」を指定します。

# JPEG

**フォーマット：**JPEG (.jpg, .jpeg, .jpe, .jfif)

**説明：**スケジュール出力を JPEG フォーマットのグラフィイメージとして開きます。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

## 考慮事項

- GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。



- JPEG フォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、WebFOCUS InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される JPEG ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。
- 埋め込み Email メッセージがサポートされます。

## PDF

**フォーマット：**PDF (.pdf)

**説明：**スケジュール出力が PDF として保存され、Adobe Reader で表示することができます。関連するすべてのスタイルシートフォーマットが保持されます。

**用途 (推奨)：**Email、ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- Email 添付ファイル内のハイパーリンクはサポートしません。受信者は、Adobe Reader を使用して表示する必要があります。
- バーストをサポートします。
- ReportCaster で BY HIGHEST primarysortfield 構文を含む TABLE リクエストで作成された PDF レポートを配信する場合、レポートには主ソートフィールド値ごとにページ区切りが挿入されます。
- PDF ドリルスルー機能をサポートします。

## PNG

**フォーマット：**PNG (.png)

**説明：**スケジュール出力をグラフィックイメージとして開きます。これらのグラフィックイメージは、ビットマップで、1600 万色をサポートします。さらに、PNG グラフは、データ損失が生じない方法で圧縮されるため、データは完全に元どおりに解凍されます。そのため、PNG を保

存、変更、再保存しても、全体の画質が低下することはありません。PNG グラフは、この点において GIF グラフより優れています。

**用途 (推奨) :** Email および ReportLibrary に使用します。

#### 考慮事項

- GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- このフォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、WebFOCUS InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される PNG ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。
- 埋め込み Email メッセージがサポートされます。

## PPT

**フォーマット :** PPT (.ppt)

**説明 :** Web アーカイブフォーマットで新しい PowerPoint ファイルを作成します。

スケジュール出力から取得されたデータが PPT テンプレートに挿入されます。

**用途 (推奨) :** Email および ReportLibrary に使用します。

#### 考慮事項

- バーストをサポートします。
- PowerPoint ファイルは、単一レポートとして出力することができます。レポート (TABLE) のスタイルシートに埋め込み、必要な数のグラフを含めることができます。さらに、既存の PowerPoint テンプレート内に単一の PowerPoint レポートを挿入することができます。

# PPT TEMPLATE

**フォーマット：**PPT (.ppt)

**説明：**Web アーカイブフォーマットで新しい PowerPoint ファイルを作成します。

スケジュール出力から取得されたデータが PPT テンプレートに挿入されます。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

## 考慮事項

- バーストをサポートします。
- スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

```
ON TABLE PCHOLD [AS name] FORMAT PPT TEMPLATE templatename SLIDENUMBER n
```

- PowerPoint ファイルは、単一レポートとして出力することができます。レポート (TABLE) のスタイルシートに埋め込み、必要な数のグラフを含めることができます。さらに、既存の PowerPoint テンプレート内に単一の PowerPoint レポートを挿入することができます。

# PPTX

**フォーマット：**PPTX (.pptx)

**説明：**Open XML 形式を使用して作成される新しい PowerPoint ファイルを Web アーカイブフォーマットで生成します。

スケジュール出力から取得されたデータが PPTX テンプレートに挿入されます。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

## 考慮事項

- バーストは、Reporting Server バージョン 8.1 SP05 でサポートされ、プロシジャの当初のフォーマットを変更せずにスケジュールする場合に使用できます。つまり、プロシジャで ON TABLE PCHOLD FORMAT PPTX が指定され、ユーザが [上書き] オプションを選択せずにスケジュールを作成する必要があります。
- PPTX を選択した場合、スケジュール実行時に、Distribution Server が実行するプロシジャ (.fex) に SET DISTRIBUTE=PPTX を追加します。

- PowerPoint (PPTX) ファイルは、単一レポートとして出力することができます。レポート (TABLE) のスタイルシートに埋め込み、必要な数のグラフを含めることができます。さらに、既存の PowerPoint テンプレート内に単一の PowerPoint レポートを挿入することができます。

## PPTX TEMPLATE

**フォーマット：**PPTX (.pptx)

**説明：**Open XML 形式を使用して作成される新しい PowerPoint ファイルを Web アーカイブフォーマットで生成します。

スケジュール出力から取得されたデータが PPTX テンプレートに挿入されます。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- バーストはサポートされません。
- スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

```
ON TABLE PCHOLD [AS name] FORMAT PPTX TEMPLATE templatename SLIDENUMBER  
n
```

- PPTX を選択した場合、スケジュール実行時に、Distribution Server が実行するプロシジャ (.fex) に SET DISTRIBUTE=PPTX を追加します。

## SVG

**フォーマット：**SVG (.svg)

**説明：**スケジュール出力をグラフィイメージとして開きます。このファイルフォーマットは、XML ベースで、強力にインタラクティブなイメージを提供します。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。

- バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、WebFOCUS InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される SVG ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。
- このフォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- 埋め込み Email メッセージがサポートされます。

## TAB、TABT

**フォーマット：**TAB (.tab, .tsv, .txt)

**説明：**スケジュール出力をタブ区切りフォーマットで開きます。TABT フォーマットでは、最初の行として列見出しが含まれています。

Microsoft Access などのパッケージソフトウェアでは必須のフォーマットです。

**用途 (推奨)：**Email および ReportLibrary に使用します。

**考慮事項：**バーストをサポートします。

## WK1

**フォーマット：**WK1 (.wk1)

**説明：**スケジュール出力を Lotus 1-2-3 または Excel で開きます。

**用途 (推奨)：**Email

**考慮事項**

- Lotus 1-2-3 または Excel をインストールする必要があります。
- WebFOCUS Client 管理コンソールの [出力先変更設定] または mime.wfs 構成ファイルで、次のように指定します。

- Lotus 1-2-3 を起動するには、[リダイレクト] 列で [No] を指定します。
- Excel を起動するには、[リダイレクト] 列で [Yes] を指定します。
- フォーマットは [バイナリ] です。
- バーストレポートやアラートはサポートしません。
- 見出し、脚注、中間見出し、中間脚注は保持されません。
- Lotus 1-2-3 で WK1 レポートを開くには、レポートを右クリックし、ReportLibrary 外部に WK1 ファイルとして保存します。
- ReportLibrary で開くことはできません。ただし、Lotus 1-2-3 内の COMMA レポートを右クリックし、それを ReportLibrary の外に保存することで、開くことができます。

## WP

**フォーマット：**WP (.txt)

**説明：**スケジュール出力を Web ブラウザ上のワードプロセッサ用テキストとして開きます。テキストは、すべてのワードプロセッサアプリケーションで開くことができます。

**用途 (推奨)：**ワードプロセッサアプリケーション、Email、ReportLibrary に使用します。

### 考慮事項

- 改ページやほとんどのフォーマットを保持しません。
- ハイパーリンクやアラートはサポートしません。
- Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。
- バーストをサポートします。

## XML

**フォーマット：**XML (.xml)

**説明：**スケジュール出力を SGML から派生したマークアップ言語の XML フォーマットで開きます。

**用途 (推奨)：**異なるシステムのアプリケーションで利用するためのデータ記述およびデータ交換に使用します。

**考慮事項：**バーストはサポートされません。

# ReportCaster の ibi WebFOCUS リポジトリテーブル

ここでは、ReportCaster 情報が格納される WebFOCUS リポジトリの各テーブルのコンテンツおよび主キーについて説明します。この情報は、組織内での ReportCaster の使用状況に関するレポートを作成する際に活用することができます。

## ibi WebFOCUS リポジトリテーブル

ReportCaster は、配信情報およびスケジュール情報を WebFOCUS リポジトリテーブルに格納します。インストール時に、選択した場所に SQL ベースのリポジトリが作成されます。

下表は、ReportCaster 情報、コンテンツ、主キーが格納される WebFOCUS リポジトリテーブルの一覧です。

| テーブル     | コンテンツ                                                                                                     | 主キー         |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| BOTACCES | アクセスリスト名。<br>1 アクセスリストにつき 1 レコード。BOTLIST と 1:m。                                                           | アクセス ID     |
| BOTADDR  | 各配信リストのプロパティ (例、配信リスト名、パブリックまたはプライベートのいずれか)。<br>1 リストにつき 1 レコード。BOTDEST と 1:m。                            | アドレス帳 ID    |
| BOTCAT   | ReportLibrary カタログテーブル。ReportLibrary 内の 1 レポートにつき 1 レコード。スケジュールでレポートをバーストした場合、各バーストレポートは 1 レコードとして記録されます。 | レポートグループ ID |
| BOTCDATE | スケジュールのカスタム実行間隔に関する情報。                                                                                    | カスタム日付 ID   |



| テーブル     | コンテンツ                                                                        | 主キー                                                 |
|----------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| BOTDEST  | 配信リスト内の受信者および配信先。1 ターゲットにつき 1 レコード。                                          | 配信リスト名、特定の配信リストの各メンバーへの 1 から $n$ までのカウンタ            |
| BOTDIST  | 配信情報                                                                         | 配信 ID                                               |
| BOTSIT   | 実行間隔情報                                                                       | 実行間隔 ID                                             |
| BOTLDATA | ReportLibrary に格納されたレポート (BLOB フォーマット)。                                      | レポート ID、ReportLibrary に格納された各レポートの 1 から $n$ までのカウンタ |
| BOTLIB   | バージョンと有効期限情報。ReportLibrary 内の 1 レポートにつき 1 レコード。                              | レポートグループ ID、バージョン                                   |
| BOTLIST  | 各アクセスリスト内のユーザ ID およびバースト値。1 ターゲットにつき 1 レコード。                                 | アクセスリスト名、特定のアクセスリストの各メンバーへの 1 から $n$ までのカウンタ        |
| BOTLOG   | 全般ログ情報 (例、実行された各ジョブの開始時間と終了時間)。<br>実行されたジョブ 1 つにつき 1 レコード。<br>BOTLOG2 は 1:m。 | ジョブの実行時に生成されるプロセス番号                                 |
| BOTLOG2  | 実行されたすべてのジョブの詳細ログレコード。1 ジョブメッセージにつき 1 レコード。                                  | プロセス番号、特定のプロセス番号の詳細ログ                               |

| テーブル     | コンテンツ                                                                                                                                                                                                          | 主キー                                                    |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
|          |                                                                                                                                                                                                                | レコードそれぞれに 1 から $n$ まで実行するカウンタ                          |
| BOTPACK  | 各スケジュールを一意的に識別するパケット ID。                                                                                                                                                                                       | パケット ID                                                |
| BOTPARMS | 各タスクのパラメータ名と値。1 タスクの 1 パラメータにつき 1 レコード。                                                                                                                                                                        | スケジュール ID、タスク ID、パラメータ名、タスク内の各パラメータへの 1 から $n$ までのカウンタ |
| BOTSBDS  | スケジュール禁止日テーブル。グローバルおよびグループのスケジュール禁止日と説明。                                                                                                                                                                       | ID                                                     |
| BOTSCHED | 特定のスケジュールの実行時期、頻度、接続情報。配信方法 (例、Email、FTP)、補助的な情報 (例、返信アドレス、受信者の場所)。配信リスト (使用された場合)。<br><br>1 スケジュールにつき 1 レコード。                                                                                                 | スケジュール ID                                              |
| BOTSCIT  | スケジュールのカスタム実行間隔に関する情報。                                                                                                                                                                                         |                                                        |
| BOTSTATE | フェールオーバーおよびワークロード配信情報。                                                                                                                                                                                         |                                                        |
| BOTTASK  | 個々のタスク情報 (例、タスク名、タスクの実行 ID、WebFOCUS Reporting Server 名)。WebFOCUS レポートの場合、BOTTASK には、WebFOCUS リポジトリ内でのフルパスも記録されます。1 つのスケジュールのそれぞれのタスクには、BOTTASK が 1 つ含まれます。1 つのスケジュールには複数のタスクが存在可能なため、BOTSCHED とは 1:m の関係があります。 | タスク ID、パケット ID                                         |

| テーブル     | コンテンツ                                                                                                                                                                                            | 主キー                                   |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| BOTTSKEX | ReportCaster ユーザ ID、実行 ID とパスワード。実行タイプ (例、WebFOCUS サーバプロシジャ)。実行タイプによっては、サーバ名 (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートの場合)、アプリケーション名 (ファイルの場合)、またはサーバ名とポート番号 (URL の場合) も含まれます。<br><br>1 タスクにつき 1 レコード。 | ReportCaster ユーザ ID、実行 ID、サーバ名、サーバタイプ |
| BOTWATCH | ReportLibrary ウォッチリスト情報。                                                                                                                                                                         |                                       |

## ibi WebFOCUS ReportCaster リポジトリレポートの概要

WebFOCUS リポジトリに関するレポートを作成、実行するには、最初に WebFOCUS リポジトリ内の各テーブルのシノニムを作成します。シノニムを作成してレポートを実行するには、使用するデータベースの WebFOCUS アダプタが必要です。

# ibi WebFOCUS ReportCaster 変数

ReportCaster Distribution Server は、&DST で始まる変数を作成し、その変数を各スケジュールジョブプロシジャ (FEX) に追加します。これらの変数名は、ReportCaster で使用するために予約されています。これらの変数をスケジュール済みプロシジャ (FEX) で参照することも、カスタムアプリケーションロジックの ReportCaster 実行前プロシジャおよび実行後プロシジャで参照することもできます。&DST で始まる同一名の変数を作成すると、ReportCaster の内部処理に影響するため、ユーザ自身でこれらの変数名を作成することはお勧めしません。

## ibi WebFOCUS ReportCaster 内部変数

下表は、ReportCaster Distribution Server で作成される内部変数のリストです。

| 変数           | 説明                                                                                    |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| DSTJOBID     | 特定のスケジュールジョブ実行を識別する ID です。                                                            |
| DSTJOBNAME   | Distribution Server で作成され、WebFOCUS Reporting Server に送信されるスケジュールジョブプロシジャ (FEX) の名前です。 |
| DSTSCHEDID   | スケジュールを識別する一意の ID です。                                                                 |
| DSTSCHEDDESC | スケジュールのタイトル (説明) です。                                                                  |
| DSTOWNER     | スケジュールオーナーのユーザ ID です。                                                                 |
| DSTPACKETID  | 複数タスクのスケジュールで、タスクグループを識別する一意の ID です。単一タスクスケジュールの場合、各スケジュールのタスクを識別する一意の ID です。         |

| 変数           | 説明                                                                                                                                                     |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DSTTASKID    | スケジュール内の特定のタスクを識別する ID です。<br>タスク情報には、タスクの実行 ID および<br>WebFOCUS Reporting Server 名があります。<br>WebFOCUS リポジトリに格納されているレポートの<br>場合、タスク情報には IBFS フルパスも含まれます。 |
| DSTPRERPC1   | 1 回目の実行前プロシジャ (FEX) の名前です。                                                                                                                             |
| DSTPRERPC2   | 2 回目の実行前プロシジャ (FEX) の名前です。                                                                                                                             |
| DSTPOSTRPC1  | 1 回目の実行後プロシジャ (FEX) の名前です。                                                                                                                             |
| DSTPOSTRPC2  | 2 回目の実行後プロシジャ (FEX) の名前です。                                                                                                                             |
| DSTDMAIN     | スケジュールタスクが WebFOCUS リポジトリに格<br>納されているプロシジャ (FEX) の場合のワークス<br>ペースフォルダ名です。                                                                               |
| DSTFEXNAME   | プロシジャ (FEX) の名前です。                                                                                                                                     |
| DSTBURST     | レポート出力のバーストです (Y/N)。                                                                                                                                   |
| DSTEDAUSER   | Reporting Server への接続に使用されるユーザ ID で<br>す。                                                                                                              |
| DSTRPTSERVER | スケジュールプロシジャ (FEX) の送信先 WebFOCUS<br>Reporting Server です。                                                                                                |
| DSTHOST      | Distribution Server のホスト名です。                                                                                                                           |
| DSTPORT      | Distribution Server のポート番号です。                                                                                                                          |

# Legal and Third-Party Notices

---

SOME CLOUD SOFTWARE GROUP, INC. (“CLOUD SG”) SOFTWARE AND CLOUD SERVICES EMBED, BUNDLE, OR OTHERWISE INCLUDE OTHER SOFTWARE, INCLUDING OTHER CLOUD SG SOFTWARE (COLLECTIVELY, “INCLUDED SOFTWARE”). USE OF INCLUDED SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED CLOUD SG SOFTWARE AND/OR CLOUD SERVICES. THE INCLUDED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER CLOUD SG SOFTWARE AND/OR CLOUD SERVICES OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF CLOUD SG SOFTWARE AND CLOUD SERVICES IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF AN AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED WHEN ACCESSING, DOWNLOADING, OR INSTALLING THE SOFTWARE OR CLOUD SERVICES (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE “LICENSE” FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE SAME TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of Cloud Software Group, Inc.

ibi, the ibi logo, FOCUS, and TIBCO are either registered trademarks or trademarks of Cloud Software Group, Inc. in the United States and/or other countries.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only. You acknowledge that all rights to these third party marks are the exclusive property of their respective owners. Please refer to Cloud SG’s Third Party Trademark Notices (<https://www.cloud.com/legal>) for more information.

This document includes fonts that are licensed under the SIL Open Font License, Version 1.1, which is available at: <https://scripts.sil.org/OFL>

Copyright (c) Paul D. Hunt, with Reserved Font Name Source Sans Pro and Source Code Pro.

Cloud SG software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the “readme” file for the availability of a specific version of Cloud SG software on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. CLOUD SG MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S), THE PROGRAM(S), AND/OR THE SERVICES DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME WITHOUT NOTICE.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "README" FILES.

This and other products of Cloud SG may be covered by registered patents. For details, please refer to the Virtual Patent Marking document located at <https://www.cloud.com/legal>.

Copyright © 2021-2024. Cloud Software Group, Inc. All Rights Reserved.